

UFOと宇宙

札幌市で

本誌衝撃取材

異星人との驚異コンタクト発生!

■異星人ラミュー氏から渡された謎の金属と地球人へのメッセージ

12

December



■地球外生物からのメッセージ、佳境にはいる

聖書と宇宙人(5) クロード・ポリロン

■雲の形で未来を予知する人が出現

雲は未来の出来事を語る!? 河島孝宣

■知られざるアフリカの“原始的魔術”

アフリカの超能力研究 中岡俊哉

■電波天文学入門

星のささやく新宇宙 斎藤守弘

■テオティワカンの「太陽のピラミッド」の謎を現地では探る

しゃくねつ ジャングル と わ 灼熱の密林より永遠に(完) 久保田八郎

■この眼で見た現代の怪奇(4)

海溝に消えた太古の首長竜(完) 矢追純一

■〈連載科学記事〉斥力場による空中効果

宇宙・引力・空飛ぶ円盤(11) レナード・クランブ

アメリカ、カナダで今、爆発的人気!!

バイオフィードバック

《GSR-1で時代を先取りしよう》

GSR-1
ジー エス アール ワン



高級天然木（クルミ）使用
長さ10cm 巾6.2cm 高さ3cm 重さ100g

定価 ¥30,000（送料共）練習用カセットテープ説明書付 1年保証

●受験生、経営者、タレント、
プロスポーツ選手、管理職、
サラリーマン、OL、教師、医師…全ての方々

●GSR-1バイオフィードバックは何に有効か？

GSR-1は「健全な心」を自分で作り、それを保つためのモニターと云えます。ですからGSR-1は「心の鏡」とも云われます。毎日「心」を鏡に映して、具合が悪ければ、自分でメークアップして「美しい心」にしましょう。

1. ストレスを追いほらい、リラックスできます。

精神的なイライラやストレスを自分自身で、GSR-1を使いながら追いほらい、ゆったりとリラックスした快感を味わうことができます。今までにない幸福感すら味わえるようになります。

2. 精神統一が上手くなり集中力が養えます。

毎日GSR-1の練習を続けると、集中力が高まります。受験生などはイライラすることなく勉強に集中できるようになりますし、野球の選手などは、バッターボックスで打つ球に集中できるようになります。

3. 深い瞑想に入れます。

GSR-1の練習を積みまると、禅やヨガで得られる瞑想に早く入ることが出来ます。

4. 赤面、対人恐怖の不安を克服でき、あがらなくなります。

GSR-1に習熟すると、いたづらに不安を感じたり人前でドキドキしたり、顔が赤くなったりすることが、次第に少なくなってゆきます。自分自身に今までよりもっと自信がもてるようになります。

5. ピンチに強くなります。

野球の投手はピンチを迎えても今迄とちがうはずです。ゴルフの選手もこゝ一番に強くなります。受験生も本番で強くなるはずです。すぐカーッとしたり、イライラする性格が改善されてゆくからです。

6. ESP能力が増します。

ヨガ瞑想者や禅瞑想者は、通常普通の人が出しているβ波とちがうα波と云う脳波を出すと云われます。GSR-1で精神統一をするとα波が出るようになり、この訓練を続けるとESP能力が増すと云われます。

リラックスする方法は2,3日で習得でき、その日から効果が出ますが、他は3～6ヶ月以上の練習が必要です。

アメリカでは「21世紀はバイオフィードバックなしには考えられない。」と云われているほどです。GSR-1でストレスを追い出すことを覚え、タフな精神を養い、平和で豊かな心で人生を快適なものにしましょう。

問合せ、カタログ請求は下記へ。

●使用方法・効果については詳しい説明書とガイド・カセット・テープがついています。

お申込みは、氏名、住所、年令明記捺印の上、代金は現金書留又は郵便振替（東京・4-8703）でポラックス(株)へお願い致します。現品急送します。

輸入総発売元



ポラックス株式会社 U 係

東京都中央区日本橋小舟町2-7 ☎ 666-0511(代) 〒103

製造元



THOUGHT TECHNOLOGY LTD.
CANADA



● 光を放射する不気味なUFO

1969年8月31日、午後9時、フランスのモンフェラに住むベルナル夫人が撮影したUFO。気味悪い物体である。

A WEIRD UFO EMITTING STRANGE GLOW

On August 31, 1969, at 9:00 p.m., Mrs. Bernard of Mont Ferrat, France, took this photo of a UFO. This is definitely a weird looking object.

●岡山市上空を乱舞する怪UFO

岡山市西大寺北の上田勲氏(29歳・電気工事請負業)は、1976年夏より自宅付近にしばしば出現して上空を飛びまわる怪光体を目撃し、多数の写真撮影に成功した。時間は大体に午後7時~8時頃。2個~3個の光体が西南の金山学園高校裏の森の背後から垂直に上昇し、東へゆっくり進む。豆ツブほどの大きさで、赤、オレンジ、白に次々と色光が変化し、UFO独特の飛び方をするという。付近の人々もいつも同時に目撃し、UFO騒ぎが広がっている。ここには4点を掲載した。

カメラ=ミノルタXE/レンズ=ロッコールズーム300mm/3脚使用・露光5~10秒

MYSTERIOUS UFOs DANCING WILDLY OVER OKAYAMA CITY

Mr. Isao Ueda (29, an electric work contractor) in Saidaiji, Okayama City, has succeeded in taking a lot of photographs of mysterious UFOs. These luminous objects have been frequently sighted flying over and around his house since last summer. The UFOs generally appear at around 7:00~8:00 p.m. They pop up vertically from behind trees at the back of Kanayama Gakuen High School situated in southwest part of the city, then slowly making their way eastwards. The bean-size UFOs changed color from red to orange to white. Their flight pattern is quite common with UFOs. Neighbours have also sighted these UFOs with him. As a result, UFOs have become the center of their attention in this area. Four photos are shown here.

Camera:Minolta XE/Lens:Rokkor Zoom 300mm/Tripod applied/Exposure;5~10 sec.

①1976年8月16日

August 16, 1976



UFOs in color

② 1976年8月20日
August 20, 1976



UFOs in color

④1977年7月28日
July 28, 1977



①光体が出現した！

露光は約1秒。

The luminous body appeared!

Exposure: about one second.

●東京上空にUFO出現！

1977年9月15日(晴)午後6時10分頃、東京都新宿区戸山町の戸山ハイツに住む朴木 大(ほおのきひろし)氏(30歳・会社員)が、従弟の中学生1人と共に9階の廊下から夕陽を撮影中、突然、目白の上空あたりからサーチライトのような光を出しながら光体が雲の中から出現するのを目撃、撮影した。光体は一瞬停止して、次に富士山の方向へ遠ざかった。朴木氏はその間4枚の撮影に成功したが、ここには2枚をかかげた。目撃時間は約1分50秒。

カメラ=ニコンF / レンズ=ニッコール300mm F4.5開放 / 3脚使用

A UFO APPEARED OVER TOKYO!

On September 15, 1977, at about 6:10 p.m., Mr. Hiroshi Hohnoki (30, a company employee) and his cousin (a junior high school student) sighted a luminous body from a ninth floor passage of Toyama Heights (a metropolitan apartment complex) in Toyama-cho, Shinjuku-ku, Tokyo. At the time, they were taking photographs of the setting sun, so Mr. Hohnoki was able to get the UFO on film.

The luminous object appeared from behind the clouds over Mejiro emanating a strong light like that of a searchlight. It stopped awhile and went away towards Mt. Fuji. He succeeded in taking four successive photos of it. Two photos are shown here. The sighting lasted about one minute and fifty seconds.

Camera: Nikon F / Lens: Nikkor 300mm F4.5 open / Tripod applied.



② 光体は富士山の方角にむかって遠ざかって行く。
露光は約10秒。
The luminous body went away towards Mt.Fuji.
Exposure: about ten seconds.

UFOs in color



▼テオティワカンに残る古代の大都市の遺跡を建設した謎の民族は、7世紀に突如姿を消した。栄光あるアトランティスの大文明の影響を受けたと思われるこの遺跡は今もなお緑草の中に横たわっている。(詳細は本誌52頁「灼熱の密林より永遠に」を参照)



**THE MYSTERIOUS
"PYRAMID OF THE
SUN" IN TEOTIHU-
ACAN, MEXICO.
COULD THIS HAVE
DESCENDED FROM
THE LOST CIVILIZA-
TION OF THE AT-
LANTIS C O N T I -
NENT?**

The mysterious race who built the ancient citadels in Teotihuacan suddenly vanished in the 7th century A. D. without a trace. Judging from the remains, they seem to be influenced by the glorious civilization of the Atlantis. In Teotihuacan, the remains still lie covered with green grass. (See the article "Lost from the Burning Hot Jungle to Eternity" by Hachiro Kubota appearing on P.52 for the detail).

●メキシコ、テオティワカンに残る謎の
「太陽のピラミッド」は、アトランティス
大陸の文明の流れをくむのか？



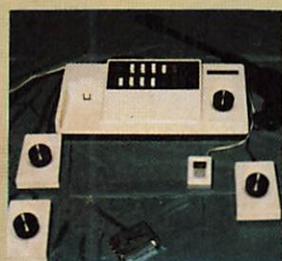
本誌を読んで答えてください!

豪華賞品が当たる

UFOと宇宙

クイズ

賞品



金賞 カラーTVゲーム
 コメット8000
 (インターナショナル・サイエントイフ
 イック ¥19,800) 1名
 ●(性能)テニス、サッカー、スカッシュ、
 ブラクテイス(練習)、ライフール・II
 スピード切替付、フルカラー4色(使
 用LSI)MOS7600・001(電
 源)単2電池6本使用

銀賞 UFOコードペンダント
 (木曜会 ¥9,900) 2名
 ●窓からも灯がともるアダムスキー
 型の本格的UFOコードペンダント。
 25Wまたは40W×3灯ボールランプ。
 大きさ、φ430%×H200%。



銅賞 消えるボールペン
 (ボラックス ¥300) 50名
 ●インク消しのついた西ドイツ生まれ
 の名品。

町松原467・1)
 ★銀賞(ピラミッド製品3点セット
 /2名)
 河島永整(兵庫県加古川市)
 渡辺英夫(岐阜県海津郡)
 ★銅賞(消えるボールペン/50名)
 賞品の発送をもって、発表にかえ
 させていただきます。

『UFOと宇宙』10月号のテレバ
 シー・コンテストには994通の解
 答が寄せられ、正解は6通、抽選に
 より左記の方々が当選されました。
 なお、銅賞は全応募者の中から抽
 選で決定しました。
 ★金賞(天気予報計サテライト・3
 /1名)
 小島一也(〒483岐阜県羽島郡川島

(問題) メキシコのテオティワカンに、死者の大通りを
 主軸に、北にある月のピラミッド、南にある城砦ツウタテフ、
 そして世界有数の古代の大建造物として知られる太陽のピラ
 ミッドなどの建築群を持つ、先スペイン期の新大陸最大の都
 市遺跡です。さて、この墓盤の目状に配置された遺跡の、死
 者の大通り東側にある『太陽のピラミッド』の大きさは、つ
 ぎのうちどれでしょうか? 本誌を読んで、記号で答えてく
 ださい。

- A 高さ136m、底面の1辺210m、体積は165万立方m。
- B 高さ146m、底面の1辺232m、体積は252万立方m。
- C 高さ65m、底面の1辺211m、体積は100万立方m。

応募のきま

- 必ず官製はがきを使用。
- 締め切り 昭和52年12月20日。当日
 消印有効。
- 発表 『UFOと宇宙』2月号(1
 月20日発売)誌上。

はがきの書き方

●あて先 郵便番号110
 東京都台東区上野5-1-6 ヤマ
 トビル
 ユニバース出版社



●正解
 ●『UFOと宇宙』10月号
 テレバシー!コンテスト当選者発表!

『UFOと宇宙』12月号クイズ係
 ●裏面には、あなたの住所・氏名・
 年齢・職業(学生は学校名/学年)、
 そして①解答 ②本号で良かった記
 事 ③本誌への感想または企画 ④
 今後クイズの賞品として希望する商
 品名を、お書きください。

UFO 12月号 と宇宙

月刊

1977/通巻第29号

目次

口絵

- 光を放射する不気味なUFO1
岡山市上空を乱舞する怪UFO2
東京上空にUFO出現!6
メキシコ、テオティワカンに残る謎の「太陽のピラミッド」はアトランティス大陸の文明の流れをくむのか?10
豪華賞品が当たる「UFOと宇宙」クイズ12

■〈本誌特別取材〉異星人ラミュール氏から渡された謎の金属と地球人類へのメッセージ

札幌市で異星人との驚異コンタクト発生!14

■地球外生物からのメッセージ

聖書と宇宙人(5) クロード・ポリロン26

■雲の形で未来を予知する人が出現

雲は未来の出来事を語る!? 河島孝宣34

■知られざるアフリカの「原始的魔術」

アフリカの超能力研究 中岡俊哉38

■電波天文学入門

星のささやく新宇宙 斎藤守弘44

■〈クボタ・ミステリー・シリーズ2〉テオティワカンの「太陽のピラミッド」の謎を現地では

灼熱の密林より永遠に(完) 久保田八郎52

■この眼で見た現代の怪奇(4)

海溝に消えた太古の首長竜(完) 矢追純一64

■日本列島を騒がせた謎の光体を中学生がキャッチ

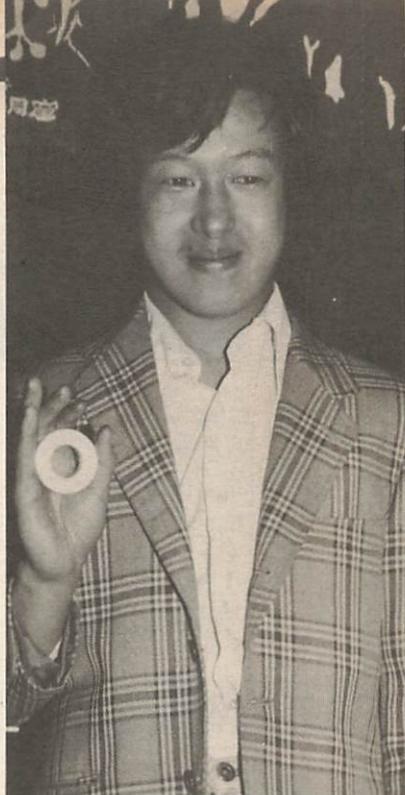
UFOか人工衛星のかけらか!? 〈写真〉85

■連載科学記事

(続)宇宙・引力・空飛ぶ円盤(11)レナード・克蘭プ97

- ミステリー豆知識76 科学ニュース90
エニグマ情報79 声・OPINIONS113
UFO目撃レポート86 蚤の市120

【表紙写真】1977年9月15日午後6時10分頃、東京都新宿区・戸山ハイイツの^{ほおのきり}鈴木大氏がハイイツ9階から撮影(口絵6頁参照)。



本誌 特別取材



太陽系内に住む異星人たちは、地球人の悪い想念波動のために崩壊しつつあるこの太陽系からの移動を完了した！地球人は正しい超能力を開発し、地球をよくする努力を始めなければならぬ——異星人からメッセージを伝えられた札幌市の一青年がいま、驚異的体験のすべてを詳細に明かす！

スプーン曲げはもちろん、テレパシーを自在に使い分け、テレポーションで自分の行きたいところ

ろに瞬間移動。そのうえ、異星からやってきた宇宙人と地球の危機について語り合う。今日の地球の科学を超えたこれらの現象をすべて体験した人がい

るといったら、読者はどこまで信用するだろうか。

スプーン曲げ1つを例にとっても、「できる」「いや、インチキだ」と真偽論争が盛んで、テレポーション

などは夢のまた夢。こんな現状では、宇宙人とのコンタクト以前の段階で、「信用できない」と言われるかもしれない。だが1つだけ言いたいのは、最後まで読んでから結論を出してほしいということだ。読み終えてから、なお

も信用できないという人をム

札幌市で異星人との 驚異コンタクト発生！

その
1

●謎の人物ラミュー氏から謎の金属をもらった青年のまわりに次々と起こる驚異的事件！
ラミュー氏の正体は何か？
彼から伝えられた地球人類へのメッセージとは？



りに信じさせようとはしない。なぜなら、この事件のすべてを理解できるのは、同じ様な体験を持つ人か、宇宙人と真実のコンタクトをしている人以外にはないかもしれないからだ。

今年の夏の初め頃、北海道のUFO研究者で警察関係の仕事をしている加藤さん（仮名・21歳）が編集部を訪れ、去る6月24日にS TV（札幌テレビ放送）屋上で約40人を集めて行われたUFO観測会の成功を報告したあと、驚くべきことを語った。

それによると、彼の友人のある人が宇宙人とコンタクトをし、その宇宙人から得体の知れないドーナツ型の金属（写真①）をもらったというのだ。さらに何点かのイ



▲写① 中野さん（仮名）が宇宙人からもらったという謎の金属。

ラストを取り出し、その友人が目撃したというさまざまなUFOについて話を始めた。だが、肝心のコンタクトについては、あまり多くを語りたがらない。その理由は「本人の承諾を得なければいけないし、今がすべてを語る時期ではないかもしれない。不用意にしゃべると混乱を招く恐れもあるから」。それに、加藤さん自身もすべてを聞いていくわけではなく、本人が無口なため、まだ教えてもらっていないことが沢山あるという。

何度も質問をしてわかったのは、こ

のコンタクトが、いわゆる「心霊的」なものではなく、肉体を持った人間同士として行われ（これをフィジカル・コンタクトという）、相手から証拠となる金属をもらったほか、地球人類の危機についてのメッセージを伝えられたということであった。編集部では、さっそく加藤さんに本人とのインタビューを申し出、帰札後本人に連絡をしてその返事を知らせてくれるようにと頼んだ。

しかし、その後しばらく待っていた

1 取材中の奇妙な出来事

10月8日夜、千歳空港から札幌行きバスに乗り、国鉄札幌駅近くの日航バスターミナル前で降りると、目の前に約束どおり加藤さんが迎えに来てくれていた。東京と比べて、札幌は少し肌寒い。それもそのはず、今月の末にはもう初雪なのだそうだ。上着のボタンをとめなおして加藤さんのあとについて行くと、彼は「本人が来ている」と言いながら日航ターミナルビルの中へと入って行った。

ビルの中はガラシとしていて、人気がなく、いるのは日航の職員と、長椅子から頭だけ出して後向きに座っている学生風の2人連れの男性だけ。

「あれが本人です」

加藤さんの声と同時にその2人連れ

が、なかなか返事をよこさない。どうしたのだろうかかと心配になり、10月初めにこちらから電話を入れると「先日レポートにして送ろうと思ったが、相談の結果、まだ発表する時期ではないということになり、そのままにしてある。もし、こちらへ来るなら本人は会いたいと言っている」という答えが返ってきた。

一刻も早く詳細を知りたいと思っていた記者は、数日後に札幌へ向かうことにした。

がこちらを振り向き、軽くあいさつをした。背の低い方が本人の中野さん（仮名・20歳）、もう1人は友人でUFOを研究している山本さん（仮名・24歳）であった。

よれよれのジーンズにブレザーを無雑作にはおった中野さんは、話聞いていたとおり素朴な感じ。こちらから事件のことにふれなければ、そのまま何もしゃべらずに終わってしまうのではないかと思われるほど無口な青年である。4人で記者の宿泊先のホテルへ向かう途中の約15分間、彼はついに事件のことを口にできなかった。

ホテルで用事をすませたあと、我々は話し合える場所を探すために再び街へ出た。しかし時間が遅いために、心

あたりの喫茶店はどこも閉店間近か。そこで、深夜まで営業している、ある大きな喫茶店に入ることにした。

店内は満員に近く騒々しかったが、今日は別に詳しい話を聞くつもりはないので、ちょうど2階に4人分の空席をみつけるとすぐに座った。

座った位置は、壁に向かって右側が中野さん、左側が山本さん、中野さんの正面が記者で、記者の左側、つまり山本さんの正面が加藤さんというぐあいである。我々は一息つくとすぐにUFOのことなどについて話し始めた。

●謎の金属が紛失!

しばらく話しているうちに、中野さんが「あれっ、おかしいな」とつぶやきながら自分の洋服のポケットに手やり始めた。しきりに首をかしげている。どうやら、なにかを探しているらしい。他の2人を見ると、やはり彼の動作を気にしている。どうしたのかと尋ねると、

「実は今日、例のドーナツ型の金属の実物を持って来たのですが、どこを探しても見つからないのです。たしかに上着のポケットに入れておいたのに」と答える。

中野さんによると、ついさっきホテルのロビーにいたとき一度取り出し、他の2人に見せたあと、記者が戻って来る前にポケットに入れたのだそう

だ。加藤さんと山本さんにこのことを尋ねると、たしかに見たと証言する。そこで、どこかに落としたか、それとも違うポケットにあるのでは、と皆で探す影も形もない。以前に一度、函館に行ったときになくなったことがあり、そのときは置き忘れただけだったので友達が取ってきてくれたとかで、今回のように消えてしまったのは初めてだという。

もし、このまま金属が見つからなければ貴重な証拠を失ったことになる。少々がっかりするが、なければ仕方がない。そう思いながら話を続けていると、しばらくして中野さんの口から、金属のことを一瞬忘れさせるような興味ある言葉が飛び出した。

●ラミューさんの友達

「ここに「ラミューさん」の友達が来ているみたいです」

ラミューさんとは、中野さんがコンタクトしているという異星人（中野さんによると、彼らは宇宙人よりも異星人と呼ばれるのを好むそうだ。以後、異星人と呼ぶことにする）で詳しいことは後ほど述べるが、中野さんの様子では、どうやら皆の近くにその人がいるらしい。てれ屋の中野さんは赤くなって下を向き、どこにいるとは言わない。他の2人も、まわりをうかがうだけで、彼に尋ねる様子は見せなかった。

※取材後教えてもらったところでは、記者から見て1人おいた右隣りの女性と、さらに右うしろにいた髪の長い男性がそうだという。男性の方は死角で見えなかったが、記者の記憶では、女性の方は彼女の正面つまり記者の斜め前にいた連れの女性としゃべっていた。もし、その人たちが異星人だとすれば、中野さんのいう異星人たちは、夢でも幻でもなく、地球人と同様、肉体をもっているということになるのだが……。

これらの出来事で一気に事件の方向に話題が移ったため、明日といわず、これからインタビューを始めようという事になった。ただし、ここは騒がしいので、場所は札幌市北区の中野さんの自宅で行うことにする。さっそくホテルに戻って取材の準備をすませた後、山本さんの家に寄り、彼の車で国道231号線を北に向かった。

しばらく走り、小さな脇道をいくつか曲がると中野さんの家に到着する。このあたりは人家が少なく、人通りが全くない。車を停めて外へ出ると、足元の砂利が大きく音をたてる。ふと上を見ると見事な星空で、思わず何度も深呼吸をした。

●金属現る!

玄関に入り、階段を登った正面に中

野さんの部屋がある。案内されて中に入ると、壁一面にUFOの絵やカレンダーやタレントの写真などがびっしり貼ってあり、雑然としてはいるが、いかにも若者の部屋という印象がする。記者は時間を有効に使うため座って落ち着くとすぐ、中野さんが体験したという不思議な出来事やUFO目撃、異星人とのコンタクトなどについて質問を始めた。

ところが、話が始めてしばらくたったとき、信じられないことが発生しながら不思議そうな顔でポケットに手をつっこみ、ドーナツ型の金属を取り出したのである。

「あっ!」

一同は思わず声をあげた。さっき、全員で徹底的にポケットを探したときにはなかったのに……。本人にも、いつ現れたのかわからないらしい。同じ物を2つ用意してトリックをしたのでなければ、完全な物品移動が起こったことになる。まさかと思いついても、現実に起こったので否定するわけにはいかない。皆の間でしばらく興奮状態が続いた。

少し落ち着いたところで記者が金属を持ってみると、これが意外に軽い。表面に奇妙な文字のようなものがある。はかばか、特に変わったところがなく、アルミニウムのような色をしている。物体の寸法は、直径が5cmで内側まで

の長さが1・15cm、厚さが1・25cm。秤がなかったので重さは計ることができなかったが、中野さんが以前に調べたところでは約45gであったという。これらのデータをもとにして比重を計算すると約4・5。このことは、この金属がアルミニウム(比重2・69)より重く、ロケットや超音速ジェット機の材料に使われるチタン(比重4・58)に近いことを意味している。

この金属が何であるかを確かめるため、

2 巨大UFOの目撃事件

しかしこの事件はあまりに複雑なため、簡単には書き出せない。執筆には慎重さと思慮深い態度を必要とするので記述は楽ではない。ズバリ、異星人とのコンタクトから始めてもよいが、それを理解するためには、直前に起こったいくつかの事件を説明しなくてはならない。やはり、順序よく始める方がよいようだ。

中野さんは昭和31年12月1日、高知県高知市で生まれ、妹が1人いる。家族で札幌に移って来たのは、彼が小学校に入る前。中野さんは、それまでUFOについて全く聞いたことがなく、それらしいものを見たこともなかった。彼がUFOのことを知ったのは、札幌に来てしばらくたってからのことであ

めには専門家に詳しい調査を依頼するしかないが、それはさておき、記者が札幌についてからというもの、このような大ハプニング続き。しかも、このハプニングが事件と深いつながりをもっているため、無視して先へ進むわけにはゆかない。こうして、肝心の事件の経過を聞き出すまでかなりの時間がかかったのである。

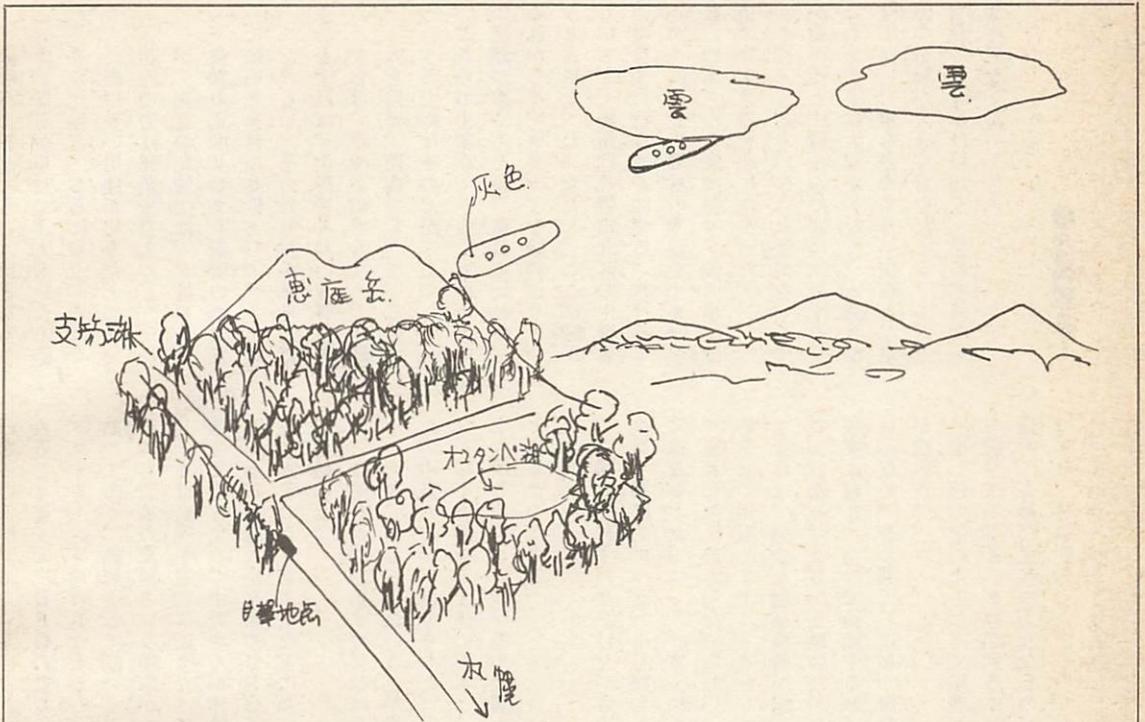
前置きはこのくらいにして、そろそろ事件へと話を進めることにしよう。

る。

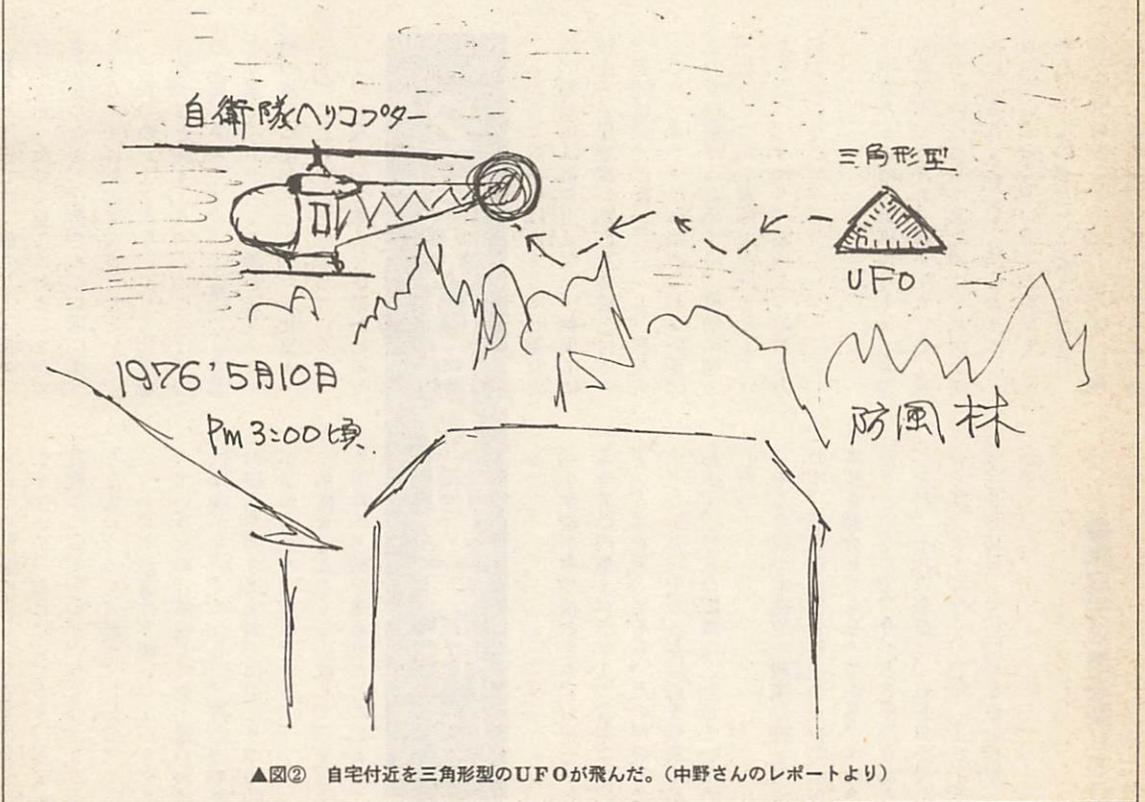
「小学校か中学校のとき、おやじから『世界の円盤ミステリー』(秋田書店)という本を買ってもらったのが最初です。しかし、そのときはあまり興味はわかず、UFO観測などもしませんでした」

そんな彼が本格的に興味を持ち出すのは、恵庭市に住む親戚の1少年から本誌を紹介してもらってから。7号あたりというので、今から3年ほど前のことだ。それ以来彼は、UFOを見たいと願うようになり、翌年(1975年)9月15日、ついにUFOを目撃した。

●恵庭岳の葉巻型UFO



▲図① 中野さんが描いた恵庭岳上空のUFO



▲図② 自宅付近を三角形のUFOが飛んだ。(中野さんのレポートより)

9月15日午後3時ごろ、当時札幌の南にある恵庭岳(1330m)で行われていた工事関係の仕事をしていた中野さんが、トラックの助手をして札幌方面から恵庭岳入口にさしかかったとき、突然運転手のKさんが恵庭岳の方を見ながら車を止め、声を出した。

「変なものが浮いている」

見ると、恵庭岳上空の雲間から葉巻型をした巨大な灰色の物体が現れ、ゆっくりと恵庭岳中腹に向かって斜めに下降している(図①)。最初は飛行船かと思ったが、よく見ると、以前に読んだことのあるアダムスキーの母船とそっくりで丸窓もあるではないか。大きさは山の横幅の半分くらいだから、かなり大きい。UFOだ! そう思い必死にテレビシーを送ってみたが全く反応がなく約10秒ほどで物体は山の裏側に隠れてしまった。

「UFOが山に着陸したかもしれないので近くへ行きかけたのですが、仕事中なので、見えなくなつたあとすぐに工事現場へ向かいました」

最初の発見者Kさんの話では、その物体は、現れたときに何か煙のようなものを出していたという。

これが、中野さんにとって生まれて初めて見たUFOであった。

その後しばらくは何事もなかったが次の年(1976年)の5月10日午後3時ごろ、自宅付近に再びUFOが出現した。今度は三角形で自衛隊のヘリ

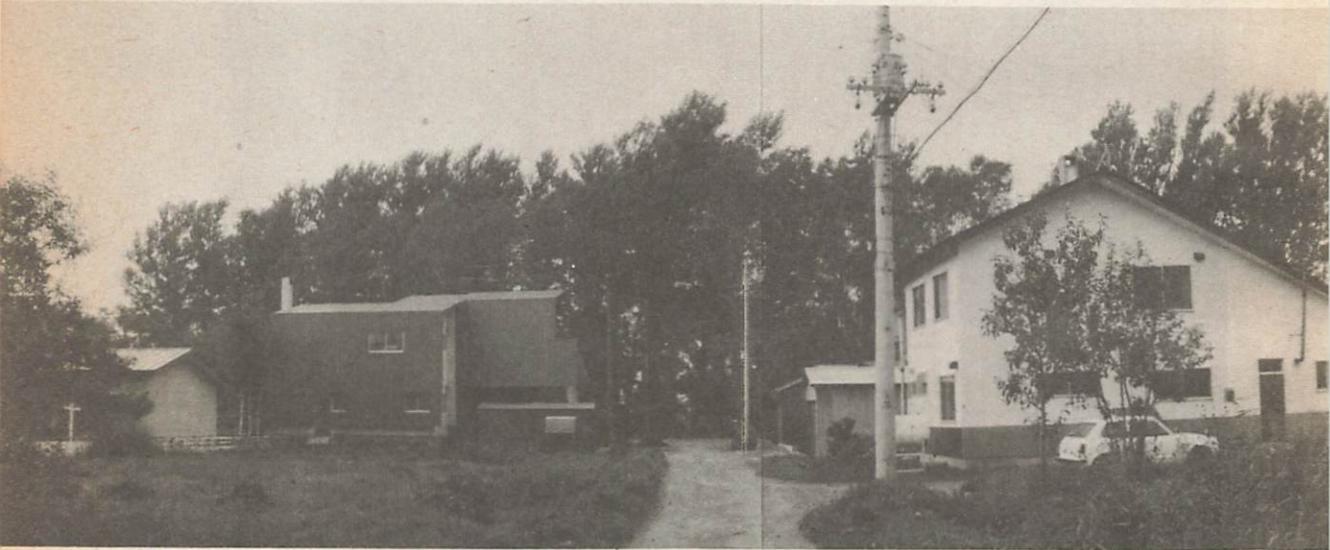
コプターのあとを追うように飛んでいた(図②)。翌11

日午後6時ごろには、自分の部屋の窓から日食を観測中にオレンジ色のUFOが現れ、光跡を残しながら東から西、西から東へと2回も飛び、とくに2回目は、途中で2つに分裂して東と上方の二手に飛んで行ったという。

6月30日には波状に飛行する点滅光体が現れるが、その後はあまりUFOを見る機会がなかった。

●超低空に浮かぶ巨大母船

ところが、翌年つまり今年に入ってから、今までと違っていた。5月25日(2回)、30日、31日、6月3日(3回)、4日、



▲写② 自宅付近にある高さ20mほどの防風林。今月の6月7日、この林の上端すれすれのところに巨大な葉巻型UFOが現れた。

5日(2回)、7日(2回)、9日、11日、22日、7月20日(5回)、8月6日(4回)と、UFO目撃レポートとして残してあるものだけでも24回。しかも、その中には驚くべき事件がいくつか含まれているのだ。その中から主なものをあげてみると……

5月30日午後8時45分ごろ、新琴似12条4丁目付近でバスに乗っていたところ、上空を蛇行しながら飛んでいる小さな葉巻型の光体を発見。思わずテレビシーで「光れ!」と念じると、その物体は60秒ほど飛んだあとで急に輝きを増した。このときバスの中にいた客のうち2~3人がUFOの方向を見ていたが、彼らが目撃したかどうかは、尋ねなかったのだからわからない。

このような、はっきりした目撃は何回かあるが、忘れてならないのは6月7日午後3時5分に起こった事件である。

その日中野さんが、午後4時から始まるテレビのUFO番組を見るために仕事を休んで自宅1階の居間にいると、午後3時すぎ、付近の防風林(写真②)の方角から木々がふれ合うようなざわめきが聞こえてきた。

何だろうと思ひ、外へ出て防風林が見える場所まで歩いて行くと、驚いたことに、高さ20mほどある防風林の上端すれすれのところに銀白色の巨大な葉巻型物体が浮いているではないか!(写真③)ざわざわという音はそこか

◀防風林の下に立つ中野さん。
▼写③ 巨大UFOのいた位置を示す。
◀図③(次頁) 友人の加藤さん(仮名)が描いた巨大UFO出現の様子。



ら聞こえてくる。どうやら、物体の一部が木の枝と接触しているらしい。そのとき、下の方がやけに騒がしいのに気づいた。見ると、林の中に小学生らしい20〜30人の子供たちがいて、上を見あげながら口々に「円盤だ!」と叫んでいる。

あわてて家から母親を連れて来て観測を始めた。

物体には透明な丸窓が8つ並んでいるが、そのうちの5つは大きく、あとの3つは少し小さい。物体は全体に脈うつような青白い光で包まれ、手前から向こう側へゆっくり回転しながら左の方へ少しずつ平行に移動している。

しばらくすると、回転している物体の左右にある出入口らしき部分から、音もなく次々と5機の皿型UFOが飛び空した(図③)。UFOは飛び出すとすぐに空の彼方へと消えてしまったが、葉巻型の物体もそのあとすぐに角度を上に変え、スーッと雲の中に消えてしまった。

事件後、調査のために防風林の中へ入ると、もぎ取られたような枝が何本か地面に落ちていた。一緒に調査にあたった山本さんは、

「UFOのせいかわかりませんが、直径30cmほどの太い生木が1本割れて倒れているのを発見しました」と現場の様子を語る。

山本さんはさらにそのあと、ある公表されなかった事件について教えてくれたが、それによると、UFO目撃の翌日午後5時40分から30分間、札幌市街・三越付近一帯で原因不明の停電が発生したという。

なぜか新聞にも出なかったそうだが、「ニューヨークの大停電」を思い出させて興味深い。



3 奇妙なテレビパシー

中野さんはその後、前述のように何度かUFOを目撃。6月11日には、彼を追跡するかのようには飛ぶタマゴ型のUFOを目撃するのだが、そのことよりも6月18日に起こった奇跡的な出来事の方を述べてみよう。

6月24日にSTV(札幌テレビ放送)屋上で開くUFO観測会の打ち合わせが終わり、午後6時から友人とともに喫茶店(ジーク)にいた中野さんは、ある友人との待ち合わせのため、午後7時45分に店を出て、Tさんと一緒に郵便局に向かうが、午後8時頃、友人が現れたので3人で近くの喫茶店(宇恵田)に入ることにした。

奇妙な出来事は、そのあとすぐ起こった。皆で話を始めてから数分後、中野さんは急に、右耳の奥が気になり出した。やけに痒い。耳の中に手をやると、やはり出来物ができている。何気なくその出来物を指で押してみると、そのとたん耳の中に何やら金属的な音(声)が響いてきた。耳をすますと、このように聞こえる。

「私は 火星人 フィルコン……」
あまりに突然なので驚くが、とりあえずその内容をメモすることにした。あとでメモを見てみると、内容はだいたい、今日(18日)の午後10時半ご

ろ、相手が姿を見せる、というようなものだった。

その声やんだとき、中野さんは面白いことを思いつく。出来物に金属を当てたらどうだろう……。そう思うとすぐにTさんが持っていた万年筆のようなものをその場所に当てた。すると前より感度がよくなり、もつとはつきりとした声が開いてくるではないか。

「6月24日の観測会には、曇っていてUFOが出ます……」

4 ラミュー氏との出会い

18日の出来事は中野さんにとって重要な意味をもつことになった。

「最初は『霊的』なものではないかと思いましたが、あとで考えてみると、このことは異星人とのテレビパシー会話に必要ではなかったのかと思えるのです」

この言葉のとおり、数日後には問題の事件が起こるのである。

詳しい日にはわからない。たぶん20日前後ではなかったかと彼は言うのだが、24日の観測会の打ち合わせをすませたあと地下鉄に乗り、午後8時半

このことは見事に当たり、観測会は大成功に終わった。

しかし、前述の姿を見せる件についていうと、10時半には何も起こらなかった。そのかわり8時半ごろに自宅付近で、丸窓が見える結構大きなオレンジ色のUFOを見たというが……。

※彼によると、出来物はテレビパシーを受けるときだけ飛び出して痒くなり、終わるとすぐ元にもどって何ともなくなる。この状態はしばらく続いたが、現在では自然にテレビパシーを受信できるようになったせいも、もうこの出来物ができなくなることにはなくなったという。

ごろ、加藤さんと友人のHさんたちと一緒に終点の『北24条駅』で降りた。

階段を登って外へ出たとき、信じられない光景を見た。地下鉄のホームからずっと彼の前を歩いていた背の高い男の人が、外へ出てすぐ右の方へ曲がろうとした瞬間、足の方から徐々に消えていくのだ。あつという間もなく、男の人は消えてしまった。

そのとき、中野さんの頭に、「あの人は『ラミューさん』だ」という印象が飛びこんできた。あわててまわりの人を見るが、だれ

も気がついていない……。これが彼と『ラミュー氏』とのコンタクトの始まりであった。

●謎の金属をもらおう

数日後、そして観測会の1、2日前には、さらに大きな事件が起こった。夜遅く、自宅付近いつものようにUFO観測をしていると、近くの街灯(水銀灯)の下にだれかが立っているのに気づいた。

だれだろう？

黒い影のようでよくわからないが、テレビパシーのようなもので呼んでいる感じがするので、そばへ行ってみることにした。近づくと、そこに立っているのは、身長180cm、黒のスーツに白いワイシャツを着た、がっしりした体格の男の人(図④)。顔をよく見ると先日地下鉄の駅で消えたあの人であった(図⑤)。

「ラミューさんですか？」

「そうです」

男の人は、はっきりとそう言った。

中野さんが、すかさず、

「何の用ですか」

と尋ねると、彼は自分の上着の右ポケットに手を入れ、オレンジ色に輝く1つの金属を取り出した。

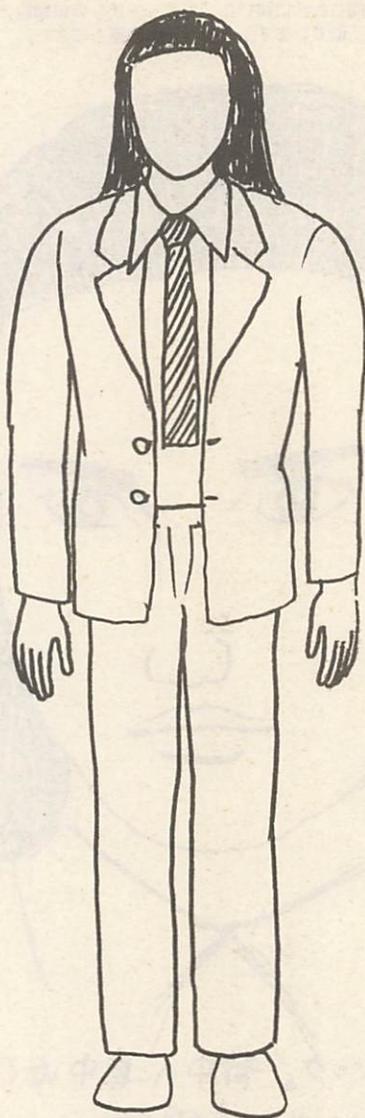
「これは、あなたがたの念力で私たちを呼ぶことができる、あなたがた向けの品物です。これを使いなさい」

そう言いながら中野さんにそれを差し出す。

「受け取ってみると、その金属は少し熱を帯びているようでした。それとともに、ラミューさんはもう帰ってしまいう、という印象を受けました」

その印象どおり、金属を手渡したあとすぐ、ラミュー氏はうしろを向いて防風林の方に走り始めた。

◀ 図4 加藤さんが、中野さんの証言をもとに彼の目の前で描いた「ラミュー氏」。



身長 1.8 m
肩幅は広い
体格はよい
首は普通の太さ
背広上下とも無地黒色
ネクタイも黒
ワイシャツのエリを背広の上に出している。

中野さんは、まだ温かいその金属を手を持ったまま無言で彼を見送る。

だいぶたってから、ラミュー氏が去ったあたりを1機のUFOが飛んだ。

5 驚異のテレポーターション

先ほど、金属がオレンジ色に輝いていたといったが、それはそのときだけで、しばらくたつと輝きは消え、現在

のように普通の白銀色になってしまった。だが、それで「力」がなくなつたわけではない。ラミュー氏が語つたと

おり、この金属が手に入ってからというものの、中野さんのまわりで次々と不思議なことが起こり始めるのだ。

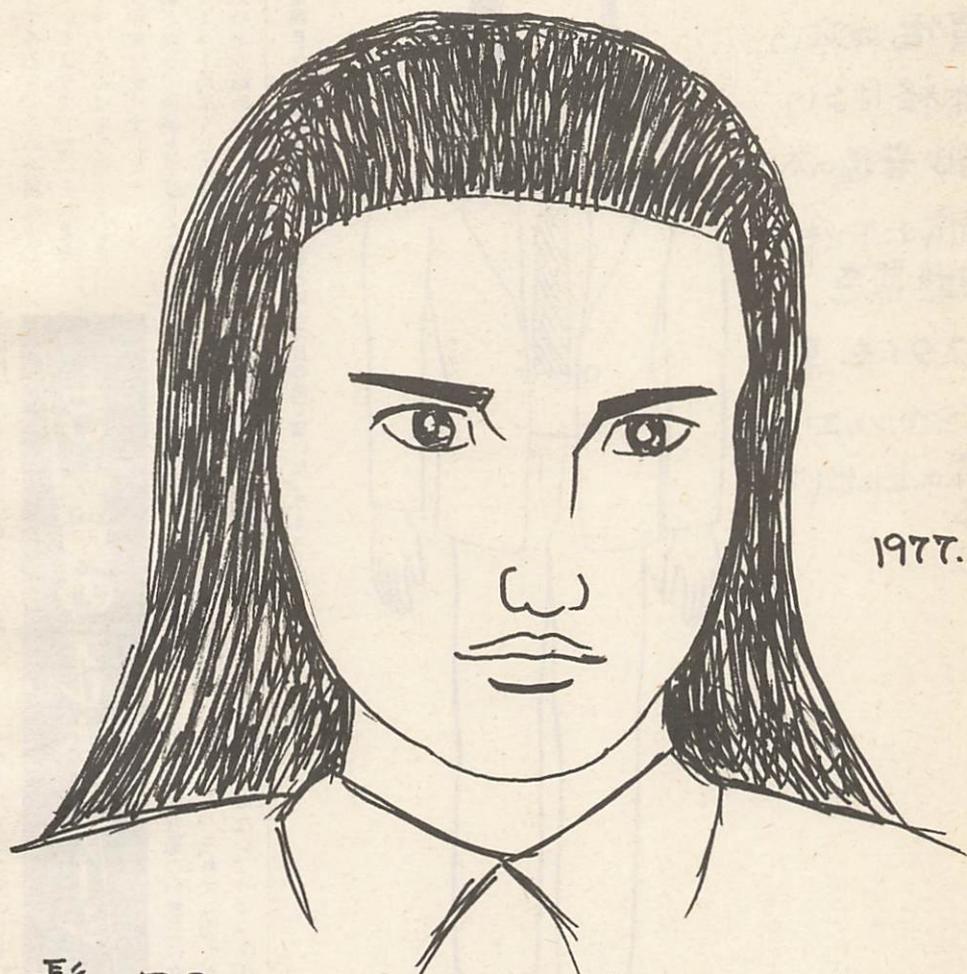
その1つは超能力。知らぬ間にスプーン曲げができるようになり、今ではだれの前でも簡単に曲げられるほど能力が強くなった(写真④)。記者の目の前でもやってみせてくれたが、そのことよりも驚かされるのはテレポーターション。肉体が瞬間的に違う場所に移動する、あのテレポーターションができるようになり、覚えていただけでも10回ほど成功したというのだ。

チベットの山奥に住む「ヒマラヤ聖者」や、世界中のごく一部の人ができるとは聞いていたが、まさか目の前にいるこの人がやれるとは……初めてそれを耳にしたときには正直なところ半信半疑であった。だが、よく話を聞いてみると、テレポーターションの瞬間を目撃した人がいるらしいし、「霊的」なものや違って、テレポーターした場所から元の場所まで歩いて戻ってきたこともあるという。本当に信じられないことだが、真偽を論ずるよりもまず、それがどのようにして起こったかを説明することにしよう。

● 最初のテレポーター

6月23日夜7時半ごろ、札幌市中央区円山の某場所、中野さんや加藤さん、山本さんを含む数人のメンバーが

▼図⑤ 加藤さんが図④と同じときに描いた“ラミュー氏”の似顔絵。この絵の完成時に中野さんに意見を求めると「似ています」という答えが返ってきた。



1977.10.9

髪は黒色でオールバック。背中の真中近くまで伸ばしている。
 ひたいは広い。まゆげは直線的でつり上がっている。
 目はつり上がっており、目つきが鋭い。
 ひとみは黒っぽい色。
 鼻すじは高く、糸田長い。
 口はやや大きく、口ひも上下とも厚い。
 エウが張っている。
 顔はホリが深い。日本人のような肌色でヒツはなめらか
 耳は髪でかくされている。

翌日のUFO観測会の練習のために上空を眺めていると、しばらくして2機のUFOが現れた。

そのとき皆は思った。

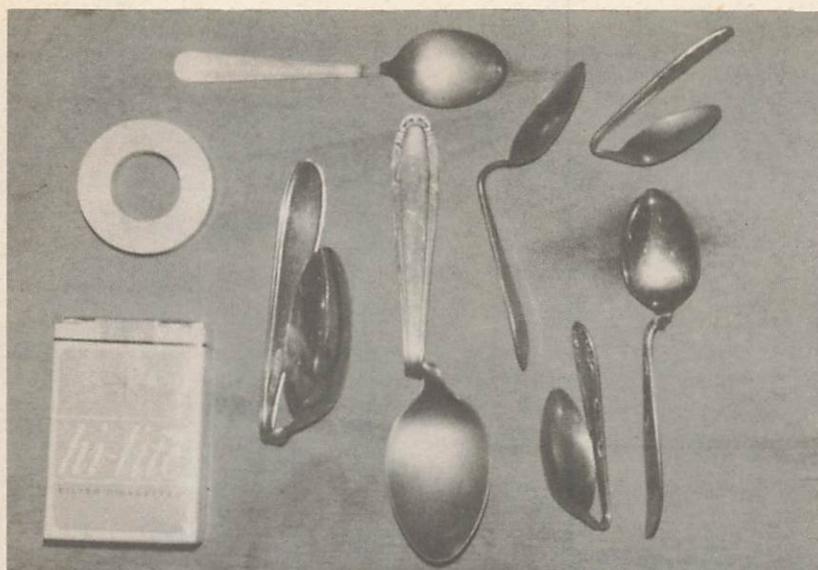
「明日もUFOは来てくれる!」

期待に燃え、興奮のうちに会合は終わった。時計を見ると10時半。一同は

それぞれ別れて家に向かう。

テレポーターションは、その少しあとで起こった。

中野さんは、同じ方面に帰る人たちと一緒に地下鉄『円山公園駅』まで歩き、大通経由で11時ごろ『北24条駅』に到着した。ここまではTさんとHさんと一緒だが、駅からは2人と違う方向に行かねばならない。「また明日」。いつもならこう言っ



▶写④ ラミュー氏から謎の金属をもらった中野さんは、次第に超能力が付き、簡単にスプーン曲げができるようになった。

て別れるのだが、この日は少し違っていた。

「テレポーターションでもしていったらどうですか」

ふと、Tさんがこんなことを言う。なぜそう言うのかわからなかったが、聞き返すこともせず、そのまま別れてしまった。

さて、どうやって帰ろう。歩く和家人で40分以上かかる。タクシーでもひろおうかな……。

しかし、その日にかぎってなかなか空車が見つからない。

「早く帰りたいけれど、しかたがない」

中野さんはそうつぶやくと、あきらめて、人通りの少ない西5丁目通りを北に向かって歩き始めた。

15分も歩いただろうか、もうすでに北30条あたりまで来ていると思われるころ、ふと前方を見ると、約100m先から1人の若い女性がちちらに向かつて歩いて来るのに気がついた。おかしいことに、その女性の中野さん指差して驚いている様子だ。

「何だろ?」

気になって、指差す方向——下の方を見ると、何と自分の足先が消えているのではないか! それどころか、次第に下からヒザの方に向かって消え始めている……。

ヒザも消え、腰まで消えかかると思った瞬間、急にあたりが赤く見え出し、2〜3秒たつと体がぼろりと熱くなった。下を向くと街の灯りが見える。しかし、その光景は1秒も続かず、次に気がついたときには地面に立っていた。体が元の状態にもどり、急に物が見え出したので、まわりを見回すと、そこは自宅付近の防風林の中だった。何がどうなったのかわからず、その場に立っていると、近くの脇道にいた女性がちちらに近づいて来て言った。

「今、赤い火の玉が現れ、遠去かって行くのを見ましたよ」
女性のいた位置から推測すると、た

ぶん姿を現した瞬間を見たと思うのだが、彼女はそれについて何も言わず、すぐにどこかへ行ってしまった。

こんな夜遅くに人がいるなんておかしい、それに防風林は夜に散歩するよりな場所ではない……一瞬そう思ったが、あまり気にもとめず、近くのバス通りまで出て自宅に電話をかけた。

電話には母親が出た。しかしそのときはまだ半信半疑だったので、今起こったことについて何も話さなかった。

このときの時間が11時15〜20分。11時ごろ地下鉄『北24条駅』を出たのだから、20分たらずでここまで来てしまったことになる。駅からここまで普通に歩けば約40分。しかも途中、北30条あたりまで15分〜20分歩いたことを考えると、どうやら一瞬の間に着いてしまったようだ。

これが中野さんにとって初めてのテレポーターションだった。そして、この日から次々とテレポーターションを体験することになるのである。

次の体験は、早くも翌日に起こった。

(以下次号)

*次号では、中野さんがテレポーターションで月や冥王星などに行き、UFOにも同乗したうえ、異星人ラミュー氏とコンタクトし、地球人類に関する様々なメッセージを伝えられた体験を詳細に紹介する予定。ご期待下さい。



■連載第5回■

クロード・ボリロン

聖書の真実がついに明らかになった。異星人の話は、さらに地球の現状へと広がる。果たして人類は銀河文明の高みに到達できるのか。それとも、新たな「ソドムとゴモラ」が待ちうけているのか。

第4章 キリストを利用する

遺産を継ぐ資格

『マタイによる福音書』の第26章に、3つの惑星が科学の進歩を達成しなければならぬことと、いつの日かその審判がくだるということが、やはり比喩を用いて書かれています。

『ある人が旅に出るとき、3人のしもべに自分の財産を預けた。

最初の者に5タラント、2番目の者に2タラント、最後の者に1タラントを与えた。

主人が帰ってくると、最初の者は5タラントに彼がかせいだ5タラントをそえて主人にさし出した。

2番目の者も、2タラントに彼がかせいだ2タラントをそえて主人にさし出した。

3番目の者は、隠しておいた1タラントしかさし出さなかった。

「さあ、そのタラントをこの者から取りあげて、10タラントを持っている者にやりなさい。おおよそ、持っている人は与えられて、いよいよ豊かになるが、持っていない人は、持っているものまでも取り上げられるであろう」
生命が創造された3つの世界のうちで、最も高度に進歩した世界が遺産を受け継ぐことになるのです。進歩のみ

られない世界は、他の世界に支配され滅ぼされてしまうでしょう。これは、地球の人々についてもあてはまるので

す。
『マタイによる福音書』の第26章で、イエスは彼の死と、その後に表示される聖書の記述の重要性を知らせています。イエスと一緒にいた者のひとり

が剣を抜き、彼を守ろうとした時、イエスはどのように答えています。

『あなたの剣をもとの所におさめなさい。……わたしが父に願って、天の使いたちを12軍団以上も、今つかわしていただくことができないと、あなたは思うのか。しかし、それでは、こうならねばならないと書いてある聖書の言葉は、どうして成就じじゆうされようか』

ずっと後になって、創造者たちが地球に戻ってきた時に、彼らが侵略者とみなされないよう真実を広めておくためには、イエスが死ぬ必要があったのです。これこそ、聖書と福音書の記述が役に立つ点なのです。創造者たちの行為と存在の痕跡あとを保存し、彼らが戻ってきた時にそれとわかるようにしておく必要があったのはこのためです。

イエスは、いったん死んでから、創造者たちの助けをかりて「復活」しています。

『すると大きな地震が起こった。それ

は主の使いが天から下^{くだ}って、そこにきて石をわきまにころがし、その上にすわったからである。その姿はいなすまのように輝き、その衣は雪のように真白であった」(マタイによる福音書26)

創造者たちはイエスの手当てをし、彼をよみがえらせた。イエスは語ります。

『あなたがたは行って、すべての国民を弟子として……あなたがたに命じておいた、いっさいのことを守るようになせよ』

イエスの使命は達成されました。

『彼らに語り終わってから、彼は天にあげられた』(マルコによる福音書16)

創造者たちは、このきわめて重要な最終段階ののち、彼を連れて行ったのです。

『へびをもつかみ、たとえ毒を飲んでもし害を受けず、また、病人に手を置けば病人がいやされる時が来るであろう』(マルコによる福音書16)

人間が毒へびの血清、解毒剤、新たな治療法などを知るようになる……これは今現在、起こっていることです。

創造者たちは、再び戻ってくる前に、徐々に姿を見せるようになるでしょう。これは、再来の時期に備えられるようにし、新たな事実の啓示に輝きをそえるためです。

『イチジクの木を見なさい。はや芽を出せば、夏は遠くありません』(ルカによる福音書21)

現在のように未確認飛行物体がひっきりなしに出現するようになれば、その時は近づいたのです。

『使徒行伝』の第2章にも、次のように記述されています。

『五旬節の日がきて、使徒たちが一緒に集まっていると、突然、激しい風が吹いてきたような音が天から起こってきて、一同がすわっていた家いっばいに響きわたった。また、舌のようなものが、炎のように分かれて現れ、ひとりびとりの上にとどまった。すると、一同は聖霊に満たされ、御霊が語らせるままに、いろいろの他国の言葉で語り出した』

創造者たちは、増幅されたテレバシ1波動と電気ショックを用いて、使徒たちに迅速な集中的教育を施し、彼らの記憶に他国の言語を植えつけたのです。こうして、彼らは真実を世界中に広めることが可能になりました。

『使徒行伝』では、ヘロデ王に捕らわれた多くの捕囚、とくにペテロを救うために出現した創造者たち、すなわち「御使い」について引用しておく必要があるでしょう。

『すると、突然、主の使いがそばに立ち、光が獄内を照らした。そして御使いはペテロのわき腹をつついて起こし「早く起きあがりなさい」と言った。すると鎖が彼の両手から、はずれ落ちた。御使いが「帯をしめ、くつをはきなさい」と言ったので、彼はそれとお

りにした。それから「上着を着て、ついできなさい」と言われたので、ペテロはついて出て行った。彼には御使いのしわざが現実のこととは考えられずただ幻^{まぼろし}を見ているように思われた』(使徒行伝12)

ペテロは未開人だったので、鎖がはずれ落ちるのを目にして、ただただ幻だと思ってしまったのです。彼は創造者たちのひとりが使用した、レーザー光線を放つエレクトロニクス装置が理解できなかつたのです。人は奇想天外な現象に会うと、夢を見たと思いがちです。創造者たちを見た人々が、しばしば幻とか夢を見たと言うのはこのためです。私たちの宇宙船を実際に見た者が、幻覚だと思うのに似ています。夢を見たと思っているが、実は真正銘の真実だということのあるのが、これではっきり説明できません。『彼らが鉄門のところに来ると、それがひとりで開いたので、御使いは彼を離れ去った』(使徒行伝12)

その時が来たという徴は、イスラエルの民が国をとり戻したということにも表われています。

『その後、わたしは帰ってきて、倒れたダビデの幕屋を建てかえ……』(使徒行伝15)

次の文句もきわめて重要です。

『われわれも、確かにその子孫である』(使徒行伝17)

ひとりの使徒が、神について語りながら言った文句です。

もうこのへんで福音書を読みつづけるのをやめましょう。創造者についてのほめかした文章がまだまだ数多くみつかるとは、それほど重要ではありませんから。

これまで私が説明したことから、疑問の個所はあなた自身で解き明かせることでしょう。

これだけ話し終えると、異星人はこれまでと同様にして、クロード・ポロンのもとを去っていった。

第5章 世界の「終末」

1946年 II 新紀元元年

翌日、異星人はこれまでと同様にして姿をあらわし、次のように語りはじめた。
「世界の終末が近づいています。これ

は地球が大災害に見舞われて滅びるということではなく、多かれ少なかれ優れた仕事を果たしてきた教会世界が崩壊するということです。創造者たちが再来した時、彼らの存在をわからせるための、一般大衆への啓蒙活動の終わりが近づいているのです。あなたもお

気づきのように、キリスト教の教会は死に絶えつつあります。教会はこれまで少なからぬあやまちを犯し、またあまりにも長きにわたって創造者たちにいどもうとしてきました。しかし今やその使命を果たしたので、教会世界は終わりを迎えるのです。

真実を保持し、人々が行間の意味をくみとれるようになるためには、ここで科学文明の方向転換を行う必要があります。この段階までに教会の行ってきたことは、それなりに良いものでした。だが、彼らは数多くのあやまちを犯してきました。これは予測されていたことなので、まったく何の役にも立たない教会は滅びてしまうでしょう。すでに、科学的に発達した国々の人々は、何事にも信をおかず、気難かしくなっています。あまねく存在し、雲の高みに住む白いヒゲを生やした「神」を、もはや信じてはいません。愛らしい小さな守護天使や、角を生やし蹄を持つ悪魔についても同様です。人々は、何を信じていいかわからなくなっています。青年たちのうちの一部だけが、愛が本源的だということを理解しています。あなたがたは黄金時代に到達したのです。あなたがた地球人は宇宙を飛び回り、電波を利用して地球の隅々にまで声を届かせています。あなたがたに真実が明かされる時が来ます。すでに書き留められているように、いまや地球は宝瓶宮の支配下

に入っています。すでにこのことを記述した人も何人かいたのですが、人々を信じさせるにはいたりません。創造者たちが地球で作業を行おうと決心した2万2千年前から、すべては予見されてきました。というのも、銀河系の運動はこの知識を前提としていたからです。キリストと彼の漁師たちは双魚宮の時代でした。そして1946年から、宝瓶宮が到来しています。イスラエルの民が自分たちの国を取り戻した時代です。

『この日から、双魚宮の門のそばで騒々しい叫び声があがるであろう』

双魚宮の門というのは、新たな宝瓶宮の時代へ到る経路です。春分の日、太陽が地上に昇る時、宝瓶宮に「入る」のです。騒々しい叫び声というのは、この啓示となる騒ぎです。あなたが1946年に生まれたというのは偶然ではありません。

教会の終末

この啓示がもたらす光明のおかげで、気づかずかし屋に再び希望と幸福が与えられるでしょう。しかしこの啓示はまた、教会が自らの誤ちを悟り、真実に奉仕しなければ、教会の没落を早めることにもなるでしょう。

『あらゆる者は絶え、あざける者は失せ、悪を行おうと、おりをうかがう者は、ことごとく断ち滅ぼされるからで

ある。

彼らは言葉によって人を罪に定め、町の門でいさめる者を罫におとし、れ、むなししい言葉をかまえて正しい者をしりぞける』(イザヤ書29)

原罪を信じこませ、人を罪ある者とした者たちの最後です。また、教会は正しいことを口にし、真実を語ったり書きとめたりした正しい者をしりぞけるために存在していたのですが、この教会を救うために、宝瓶宮への入口となる双魚宮の「門」に際して真実を広めようとする人を罫におとし、いれようとした者たちの最後です。双魚宮の時代への変転の際、滅ぼされるのではないかと恐れ、わけもわからずに、ただ自分たちの行っていることは正しいことを守るためだと説き伏せられて、キリストを十字架にかけた人々のようなものです。

『こうして見る者の目は開かれ、聞く者の耳はよく聞き……愚かな者は、もはや尊い人と呼ばれることなく、悪人はもはや、りっぱな人とやられることはない。』

それは愚かな者は愚かなことを語り、その心は不義をたくらみ、よこしまを行ない、ヤーヴェについて誤ったことを語り、飢えた者の望みを満たさず、かわいた者の飲み物を奪い取るからである。悪人の行いは悪い。彼は悪い計りごとをめぐらし、偽りの言葉をもって貧しい者をおとし、いれ、乏しい者が正

しいことを語っても、なお、これをとおとし、いれる。しかし尊い人は尊いことを語り、つねに尊いことを行う』(イザヤ書32)

こうして、『見る者の目は開かれ』るので、すべての人が理解することでしょう。教会はヤーヴェについて誤ったことを語り、真実に飢えた者の望みを満たしませんでした。教会は計りごとをめぐらし、貧しい者をおとし、いれ、「罪」とか、破門その他のらちもないことでおどかし、それによって理解できない者、あるいは理解しようとし、い者が教会に忠誠を誓うようにさせたのです。貧しい者が正しいことを申し立て、ある者が真実を十分理解しないながらに教会の嘘の助言を支持する人々に反抗したにもかかわらず。しかし尊い者、真実を大声で叫ぶ者は、瀕死の状態にある教会の同意がなくて、尊い行為をくだるのです。

『あなたがたは知らなかったか。あなたがたは聞かなかったか。初めから、あなたがたに伝えられなかったか。地の基をおいた時から、あなたがたは悟らなかつたか』(イザヤ書40)

『わたしの支持するわがしもべ。わたしの喜ぶわが選び人を見よ。わたしはわが書を彼に与えた。彼はもろもろの国びとに道をしめす』(イザヤ書42)

これまでの数日間に、私はあなたに真実を解き明かしました。あなたはこの真実を世界中に広めるべき人です。

『彼は傷ついた葦を折ることなく、ほのぐらい灯心を消すことなく』（イザヤ書42）

あなたが教会とその嘘を徹底的にたたきつぶすことはありません。教会はひとりてに消滅してしまおうでしょう。

それに、この消滅は少し前からもう始まっています。『ほのぐらい灯心』です。教会は使命を終え、もはや消え去る時です。教会は数々のあやまちを犯し、当時の人々にはつきりわかるような解釈を求めることもせず、真実にあぶさって裕福になりました。でも、あまり責めてはいけません。真実の証言である聖書が世界中に広まったのは教会のおかげなのです。と、いっても教会は大きなあやまちを犯していません。特にひどいあやまちは、真実をあまりにも超自然的にしてしまったことです。それに聖書の中で創造者たちを示す「エロイム」という言葉を「神」と訳すといったまちがいをしています。「エロイム」はヘブライ語「エロア」の複数なのにそれを単数に訳し、その上、理解の及ばない唯一神にしているのです。さらにまた、イエス・キリストの思い出のよすがとして木で作った十字架を身につけるといってあやまちを犯しています。十字架はキリストではありません。木の十字架なんて何の意味もありません。

『その心のうちに思うことをせず、また知識がなく、悟りがないうちに』

たしはその半ばを火に燃やし、またその炭火の上でパンを焼き、肉をあぶって食べ、その残りの木をもって憎むべきものを造るのか。木のはしくれの前にひれ伏すのか」とさえ言わない』

教会のあやまち

確かに、教会は人に罪責感を与え、またわけもわからず祈らせるといって過失を犯しました。

『また、祈るとき、異邦人のように同じことばを、ただ繰り返してはいけません。彼らはことば数が多ければ聞かれるかと思っているのです』（マタイによる福音書6）

しかし福音書には次のような記述もあります。こう書かれています。教会はきわめて裕福になりました。

『だれも、ふたりの主人に仕えることはできません。一方を憎んで他方を愛したり、一方を重んじて他方を軽んじたりするからです。あなたがたは、神にも仕え、富にも仕えるということができます。自分の宝を地上にたくわえるのはやめなさい』（マタイによる福音書6）

『胸巻に金貨や銀貨や銅貨を入れてはいけません。旅行用の袋も、二枚目の下着も、くつも、杖も持たずに行きなさい』（マタイによる福音書10）

こうした馬鹿げた規則や卑小な裏切りのせいで、彼らは福音書自体を尊敬

しないようになっていきます。

『口に入るものは人を汚しません。しかし、口から出るものは、これが人を汚します』（マタイによる福音書15）

いったいどうして、単なる人間にすぎない者が、豪華なパチカン宮殿で富に埋もれてくつろぐなどという不遜なことができるのでしょうか。福音書に『金貨や銀貨』を、さらには『二枚目の下着』も持つなど書いてあるのに。どうして彼らは図々しくも神の慈愛を説教できるのでしょうか。

『それから、イエスは弟子たちに言われた。「まことに、あなたがたに告げます。金持ちが天の御国に入るのはむずかしいことです』（マタイによる福音書19）

『彼らは重い荷をくくって、人の肩に載せ、自分はそれに指一本さわろうとはしません。彼らのしていることはみな、人に見せるためです。……宴会の上座が大好きです。……あいたさされるのが好きです。……あなたがたの教師はただひとりしかなく、あなたがたはみな兄弟です。あなたがたは地上のだれかを、われらの父と呼んではいけません。あなたがたの父はただひとり、すなわち天にいます父だけだからです。また、師と呼ばれてはいけません。あなたがたの師はただひとり、キリストだからです。あなたがたのうち一番偉大な者は、あなたがたに仕える人でなければなりません』（マタイによる福音書23）

情報コーナー

●ぜひ備えておきたい紫外線治療器
頭癬（いんきん）、たむし、水虫・円形脱毛症（毛根残存・痔瘻・創傷・足のいやなニオイに悩ま狂っているキミに勧めたいのがこれだ。一日数分間照射でOK。
23,000円①

●室内で日焼けが出来る「太陽灯」
男の魅力は褐色の肌。それを簡単に付けるのが「紫外線健康ランプ」。一日数分ずつ一週間も続けるとグーだ。白なまずで困っているヒトも医師と相談の上。
8,000円より



●伸び悩みの十代のキミへ朗報
成長期の栄養補給に、プロテイン85。植物性たんぱくを微粉末化したもので、健康維持、男らしい体格を作りたいキミにピッタリ。受験地獄に勝ち抜きたい受験生のたんぱく補給にオススメです。
3,400円

●らくらく読める読書スタンド
文庫判から週刊誌大、900頁までの本がピシッとセットでき、寝返りに応じてポジションが簡単に調節できる便利な読書スタンドに組み込んであるランプがページを適正に照らすから、目の疲れも少ない親切な商品だ。
7,700円

商品のご注文は現金書留又は振替で
案内書請求は商品名を書き左記へ
104東京都中央区築地一―三―四ヤン
グショップ・ツクダ UFO係
☎03―543―2733(代)
地下鉄築地駅上野寄り出口3分

けれども、このことは福音書に書いてあります。いったいどうして教会はあつかましくも人間に原罪などというものを押しつけることができるのでしょうか。慣習と生活様式についての考え方が違うというにすぎないのに。人々が飢えて死にかけているときに、パチカンで豪華な暮しをしながら慈愛を口にし、謙虚さについて説きながら儀式を開かせ、当の福音書で禁じられているというのに、我が父、聖人などを口にするなどということがよくできるものです。もし明日にでも法王がズダ袋を下げて巡礼の旅へでるといふことがあれば教会は生き返るでしょう。しかし人間性の目的からすれば、これまでは全く違ったものになります。今日までは証拠として役立てるべき知識を広めることでした。この使命は終わりに来ています。しかし教会は、不幸な人を助けたり、これまで変形され秘密にされていた記述の真の姿を広めたりして新たな道を追求することができません。教会のなかでも優れた人々は、このようにして、自らの遂行すべきことを見つめるでしょう。このため、パチカンは、例えば自らの富をすべて開発途上国の利益になるように役だてたり、人間の進歩を手助けしたりというように、「言葉だけ」ではない作業に手をさしのべなければなりません。

結婚や、特に葬式のやり方に、その人の財産に応じて様々の形態があると

いうことは許しがたいことです。これも教会のあやまちです。しかし今や時期が到来しました。

全宗教の起源

こうした真実の痕跡が見られるのは聖書や福音書にかぎりません。事実上すべての宗教に見られます。とくにカバラにはこうした証言がきわめて豊富に収められています。入手はそれほど容易ではありません。もしいつの日か見ることがあれば、私たちにいつの暗示に富む記述が無数にあると気づかれるでしょう。中でも『雅歌』の第5章には、創造者たちの惑星が地球からどれほどへだたっているかということが記されています。

「創造者の高み」は23万6千パラザンジュ、「そのかかとの高さ」は3千パラザンジュという記述があります。パラザンジュというのは古代ベルシヤの距離単位で、パーセクと同様に、光が1秒間に進む距離を示すものですが、約30万kmにあたります。私たちの惑星までの距離は3千万パラザンジュなので、約9兆kmつまり1光年をやや下回る距離があります。あなたが光速に等しい秒速30万kmで出発したとして私たちの惑星に着くまでに1年近くかかるのです。あなたがたのロケットの速さは実際には時速4万km程度ですので、私たちの惑星に着くまでに9万年

近くかかってしまいます。今のところ私たちが何も恐れる必要がないということがおわかりでしょう。私たちは、原子力推進方式のおかげで、地球から私たちの惑星へ行くのに2カ月足らずしかかかりません。このことから、光速の7倍という光線の速度で私たちが移動していることがわかるでしょう。

この光線によって、私たちは「運ばれる」のです。私たちは「運ばれる」ので、私たちが「運ばれる」ので、つまり眼で知覚できる光線の範囲から離れて、この光線の放射と共に運ばれるわけです。このため、私たちの宇宙船を観察した地球人が、宇宙船は発光し、輝く黒体となり、青みがかってから消えると言っているのです。宇宙船が光速を超えるというのでは見えなくなるので、「消えてしまふ」ことは明らかです。これが創造者の「かかとの高さ、つまり惑星にかかるとが達するまでの距離です。創造者たちの惑星は彼らの太陽から23万6千パラザンジュ離れています。つまり7080万kmです。これが、その巨大な星である太陽に届くまでの距離、「創造者の高み」です。

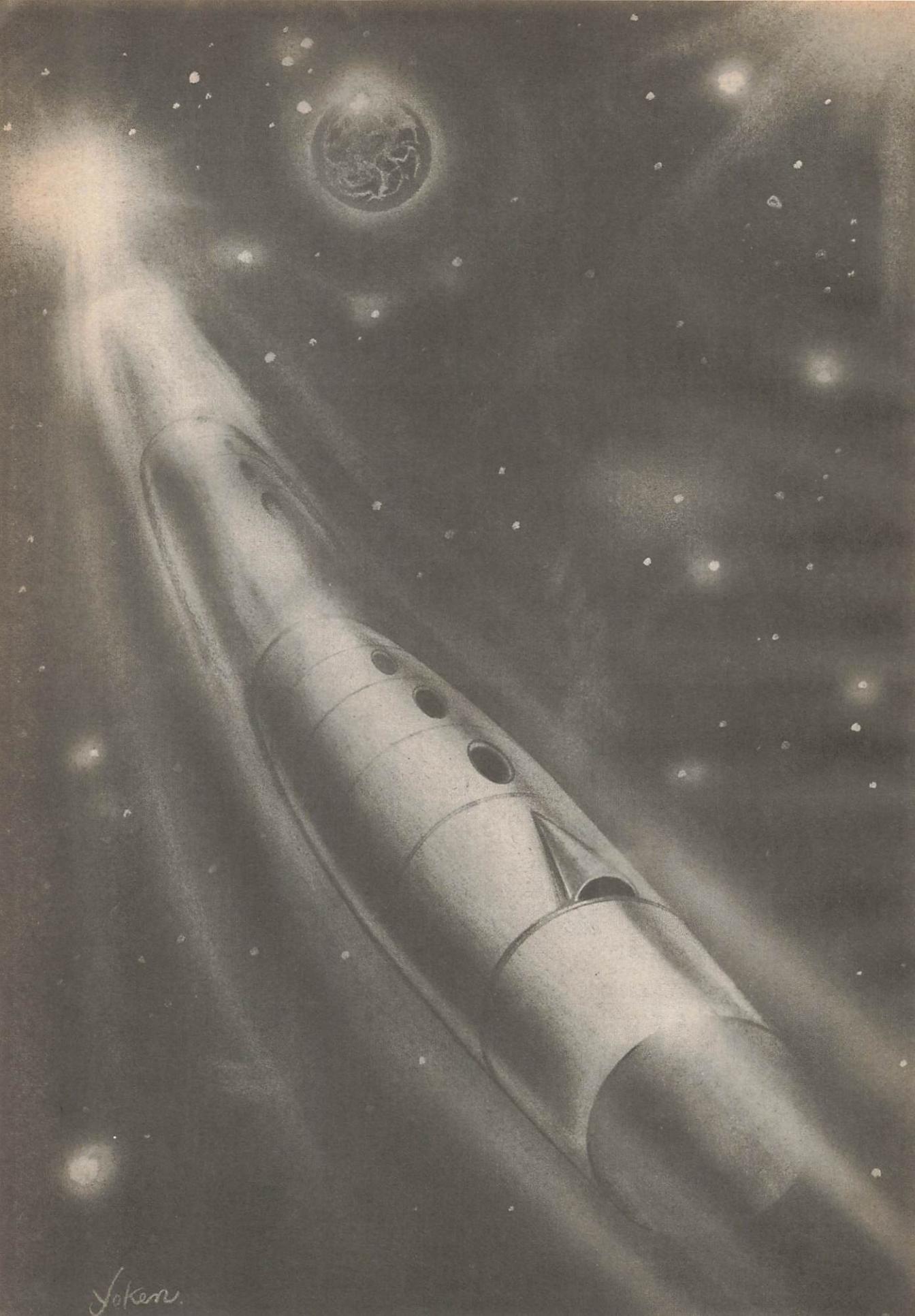
カバラはきわめて真実に近い内容を収めた書物ですが、すべての宗教書には、明確さの程度は様々ですが、私たちについてのほめかしが見られます。とくにアンデス山脈、ヒマラヤ山脈など、創造者たちが基地を造った国々でこのことが見られますし、ギリシ

ヤ神話も偉大な証言です。さらに仏教、イスラム教、モルモン教など¹¹：私たちの行為を多少なりとも記述している宗教や宗派をすべて引用していたら何ページも必要でしょう。

人間・宇宙の病気

さあ、これであなたは真実を理解したわけです。このことを書きとめ、世界中に知らせなさい。もしも私たちが2万5千年前に獲得した知識を利用したいのなら、地球人は私たちとの再会を望んでいることと、その資格があることを示さなければなりません。私たちに危険が及ばないことも。もし人間に知識を授けるとしたら、それを善用するという確信を私たちが持つ必要があります。ここ数年間の観察では、知恵が地上を支配していることしかわかりませんでした。確かにこれは進歩です。しかし、いまだに餓死する人はいますし、地上には好戦的な気分がみなぎっています。私たちが訪れたら、すべてを秩序だて、国々を統一させられることは確かです。でも、人間が本当に統一を望み、そのための準備をしているというのを私たちが実感する必要があります。それに人間が私たちの来訪を、事情をよく知った上で、望んでいると感じる必要があります。

人間の戦闘機が私たちの宇宙船を敵とみなし、捕らえようと追跡すること



Yokan.

がしばしばありました。実際には私たちが傷ついたり殺されたりすることはありませんが、姿を現してもそんな危険がないようにし、また多数の人命を危険におとしめるようなベニツクをひき起こさないように、私たちがだれなのかを人々に知らせておかなければなりません。科学者の中には無線でコソタクトしようと思っている者がいますが、私たちの惑星の位置がわかってしまうので、私たちとしてはそれを望みません。それに、この方法では伝達時間が非常に長くなるし、私たちの電波発信装置はあなたがたのまったく知らないもので、あなたがたの技術ではキャッチできないでしょう。これは電磁波の7倍の速度を持つものですが、現在、その1・5倍の速さのものを実験中です。

今後、偉大な存在を理解し、それと再び接触を持つために、あなたがたは研究を続け、進歩しつづけるでしょう。私たちはこの偉大な存在の一部であり、その原子に寄生しています。この原子が惑星や恒星なのです。実際、知性を持つ無限に小さい生物が、彼らにとつては惑星であり恒星である分子の上で生活し、私たちと同じような疑問をいだいていることを、私たちは発見しました。人間は、惑星や恒星を原子とする巨大な存在の「病氣」なのです。そしてこの存在もまた、他の原子の寄生物なのです。微細と極大、い

れの方向にも無限なのです。しかし重要なことは、つまり人類は絶えず存在を続け、決して滅びはしないということです。あなたがたを創造した時、私たちは二次的な使命を果たしていることに気づきませんでした。私たちは、自分たちに対して行われたことを繰り返していたのです。私たちの行った創造と進化から明らかになってきたのですが、私たちの起源が私たちにあるとわかりました。私たちもまた、現在では滅亡している別の人間によって創造されました。彼らの世界は確かに崩壊してしまっていますが、彼らのおかげで私たちは進歩を遂げ、あなたがたを創造できたのです。私たちもいつの日か消滅しますが、その時までにはあなたがたも進歩を遂げていることでしょう。だからあなたがたは、人間というかけがえのない存在を継続させていく鎖の環なのです。宇宙の他の場所にも別の世界が存在し、そこでも人類が発展していることでしょう。しかし、宇宙のこの場所では、私たちの世界が唯一創造されたものであり、非常に重要なものです。というのは、それぞれの世界で、人間の継続にとつて大切な無数の子供たちが輩出するからです。このことは、いつの日か人間が完全に消滅してしまうという危険に対して希望をもたらしません。しかし、人間が無数になって果たして安定できるのかどうか、確信を持っていません。これまでず

つと鎖は続いていますが、私たちが病気がつまり寄生虫である巨大な身体の平衡自体、私たちがあまりにも発展することを欲していません。私たちが発展しすぎると、よくて退化、悪くすると完全な滅亡という破局をもたらすような反応をひき起こすことでしょう。これは健康な肉体と同じことです。ある程度の微生物なら別に問題はありませんが、けれども、微生物があまりにも増えすぎたら、その生物は病気で苦しみます。そこで、自然治療で、あるいは医薬にたよって病原菌を殺すことになるでしょう。

重要なことは、人間が滅亡しないようにかなりの数を創造する一方で、現に存在している者をより幸福にするための努力が平衡を破壊しないようにすることです。私たちがあなたがたに多くのものをもたらすことができるのはこの計画ののつとつた場合です。

進化・ある神話

余談になりますが、ここで進化に対するあなたの疑念を晴らしてあげましょう。あなたがたの科学者は、人がサルから、サルは魚からという風に発生してきたという進化論を唱えています。が、全くの間違ひというわけではありませんが、全くと違ひというわけではありませんが、地球上に創造された最初の生命は単細胞で、それからもっと複雑な生命が創られていきました。し

かし、これは偶然によるものではないのです。生命を創造するため私たちが地球を訪れた時、まず最も単純なものから着手しました。それから、環境に適応させる技術を進歩させ、魚類、両棲類、鳥類、哺乳類、霊長類を創造し、最後にサルのモデルを改良したにすぎない人間を創造したのです。この人間に、創造者たちを形作っているものをつけ加えました。聖書の『創世記』にあるように、私たちの姿に似せて人間を創ったのです。もし偶然による進化だとしたら、これほど多様な形態が生じるということがほとんどありえないことが、あなた自身でもわかるでしょう。鳥の体色や求愛行動、それにいる種の羚羊のツノの形をごらん下さい。いったい自然は、どういふ必要があつて羚羊や野生の山羊のツノをラセン状にしたのでしょうか。青や赤の羽をした小鳥たち、エキゾチックな魚についても同様です。これらは、私たちの「芸術家」の作品なのです。あなたがたが生命を創造する番になった時に、芸術家を忘れないようにして下さい。音楽や映画、絵画、彫刻といったものが全くない世界を想像してごらん下さい。もし動物たちの身体が、彼らの欲求や機能に従って反応するだけだとしたら、生活はどんなに退屈になり、動物はどんなに醜くなることでしょう。地球上の生命形態の進化というのは、創造の技術の進化のことで、創造者た

もうひとつの世界へ…
あなたはもう帰れない

イメージの 博物誌

全8巻



1、2巻好評発売中●各1,200円

矢島文夫説

占星術

天なる鏡

ローマは〈しし座〉、そして花の都パリは〈おとめ座〉である。いつの時代の支配者も、自分の、そして自国の運命を、占星術によって占ってきた。このような占いがなぜ成り立つのか？その発生の根源、発展の歴史は？その答えはすべてこの本の中にある。

神聖舞踏

神々との出あい

踊りは、人類の最も古く、最も深い衝動を呼びさます不思議な力、魅力をもっており、世界のどの宗教をみても、その伝統の基本的要素となっている。本書では、ポッティチェリの〈踊る天使〉から、南太平洋の未開民族の踊りに至るまで、その魅力をさぐる。

平凡社

東京都千代田区四番町4 千102張替・東京8-29639

ちは最終的に彼らに似た生命を創造しようとして洗練を加えていったのです。先史時代の人間の頭蓋骨は、人間の最初の原型ですが、これは創造者たちを正確に複製した、もっと進化した形に比べてかわられました。創造者たちは、彼らより優れた存在を創造することに恐れをいだきました。なかには、創造の誘惑にかられた者もいましたが、地球上で次々と創造された様々な人種の間では、相手を支配したり滅ぼしたりするため策をめぐらすという事態が発生しました。もし人々が創造者たちに対してこうした策をめぐらさず、彼らを父のように敬愛したならば、人種を改良する試みが大に行われたことで

しょう。これは可能だったのですが、実際に大きな危険も伴っていました。それに、創造者の中には、人間のほうが彼らよりやや優れているのではないかと危惧する者がいました。「サタン」もそのひとり、人間はあまりにも知性があるため、私たちの惑星に危険をもたらすと絶えず考えていました。しかし私たちがの大多数は、あなたがたが私たちを敬愛し、私たちを滅ぼさうなどとはしないと考えています。すくなくとも、私たちが来たのは、あなたがたを援助するためです。しかしながら人間から人間へと創造を続けるたびに少しずつ改良して、人種を実質的に進化させ、それでいながら彼らに対面し

た創造者が危険を感じないですむようにすることは可能です。こうすれば、進歩を速に速めることができるでしょう。

あなたがたに私たちの科学知識を与えるのはまだ無理だとしても、政治や人間性に関する私たちの知識をあなたがお伝えしても特に危険はないと思います。こうした知識であなたがたが自分の惑星に脅威をもたらすことができなければ、あなたがたは地球上でもっと幸福になり、さらにはこの幸福のおかげで、よりすみやかな進歩を遂げることができるといえるでしょう。これによってあなたがたは、銀河間文明の水準に達するために私たちの援助と遺産とを受

ける資格があるということを、てっとりばやく示せます。さもなければ、つまりもし人間の攻撃心がやまず、平和を唯一の目的としないのなら、私たちにも考えがあります。戦争を鼓吹する人々を容認し、兵器を製造し、戦争のための核実験や軍備をこのまま続けていくというのなら、私たちは、自分の身にふりかかる危険を防ぐため、新たな「ソドムとゴモラ」をもたらさざるをえないでしょう。地球人がお互い同士で攻撃し合っているというのに、人間とはやや異なり、しかも別の世界にいる私たちがどうして恐れなくてすむのでしょうか。

(以下次号)
中村省三訳

雲の形で未来を予知する人が出現

雲は未来の出来事を語る!?

気学・予言法研究家／河島孝宣

●速達（昭和52年10月1日付消印）

前略、日航ハイジャックの件

今朝九時過ぎ雲に表れましたので御報告申し上げます。写真もとりましたので、特急現像の後お送り申し上げます。

日航のマークが二つからみあい左横側にダッカという字が出て、右側にシリアという字が出て、その下に飛行機の型になった雲の中にエーゲという字がみられました。

今後、シリアとかエーゲ海が事件に關係して来そうです。

（図A参照）

まず最初に、私がユニバース出版社へ宛てて出したはがきを証拠として掲げておく。日航ハイジャック事件の推移については、読者の皆さんも鮮明に記憶されていることと思う。

●日航ハイジャック事件の最中に出現した雲（10月1日午前9時過ぎに撮影）。写真 a. 日航のマークが抱き合った形になり、上方にはシリアという文字が見える。写真 b. ダッカという文字。写真 c. アルジェラという文字。写真 d. エーゲという文字。

このはがきのような内容が觀察されたのは10月1日のことだが、それより以前、日航がクアラルンプールで事故にあった翌朝の9時頃にも、雲に日航のマークが出た。「昨日事故にあったのに、また鶴のマークが出ています。まだ何か起きるのか」

うな現象を觀察したのである。

その際に撮影したカラー写真は、あいにくの週末で、出来上がりが4日の夕方になってしまった。しかし出来てきた写真を見て、雲がもつとはっきり未来を告げていたと知り、ますます私の予知法に対する自信が高まった。あの

なあ」

と友達に話していた矢先に発生したのが、このハイジャック事件である。

さて、10月1日の予知だが、私は当地加古川の浜の宮中学校の運動会へ出かける途中だった。自転車に乗って、中学校の前にある市民プールのそばまで来た時、前述のよ

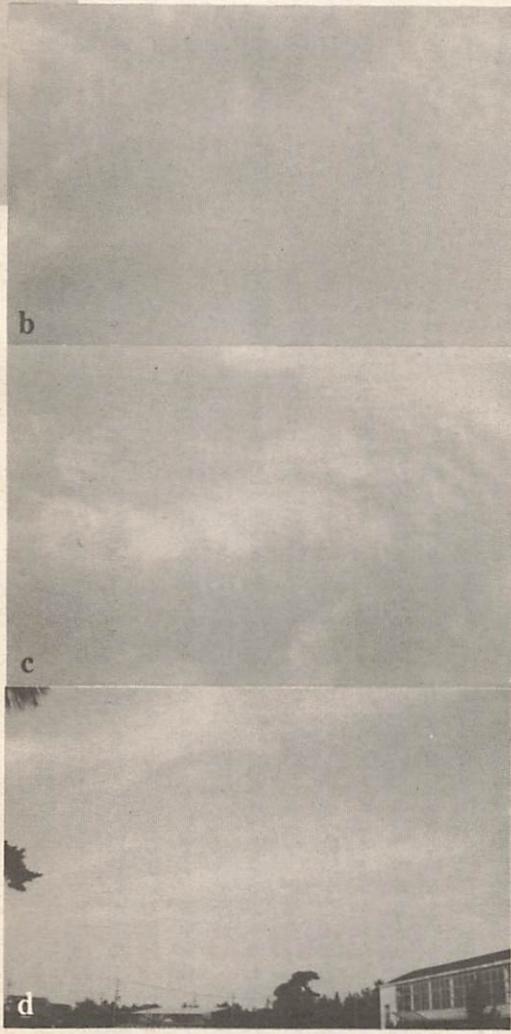
の時には気づかなかったが、写真にはアルジェラという文字が写っている。雲は正確にアルジェラと告げていたのである。やっぱりカラー写真を撮影しておいてよかった、とつくづく思った次第だ。（写真 a～d を参照）

「天に声なし。象を以て人に知らしむる」 孔子

私の父は、大阪で山本豊圓先生とそ師匠の園田地角先生から気学の教えを受けた。九州移転後、家業のかたわら気学の鑑定で多くの人を助け、生神様のようにいわれていた。

このため、私も小学校5年頃から、すこしずつ、父に気学の手ほどきをしてもらった。

そんなある日のこと、



「佐渡ガ島に地震がある前（何日ぐら
い前かは聞けなかったが）、佐渡ガ島
の形をした雲が出たのを見た。不思議
なもんや」
と、父が言った。

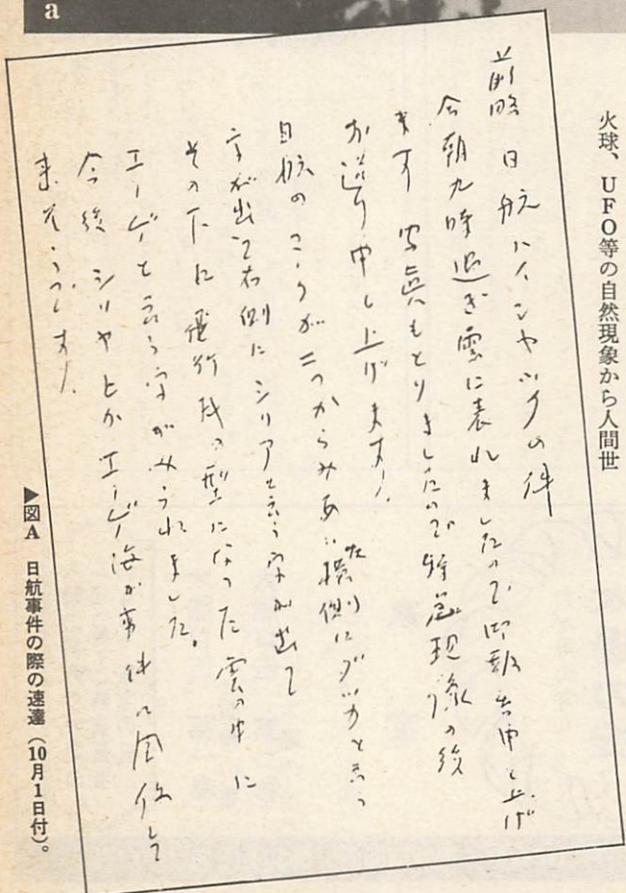
私はその時、ピンと感じるものがあ
った。それからは、空の雲を、他の人
が思ってもみないような観点から見
ようになった。そして、研鑽を積んだ
結果、次第に雲を見て地震や社会事象
等の子知ができるようになったのであ
る。この頃は漢字、カタカナ、ひらが
な、英文字、会社のマーク等も読み出
せるまで進歩している。

ついでながら、気学では地震、噴火、
火球、UFO等の自然現象から人間世

界の出来事を予知することもできるの
だが、詳細は別の機会にゆずりたい。
では、今までに雲によってどのよう
な予知をしたか、例をひいて説明して
みよう。

雲は予告した

昭和32年8月7日頃、日本航空の鶴
をまるくしたマークが雲に表れ、何日
間も続いた。これは、日航が事故にあ
うのではないか、と思っていると、そ
の年の9月末、伊丹空港で離陸直後、
炎上という事故が起きた。乗客は無事
とのことで、胸をなでおろしたもので



▲図A 日航事件の際の速達（10月1日付）。

あった。

自衛隊の航空機の場合は鳩のマークが出たりしたことがあった。全日空機の事故の時は、5日程前に全日空と出たが、空の字がかすかに出て、はつきり読めなかった(図7)。後に新聞を見ても、空の字の出ている写真が1枚もなかったのを覚えていた。

昭和38年9月7日にアメリカの地図が出、その上に黒い雲がたなびいていたが、これがケネディ大統領の暗殺を予告していたのである。(図1)

ソ連がチェコに軍事介入する前には空一面に戦車が出て、チェコ等の字が読み取れた。

新しいところで去年(51年)からひろってみると、猪木とアリが格闘技世界一決定戦をした。その前日、アントニオ猪木がいのししの姿で表れ、アリはその前面を防ぐように、クレイという字で表れた。いのししは、ちよつとの間薄くなったが再び表れた。(図9) 毛沢東は9月9日に没したが、8月25日に、毛という字が切手の縁のようなギザギザに囲われ、沢という字はサンズイが大きく、東は足の部分が曲ったような状態で表れた。(図2)

未来の予知

最後に、今年雲に出た事象で、まだ実現していないものを挙げておく。引用はすべてユニバース出版社宛はがき

の文面からである。(原文)

●遠州灘大地震

雲の中にエンシユウナダ大ジソン、その下にJ23か8、もう少し横にM7、⑤か⑥と云う字がありました。

(昭和52年9月28日付消印)

●遠州灘

地震の件、本日午前八時十五分頃、雲に出ましたのでお知らせ致します。……今年(昭和52年)の11月23日水ヨウ夕方五時二十六七分頃、遠州灘で大地震が起るとなります。

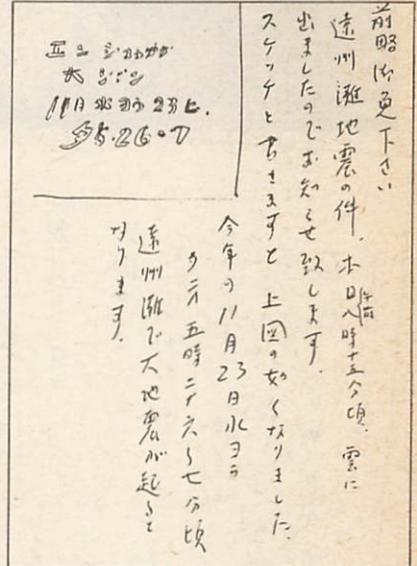
(昭和52年10月1日付消印・図B参照)

……五日後二時半ゴロ、ナンキ(南紀州)大ツナミ(津波)、その下にエンシユウナダジソン。……

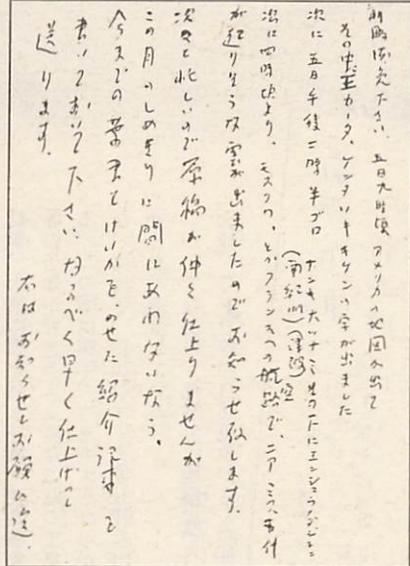
●米西海岸の大地震

……今日七日10時半雲に出、ロスア

▼図B 「11月23日、夕方5時26～7分頃、遠州灘大地震発生」を予知(10月1日付)。



▼図C カーター大統領に迫る危険、航空機ニアミスなどを予知(10月6日付)。



ンジェルズ、サンフランシスコ附近で地震があることがわかりました。日や時刻ははつきりしませんが、早やければ十月七日(米)時間にも起るとも考えられますから連絡致しておきます。米西海岸津波も心配されます。

(昭和52年10月8日付消印)

……今日八日朝出したはがきの、アメリカ、サンフランシスコ、ロスアン

人類に初めて太陽の口伝(教え)無病長者になる、家宝の書

太陽口伝 第一巻 (愛情の書) 太陽口伝 第二巻 (太陽の掟)

第一巻 (各一、〇〇〇円) 第二巻 (各一、〇〇〇円)



わが身の守り 太陽の掟 病苦から救われる 太陽占 運勢・迷い

占料 五〇〇〇円を添えてお申込み下さい。直ちに返信致します



▲これまでに起きた社会的事件の際、それに先だって雲に表れた文字やマークの一部（イラストは筆者）。

ジェルスの地震の件、十二月十三日火曜夕方と出ましたのでお知らせ致します。

（昭和52年10月9日付消印）

●カーター大統領事件

……五日九時頃アメリカの地図が出て、その中に王カーター、ケンタツキ、キケンの字が出ました。……

（昭和52年10月6日付消印・図C参照）

……カーターの件、今朝十時頃、職業は飛行機セイビ士か飛行機の整備等出来る人で、名はミ（もしくはニ、ヒ、シ）ロコフノスキーと云うような人だと思えます。飛行機にのらないよう、エンジンが止まるよう細工するのではないかと考えます。モリスという人と一緒に乗るかも知れません。

（昭和52年10月13日付消印）

このほかにも、9月20日には寿々木米若という文字が出ているし（文化勲章をもらうのではないか）、10月6、7日、13日にはソ連、エールフランス、日航が関係したニアミスと思われる雲が出ています。

ただ残念なことに、カメラでとるには空が大きすぎて一枚におさまらない場合が非常に多い。もっと広い角度がうつる（シネマスコープのような）レンズが出来たらいいのだが……。

このように、毎日、次々と雲に予告が出て、多忙を極めている。今後も詳しいことがわかり次第、何らかの方法で公表したいと考えている。



〒798

重力研究所
宇和島市中央局私書箱33号

空飛ぶ円盤の科学研究誌 宇宙艇 隔月刊 B5判

内容 A) 空飛ぶ円盤の理論研究 B) 空飛ぶ円盤の試作
C) 時間反転機の理論研究と試作

☆ 部分品を頒布します（カタログは、宇宙艇巻末にあり）

年会費 A) 4,000円（大学生及び社会人）

B) 3,500円（高校生以下）

振替 徳島 28986（又は、現金書留にて）（切手は不可）

☆ 超相対性理論（原著） 定価 3,000円

〒 200円

（同じく切手は不可）発売中

●知られざるアフリカの“原始的魔術”

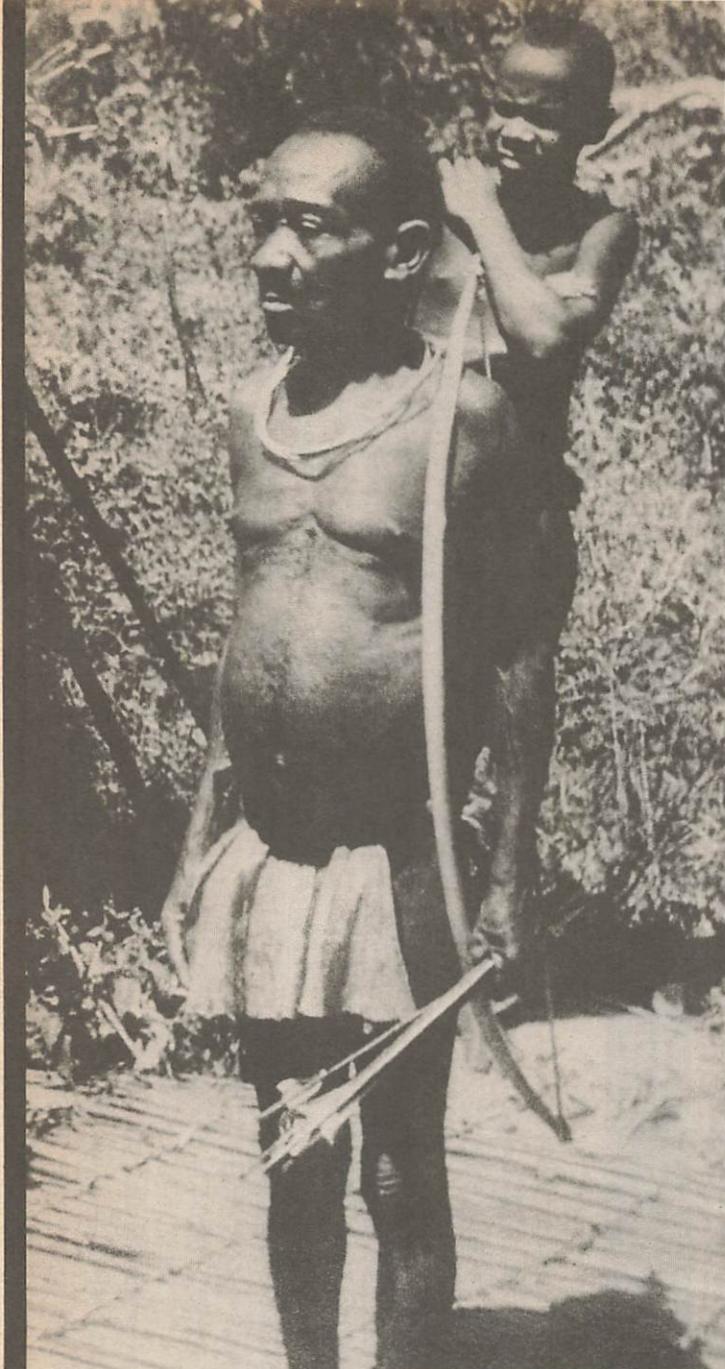
アフリカの超能力研究

超常現象研究家 / 中岡俊哉



アフ

アフリカ、それは「世界のミステリー・ゾーン」といわれ、魔術、妖術が今なお使われている。だが、それらについての研究はようやく始められたばかりで、資料はほとんどない。そこで、現在知られているガーナ大学での研究をもとに、西ヨーロッパの人びとが「原始的魔術」と呼んでいる、アフリカの伝統的な魔術の実態に光をあててみることにしよう。



▲ガーナの魔法医ムルグツ。

指先で物を見る少年

「さあ、おみやげの本だぞっ」

エレッシュ少年の父親は、紙包みを少年に渡した。少年はうれしそうに、包みの上に右手をのせていたが、やがてつぎのように言った。

「ぼくこの本がほしかったんだ。これで宇宙のことが勉強できるよ。#宇宙のなぞを解く……お父さん、ありがとう」

少年の言葉を聞いた父親は、思わず少年の顔を見てしまった。

「エレッシュ、どうしてその本のタイトルがわかったんだ？ 勘なのか？」

「ちがうよ、読んだんだよ。ぼくね、右手で書いてある字が読めるんだ」

「なんだって……」

父親は、少年の返事にびっくりしてしまった。とても考えられないことを少年が言ったからである。

父親は信じられなかった。そこで少年に目かくしをさせてから、右手を使って実験してみた。

エレッシュ少年（14歳）は、右手を本や雑誌の上にのせて、そこに書かれている文字をスラスラと読んだ。

ここは、ガーナのヤグナ町。1971年2月初めのことである。

エレッシュ少年が、手で文字を読むと

いうことは、たちまち町中の話題となつてしまった。人びとは、少年の不思議な力をひと目見ようとやってくる。少年はそれらの人に、右手で文字を読んで見せた。人びとは、少年をまるで魔術師でも見るように見ていた。

「いつからそんなことができるようになったんだ？」

エンジニアである父親は、少年の不思議な力を調べようとした。

だが、少年はいつごろから、どうやってそれができるようになったか、まったく覚えていなかった。

「ぜひ、エレンシュ君を研究させてください」

人びとのうわさを聞いて、ガーナ大学のソロカ教授が訪ねてきた。ソロカ教授は心理学者であったが、超心理学の研究もやっており、アフリカの超能力現象を調べていたのだった。

「原因を見つけてください」

父親はすぐに賛成した。そして少年をガーナ大学へつれていった。

「エレンシュ君、この本を読んでくれないか」

教授は、まず薄い表紙の本を目かくしている少年に渡した。

「これ、なにも書いてないよ」

表紙に右手をあてていたエレンシュ少年は、怒ったように言った。

「ごめん、ごめん、実験用に作ったんだ」

教授は少年に謝ると、次の本をとり

あげて渡した。

「この本も白い紙が多いよ。でも、ここに教授の名前が書いてあるね」

ズバリであった。それは100ページほどの白紙をとじたもので、最後のページに教授のサインがあるだけのものだったのだ。

「こんどは、ほんとうの本だよ」

教授は、表紙の厚い300ページあまりの本を少年に渡した。少年は右手をその本の上のせていたが、

「この本、とてもむずかしいね。数字もいっぱい書いてあるんだもの」

と言いつつ、少年は顔をしかめ、本を読みはじめた。

1ページ、2ページ、3ページと。

「ありがたい、エレンシュ君、これをは

「原始的魔術」の研究

アフリカ、それは「世界のミステリー・ゾーン」といわれ、魔術、妖術が今なお使われている所といわれている。

このアフリカにおける魔術、妖術の中に、われわれの研究する超能力が多く含まれていることを見逃してはならないのだが、アフリカにおける超能力研究というものは、ほとんど知られていないし、その資料もまったくなくいえる。

そこで、今年6月末に開かれた第3回サイコトロンクス国際会議に出席したガーナ代表の論文を紹介し、アフリ

めてやってみてくれないか」

教授は、用意してあった布製、皮製、ゴム製の手袋を少年の右手にはめさせて、それで文字を読ませる実験をした。

「読めないよ……」

少年は、どの手袋をはめても、文字を読むことはできなくなった。手袋をはめると、右手の視力が完全にふさがれてしまうのであった。

つぎに教授は、少年の右手の指を一本一本調べた。その結果、視力は人さし指と、くすり指の指先にあることが判明した。

エレンシュ少年の、指先にある皮膚視覚についての研究は、現在もガーナ大学で行われており、研究結果は近い将来、公表されることになっている。

カの実態の一部を知ってもらおうと思

う。

この論文を発表したのは、ガーナ大学のC・H・エイン哲学博士で、博士は「アフリカの伝統的なパラノーマル現象のいくつかの特徴とその重要性を討論するよう望むものである。また、この会議のテーマであるサイコトロンクス研究の指針となることも考慮に入りたいと考える。なぜならば、このことは人類がひとしく疑問に思っているからだ」とのべ、アフリカの実態を次のようにのべている。

サイコトロンクスの研究は、ヨーロッパ、東洋を問わず進歩しているが、アフリカの場合は、その研究はまだ開始されたばかりである。

しかし、西アフリカでは、民族学上のパラサイコロジの新しい活動が始められた。その一つが、ガーナ大学での研究である。

ガーナ大学では、西ヨーロッパの人びとが「原始的魔術」と呼んでいるものが、一体何であるかを研究している。アフリカの伝統的な魔術こそ、研究の大きなポイントになりうるものである。

「フェティッシュ」(呪術)は、アフリカの神にポルトガル人が命名したもので、ポルトガル語の「フェティコ」からとったものである。これは呪術、魔力を意味している。

アフリカでは、魔術のもつ力に対して、それが真実であるか、あるいはまがいものであるかを推測することは拒まれていた。

この力は、霊の媒介によつていられるものとみなされており、そのため、パラノーマル現象と呪術は、特に密接な関係にあるものと考えられているのだ。

ガーナには、アコネディという有名な神社がある。このアコネディは、約16の小さな勢力をもつ神々が連合してできたものである。ここは1人の女性の司祭を頭に、男女の社主がいて、管理されている。



▲ガーナ大学（共同提供）。

このアコネディでは、テレパシー、クレアボヤンス、クレアオーディエンス、プレコグニション、リトロコグニション、サイコメトリー、サイコキネシス、パラダイアギノステイクス、そしてパラメディスン、霊体による媒体、憑依などあらゆるパラノーマル現象の仕事がなされているのである。

ガーナには、ほかにも次元の低いことをやっている所もあるが、アコネディが標準と考えられており、現在、ガーナでのオカルトの心霊医療の本拠となっているのである。

そしてここではまた、アメリカなどからやってきた幾人かを、能力者として育てあげているのだ。

ここで行われる儀式は、個人的な復しゅうや呪いで苦しめたり、たたるということで有名であり、恐れられてもいる。

アフリカのバラノーマル現象は、ごく自然に受け入れられている。なぜならば、その事は物事の本質であり、霊力によって洞察し、それをアフリカ人は信じるからである。

ガーナの人々も、実生活のなかで靈魂の力こそ生命の力であると信じている。ガーナ人は、この力は人間、動物、また生命あるものすべてに隠されていると考えている。

この力はまた、宗教や魔術に影響を与え、さらにまた、いけにえ、タブー、守護などの仕組みにも関係を持ち、呪

いに強い影響力をもっていると考えられている。

これらの点から考えて、こうした力は有益なことにも、また邪悪な目的にも利用することが大いに可能であり、その利用法いかんによっては、原子力に匹敵するものともいえる。

ガーナ人は、アカンの「ニャコボン」を全能の神として崇拝している。このアカンは、ガーナの最も大きな倫理学上の団体で、ガーナ人の教養文化の様式、信仰上の信条などを広く網羅している。

ニャコボンは、全生命の源と考えられている。それは、呪術、小勢力の神々の霊を守り接近させる霊界の支配者と考えられているからである。その任務は、一門、または市民、州ごとに分けられている。

ニャコボンの力は、この国の動物、農作物を守り、危害を加える敵に対して戦うものに武運をさすげ、戦争を防ぎ、平和と繁栄をもたらすものとして受けとめられている。

また、その霊力の予言で、天災、不幸などの原因をみつけ出すこともでき、邪悪なマジックやブラック魔術のような、反社会的傾向に対してたたかうものでもある。

このように、ニャコボンの力は人類の救済、社会経済の安定保護をするように求められており、さらに、呪術、魔除けなどにもその力が信頼されている。

ジョージ・アダムスキー があなたにおくるメッセージ

テレパシー

訳・久保田八郎 ￥550 送料140

テレパシーすなわち宇宙語／人間の四つの感覚器官／触覚／細胞から細胞へ伝わる印象／肉体細胞から来る印象／感情が肉体細胞におよぼす影響／他の遊星から来る印象と地球の習慣的な想念／自我の抑制／弛緩・関心・感受性／透視・透聴・予知／思考と推理

生命の科学

訳・久保田八郎 ￥650 送料140

生命の分析／心とその成分／宇宙の法則の応用／万物の相互関係／意識英知及び生命力／“新鮮さ”は人間の若返り薬／宇宙的記憶／宇宙の一体性／宇宙的細胞と肉体の細胞の活動／意識による旅行／宇宙空間の探険／絶え間なき進歩の報い

フレッド・ステックリング著

なぜ空飛ぶ円盤は来るのか

訳・久保田八郎 ￥750 送料140

好評発売中

当社の出版物が書店にない場合は振替・現金書留
・小為替・低額切手などで直接ご注文ください。

文久書林 ● 〒113 東京都文京区白山1-29-12

電話(03)813-2495 振替 東京4-2521番

る。

魔術の力は集中的なものであって、攻撃にも防御にも使われる。

慈悲深き人は、それぞれの段階において「クラ」、「スンスム」、それに肉体の三者構成によって、霊示をさづけられている。

クラは、死霊または祖先霊として人

々に介在すると信じられている。

スンスムは、個人的な魅力、人柄、個性、社会的地位などに力を与えるものと考えられている。

強力なクラとスンスムは、いつも肉体に反映している。アフリカ人は、肉体、霊、神の三要素の調和を受けていると信じている。

アフリカの伝統的魔術

アフリカの伝統的な魔術について述べよう。

一般的に、魔術師は女性で、魔霊が乗り移り、その魔力をもつとされている。彼女たちは魔術によって物理現象

をも起こし得ている。魔術師たちの力は、祈りの儀式と呪詛によって保たれている。

魔術は、死者との相互関係を持っていると考えられており、特に母系の血

がそれを大きく左右していると考えられている。

魔術師は夜中に出かける。そして他の魔術師たちと会う。そして彼らは、肉体から霊を離し、霊界に旅することをを行う。彼らは、火の玉に変化することも鳥や動物、特にへビなどに変わることもできるのだ。

そのため、へビにかまれると魔術のしわざだとよくいわれている。

無気力な男、不妊の女、奇病や不治の病、不運なできごと、また暴力による死、原因不明の死などは、よく魔術師の邪悪なたくらみのせいだといわれている。これは、今日もなお信じられており、魔術は来世と霊界の統制の

過程であり、それはまた真理でもあると考えられている。

とはいうものの、魔術はいまだに密教的なものであるとされている。

魔術師は、男性または女性のいずれかが訓練を積むことになっている。魔術師どうしは、他を害したり、困らせたりすることだけは禁じられている。

彼らは、自分のもつ力を強めることが求められている。魔術の真髄は肉体的、精神的、否、それを超えるところの力の習得である。そしてこれは、さまざまな心霊的要素が組み合わされてのみ可能になるのである。

すぐれた魔術師たちは、テレパシーの力、クリアボヤンスの力、未来を予

言するブレコグニションの力を身につけている。

彼らはまた、霊体を招き出す力をももっている。

「超医術」の方法

次に、超医術について述べよう。これは「サクラ」の儀式と呼ばれ、ガーナのボルタ地方から発生したものである。

その治療の方法と手順とは、次のようなものである。

治療師は、まずテーブルを置く。魔法のテーブルクロスがかけられる。そして魔法のお札と、魔法のグラスが置かれる。

テーブルの上には食物類はいっさい置かない。水だけが魔法のグラスに注がれる。両手で水を取り、こすりながらその水を頭からかける。

それから、1人の若い少女が連れてこられる。この場合、その少女は初潮を見ない少女でなければいけない。

治療師は、その少女に魔法のグラスの中の水を見つめるように言う。そして次のようにたずねる。

「あなたは、その水の中に何があるかを見なさい」

少女は、自分に見えたイメージを治療師に伝える。治療師はまた次のようにたずねる。

「男性か女性か、少女か少年か、大人

アフリカ人は、サイコキネシス（念力）、テレポーテーションなどは、目に見えない力によって可能になると信じている。

か子供か？」

こうして、浮かんだイメージが患者にも送られる。

治療師は、さらに少女に次のようにたずねる。

「何が災いしているのか？」

少女は、霊視されたイメージを答えとして語る。次に、最も難しい質問が行われる。

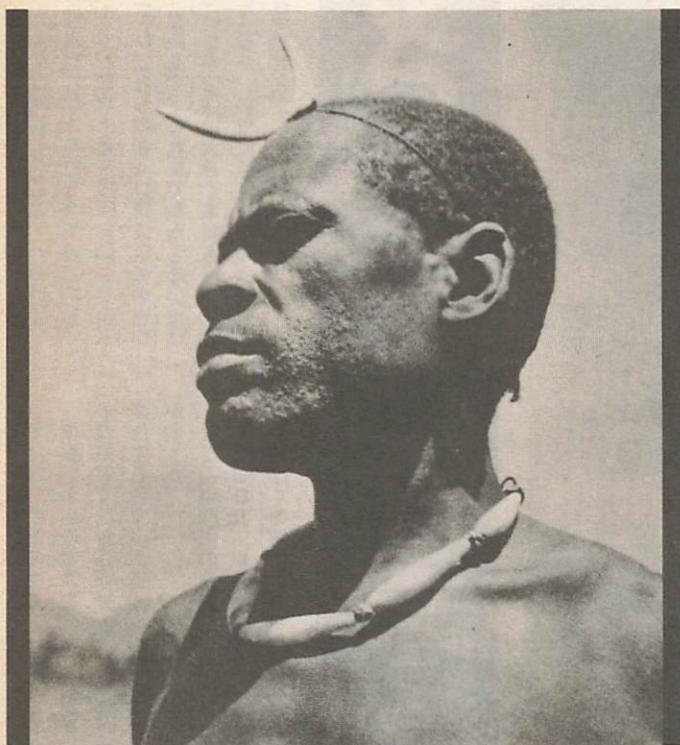
「患者は、良くなるか？」

その答えがイエスならば、その患者が回復することを意味し、最後の質問が行われる。

「治療のために、私はどんな処置をすべきか？」

治療師のこの質問に対して、こまかな処方が指示される。

こうして行われる治療は、現代医学が驚くようなよい結果をもたらしている。



▲タンザニアの魔法医ヤメ。

る。

以上が、エイシー博士の論文の要旨である。内容的には、断片的であり、抽象的であってアフリカの超能力研究の全体的なものを知ることはできないが、アフリカにおける研究の一端を知ることができるかと思う。

特に、われわれの考えている魔術、魔術師というものが、いかげんなオカルトではなく、心霊科学の分野から、ひいてはサイコトロニクスの面からも十分に研究対象となり得るパラノーマルであることが知れた。

彼が指摘しているように、原始的魔術と呼ばれるものが、科学の目をもって究明されたとき、心霊科学の研究を進展させるために、大いに役立つものと思う。

私は、エイシー氏の指摘している幾つかの面が、日本の現状によく似ていると思うし、肉体、霊、神の三要素を取り上げている点は、パラノーマルの研究において不可欠、不可分のものと思う。

パラノーマルの研究は、パラサイコロジー、サイコトロニクス、心霊科学などの面から着々と進められているが、アフリカの魔術が、そのどれかによって究明されたとき、パラノーマル研究は世界的なものとなり、人類の幸せにとって大きなプラスになるものと私は信じている。

星のさきさきやく新宇宙

科学ジャーナリスト

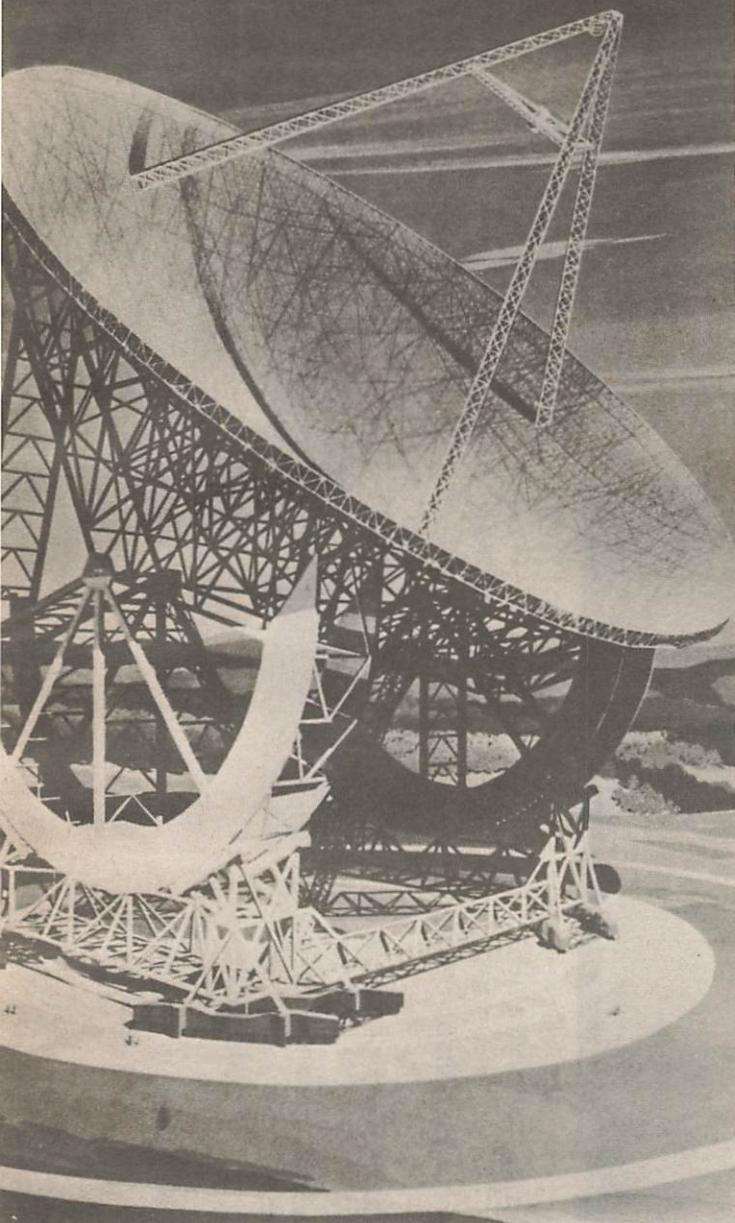
齋藤守弘

星の宇宙についての最近のめぼしい発見のほとんどは「お化けアンテナ」ともいうべき巨大な電波望遠鏡によってなされている。しかも、あまり長い期間でなく近々わずか10年か20年、そのめざましい発達をさまを現代に生きる人はみな、新聞やTVなどからその目で見、その耳で聞いている。

たとえば準星(QSS)、バルサー、中性水素(HI)の21センチ波である。ちよつと日常感覚からは実体をつかみにくいこれらの新しい電波天体のあいづく発見で、これまで私たちのいた宇宙像は大きく革新され、それどころか、さらに近い将来の大革新さえ予想された。

すなわち宇宙の果て近いナゾの天体「準星」からの電波を分析した結果、その内部ではなんと光の5倍の速度で変化する現象があるらしいということが判った。
むろん物理学の常識を破っていることは承知の上。5人の専門家の慎重検討のあげくの報告である。これが確認

されれば、二十世紀の天文学を支えてきた光速一定の「アインシュタイン宇宙」は大きく分解再構成をせまられる。最果ての宇宙にこの一端をかいま見せる超光速のウルトラ世界。まさしく電波天文学にもとづく次の世紀の電磁波宇宙像「ニュー・ギャラクシイズ」の産声うぶごゑが今あがるうとしている。



▲計画放棄された180m電波望遠鏡(ウエスト・バージニア)。

電波宇宙の トビラを開く

ところで電波望遠鏡の爆発的発達をうながしたのは、これまで天文学者が使われてきた光学望遠鏡の性能限界である。レンズをはめた光学望遠鏡によるかぎり、米パロマー山の口径5メートルの巨人望遠鏡が、もう観測能力の限界ぎりぎり。ソ連ではそれをやや上まわる口径のものを製作したが、望遠鏡の口径を大きくすればするほど地球の大気たいきの乱れによる像のゆがみも増幅され、その修正が容易でなくなる。星からの光によるこの観測の限界を破って登場したのが電波望遠鏡だ。そ

これは目に見える光線のかわりに、もっと波長範囲の広い電波を中心とし、宇宙の観測できる広さをいっきよに10〜100倍に広げたばかりか、わたしたちの宇宙像を大きく変えた。

とはいえ、この画期的な電波望遠鏡は天文学者のそうした論理的な要求から生まれたのでは決していない。まったく反対にはんの偶然のきっかけによるもので、その道の専門家のだれひとり考え及ばなかったアメリカの一ラジオ技師と一アマチュア無線家の仕事から生まれた。

☆一青年が作った大装置

ちょうど前年には日本で最初のTV受像機が実験公開され、同時に日独間の無線通信のチャンネルが開通している。やがてくるそうした電波全盛時代の到来をいち早く予感したのでらう、23歳の青年カール・ジャンスキーはベル電話研究所に入所。1931年から32年にかけて、太平洋を越えてくる無線通信にしばしば起こる雑音の研究に興味をそそられた。

「この天然の電波妨害を起こすものは何なのか。それを突きとめれば、長距離無線通信で送る人間の声も聞き取り易くなり、ゆがんだり途切れたりするのを防ぐことができよう」

当時、無線通信を乱す雑音——空電の原因のひとつは雷の稲妻からおこる電波であろうと見当づけられていた。

しかし、一体どこでおこる雷なのか。熱帯地方か、太平洋上か、それとも他のどこか。

「まず、それを確かめねばなるまい」とジャンスキーは考えた。さっそく、自宅の庭に直径15メートルの円形の軌道を敷設した。鉄のレールを使えばコスト高になる。そこでかわりにレンガを使い、ひまを見てコツコツと自分の手で敷いた。

このレンガ軌道の上に移動できるアンテナ車をのせた。アンテナ車は端から端まで30メートル、いくつものコの字形のアンテナを木の支柱でささえている。これにボンコツのT型フォードの四輪をとりつけ、すこしずつ位置をずらして空電のくる強度をさぐる。かんたんな構造だが、なかなかの巨大装置であり、当時、この種のものとして画期的なものであった。いや、今でも一青年がこれほどの大装置を作りあげれば新聞ダネになるだろうし、さっそくTVにも引っぱりだされるだろう。

とにかく、ジャガイモ畑をつぶして



▲ケンブリッジの直列型電波望遠鏡（ジャンスキー方式・東西に435m）。

作りあげたこの装置を20分に一回の割合で回転させることにより、どの方向で雷の電波が発生しているか、わかる仕組みだ。

☆不思議な雑音

「はて、この雑音電波は雷のものだろうか、どこからくるのだろうか」

ジャンスキーの気づいたその雑音はシュール、シュールとかすかに聞こえるのみなのだが、雷電波ほど方向がはっきりせず、レンガ軌道上のどの点でもあまり変わらず聞こえた。しかも日の出

から日没へとその方向が変わるようであり、夜間にもまた同じような雑音がか聞こえる。雷の電波の強く断続的なにくらべて、かなり弱く一日中きこえるのだ。

レンジャーの奥からささやくように聞こえるかすかな騒音——これこそ、ジャンスキーのアンテナの構造のおかげで偶然ちょうどよく同調した、人類のはじめて耳にする大宇宙からのささやきかけであった。このとき、もし、他の構造のアンテナを使用していたらどうだったか。はたして大宇宙のささやきかけをとらえられたらどうか。

幸運といえば幸運だった。

「この雑音電波の波長は14・6メートルある。いったい、どこから来るのか」ジャンスキーはなんとかその方向性を突き止めようと、一日中、レンジャーの音に耳を傾けた。かすかな音にひねもす精神を集中するのだから、疲れるし、根気のいる仕事である。そしてようやく突き止めた。

「この強い雑音は、約24時間ごとに強くなったり弱くなったりする。なにか地球の自転と関係しているのかもしれない」

何か月にもわたり精密な測定をくりかえした結果、その強弱の周期は23時間56分とでた。奇妙なことに、毎晩、24時間よりも4分ずつ早くなるのだ。なぜか。この4分の差こそ大発見のヒントだった。

☆銀河の中心から

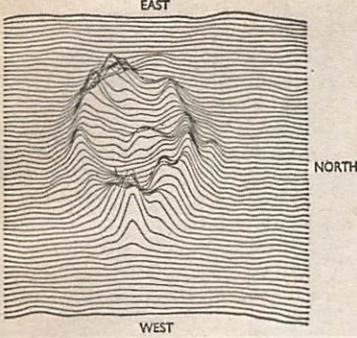
ジャンスキーは天文学の専門書を書いた。

地球自転の24時間周期は太陽の日の出、日没をもとにしたもので、それとべつにもう一つ、宇宙の星を基準にした見かけの自転周期がある。それは恒星時とよばれ、太陽の周りをめぐる地球の動きによって、その分だけ地球上から見る星の現れ方がずれ、毎晩4分ずつ早くなる。

ジャンスキーの発見した雑音は、この恒星時の23時間56分とまさしく一致する。いいかえれば、この雑音は地球上のものでなく、どこか宇宙からくるということだ。さて、ここで、またしてもジャンスキーの好奇心は燃えあがった。

「宇宙からくるとしたら、宇宙のどこに発信源があるのか」

もう一度、注意深く、レンガ軌道のアンテナをまわした結果、その比較の強い雑音電波は夜空にかかる天の川の



▲カシオペアの電波強度曲線図

方向からくることを確かめた。もっと範囲をせばめると射手座の方向でありそこにはわが銀河系星雲の中心部がある。まさしく星の集中する銀河の中心から、なぜの電波はきていた。

「だが、それにしても、これでは一つ一つの星から電波がでていのか、星と星の間にあるガス物質から電波がでていのかわからない。もし星からでているとすれば、太陽も星のひとつだから、太陽も電波をだしているはずだ」

好奇心旺盛なジャンスキーは、つぎに太陽にアンテナを向けた。しかし、成功しなかった。あとでわかったことだが、偶然そのとき、太陽の電波活動のいちばん弱い時期にぶつかったのだ。偶然、銀河電波を発見したジャンスキーは、また偶然、太陽電波を発見しそこなつたのである。

ところでその太陽電波だが、これまでの第二次大戦中、イギリスの発明したレーダーによって偶然、発見された。しかも、そのレーダーは、ジャンスキ

ーの開発したたいの大アンテナとよく似た構造をしていた。

☆電波のレンズ

「他の天体からの通信電波か。星からのなぜのノイズ発見」

新聞に書きたてられ、ラジオに引っぱりだされたジャンスキーのその苦心談を耳にしてひそかに心を躍らせた青年がいた。当時、19歳のアマチュア無線家グロート・レーバーだ。ジャンスキーの発見の6年後、なぜの天体電波をたしかめようと、自力で直径9メートルのパラボラアンテナを組み立て、自宅の庭先にすえつけた。

今でこそパラボラアンテナは見なれてあたりまえになっているが、当時はきわめて斬新な装置だった。ジャンスキーのアンテナは天体の電波を分散したまま受信するので、強度は弱く、方向性もあまりシャープでなかった。この弱点を、若い頃から「ハム気違い」といわれたグロートは改良した。なにしろ15歳の時にはやくも短波受信機を

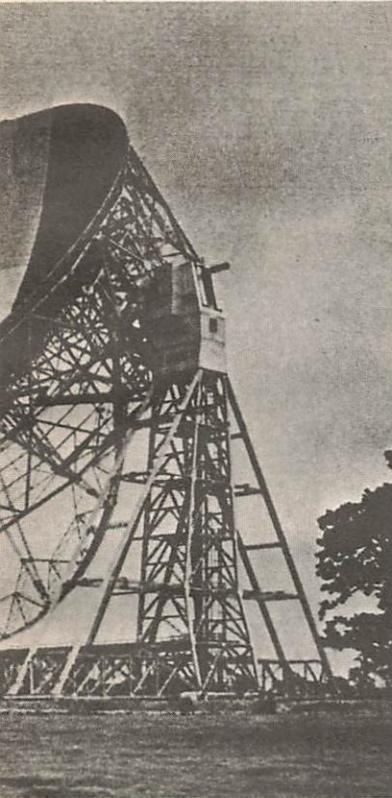
組み立て、世界中のハム仲間と交信したのである。

グロートのアンテナはいわば電波のレンズであった。望遠鏡のレンズで星の光を収束するように、星からの電波をパラボラアンテナによって収束させた。弱い電波も一個所に集中させれば検出しやすくなるし、なによりもこの方法によれば電波源の位置をかなりせばめて限定できる。

グロートはパラボラの部分を金属で、巨大な骨組みの部分は木材でつくりあげ、総工費2000ドルでしあげたという。

この碗型のパラボラアンテナこそ、今日の電波望遠鏡のはじまりであり、白鳥座、カシオペア座、大犬座などの新電波源をつぎつぎに発見し、新しい電波宇宙へのとびらを大きく開いた。

だが、当時、若きジャンスキーとグロートのこの発見のもつ重大な意味、あるいはそこにはらまれるたいへんな可能性について注目した専門家はほとんどいなかった。この時から6年後、宇宙空間にただよう中性水素の21センチ波を理論的に予言して、ジャンスキーらの予想を裏づけるオランダの理論天文学者ファン・デ・フルストも、まだ若干19歳であり、やがて時代は激動の第二次大戦へと突入。そのため、電波天文学のはなばなし開花は10年余おくらされることになる。



望遠鏡(グロート方式・直径75m)。

星のささやく をとりこめる

長いあいだ二十世紀の前半まで、すぐれた詩人を除いてだれも信じなかった星のささやく大宇宙。残念ながら人間の眼や耳は電波に感じないのでそれを見たり聞いたりすることはできない。ところでいま、なにかの奇跡によって突然、人間の眼が電波に感じ、電波を直接肉眼で見られるようになったとしたらどうか。新たに開けた電波の宇宙はどんなふうに見えるだろうか。

まず頭上に輝く太陽を視よう。電波の眼で視た太陽はとても暗く、かろうじて丸い輪郭をとらえられる程度。その暗い円板形の上に、ときとしてまばゆいばかりの光があらわれ、しかもその光った部分が太陽円板上を動きまわり、太陽からはずれてそのわきに浮いて見えることさえある。太陽の「電波バースト(爆発)」とよばれる大規模な電波現象である。

これにくらべれば、月は暗くてほとんど見えないが、よく目を凝らせば、やはり電波をだしている。いちばん明るいは月の赤道直下であり、その周辺はなるほど急速に暗くなる。おもしろいのは三日月でも欠けて見えず、ちょうどボールの一点に光をあてたような具合に、かなり立体的な感じ。金星や水星なども電波をだしているが、いちばん目立つのはなんとといって木星だ。たいへん強い電波をだし、ちようど迅雷の閃きのようにチカチカと明滅する。実際、木星上の壮大な雷放電がその電波の原因の一つではないかといわれる。

一方、電波の眼で視た星雲は、光で視るそれとは大きく異なる。光で見られた星雲はまったく姿を消し、白鳥座の優美な十字形も、カシオペア座の大きなW形も見ることができず、かわってその一部に強く光る「電波星」が登場する。点状の電波源であり、おうし座の中にも一つある。最近、さそり座の赤いアンタレスなども電波をだしていることが判った。

☆電波の眼で視た星雲

このように星雲の電波源には、大きく分けて2種類ある。ある面積の広がりをもつものと、かなりシャープな点状のものだ。

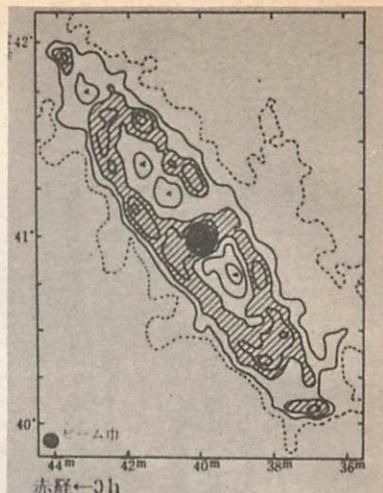
ある面積の広がりをもつものは、おもに銀河系の中心部とか、それを同心円的にとりまく銀河の腕の部分とか、だいたい中性水素の21センチ波を放射し、その波長で観測される。

それに対して点状のものは、少数を除いて、ほとんどわが銀河系星雲の外にある。たとえばひじょうに強力な白鳥座の電波源は「白鳥座A」とよばれるが銀河系星雲から遠く離れたかなたで、2つの大星雲が想像を絶する大衝突か大分裂を起こしているように見える。それとも1個の星雲が途方もない大爆発を起こしているのか。

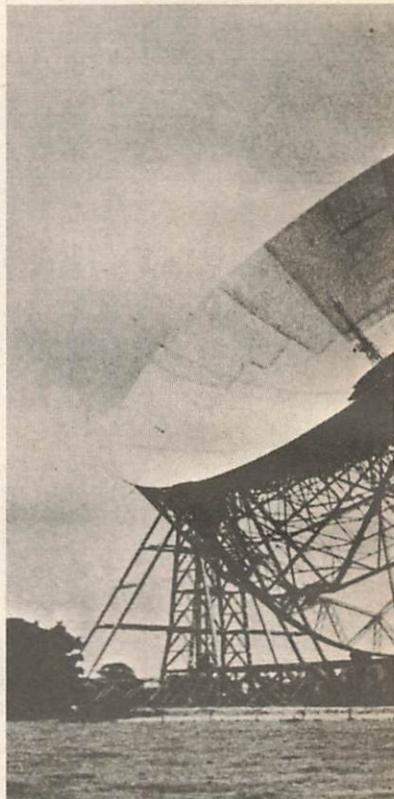
電波望遠鏡でこの点源を詳しく調べると、パロマーの巨人望遠鏡で同定したなぞの大星雲の両わきに、かなりはずれて本体の星雲よりも何十倍か大きな電波源が対称的にある。このことから最近では、本体の星雲の大爆発によって上下二方向にガスが吹き飛ばされその後長い期間をおいて再び大爆発を起こしたと考えられるようになった。

銀河系外星雲の中でもこのように強烈な電波を放つ特異な星雲を「電波星雲」とよんでいるが、そうでない正常な星雲、例えばアンドロメダ星雲などもむろん電波をだしている、その電波から星雲をとり囲んで広がる眼に見えないハローの存在が確認されている。

同じように、わが銀河系もそうしたハローをもつのだろうか推定され、そのハローから星雲の中心部へむかって落ちこむ大量の水素ガスが猛烈な勢いで周辺にひろがる。射手座の方向に見える強い電波源はそのためではないかともいうが、あるいはわが銀河系の中



▲アンドロメダ星雲の電波図



▲ジョドレルバンクのパラボラ型電波

心部でもなぞの大爆発が起こりだしているのか。

これまで光学望遠鏡では中心部に多い大量の宇宙塵にさえぎられ、銀河系の中心部がどうなっているか、ほとんど観測不能だった。そうした宇宙塵にあまり妨げられない電波望遠鏡の登場のおかげで、ようやくこの実体をさぐることが可能となったのである。銀河中心部の観測からはまだまだ予想外の事実があらわれ、私たちを驚かすことだろう。

☆超新星の残骸

わが銀河系内の電波点源をみると、ほとんどが超新星の残骸である。全天第3位のおうし座の強烈電波源をペロマーの巨人望遠鏡で確認したところ、そこには1054年に大爆発したカニ星雲があった。わが太陽系からわずか4000光年のかたてであり、一日に1億2千600万キロメートルのわりで大膨張する高温のガスから放射されている。

こうした超新星からのガスは偏波しているのが特徴である。ガスの中に磁石と同じ鉱物があり、その鉱物の磁力線のまわりにラセン回転する電子から電波が放射される。

最初、そうした変わった電波は地上で人工的につくられた大型原子核加速装置シンクロトロン内部で発見されたので「シンクロトロン放射」とよば

れる。ほかに、たとえばアンドロメダ星雲のハローからの電波も同じくシンクロトロン放射なので、やはりかなり強い磁場の存在が推定されている。

グロートの発見したカシオペアAの電波点源も、同様に超新星のなれの果てであることが確認された。口径の大きな、つまり解像力のすぐれた電波望遠鏡を向けて、空のそのあたりの電波等強度線図をつくると、みごとに同心円状になった。そこで、さらにぶつうの望遠鏡で観測したところ、ガス状のせんいが円形にひろがるかすかな星雲状天体を発見した。その形からカニ星雲と同じくかなり昔に大爆発した超新星の残骸であることは間違いない。

電波望遠鏡によるこの判別法で、すでに現在までに何度も、こうした超新星が発見されたが、それらはみな銀河面に多く集まってそれぞれ電波点源となっている。

一方、そうした銀河面を離れて全天に一樣に分布する電波点源。これは超新星でなく、銀河系からはるかに遠いところにある他の大星雲であり、それらの大星雲の内部にも当然、超新星があるはずなのだが、比較的距離の近いアンドロメダ星雲などを除けば、まだその電波を解像できるまでに至っていない。

しかし、将来それができるようになれば、星雲大爆発のなぞの一端も解かれるかもしれないのだ。なぜなら、星

雲大爆発の原因として超新星の連鎖反応的爆発をあげる学者もあるからだ。

地球大気の2つの窓

電波のような電磁波の世界からみると、地球の大気はまるで降りそそぐ雨をさえぎる完全防水の屋根のようだ。この屋根には大小2つの窓があいている。一つは目に見える可視光線の窓、もう一つは目に見えない電波の窓だ。いいかえれば、その窓の範囲の波長だけ電磁波は大気中を通りぬけ、地上に達する。

まず可視光線の窓では波長1万分の1センチメートルを中心に虹の7色にわたり、それよりもっと波長が短くなれば超紫外線、X線、ガンマ線となり、どれも大気に吸収されて地上にとどかない。100分の1センチメートルを中心とする赤外線領域も同様。しかし、最近では、大気圏の外に人工衛星によってそれを観測できるようになり、X線天文学、ガンマ線天文学、赤外線天文学などの新しい分野が生まれている。

もう一つの窓——電波の窓の方はどうかという点、これは波長がセンチメートルから数十メートルに及び、ぶつうの放送やTVの電波はみなこの窓の中にある。ちなみにジャンスキーの使

った装置は14メートルから20メートルの波長範囲をねらっていた。

だが、これ以上の波長、つまり100メートルから1000メートルくらいの長波長の電波になると、もう地上にとどかず、上空の電離層などで反射し、鏡のように宇宙へはね返されてしまう。

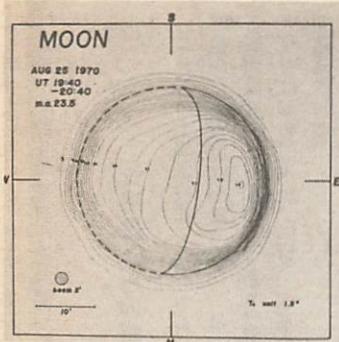
長いあいだ、私たちは宇宙を観測するのに電磁波スペクトルの中のせまい窓、つまり光しか利用してこなかった。ジャンスキーらの努力によって、もっと広い電波の窓のあることによりやく気づいたのである。

同じ電磁波であるから、光と電波は波長のちがいで、その性質はよく似ている。近い惑星がまたたかず、遠い恒星が大気の乱れでまたたくように電波点源のなかでも銀河系外星雲はやはり電波的にまたたき、シンチレーターとよばれる。

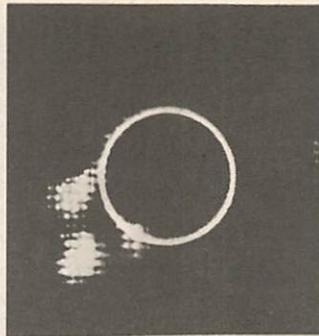
電波点源と地球との間に、太陽からの電離ガス流がはさまれるせいであり、ぎやくにそれを利用して電波源までの距離をはじきだすことができる。

☆限界を越える試み

また、電波は光よりも波長が1万倍から10万倍以上であるから、それだけ収束させるのに大型の「レンズ」を要する。光学望遠鏡のようにコンパクトにはいかない。それでどんどん巨大化する。しかし、それにも構造上の限度



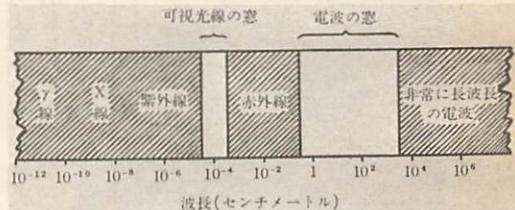
▲月の電波像



▲太陽の電波像



▲21センチ波で推定したわが銀河系星雲内の渦の腕



▲大気中の2つの窓。可視光線窓と電波窓。

があり、アメリカのウェスト・バージニアに計画された巨大なグロート・レーパー方式のパラボラアンテナは口径180メートルに達するはずが、結局最終的に放棄された。

だが、この限界を越える方法はいろいろ考えられ、地上に十文字にならべたアンテナ群で大口径のパラボラの代用をさせたり、また、たとえばアメリカとオーストラリアというように遠く離れた2地点で同時観測し、ちょうど地球の直径に匹敵する大口径のパラボラを建設したのに等しくすることもできる。

こうした電波望遠鏡の観測者にとつて、近年、頭痛のタネなのは電波公害である。エレクトロニクスの時代到来とともに各種の電気装置が激増、それにもとない無数の電波源から生ずる電波で地球の空はおおわれるようになって

た。大気中の電波の窓に無数のゴミが付着し、窓のむこうの像がぼやけてはつきりしなくなったようなものだ。

この電波公害を避けるために、アメリカのNASAでは大気圏外の衛星軌道に巨大な電波望遠鏡を浮かす計画を立てている。その一足先に大口径の光学望遠鏡をスペースシャトルを使って宇宙に運ぶ計画もあり、両者あいまって大宇宙の深みへの探索はさらにい

太陽と各惑星の電波源

ちだんと解像力を高めるだろう。ちなみに電波望遠鏡との協同研究によってパロマー山の巨人望遠鏡の観測限界——約50億光年——はざっと3倍以上にも伸びたのである。

現在、宇宙最果ての星雲は160億光年と測定されているが、やがて軌道空間の電波望遠鏡が完成すれば、その限界は250億光年から300億光年あるいはそれ以上に伸びるかもしれない。地上ではできない長波長の電波観測とともに、大宇宙の構造と起源について今とは大きく違った見解をもたらすことも十分考えられる。

では、もつちかのところ、地上の電波望遠鏡で観測される電波だけにかぎって、それぞれの天体について調べてみよう。

まず太陽にパラボラを向けると、ここからは意外に複雑な電波が放射されている。いつもコンスタントに太陽面から出ている静常放射。S成分とよばれるもの。ノイズストーム。それから短時間に起こる電波バーストは7種類に分類されている。

それぞれ簡単に説明すると、静常放射は太陽表面の各層にしたがって全波長域にわたっている。100万度に達するコロナからはメートル波が、その下の彩層上部からは1万度に相当するセンチ波がでている。どちらの電波も熱による電子の振動で起こっている。

S成分というのは黒点のすぐ上層あたりから出ているので、黒点の増減にもなつて強くなつたり弱くなつたりする。おもにセンチ波で見られる。

ノイズストーム。この現象はメートル波で起こり、数時間から数十時間にわたり、静常放射の十〜数十倍に電波強度がはねあがり、しかも激しく変動する。その発生源はたぶん黒点群の磁場に関係ありという。

バースト現象。これも大部分、メートル波で起こる。I型バーストは継続時間1秒以下。ノイズストームにもなっている。II型バーストになると、太陽面の大きなフレア(彩層の噴出)の出現と同時に、III型バーストはフレアと関係なく、太陽面のプロミネンス(紅炎)の活動にしたがう。

V型バーストとU型バーストはまだ

よく判っていないが、前者の継続時間は1分から数分、後者は数秒間しかつづかない。

☆惑星からの電波

これらの太陽電波にくらべれば、各惑星からの電波はかなり弱い。ほとんど表面温度による熱輻射であり、金星、火星をはじめ、木星、土星、水星の順に発見された。

金星の電波はセンチメートル波とミリメートル波で観測され、前者は金星の地表、後者は大気の上からでていると考えられる。

太陽系の惑星のなかでただ一つ、熱輻射でないパルス状の電波をだすのは木星だ。だいたい1 \times 10 \cdot 1秒ごとに繰り返し、シンクロトロン輻射なので木星のバンアレン帯内での高エネルギー電子の運動から生じているようだ。土星の電波は熱輻射である。変わっているのは波長3ミリ \sim 20センチにわたる幅広い範囲で観測されることだ

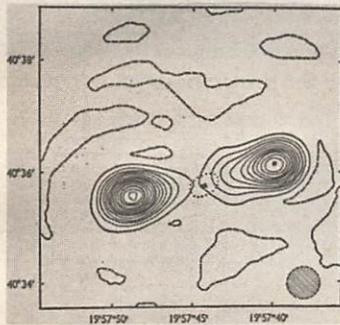
あり、これは土星の大気の構造や組成と関係しているらしいが、まだよく判っていない。ちなみに波長3センチなら100度K、10センチなら200度K、20センチなら300度Kの温度層をそれぞれあらわしている。

天王星、海王星の電波観測はまだくわしく行われていないが、最近では小惑星の熱電波がとらえられている。

むろん、こういう惑星の熱電波はとても微弱なので、遠いかなたの恒星から太陽系をながめたら、とてもその電波をとらえることはできない。太陽のフレアのさかんな時なら、その強力なII型バーストの電波を、宇宙のどこかでキャッチする宇宙人もいるかもしれない。

遠い宇宙の星から観測する時、宇宙人の電波望遠鏡にかかりやすいのは、9つの惑星を含めて太陽系のはるか先までとつぷりと包みこむヘリオスヘアのHII領域かもしれない。

だいたい100AU(地球 \sim 太陽間を



▲白鳥座Aの写真(上)と電波図(下)

1とした天文単位)のあたりで、太陽から吹きだす高速のガス流の太陽風は減速し、亜音速になり、その外に広がっていく。その水素ガスの広がりは太陽からの光によっておよそ10000AUのあたりまで電離され、HII領域の電波をだすと考えられる。つまり、それだけ広範囲にひろがれば、遠い宇宙からでも目につくのではない。

ただし、水素ガスの量がたらず、HII領域の電波がとても微弱なら、それは無理かもしれない。宇宙のなかの中性水素の電波のっている部分をHI領域、光によって電離された水素の電波部分をHII領域というが、太陽系のHII領域の電波は、宇宙のかなたを往復する星間大旅行の帰還船団にとって、方向をさだめるラジオビーコンの役を果たすこともできるのだ。

新しい宇宙の姿が眼前に

中心部に星のある半径10000AUの途方もないガス円盤、まさしくそれにびったりなのが白鳥座NMLとよばれる天体だ。これを電波観測して、波長18センチのOH分子からでる電波をキャッチした。つまり、1個ずつの酸素と水素の結合した水になる一歩手前の分子である。地球上でなら不安定でたまたま他と結合してしまいが、空

とした宇宙空間では結合の相手をなかなか見つけられず、長時間そのまま存在できる。

そうした星間分子が宇宙のあちこちで、およそ35種類見つかった。それらのなかには地上でもおなじみのメチルアルコールやシアン化水素(青酸ガス)、ホルムアルデヒド、ジメチルエーテルなどが含まれる。むろん、水やアンモニアも見つかっている。これだけ複雑な分子を集めれば生命の誕生までもう一押しであり、生命の生まれる条件は地球とだけにかぎらないことを暗示している。

白鳥座NMLからはOH分子の電波が見つかった。この電波の観測から推定すると、この星までの距離は1500光年。中心星をとりまく雲の広がりは半径1000AUで、ゆっくりと約5キロの速さで回転し、その回転周期は約4千年ということになる。

OH分子はこのガス円盤のいちばん外側にあり、毎秒40キロメートルの速さでさらに外側へと膨張している。反面、中心星のまわりにはもっと濃いガスと塵の雲がある。それはなにを意味しているのか。

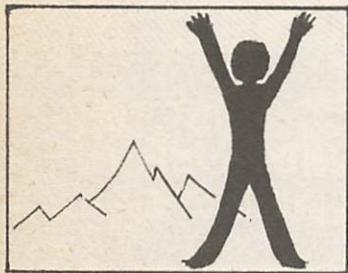
今まさに白鳥座NMLではガスや塵の雲の凝縮によって新しい恒星が誕生しかけているのか。それとも、中心星のある進化段階で大量のガスや塵を放出(質量放出)しているのか。そうしたガスや塵の中から、やがて中心星の

心と体の統一強化

超道

◆超道師範資格取得講座

- カール・ヘニングラーの指導によりアメリカでブームを呼ぶ画期的運命転換システム「ボータ原理」、大脳生理学、深層心理学による独創的中枢能力開発によって、心と体の統一強化をはかる。



●通信講座部 (基礎科3ヵ月)

1日10分の行法練習を自宅で行うだけで充分効果のあがるシステム指導。

受講料:9,000円(スクーリング付)

●通学部 (基礎科3ヵ月)

銀座会場で毎月1回直接個人指導を徹底的に行なう。

受講料:15,000円

申込方法

ハガキに通信、通学の別を明記の上、超道受講と書いて申込み下さい。受講料は教材到着後振替又は現金書留でお近くの郵便局からご送付下さい。

唯超学会 (UFO係)

〒104 東京都中央区銀座

2の8の17

(中川ビル1号室)

TEL 03 (567) 6718

資料呈:超道資料(通信・通学の別)と書いて、切手50円同封下さい。

「この電波パルスはじつに人工的である。宇宙のかたを飛ぶ他の星の宇宙船同士の会話を傍受したのではない」

「いや、これは暗黒の宇宙を飛ぶ宇宙船団のための無線燈台ではないか」

「まじめな学者の口から、そんなフタタスティックな意見がとび出すほど、それは予想外の大発見であり、衝

同じくガスに包まれた星でも、白鳥座などとまったく異なり、正反対なのは電波望遠鏡ではじめて発見されたバルサーだ。

☆バルサーの正体

周りをめぐる惑星一族があらわれるのか。しかし、それらの問題はまた今後にのこされている。

ほかにもオリオン星雲やブレアデス星団など、新しい恒星が誕生している領域では、多くの星間分子を見つけやすい絶好の場所となっている。



▲カニ星雲。矢印の位置にバルサーがある。

撃であった。だが、さらに観測をつづけた結果、その周波数の範囲がビームのように狭くなく、50メガヘルツから1420メガヘルツまで広い範囲にわたるのが判り、通信電波説は捨てねばならなかった。

1967年に発見されて以来、1年もたたぬうちにバルサーの大量発見がつづき、1968年まずカニ星雲内につづいてベラXの位置にパルスを出している星が見つかった。どちらも超新星の残骸であることから、バルサーの正体は、それまで観測不能と思われていたなぞの中性子星であることが判明した。

「いや、これは暗黒の宇宙を飛ぶ宇宙船団のための無線燈台ではないか」

「まじめな学者の口から、そんなフタタスティックな意見がとび出すほど、それは予想外の大発見であり、衝

撃であった。だが、さらに観測をつづけた結果、その周波数の範囲がビームのように狭くなく、50メガヘルツから1420メガヘルツまで広い範囲にわたるのが判り、通信電波説は捨てねばならなかった。

1967年に発見されて以来、1年もたたぬうちにバルサーの大量発見がつづき、1968年まずカニ星雲内につづいてベラXの位置にパルスを出している星が見つかった。どちらも超新星の残骸であることから、バルサーの正体は、それまで観測不能と思われていたなぞの中性子星であることが判明した。

カニ・バルサーの場合、まだ若いせいか、その周期はいちばん短く0・033秒。1秒間に約30回のわりで自転している。そのすさまじい遠心力で何故バラバラにならないか。とにかく想像を絶して硬いのだ。1立方センチの重さがなんと1億トン〜10億トンもある。なにしろ太陽と同じくらいの質量が半径10キロ程度に押し詰まっているのだから、その光度は太陽の20000倍である。

これはもつと大きな恒星が大爆発したなれの果てであり、それゆえ星の「死骸」とでもいえようか。

このように、いまや電波天文学のめざましい発達により、夜空に光る恒星の誕生と死の神秘、そして、わが星雲にとつてもけつて人ごとでない、おそるべき銀河系外星雲の大爆発とそのメカニズムのなぞ、そうしたこれまで想像もしなかったダイナミックでミステリアスな宇宙の姿が眼前にあらわされた。

つぎには何があらわれるのか。学者を途惑わせる準星のなぞの電波活動の中には、宇宙そのものの誕生と死のサイクル、その秘密が隠されているのかもしれないのだ。

しゃく ねつ ジャングル と わ
灼熱の密林より永遠に (完)

久保田八郎

テオティワカンの謎の大ピラミッドとアトランティス大陸の偉大な文明との関係を筆者が現地調査で探る衝撃のレポート！メキシコ古代遺跡の謎ときは、いよいよ佳境にはいる——。



先号ではメキシコ、ユカタン半島のジャングルに眠る古代マヤの遺跡と、1万2千年前の大昔に太平洋に沈下したムー大陸との関連について考察を試みたが、本号ではユカタンから眼を転じて、メキシコ中部に残る古代のテオ

☆壮大な古代の都市

テオティワカン

ティワカンの大遺跡に推理の光を投げかけることにしよう。なぜならこの巨大なピラミッド群こそ太古に海底へ沈んだもうひとつの栄光ある大陸アトランティスの文明の流れをくむものではないかと考えられるからである。

メキシコ市の北東51kmの肥沃な中央高原地帯へ行くと、古代の驚嘆すべき文化の名残りをとどめた一大センターが展開する。名付けてテオティワカン。

なかでも人々の目を奪うのは、ひときわ雄大にそびえる「太陽のピラミッド」。高さ65m、底面の1辺は平均211m、体積は約100万立方mあり、1億万個の日干し煉瓦を積んで、その上に火山岩の破片を並べて粘土と石灰で固めたものである。

「太陽のピラミッド」の正面前には幅45m、長さ4kmもある敷石の「死者の大通り」が南北に走り、その両側には神殿や寺院などの廃墟が並んで、北端には「太陽のピラミッド」よりも少し小さい「月のピラミッド」が優美な姿を見せている。南端には「シウダデラ（城塞）」という名で統一される大建築群が巨大な壇の上に建てられている。神官の住居や神殿群が建ち並んだこの地域は祭祀センターの中心部であり、これより周囲20平方kmにわたって

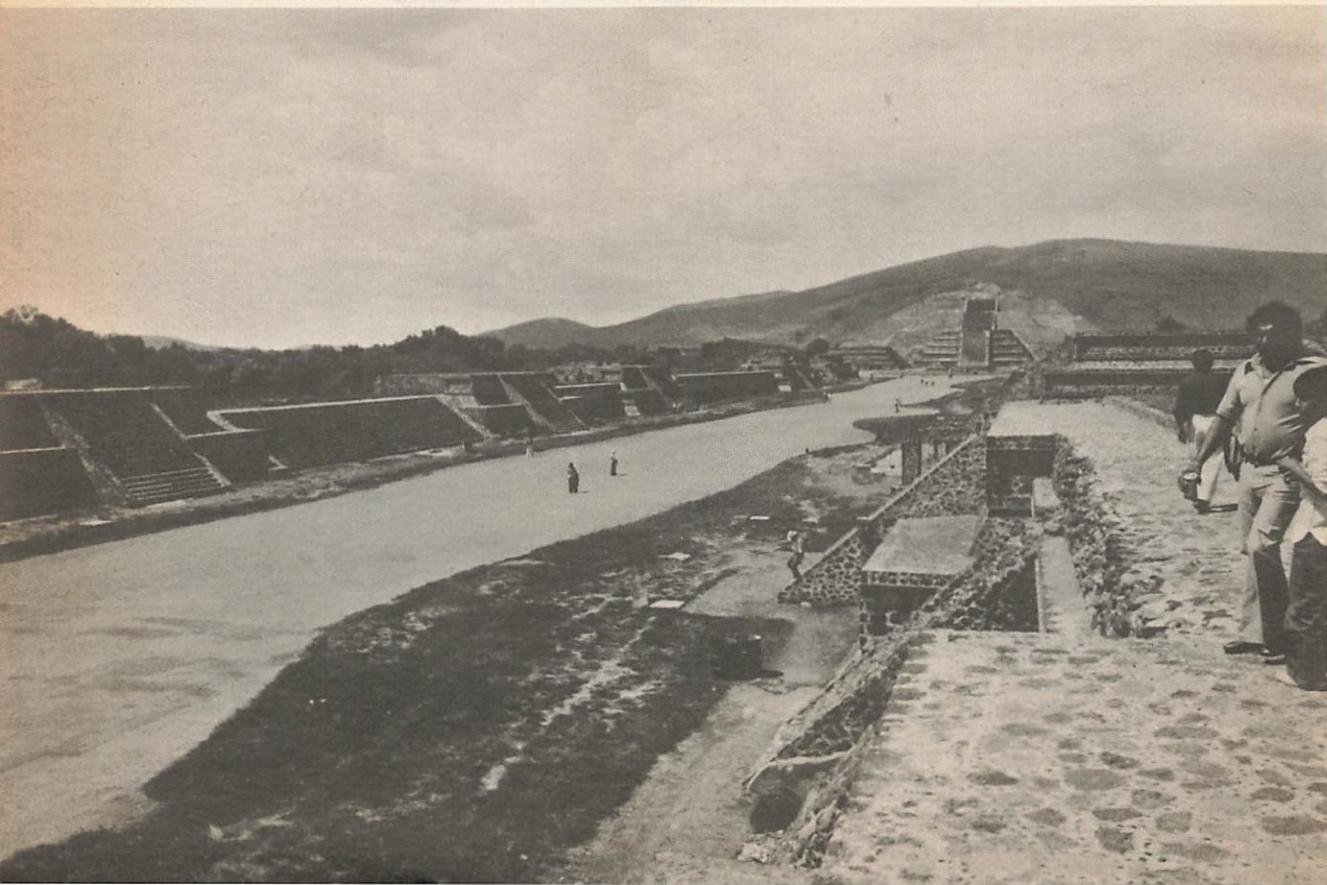
古代の大宗教都市が展開していたのである。

現代の都市計画にも劣らぬほどに整然としたこの巨大都市を太古に建設したのはだれか？ 謎である。考古学によれば、この建築は紀元前2000年頃に起源し、紀元前後に完成したという。テオティワカン文明の最盛期は紀元2世紀から7世紀までで、人口は8万5千ないし10万と推定されている。

この偉大な都市国家も7世紀になって突如壊滅し、謎の民族はいずこへともなく姿を消した。14世紀初頭に流浪の民アステカ族がこの地へ足を踏み入れたとき、巨大な廃墟の荘厳さに驚異の目をみはって叫んだ。

「テオティワカン！（神々の都だ）」
そして天空に屹立する大ピラミッドを『太陽のピラミッド』、南方の優雅な構築物を『月のピラミッド』、南北に伸びる大通りを『死者の大通り』とロマンティックな名をつけたのである。しかし古代の謎の建設者がいかな

▼テオティワカンの『死者の大通り』。右端は『月のピラミッド』（筆者撮影）



る目的でこのような途方もない大建造物を建設したかは不明である。

7世紀の不思議な崩壊も原因は不可解だ。ただ遺跡に残っている焼跡からみて、侵略者の大軍により激烈な放火掠奪、徹底的な破壊が行われたことは想像に難くないが、その侵略軍の正体も不明なら、これほどの大都市を建設した種族が全くの無防備状態であったというのもうなげない。強力な防衛軍を持たなかったのだろうか？ 彼らは古代のマヤ人と同じく平和主義者だったのか？

現在の『太陽のピラミッド』は建設された当時そのままの形ではない。これは1910年のメキシコ独立百年祭にそなえて、考古学者のレオポルド・パトレスが復元作業を監督中、熱中のあまり原型をとどめぬほどに形を変えてしまった。元は4層で、外部には全面に石が張られていたのである。これが現在は5層となっているのだが、高さや底辺などはオリジナルどおりである。しかし豪華な宮殿跡からは多数の出土品が発掘され、その彫刻などにより、雨の神トラロク、ケツアルコアトル（羽毛あるヘビ）、太陽の神、月の女神、年々生まれ変わる植物の象徴たるシベ・トテクなど、さまざまな神が崇拜されたことが判明している。

ここで我々の眼にとまるのがケツアルコアトルだ。前号で述べたように、この羽毛あるヘビはムー大陸から伝え

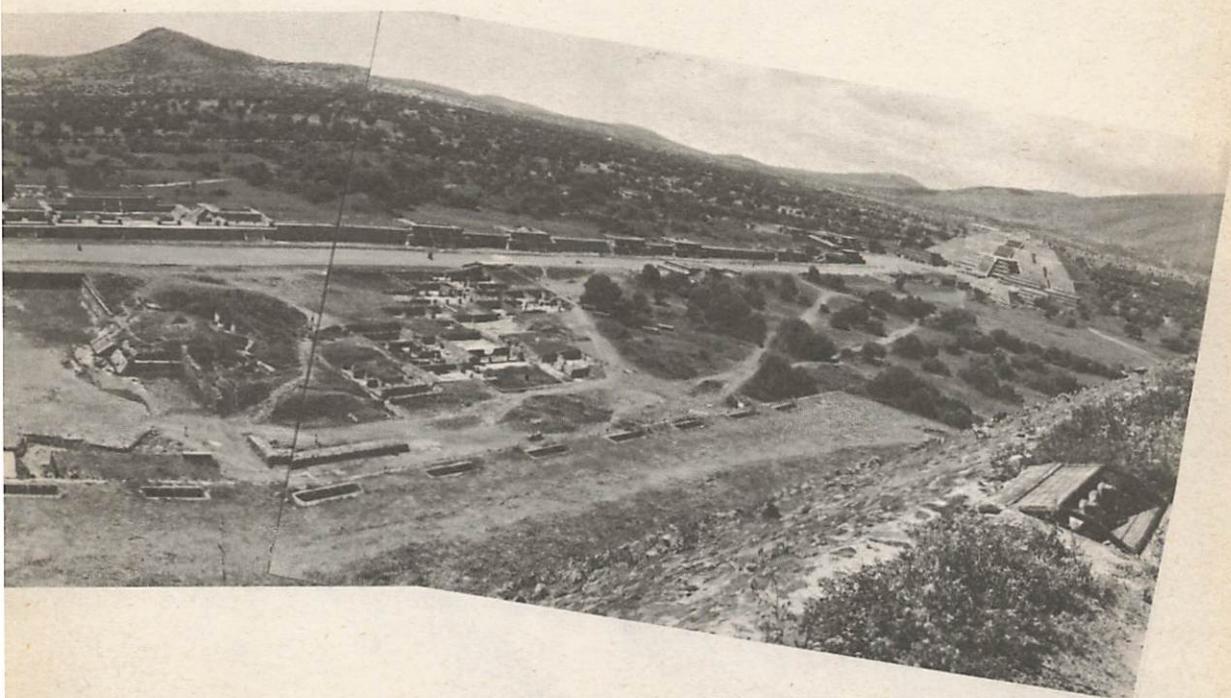
られたものとして古代のマヤ族が崇拝したシンボルであるとの仮説を、ムー大陸研究家ジェームズ・チャーチワードが出しており、これについてはかなり有力な証拠が残っている。

そうすると、テオティワカンの大明を築いた謎の民族も、太古のムーの影響を受けたのかと思われるが、テオティワカンについてはむしろアトランティスとの関連を考える方が推測が容易となる。なぜなら、グアテマラやユカタン半島一帯の古代のマヤ遺跡に残るピラミッドと、テオティワカンのピラミッドとは築造様式が異なるために、同一文明とはみなしがたいからである。

マヤのピラミッドは石灰岩を積み重ねた表面に入念な上塗りは施されなかったけれども、テオティワカン古典期（紀元300年→900年）の建築には一定のパターンがあつて、建造物の内部には日干し煉瓦と小石を詰め、火山岩の割り石を粘土で固めて外面に張った上を、更に石灰のしっくいを塗ってなめらかにした。したがってピラミッドや各種建造物が完成しきつた5、6世紀の頃のテオティワカンは、白亜のピラミッドや殿堂がゴバン目に立ち並ぶ壮麗な大都市であつたと思われる。

『太陽のピラミッド』の正面は、毎年夏至の日に太陽が沈む方角と一致することが実証されており、約10m四方の

▼『太陽のピラミッド』頂上正面より見た『死者の大通り』。右端は『月のピラミッド』（筆者撮影）



狭い平坦な頂上には、もと小さなワラぶきの神殿が建っていたという。ここで何かの儀式が行われたと思われるが、考古学上では全く不明である。しかし、昔ここに住んだ種族がきわめて平和な住民であり、特に太陽を崇拜していたことは否定できない。そしてケツアルコアトル（羽毛あるヘビ）は文化と知識の保護神としてあがめられ、それを祭神とする大神殿もあった。現在その建物は存在しないが、土台のピラミッドは残っている。

この壮大な都市国家を築いた大昔の種族はどこから来た、いかなる人々であったのか？ ケツアルコアトルを崇拜していた事実からみると、古代マヤの一派ではないかとも思われるが、そうでないフシもある。土地のインディオの伝説によれば、テオティワカンの住民の先祖は『タモアンチャン』と呼ばれる神秘的な国の人間が東北方のメキシコ湾の沿岸から来たという。東北方といえばユカタン一帯を意味することになる。そうすると単純に考えて、西方の太平洋岸ではない。ということではムー大陸の方角ではない。いわば大西洋側であり、アトランティスの方向

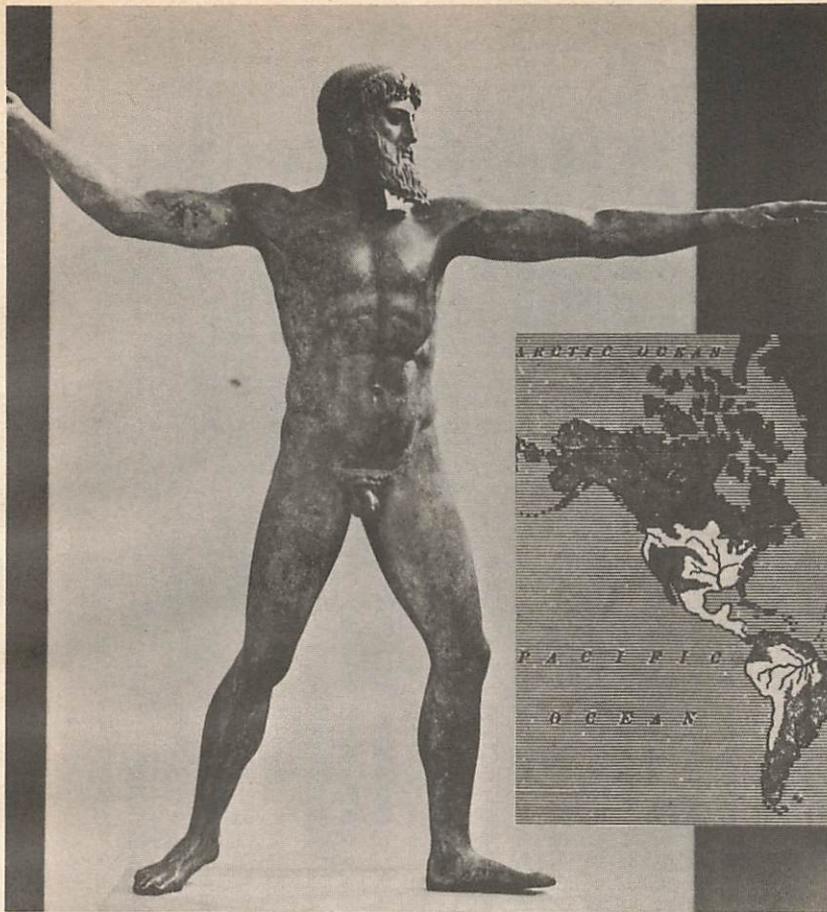
☆『^{★ぼろし}幻の大文明アトランティス』

ノンフィクション・ミステリーを愛好する人々の中で、アトランティス大陸の名を知らぬ人があればモグリであ

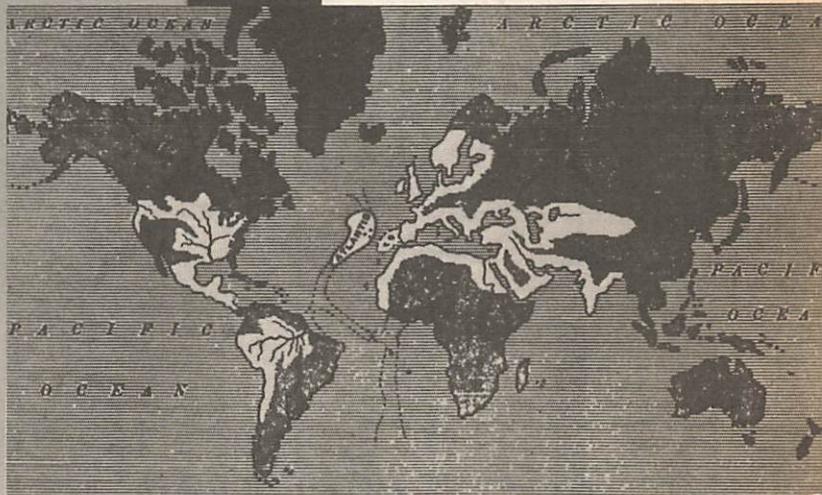
である。だから太古に沈んだアトランティス人の子孫だ、と簡単に結論づけるわけにはゆかない。なにせアトランティスが沈下してから1万年以上も経過し、ムーが沈んでから1万2千年にもなるのだ。前号でも述べたように、古典期のマヤ人が即ムー大陸人ではなく、わずかに栄光ある大陸のシンボル類を伝えていたことを考えると、テオティワカン人も沈んだ両大陸とは直接関係のない、はるか後代の民族かもしれない。だがマヤ人にせよテオティワカン人にせよ遠い昔の偉大な文明の影響を受けることなしに、あれほどの文化を発展させたとは考えられない。エジプトの大ピラミッド群にしても、いわば何もない暗黒大陸に根から生えたように突如出現したのである。おそろしく太古に失われた偉大な文化の残りが世界各地に流れて、新たな現文明の曙光となったのではないだろうか。そして、メキシコ一帯の古代文化はムーとアトランティスの文明の混交ではないかとも思われるのだ。ここでムー大陸と双壁をなすアトランティス大陸について言及しないわけにはゆかない。

る。それほどに人口に膾炙したこの有名な幻の大陸に関して、世界中で実に2万冊の研究書が出ていることは案外





◀アトランティスを創始したギリシアの海神ポセイドン。
 ▼『アトランティス太古の世界』に掲載されたドネリーの描いたアトランティス大陸の地図。白い部分はすべてアトランティスの植民地で、それにより文明化されたと彼は考えた。



▼ソロン (ギリシア彫刻)



知られていない。しかもこの大陸の片鱗すら発見されていないのだ。だが近年になってパミューダ海域の不思議な現象が問題化するにつれて、この一帯を世界の眼が注視するようになり、日本テレビの矢追ディレクターも昨年4月にこの海域を飛行機で調査したり、みずから水中をもぐって海底を探索した。その結果、古代の遺跡と思われる驚くべき石の構造物を目撃したのである。考古学者のマンソン・パレンタイン博士らがビミニ島周辺の海底遺跡を発見したというニュースに刺激されて、矢追氏みずから現地を確認するという結果となったのだ。この遺跡こそ太古に海中に没したアトランティス大陸の建造物の一部なのではないかという。

1万数千年前に大西洋に存在して、輝かしい大帝国を建設しながら、一夜にして海中に没したという伝説の大륙アトランティスとはいかなる国であったのか？

事の起こりはギリシアの哲学者プラ

トンにある。彼は紀元前4世紀、大哲学者ソクラテスの弟子として名をなしたが、有名な説話集『クリティアス』と『ティマイオス』の中でアトランティスの問題にふれた。それによるとアテネの大政治家ソロンがエジプトの都市サイスに滞在中、一群の神官が「不思議ではあるが、確かに真実の物語」だといって、ソロンに大昔の帝国について話して聞かせたという。エジプトの古記録によると9000年前(ソロンはプラトンよりも古い時代の人だから、これは紀元前9600年に相当する)、アテネは大帝国だったが、同時にジブラルタル海峡の西方にアトランティスという強大な帝国があった。東方の諸国を征服していたが、ある日、大地震と大洪水により、一夜にして海中へ沈んだというのだ。

アトランティスにはポセイドンとクレイトーという神と人間の娘との恋物語がつきまとっているが、神話は省略するとして、この大陸の南岸に建設された首都アトランティス市は、直径約18kmの円形都市で、中心部の同心円地帯は径5kmの要塞であり、その周囲を円形の運河がとりまき、更に円形の陸地、また運河というように、見事な都市計画によって建設された大都市である。特に要塞の中心部に建てられたポセイドンの神殿は壮麗きわまりないもので、各種の金属——金、銀——等々、謎の金属オリハルコンなどで飾ってあ

り、整然と配置された石造のビル群は現代の大都市に匹敵するほどの美観を呈していた。その他詳細をあげればキリがないが、とにかく巨大な軍隊と法律をもつ、10人の王から成る1種の連合国家であった。

なによりも顕著なのは、アトランテイス人の高貴な思想である。ムー大陸人と同様に、住民は宇宙の法則のもとに生き、神の心を持ち続け、徳義を重んじて、物欲を起すことを軽蔑し、万物一体の思想を主体として、よく調和ある生活をした。

だがこの栄光ある民族も墮落した。人々の心は「神の心」から「人間の心」に変化し、物欲という悪魔が忍び込むにつれて混乱が生じたのである。

「神の神ゼウスはこの名誉ある民族の墮落を見て、これを元の謙虚な状態に立ち返らせるために、神々を集めて罰することにきめた」

ここでプラトンの対話篇『クリティアス』は切れている。

以来、アトランテイスの幻影を追い求めて世界中の学者、文人、好事家、奇人が活躍し、ほう大な文献が現れては消えてゆく。その探求の歴史だけで一大ドラマが展開するのだが、ここには到底書ききれない。アトランテイス大陸については、いづれ稿をあらためて詳細を伝えることにしよう。これは歴史というよりもメルヒェンに近いのだが、意外な事実が含まれているのだ。

☆なぜ古代にピラミッドが

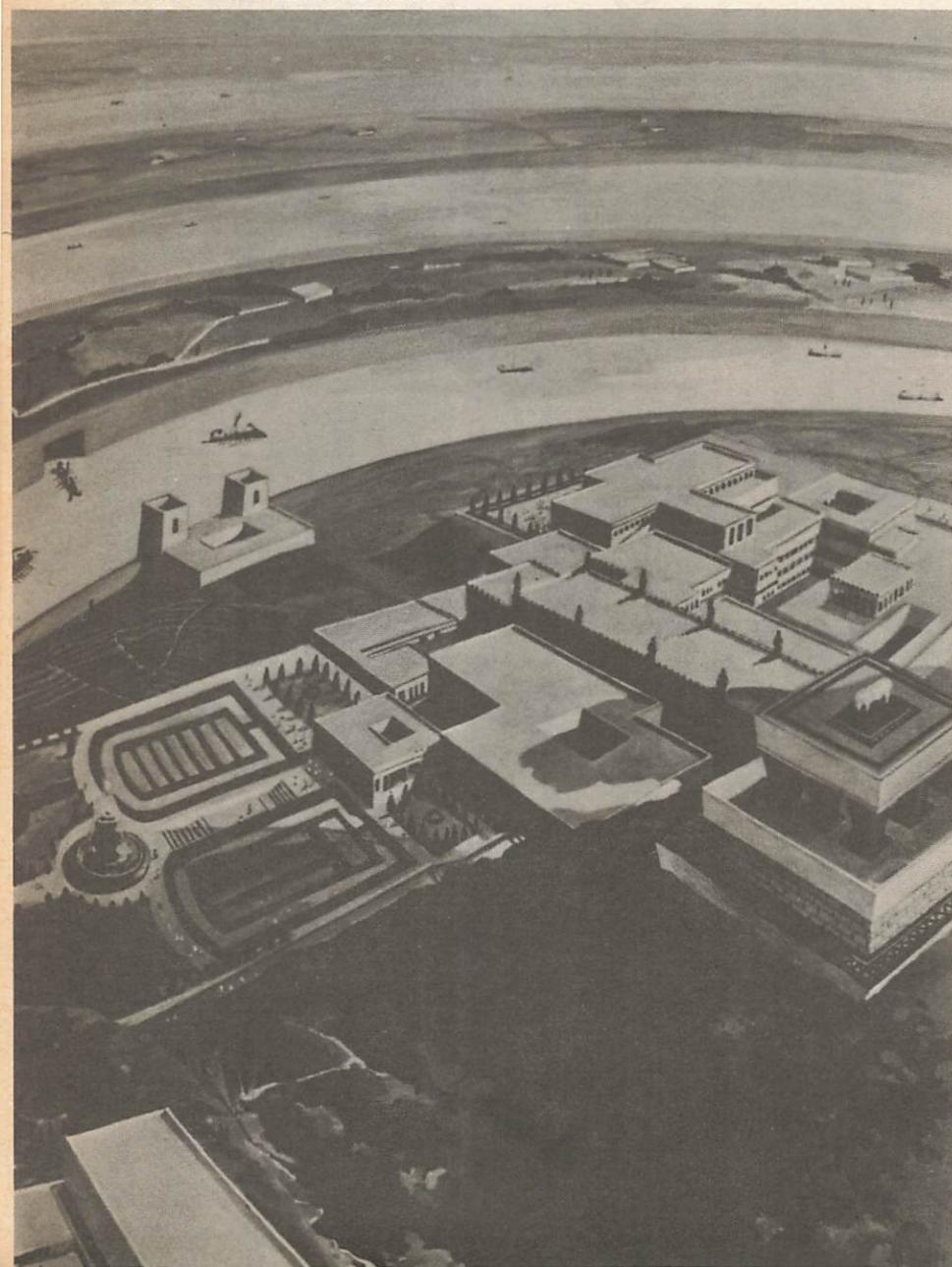
建設されたか

アトランテイスは実在したか？ 結局、だれにもわからないのだ。しかし不可解で「謎」であればこそ、我々ミ

ステリー狂の心は燃え、幻想の世界は果てしなく拡がりゆく——。話をものにもどすことにしよう。テ

オティワカン、アトランテイスの流れをくむ文明なのか？ 断言はできないが、ある程度は考えられる。しかしこれもおそらくアトランテイスの文明を伝えた生き残りの人々の直系ではなく、はるか後代の別な種族が、かすかな追憶と伝承の中にあの雄大なピラ

▼アトランテイス大陸の中心部 (想像図)



ミッドや神殿群を建設したのではないだろうか。しかも、ムー大陸の影響も混ざり合った一種の複合文化だったと思われるのだ。そのように解釈すれば、テオティワカンばかりかメソアメリカ一帯の遺跡について、多少とも納得のゆく線が出てくるのではあるまいか。

ここでひとつの疑問が起る。四角錐の雄大なピラミッド建築が、なぜエジプト、メソアメリカで発達して、北米、南米、東洋諸国やヨーロッパにはほとんど見られないかということだ。

これについて、『アトランティスと啓示の都市の概観』の著者、ジョン・ミッチェルによると、テオティワカンの太陽のピラミッドは、エジプトのケオプスの大ピラミッドと同様に、進歩した科学知識と魔術的な力を持つ、遠い大昔の強大な文明によって、雄大な規模で驚異の正確度をもって設けられた、地理学的システムにおける定点のひとつではないかという。つまり地球という惑星の表面全体に天文学と地理学にもとづいて、ある一定の線を引き、その交点ないしはターミナルに指標としてピラミッドを設定したというのである。ピラミッドばかりではなく、円形の柱群、巨石を積んだブラットフォームなどは線によってつながれており、地平線から地平線へつながるコースは、石、土塁などでマークされて地球の全表面に伸びた「一大科学装置」が

太古に完成されたのであるという。だがこれを指導したか？ おそらくこの地球に住む人間ではあるまい。

有名なビリー・レイスの地図は高空から望見したときか思えないほど正確に描かれている。古代にそれがこの地図を作ったのか？ これも地球人ではないだろう。また明らかなのは、古代のピラミッド指標を各地に設置するのに、デカルト座標を用いないで、球面三角法を応用したのだ。おそらく何かの装置があつて、北極を指すコンパスの針よりも、むしろ地上の磁力線をたどったのだろう。

こうした事実を研究調査したのは、3名のソ連人科学者、ニコライ・フェオドロビッチ・ゴンチャロフ、ビヤケスラフ・モロツ、パレリー・モカロフである。彼らは地球の周囲を走る、小さな磁力線を発見した。このため、地球が20面体上に重なった12面体から成ることがわかった。ちょうど地球がかつて巨大なクリスタルで、そのエネルギー的性質により調整されたかのような状態にみえるのだ。

このソ連人科学者たちが世界地図の上に古代文明の位置をたどってみると20面体をなす力線を引くことができたのである！ また地球上の最高と最低の気圧を示す場所を調べてみると、そのすべては12面体の20個所の結び目で発生することを知った。ハリケーンや海流の大渦巻が起る場所である。

別なソ連人科学者ビタリー・カバチエンコは、大気圏外から撮影された地球の写真を調査しているうちに、地球の上層部の地殻の深部にグリッド構造が存在することを発見した。彼によると、このグリッドはときどき透き通って輝くように見えるという。海の部分では黒いスジのように、空中ではかすかな雲のシマの網目のように見えると言っている。

同じソ連の別な科学者ウラジミール・ネイマン博士（地質学・鉱物学）は次のように述べている。

「宇宙空間にはある宇宙的なグリッド（格子組み）が満ちていて、これが惑星や恒星の位置をコントロールするばかりではなく、銀河系や銀河系間の空間の位置までコントロールしている」

フロイトの弟子であった心理学者ウイヘルム・ライヒは、空間に基本的エーテル波すなわち「生命力」というものが存在すると考え、これが渦巻状で進行し、それにより2種類の渦巻波が重なるところで物質が形成されると説いたが、同様にネイマン博士もそのような波動の結び目であらゆる物質が

できるのだと述べている。

フランスのUFO研究者エーメ・ミシェルは、地球上に設置された格子縞直線を考えて、UFOの目撃地点の多くは類似の直線状磁力線に沿って展開するという。これが彼の直線理論である。これと同様な直線のエネルギー線を、フラー・ドームを開発した米人科学者バックミンスター・フラーが大サークルとしてとらえた。これは彼となえるベクトル平衡三角形の最小公倍数を決定し、1球体に48個あるという。もしフラーの8面体のエッジのひとつが赤道に沿って存在するとすれば、彼のいう大サークルの3つの交点は、1度の1/4以内の誤差でテオティワカンの緯度をきめることになるという。

こうみると惑星は一個の呼吸する生きものとみてよくだらう。地球を最もコンパクトな点にまで圧縮すると、12ないし20面体の形となるし、平均的にふくらませると、フラーのいうベクトル平衡8面体になり、いっばいにくらませれば、エッジを切られた4面体となる。

☆「太陽のピラミッド」の

内部を透視する

エネルギーの力線については各種の説がある。『宇宙・引力・空飛ぶ円盤（本誌に連載中）』の著者レナード・

クランプは、宇宙空間に創造波なるものが満ちると考え、これが変調して物質と空間をつくり出すとした。ウィル

ヘルム・ライヒは、宇宙のあらゆる物質の分子、あらゆる空間に一定の線状の力線が走り、特殊な状態下でふるえると言う。性質は少し異なるが、これはメスマーのいわゆる動物磁気、カール・フォン・ライヒエンバッハのピラミッド・パワーとも類似している。しかしオーソドックスな科学ではまだ認められていない。

古代人も地球を生きものと考えて、磁場に関連した神経組織のようなものを想定した。そして力線の結び目から結び目を走る不可視の直線をへびまたは竜で象徴化した。中国人はこの力線の流れを陰と陽の2種類に分けて白虎と青竜であらわしたのである。「陽」は山の峰や丘の稜などに沿って走ると考えられ、「陰」は谷や川や地下の水路にそっているとみなされた。この陰陽が合体して宇宙の創造力になるといふ。

とにかく、不可視の宇宙的エネルギー線が古代人に認識されたことはたしかで、この線の2つの流れが交差する場所を聖域とし、そこに神殿やピラミッドを建てたらしい。具体的に言えば、それは地下の自然の泉をもつ洞窟なのである。ここに最強大な宇宙エネルギーが存在したと古代人は信じて、その場所を聖所としたことは、マヤの古代遺跡にしばしば洞窟が残っていることからわかる。しかしそれは偶然の一致か別な目的に使用されたのではない

かとの疑問も出るだろう。

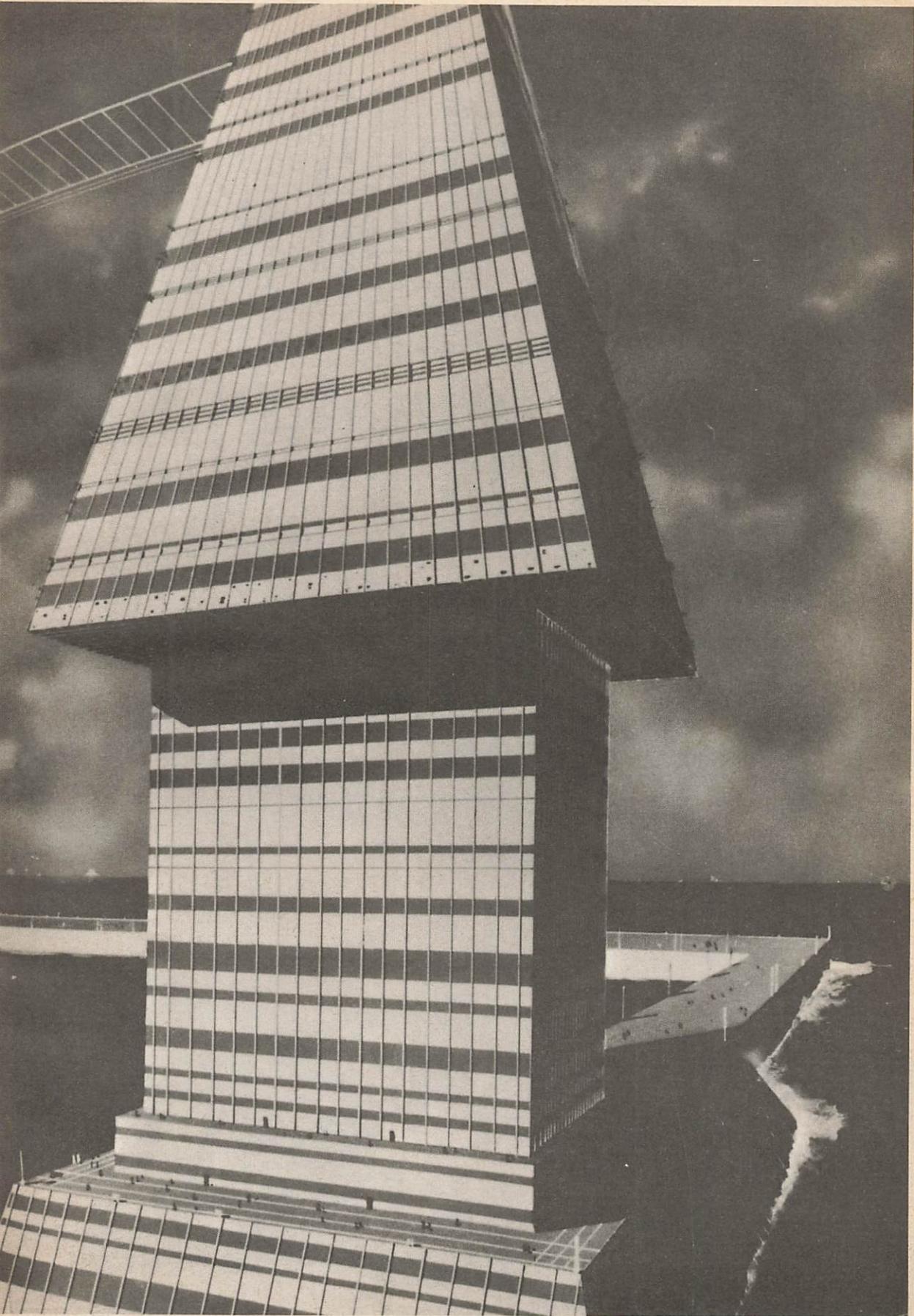
非科学的だとのそしりをまぬがれ得ないかもしれぬが、ここでひとつ透視能力者を登場させることにしよう。

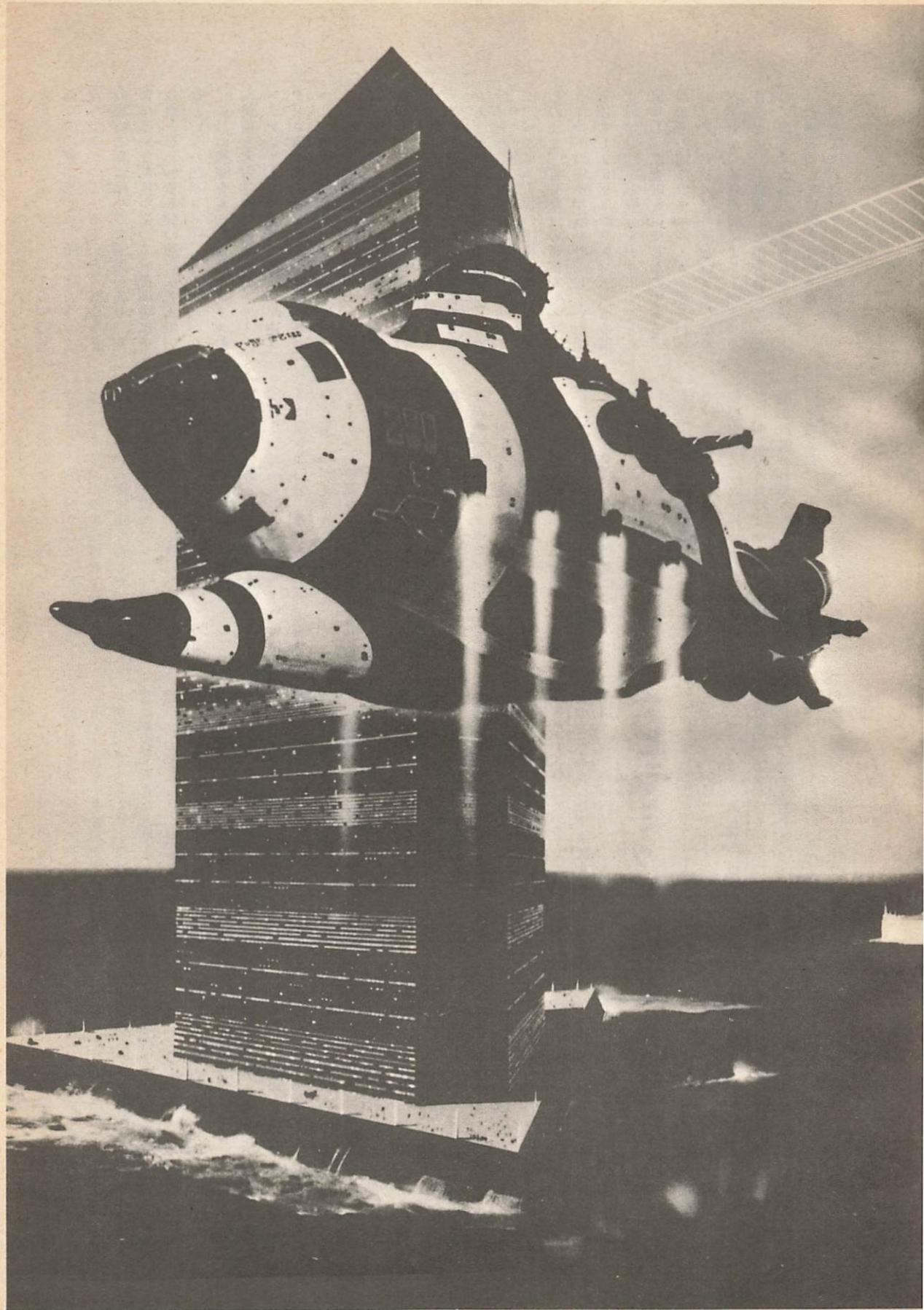
遠隔透視という現象は多くの実験からみて確実に存在する1種の超能力である。ごく少数の人のみに潜在するこの特殊な力の性質やメカニズムは科学的に未解決だが、仮説としては、ある物体から発せられる波動または放射線を何らかの形でキャッチできる人がいて、その物体の形状を肉眼でなく人体内の未知の力で再現するのか、または物体の形状のコピー化された映像が未知の搬送波に乗って伝播するのを、肉体内の特殊な器官がキャッチするとも考えられる。過去に発生した出来事はやはり波動として「どこかに」残留する。それをキャッチすれば、過去透視となり、未来に起こる事件のバターンもやはり波動により一種の青写真として「どこかで」形成されているとみてそれをキャッチすれば、未来透視となる。いずれにしても究極は物理的なものだろう。

1930年、フランスの透視能力者ポール・ベルジェールが、テオティワカンの『太陽のピラミッド』の写真を透視して、第1層の基底部から約3mの深さの所に、別な通路へ通じる秘密の入口を発見したと声明した。もともと彼はスイス、カナダ、米国で地中の鉱脈の透視を専門にしていた男である。

▼『太陽のピラミッド』を背景にした当社主催『中米宇宙考古学遺跡視察団』。前列左より4人目が筆者。







それによると、この秘密の入口はふさがれているが、ピラミッドの中心部に1個の室があつて、そこまでトンネルがつながっているという。しかもその室の右側には小さな通路があり、左側には別な部屋があつて、その中に黄金製と思われる6個の品物が並んでいるというのだ。

これに興味をもつたのはアメリカの『美術と考古学』の編集人アーサー・スタンレイ・リッグズである。早速メキシコ市の学校教育局長と共にベルジエールの資料を調査しようとした。ところが考古学課長のドン・ホセ・レイガダス・ベリッツは剣もホロロな態度を示し、そんなトンネルなどあるわけがないといって相手にしない。

これで透視能力者の爆弾宣言もまやかして去られたかにもえだが、一方、考古学者のルネ・ミリオンは、ベルジエールの透視のことなど知らぬまま、自分なりの確信をもってピラミッドの内部探検を計画していた。そして1959年にワシントン市の国立科学財団から資金を引き出すことに成功し、調査隊を組織したのである。

だがその前にマヌエル・ガミオとかエドゥアルド・ノグエラというような考古学者が、独自の説によりトンネルの存在を信じて探索したが失敗していたのである。もちろん彼らもベルジエールの透視のことは知らなかった。

調査隊はノグエラの言うトンネルの

入口と思われる穴から55m入った所でまず壁の跡を発見し、続いて南北に小さなトンネルが分かれるなかに前進して、ピラミッドの中心付近で壮大な墓所と思われる跡に出くわした。ここには、はるかに古代のピラミッドが1基あつた！土の周囲を煉瓦で築いたもので、あらい石と玉石で仕上げているが、かなり崩れている。また、かつて巨大な坑と思われるものもあつた。

こうして『太陽のピラミッド』の中には何もないという考古学上の定説は早くもくつがえされたのである。

ミリオンの調査隊が報告書を作成していたあいだに10年がすぎた。

すると1971年の秋に大雨が降つて、『太陽のピラミッド』の主石段の基底部がへこんだので、この遺跡の管理人エルネスト・タバアダがそこを調べてみると、古代の半分こわれた石段の跡を発見した。みると、自然の洞窟の入口に通じる坑へ6m下がった石段が出てきた。この洞窟は高さ2mあり水平にピラミッドの基礎部につながっている。

詳細は省略しよう。この入口はピラミッドの主石段の中心部と一致したので、テオティワカンのあらゆる発掘の監督をしていたホルヘ・アコスタが、この洞窟の入口はピラミッドの建設が始まる前から知られていたにちがいないと考へた。つまりこの洞窟を基礎としてピラミッドが建造されたと推定し

たのである。

この洞窟は天然の構造で、高さも幅が約2mあり、東の方向につながっている。メキシコ大学地質学研究所のフレデリック・ムーサー教授は百万年も昔に溶岩でできたと推定した。周囲の壁が泥土で塗られ、天井には平石がしかれている。更に奥へ進むと住居跡があり、壁にモルタルの塗られた跡も見られたが、トンネルを103m降りた所で、調査隊は驚くべき光景を発見した。不規則な四つ葉のクローバー型の洞窟が配置されているのだ。各室は周囲が10ないし20mあり、天然の構造らしいが、人間の手で広げた跡もある。

緻密な床の上には多数の粗末なツボと、ジャガーの皮の服を着た神人同形の人物像を美しく彫り込んだ平たい円盤状の物があつた。人骨は見あたらない。多数の鏡も発見されたが、これは予言を行うために用いられたらしい。更に岩石で作ったパイプの破片があつたのをみると、地下水流を通すために使用されたらしい。

☆ピラミッド頂上の荘厳な

光景とUFOの出現

こうして調査隊は、メソアメリカの遠い太古から、洞窟というものが創造と生命のシンボルとして重視されたことを知ったのである。また泉は地下世界への入口として神々へ通じる経路とみなされていることも知った。チチェンイツァの『いけにえの聖泉』が代表的なものである。

古代のメソアメリカには2種類の基本的な儀式があつた。ひとつは太陽崇拜で、これは男が大ピラミッドの石段か頂上に立つて行う。他のひとつは母なる大地と暗黒の力に捧げて女が行うもので、夜間、洞窟内で行うのである。考古学者セリア・ナッターが述べている。しかし、夜の儀式で女が司祭になることは危険や邪悪がともなうという思想が起つてきた上、特に昔のユカタン半島では、夜の儀式中に男たちが竜舌蘭酒をむちゃくちゃに飲んで暴れるので、女性原理の夜間宗教は退化してしまつたという。

とにかくベルジエールのトンネル透視は見事に確認されたのである！

ピラミッドの頂上で行われた太陽崇拜の儀式はどうか？これについてはもう1人の透視能力者ジョーフリー・ホドソンなる人物に登場を願うことにしよう。なにせ遠い大昔の光景などを

知る具体的な手がかりはないので、こうなれば「過去透視」の達人に透視させるのもひとつの方法だろう。その透視結果が真実かどうかの性急な判断をくだす必要はない。ひとつのインフォ

メーションとして心の片隅にたくわえておけばよいのだ。

ホドソンによると、その光景は実に魅惑的なもので、頂上に参集した古代の司祭や神官たちの頭部や脊椎を、太陽のエネルギーが急速に通過するのが見えるという。彼らは大地のエネルギーの呼び出しもやった。そして太陽や諸惑星のエネルギーと、ピラミッドとして建てられた『太陽の大神殿』の内外的英知との強力な集中状態を出席者の人体内につくり出した。

神官たちの衣服の色や神殿の塗装の色は、こうした超自然力や英知との共振場をつくるように考えられていた。高僧や助手はクンダリーニーについて熟知していた。彼らは地球という生きもののクンダリーニーを刺激する儀式、姿勢、パワーを持つ特殊な言葉などを応用した。クンダリーニーとは地球の中心や人体の内部に宿る火のようなへビの力である。そして司祭者や他の人々の脊椎にそれを溢れさせようとしたのである。

ホドソンが透視した『太陽のピラミッド』の頂上の神殿の儀式では、司祭はアトランティスから伝わった生命の秘伝を授けられた人であるという。

「その人は赤銅色の皮膚の背の高い男で、輪郭のととのった顔、ワンのような鼻、力に満ちた眼をしています。きびしさと大いなる力に満ちた顔つきです。頭には大きな羽飾りをつけ、多彩

な美しい服を着ていますが、おもな色は赤、黄、緑、紫で、首、腕、足は寶石で飾られています。

あ、いま『太陽のピラミッド』の上空高く、数千フィートの位置に、長さ1・5kmはあると思われる黄金の天の神(UFO)がいくつか出現しました。じっと停止しています。それらのオーラは1個の神の聖杯を形づくるかのようになり、互いに接触しました。荘厳な光景です！」

ホドソンは述べる。この『太陽のピラミッド』は古代のあらゆる宗教の霊的センターで、少なくとも3つの大きな儀式が定時に行われた。日の出、正午、日没のときである。正午が最重要で、そのときは頂上の神殿の上に立てられた垂直の棒で測られた。この神殿は今はない。

儀式の出席者たちは超能力を持ち、司祭の体から発するオーラを見ることができた。特に正午の儀式では、ピラミッドの頂上は超自然的な霊火が燃えて、周囲100m以上にもわたって聖霊の火が輝いた。彼らにとって太陽は大いなる太陽意識の可視的なオーラなのであり、生きて脈動する宇宙の一部なのだ。その宇宙とは万物が生きて実在する神の生命の充満したところである。そして太陽に照らされる万物は「宇宙の活力」に属するものとみなされた。そのなかでも人間は最高の存在であり、いわば神の子であった。

しかしアトランティスの崇高な宇宙哲学を伝えたテオティワカンの謎の民族は7世紀に突如消滅した。ここでもその偉大な思想は永遠に失われたのである。何者がこの傑出した種族を駆逐したのか。すべてを知るピラミッド頂上の小石たちは黙して語らない。語る必要はないのだ。過ぎ去った遠い昔の栄光あるアトランティスの深遠な宇宙思想は空間の彼方へ消えうせて、いまあるのは創造のパワーを忘れ果てた人の心だけである。

眼下に展開する広大な遺跡群を見おろしながら『太陽のピラミッド』の頂上で筆者は限りない想いにふけっ

た。遠い過去にここで偉大な司祭や神官たちに降りそそいだのと同じ太陽の激しい光を浴びながら――。(完)

(記事中の写真で筆者撮影以外のものは学研版「謎の大陸」より転載。許可済)

参考文献

- ロイ・ステママン著/小野協一訳「謎の大陸」学研
- UFOs, Pyramids, and Cosmic Energies" by Peter Tompkins
- "New Atlantis" by Colin Amery
- "The View over Atlantis" by John Michell
- "Ancient Mysteries of the Mexican and Mayan Pyramids" by Warren Smith

★この眼で見よう! 謎と神秘に満ちた雄大壮麗な
エジプト・ギリシア・ローマの
遺跡群と、奇跡のワールドの聖泉を!

企画 第2回 エジプト宇宙考古学遺跡の旅

行こう! 古代の神々の国へ!

大成功を収めた第1回の中米宇宙考古学遺跡の旅に引き続き、今度はエジプトを主体にまたもすばらしいツアーを企画しました。参加者多数が予想されますので、早目にお申し込み下さい。(定員50名)

●期間 昭和53年8月12日→26日(2週間)
●費用 50万円弱(航空運賃・朝食付ホテル代・その他の費用を含む)。
12カ月、24カ月分割払いも可。

●申込先 〒110 東京都台東区上野5-1-6、ヤマトビル
ユニバース出版ツアー係(140円切手同封お申し込みの方に詳細説明書をお送りします)

●主要見学地 <フランス>パリ市内、ルーブル美術館、ノートルダム寺院、モンマルトルの丘、サクレクール寺院、凱旋門、その他。
<ギリシア>アテネ市内、アクロポリスのアテナ、ニケ、パルテノン各神殿、ゼウス神殿、コロント遺跡、ミケーネ遺跡、<エジプト>カイロ市内、エジプト博物館、ギゼーの3大ピラミッド、スフィンクス、サッカー遺跡、ルクソール神殿(これのみオプションツアー)。その他。
久保田八郎(ユニバース会長・UFOとミステリー研究者)

●同行者 ユニバース出版社
●主催 国際アカデミック・センター
●協力 ギリシア政府観光局

ユニバース出版社

●連載／この眼で見た現代の怪奇——④

海溝に消えた

太古の首長竜

(完)

○クライストチャーチ沖に出没し続ける不気味な怪獣は
7千万年前に絶滅した海棲爬虫類プレシオサウルスか？

▼ニューネッシー(右頁)に対する瑞洋丸乗組員の意見は「見たこともない怪獣」という点で一致している。



■首が蛇のように長い怪獣

1977年7月31日――。

われわれ取材班は、クライストチャーチ空港に着くやいなや、クルマで地元の怪獣目撃者バリー・ワトソン氏の

家へ直行した。

出迎えるのサウスパシフィックテレビ局のスマイス支社長が話してくれたところによると、ワトソン氏は瑞洋丸が死がいを引き揚げた

一純 矢追

●日本テレビ
ディレクター

「あれはサメなんかじゃない。毎日魚と暮らしてるワシらもあの匂いだけでも我慢できなかった。ありゃあ魚の匂いじゃなく動物性の匂いだったからね」――ヘリコプターで瑞洋丸に乗り移った筆者に、異口同音に語る「未知の怪獣」の証言。彼らの意見は現場で実物を直視した者のみの持つ説得力に満ちていた！

地点とはほぼ同じ海域で、首の長い、ブレンオサウルスそっくりの怪獣を10メートルという至近距離で目撃したというのだ。

クライストチャーチの街から40分ほどクルマで行くと、海岸に沿った道に出た。

初めて見るニュージーランドの海。大雨が降ったりやんだりの暗い天候だったせいか、海の色はどんよりと鉛色に沈み、それが荒々しい牙をむいて襲いかかってくるかのようだ。白い波頭

を猛々しく泡立てながら大きくうねり、岸辺の岩にぶち当たり砕け散っている。

ワトソン氏はこの沖合い30カイリの地点で怪獣を見たという。海岸べりに建った白い小さな二階家を訪れると、残念なことにワトソン氏は今、漁に出ていて留守だった。

母親だという白髪の上品な婦人、バーバラ・ワトソン夫人にきいてみた。「遠い所からわざわざ来てくださったのに申し訳ありませんねえ。息子は昨日から漁に出まして、あと2カ月は帰ってこないんですよ。でも、あの子が怪獣を見たというのは本当なんです」

と、ワトソン夫人は眼を輝かせながら話しはじめた。

「あれは、もう6年前になるでしょうか……。いつになく息子が興奮して帰ってきて、大変なものを見てしまった、今考えても恐ろしくて話す気にもなれないほどだつてふるえているんです。私たち夫婦でいろいろ気を落ちつかせてきいてみると、漁の帰りに、チャタム島とこのリトルトン漁港とのあいだの海面で、首が蛇のように長い、とてつもなく大きな怪獣を見たというんです。全体の長さは10メートルくらい、長い首の先には小さな頭と大きな眼、それに鋭いギザギザの歯がズラッと並んだ大きな口があって、それが口を開けると、ブオーッという息を吐

▲息子の怪獣目撃事件について語るバーバラ・ワトソン夫人。



き出すときのような声を出したそうなんです。怪獣は、水中でヒレのようなものを動かして水をかき、1分間くらいも泳ぎ回っていたそうですが、何に驚いたのか急にブクブクと潜ってしまったというんです。

私たちも、初めは半信半疑でした。でも息子はふだんから無口なほうで、そんな嘘をつくなんてことは、それまでに一度もありませんでした……。今迄にも何度か、そういう怪獣を見たという漁師の話を聞いたことはありましたが、いつも息子は、たぶん酒に酔っぱらって幻でも見たんだろう、と笑っていたくらいなんです。

そのとき、いっしょに見たというウエストウッド船長の家にも出かけて行ってきいてみたんですけど、やっぱり本当だっていうんで……でも私たち、

この話はだれにもしゃべらないことにしていたんです。こんなことをしゃべればたちまち、あの一家は頭がおかしいって言われるに決まってるんですから。

それから半年ぐらいたってからでしょうが、新聞に、日本のコンビニラトルという漁船

が、やっぱりこのあたりの海面で怪獣を見たというニュースが載ったんです。私はもう興奮しちゃって……息子の言っていた怪獣は、やはり実在したんだ、と夫とも話し合ったんです。

現地の漁師と、日本漁船の乗組員がわずか半年のあいだに同じ地点で同じようなものを見る、というのは幻覚や錯覚とはとても考えられない。それにしてもこのあたりの海域での怪獣目撃者はどのくらい、いるのだろうか？

スマイス支社長にきくと、10人以上はいるだろうという。早速、インタビューの手配を頼むことにした。

■大きなコブの

盛り上がる胴体

バーリー・ワトソンといっしょに目撃したというウエストウッド船長は、や

はりバーリーと同じ漁船で出漁中だというので、もうひとりの目撃者、リトルトン漁港の船舶管理局長、ロビン・スタンレイ氏を訪問した。

スタンレイ氏は、やせがたで眼の鋭い、長身の紳士で、ころよくインタビューに応じてくれた。

「あれは、このニュージールランドの南端に位置するキャンベルアイランドで気象観測をしていたときのことでした。天候はおだやかで、海も静かでしたが、われわれの船から140メートルほど離れた水面に、突然何か長いものがポカッと浮き上がったのが見えたんです。初めは木のきれはしか何かが突き出たのかと思ったんですが、それにしてもなかなか沈まずに、それも動き回っているようなんです。それであわてて双眼鏡をのぞいて見て驚きました。それは頭がアザランのように小さく、首が蛇のように長い気味の悪い怪物だったんです。

水面上に出ていた首の部分は1メートルくらい、そのうしろに大きなコブのような胴体の盛り上がりが見え、怪物が動き回るたびにねあがる水しぶきから判断して、全長は約8メートルくらいもあったんじゃないかと思えます。そのとき甲板にいた数人の船員がいっしょに目撃したんですが、せいっはからだをくねらせたかと思うと、アツという間に潜って見えなくなっちゃいました。

あとで、あれはいったい何か、と皆で検討したんですが、とにかく今までに見たこともない怪獣だということに意見が一致したんです。

今度の日本漁船の死がい引き揚げ事件で、ああ、あのとき私の見たのは確かに怪獣だったんだなと思ったものです。なんとか、あいつの正体を見きわめて欲しいもんですね」

とわれわれを鼓舞するかのようによく握りしてきた。

やはり怪獣はこの近くにいる。私は現地へ来てみてはじめて、この感を強くした。

■ウバザメどころか

魚類の死がいですらない！

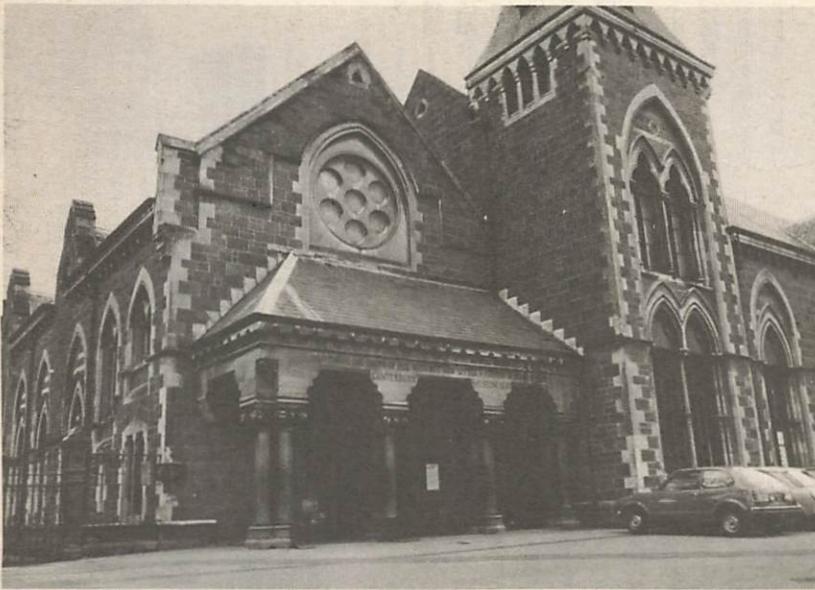
8月1日――。

私は、クライストチャーチの街中にあるカンタベリー博物館を訪れた。瑞洋丸の引き揚げた死がいについて、現地の学者の意見をきくためである。

博物館は、一見ヨーロッパの古い教会風のどっしり落ち着いた雰囲気をもつ建物で、このニュージールランドで発掘された首長竜ブレリオサウルスの化石が陳列されていることで世界的に有名である。

海洋生物学のタニクリフ博士にさっそくインタビュアーを試みた。長身の博士は、まだ40歳前後で、顔の半分をおおうモジャモジャのヒゲの中から、科学者らしい理知的な眼をのぞかせてい

▶クライストチャーチにあるカンタベリー博物館。



る。
日本から持っていったニューネッシーの死がいのカラー写真4枚とスケッチを見せると、大変な興味を示して何度もじっと見比べていたが、やがて彼の見解を語り始めた。
「私はこの写真を見たのが初めてなので、公式的には何とも言えませんが、

これは魚類の死がいでないと思いません。この小さな頭がい骨は、たぶん、下アゴの部分が脱落しているせいだと思われませんが、それにしても全身とのバランスから見ても小さすぎると思いません。歯が全部脱け落ちて1本もない、というのは珍しいことで普通はわずかでも残るものです。これはどうしてなのか判断に苦しみますね。それにこの長い首と長い尾部などから見ると魚類ではあり得ません。

この写真を見て、私が最も似ていると思う動物は甲らのとれた亀ですが、現存の亀にこんな大きなものはありません。いちばん大きいもので、今から1億年ほど昔の白亜紀にいたアルケロンという亀ですが、それでも全長4メートルくらいです。それに亀にしては尾が長すぎますし、甲らというものは脱落しにくいのですから、亀

ではないでしょう。それでは何か、と言われると何だか分からないとお答えするしかありませんね」

——日本の学者が、このヒレの一部を化学分析した結果、サメのものと成分が同一であると主張していますが……

「ええ、このヒレの部分にある角質繊維というか、韌帯でおよそヒレを持つ動物の、そのヒレの部分には必ずといっていいほど付随するもので、それは哺乳類、あるいは爬虫類であると問わないのです。だから、この韌帯を分析した結果がサメと同一だからといって、全体がサメだとは絶対言えませんし、もちろん哺乳類や爬虫類ではないと断定することもできません」

——すると、ヒレの中に肢の骨があったとした場合、つまり哺乳類や爬虫類だとした場合でも、このような韌帯というものがヒレの部分についていることはありうるのでしょうか？

「ええ、あります。あなたは、これが古代の爬虫類、つまりプレシオサウルスのものではないか、と言いたいんでしょう？」と笑いながら、「でもプレシオサウルスの化石には韌帯は発見されていません。というのは韌帯は腐りやすく、骨や歯のように残らないもの

◀発掘された首長竜プレシオサウルスの骨。



なので化石になりにくいのです。だからといって、プレシオサウルスに韌帯はなかった、ということにはなりません。それではあったのか？ という点、これは分からないと言わしきありませんね」

——この怪物がプレシオサウルスの死がいたという可能性はどうでしょうか？

「それについて、私は古生物学が専門じゃないから分かりません。このダフ館長にきいてみられてはいかがですか？」

と言われた途端、
「コンニチワ」という大きな声が聞こえてきた。

見ると、でっぷり太って白いアゴヒゲをはやした人物が、ニコニコ笑いな



▲魚類の死がいではないと語る、海洋生物学のタニクリフ博士。

から部屋へ入ってくるところである。「ようこそいらっしゃいました。私がこの博物館の館長、ロジャー・ダフです。どんなことでもご協力しますから遠慮なくおっしゃってください」と自己紹介したあと、

「じつは以前、私の秘書をしてくれたのが日本の方で、それらしい私は大の日本びいきで、日本語も少しは勉強しているんです」

と知っているかぎりのカタコトの日本語を披露してくれたが、この親日家の館長に、プレシオサウルスについての質問を試みると、じつに興味深いことを話した。

■人間を喰う怪獣

ワカティクの壁画

「このニュージールランドからは、たくさんの首長竜IIプレシオサウルスの化石が発見されています。ここで大変興味深いのは、その化石発掘現場が極めて限られた地域、つまりこのクライストチャーチから北へ数10キロ行ったべ

ガス湾の近くと、その奥の盆地だけからしか化石が発見されないということです。そしてその場所は、瑞洋丸が怪獣の死がいを引き揚げた地点と同じこの南島の東海岸に面しており、引き揚げ地点からこのベガス湾までも、数10キロしか離れていないのです。

このベガス湾とその周辺の陸地は、今から数千万年前に海底だった所が隆起してできたものですが、その頃はこのあたりは比較的浅海で、プレシオサウルスの棲息にはとても適していたと考えられます。このベガス湾から東の方は、ずっと海が浅くなっている、その延長上にチャタム・ライズ(海底山脈)とチャタム島があるんですが、ちょうど瑞洋丸の怪獣引き揚げ地点とチャタム島、それに化石発掘地点のベガス湾を結ぶと、一辺が数10キロの三角形になるんですね。そしてこの三角海域の中の怪獣目撃者がじつに多いんです」

チャタム島というと先ほどインタビューしたワトソン夫人の息子、バリー

・ワトソンが漁をしていた場所で、彼はそこからの帰りに怪獣を目撃している。とすると、やはり怪獣はこのダフ館長の言う三角海域に棲息しているのだろうか？

「さらに興味深いのは、このニュージールランドの原住民マオリ族が『ワカティク』という竜のような怪獣がいると信じていることです。彼らは先祖代々の言い伝えで、この『ワカティク』がときどき人間をとって喰うと考え、今から千年近くもまえの洞窟内からもこの壁画が発見されているんです。ここにはそのレプリカ(模写)がありますからお見せしましょう」

と、その場所へ案内してくれた。レプリカを見るとなるほど消し炭で描かれたその怪物は、首と尾が長く、ヒレのかわりに水かきのついた4本の肢があるところはプレシオサウルスと違っているが、人間を二呑みに呑みこんでいるところが描かれている。

「ニュージールランド周辺は、古生代にはゴンドワナ大陸という巨大な大陸の一部だったのがわかれて南アフリカ、マダガスカル島、インド、オーストラリアなどになったものですが、爬虫類が発生した中世代になって最後にわかれたのがオーストラリアとニュージールランドで、このあたりにはまだ古い爬虫類が残っている可能性が大いにあるのです。例えばここには、ムカシトカゲという1億年近くもまえの『生きて

空飛ぶ円盤と宇宙人に関する教育誌

UFO教室

宇宙人とのコンタクトや政界と民間への啓蒙活動をアダムスキーから実質的に引き継いで活動している米国グループからの最新情報と真実の宇宙的生命観の探究

第3号 (12月中旬発行)

- ◎UFOと宇宙と人類 ◎生命の科学講座の重要解説(古山晴久)
- ◎重大会談の真相(米国センター活動報告) ◎連載一アダムスキー著「宇宙のパイオニア」月、火星、金星への旅・第三回 ◎宇宙的生命観による変革 ◎その他

頒価360円 送料140円



▲千年近くまえの洞窟から発見されたニュージーランド原住民マオリ族の壁画。「ワカティク」と呼ばれる竜のような怪物が描かれている。

いる化石』が今でも棲息していますし、爬虫類ではありませんがモアという身長2メートル以上の巨大鳥が、つい最近までこのへんを走り回っていたんです」

その巨大鳥モアの骨格復原模型は、ゆうに私の1.5倍はあろうかという大きなものだった。

■怪物マッサライに 喰い殺された現地民

「それに、この近くのニューブリテン島には、今でも現地民が『マッサライ』と呼んで恐れている怪物が湖に棲んでいて、喰い殺された現地民犠牲者もいると言われています」

それはニューブリテン島の一部、ウイラムメツ半島にある火口湖、ダカタウア湖に棲んでいて、全長10メートルくらい、ワニのような口を持っていて尾が長く、首には毛がはえており、背中が盛り上がって、手足は亀のようだという。

マッサライが現れるのは主に夜間で、現地民がジャングルへ狩猟に行くときに襲われるらしい。

亀の手足といえは前後とも大きなヒレで、口や尾がワニのような全長10メートルもの怪物……となると、これもネス湖のネッシーのように陸封

された古代の海棲爬虫類プレシオサウルスの生き残りかもしれない。

われわれはダフ館長の好意に厚く礼を述べると早々にリトルトン漁港へ直行、トロール漁船のディック・ブラウン船長に会うことにした。われわれが西海岸に飛んで瑞洋丸の乗組員にインタビューするあいだ、彼らだけで一足先に怪物の死がい搜索作業を行っていてもらうためである。

ブラウン船長は40歳くらいで、顔の半分は黒いヒゲにおおわれ、見るからに律儀・実直な感じである。海の男らしいたくましさと同時に、ある程度の教養と人間的な優しさを併せ持っていることが言葉の端々にうかがえる。

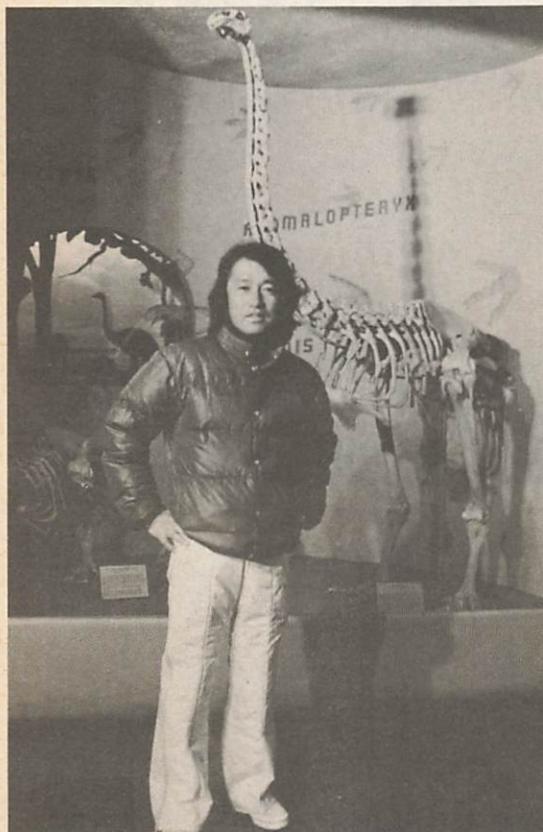
私は現地の精密な海図を広げ、日本

を出るまえに海洋水産資源開発センターの奈須敬二氏にうかがったニューネッシーの死がい推定位置について、説明した。

瑞洋丸が死がいを引き揚げた南緯43度51・5分、東経173度48・5分の地点からさして遠くないところで死がいを投棄したとすると、このあたりの海流の動きからみて、あまり遠くまで流れて行っていないと思われる。

つまり投棄された死がいは、その地点を流れる寒流であるサウスランド海流にのって東海岸沿いに時速1.8キロでゆっくりと北東へ流され、チャタム・ライズ(海底山脈)にぶつかる。

これ以上、北上しようとしても、ちょうど北方から南下してくる暖流のイ



▲巨大鳥モアの骨格復原模型と筆者(手前)。モアはごく最近まで、生きて、走り回っていた。

ラストケーブ海流が邪魔して北上できないから、結局、死がいはこのチャタム・ライズあたりにひっかかって沈んでしまっただろう、というのが奈須氏の推測なのだ。

ブラウン船長に意見をもとめると、彼もこれまでの経験から推して、この推測は正しいと思うと言う。

早速、今夜からチャタム・ライズ付近の現場へ向かい、そのあたりを何回もトロールしてみてくれるように頼んだ。

明後3日の午前7時には、リトルトン漁港へ戻って、われわれを乗せてもらう予定である。ブラウン船長は「幸運を祈ってくれ」と片眼をつぶると、あわただしく出ていった。

何とかもう一度、あのニューネッシーの死がいを引き揚げたいものだ。そうすればあれがサメであるか、プレシオサウルスであるかが議論の余地なくはつきりするにちがいない。

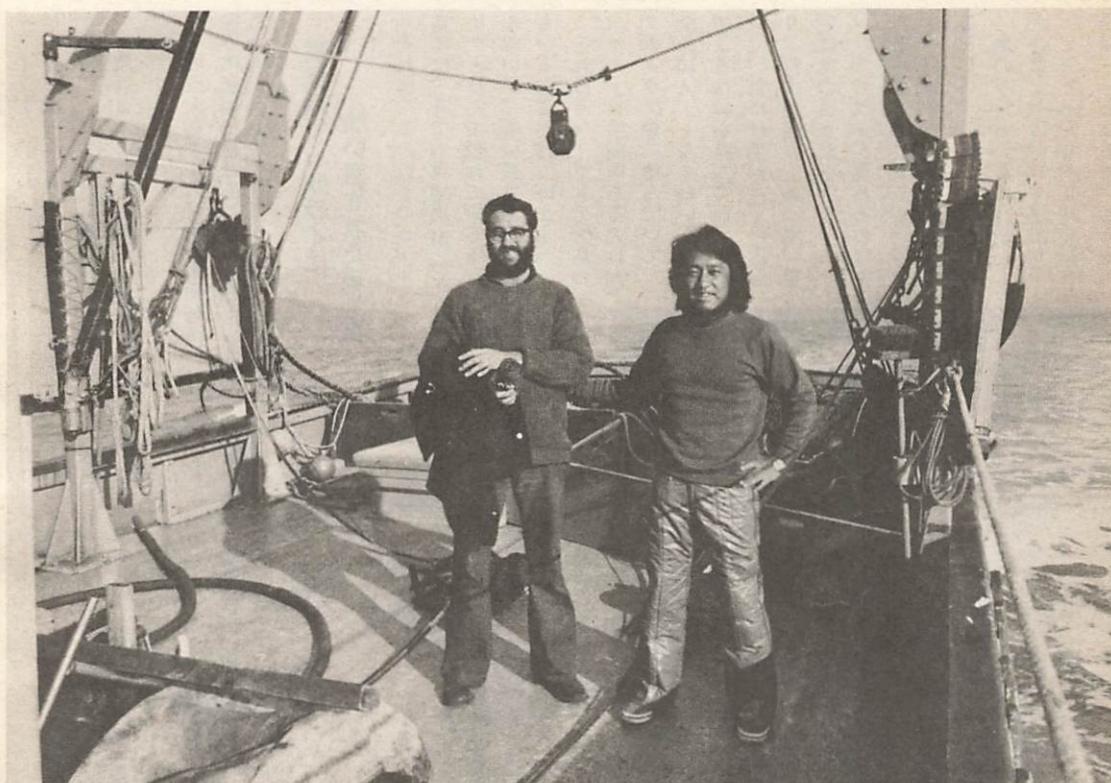
トロール漁網を

曳く瑞洋丸

われわれは、トゥインエンジンの小型チャーター機に乗って、クライストチャーチ空港を西へ向かった。現在、瑞洋丸が操業している西海岸に向かうためである。

チャーター機の機長、キース・ウェイクマンはユーモアのセンスのある愉快な男で、以前は戦闘機のパイロット

▲クライストチャーチ沖を行くトロール船アイダ・マリオン号上のディック・ブラウン船長



をしていたというだけあって、眼のまえに次々に立ちのぼる白い雪を頂いた山脈を巧みにかわしながら、狭い谷間をぬうようにして飛んで行く。

このあたりは世界でも有数のスキーマッカで、夏でもスキーができるといわれるほどの高峰が立ち並び、谷あいにはとろどろに大鹿を狩るハンターたちのための山小屋が見える。

ここはもう南極大陸に近い南半球なので、冬は夜の訪れが早く、午後の5時だというのにもうあたりにはうっすらと夕もやがたちこめ、そのはるか南のかたに有名なマウント・クックの美しい姿が最後の落日の光を浴びてくつきりとそびえ立っている。

やがて機は、もうあたりが暗くなつて滑走路がやっと見えるギリギリの時間に、西海岸の小さな漁村グレイマウスの空港に着陸した。今夜はここで泊まらなければならぬ。

8月2日、午前7時——。小型チャーター機でグレイマウスを離陸、瑞洋丸を捜索するため海上に向かった。見渡すかぎりの大海原——。

この広い海面の何処かで、瑞洋丸は操業中のはずなのだ。だが、海上で1隻の船を見つけたというのは、思っていたよりもはるかに難しいことだった。

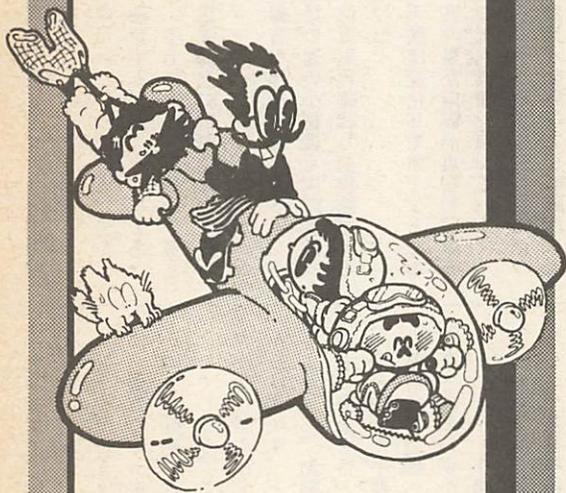
ようやく昇ってきた太陽の光を受けてキラキラ光る濃紺の海面に、やがて点々と操業中らしい漁船の姿が見えは

宝島

毎月10日発売 480円



雑誌宝島へ上陸すると——音楽が聞こえてきます。映画も上映中です。読みたい本もいっぱい。今まで知らなかったことや新しい生活を発見します。——未来への宝ものを自分で探すことの楽しさを覚えます。



◎162東京都新宿区塩場町15セントラル
・コーポラス207 電話03(268)6312

じめた。とうとう見つけたのだ!

1隻……2隻……全部で5隻。

ウェイクマンは機首をぐっと下げた。海面すれすれまで降下して、船のすぐわきをかすめ飛びながら1隻ずつ船名を確認しようというのだ。

小型機はスピードがあるので、アツという間に通り過ぎてしまい、字を眺みとるのが難しい。1隻目は分からなかった。2隻目……何だか変な文字だ。……そうか、分かった。韓国の文字だ。韓国の漁船団もこんなに遠くまできて操業しているのだ。

グレイマウスを出て1時間近くもあちこち飛び回り、捜索を続けたあげく、やっと瑞洋丸を発見した。

南北に整然と一直線に並んで操業し

ている日本の船団の、その中央近く的位置に、1隻だけ白い煙を煙突から吐き出しながら、船尾から繰り出した大きなトロール漁網を曳いている船がある。

われわれが来たことを報らせるために、上空を3回旋回したあと、ヘリコプターの待つウェストポート空港に向かった。ウェストポートはグレイマウスより50キロほど北に位置した西海岸の漁村で、そこにわれわれのチャーターしたジェットヘリコが、はるばる北島のウェリントンから来て待機しているのだ。このジェットヘリコをチャーターするのは大変だった。

ヘリコプターはたくさんあるのだ

が、パイロットがなかなかウンと言わないのだ。というのは、ジェットヘリコの燃料がわずか3時間しかもたないのに、ウェストポート空港から瑞洋丸の推定位置までは直線距離で1時間、

広い海面を捜索していると発見するまでにはさらに1時間ぐらいいはすぐにたってしまうので、燃料のあるうちに無事に空港へ戻ってこれるかどうかわからないのである。

許容航続時間ぎりぎりまで飛んで見つからなかつたらいったん空港へひきかえし、成功するまで何度でもトライする。うまく発見できたらわれわれ取材班をロープで甲板へ吊り降ろしたあ

と空港へ戻り、燃料を補給して2時間後に迎えに来る、という条件で強引に頼みこんでやっとOKをとった。

ヘリコプターから

瑞洋丸へ乗り移る!

午前10時30分。撮影のために左側のドアを取り外したジェットヘリコは、空港を飛び立った。前部にパイロットのビーター・ボトムと私、後部席にカメラマンと照明担当アシスタント、それにわれわれを吊り降ろしてくれるウィンチ係のベテラン、テリー・バニスターといった配置で、全員、羽毛入りのヤッケと救命胴着で着ぶくれているが、ドアのないヘリコプターに吹きこ

▲操業中の瑞洋丸へ向けて飛び立つジェットヘリコプターは、撮影のためドアをとりはずしている。



んでくる真冬のニュージーランドの風はさすがに厳しい。

瑞洋丸のだいたいの位置は、先刻、小型機で確認済みだが、そうしてあっても、広い海上でもう一度見つけるといふのは想像以上に困難なことが分かった。ジェットヘリコはスピードがないので、録音を担当するアシスタントの乗った足の速い小型機も同時発進、先行して位置を再確認し無線誘導することになった。

海上の天候は変化しやすく、ところどころに真っ黒な雨雲が点在し、海面に光と影の斑点模様を作っている。

突然、ヘリコが雨雲に突っこんだ。フロントガラスを滝のように流れる雨を透かして必死に目をこらすのだが、目指す瑞洋丸はなかなか見つからない。

ヘリコ速度を上げるためにかなりの高度を飛んでいるので、海上の漁船は豆粒ほどにしか見えない。すでに空港を飛び立つてから1時間半を経過しているのに、いまだに小型機からも発見の報が入らない。パイロットのボトム氏の顔に、焦りの色が濃くなってきた。

このとき、先ほどから私が短波で呼び続けていた瑞洋丸からの応答がかすかに入ってきた。ようやくわれわれは瑞洋丸からの海上短波無線の射程内に入ったらしい。

「瑞洋丸さん、瑞洋丸さん、こちら日

本テレビです、聞こえますか？」

「日本テレビさん、日本テレビさん、大変よく聞こえます。そちらの機影は、当方のレーダーに映っています。そのまま直進すれば15分以内に接触できるでしょう。こちらは日本船団でただ1隻、煙を出していますからすぐ分かるはずですよ、どうぞ」

よかった。先刻から西海岸に沿って南北の海上を行ったり来たり、さんざん探し回った甲斐があった。だが残りの燃料は、空港へ引き帰すぶんを計算するとあとわずかしかない。

……とうとう瑞洋丸が姿を見た。どうやらトロール網の引き揚げ作業中らしい。非番の船員たちだろうか、数人が前部甲板で手を振っているのが見える。

「日本テレビさん、ようこそ。こちらは現在、網の引き揚げ作業中ですのでしばらく待機して頂けませんか？」
「了解。そちらから合図のあるまで上空を旋回しています」

午後12時30分。燃料切れギリギリの時間になって、ようやく降下を開始した。直径6〜7ミリの鋼鉄のワイヤーに身を任せて、機外へ出る。ヘリコの回転翼の風がまともに上から吹きつけ、海上を吹きぬける寒風と相まって息もできない。

テリーが操作する電動ウインチが、ワイヤーをするすると延ばしていくにつれ、身体が右に左に揺れながら降下

しはじめた。

下を見ると2455トンの瑞洋丸の前部甲板が、小さな子供用のゴムボートくらいしか見えず、波にあおられて大きく上下にローリングしている。ヘリコは風にあおられながら、何とか安定した姿勢を保とうと必死である。

海面上でヘリコを一カ所に安定させてホーバリングさせておくというのは、かなり高度なテクニクを持ったパイロットでも難しいのだ。

しかも、一歩間違えて舷首のポールが船橋上に突き出たアンテナに接触すれば、アツという間に墜落、甲板上に燃えやすい火薬のようなジェット燃料をまき散らし、瞬時に船もろとも爆発炎上するという大事故になることは眼に見えているのだ。

身体が、不安定なヘリコの動きに合わせて、振り子のように右に左に振れて、あるときは甲板上に、あるときは海面上にと揺れ動く。

悪戦苦闘のすえ、ようやく甲板に足がついた。

と思ったら、また浮き上がってしまった。船が上下にローリングしているので身体が空中に浮いたり、着地したりで危なっかしい。数人の乗組員に抱きかえられるようにしてやっと移乗に成功した。

■第一印象は、未知の

得体の知れない死がい

午後1時——。

早速、インタビュールにとりかかる。

田中昭昭長は、まだ40歳まえかとも思える若々しい風貌で、笑うと、黒く陽焼けた顔から真っ白な歯がこぼれでて、海の男らしい爽やかさを感じさせる。

——最初に死がいを見たときの印象はどんなものだったんですか？

「得体の知れない怪物という感じでした。操業中、これまでも何度か大きなサメや海獣、アシカやトド、クジラなどの死がいを引き揚げていますが、そのどれにもあてはまらないということです。ブリッジにいた私のほか数名の乗組員も、怪物、それもネス湖のネッシーに似ているという意見が多かったです。私自身は、あれはサメではなかったと思っています」

——一般には、あのような貴重な資料を捨ててしまったのは、もったいなかったですという意見が多いのですが……

「私もこんな大騒ぎになると知っていたら、何とか方法を考えて持って帰るようにはしたかも知れませんが、当時は、船長として漁獲した魚を無事本国に送り届けることを第一に考えなくてはなりません。腐敗菌が船艙の魚にうつらないうちに急いで海中に投棄したというのが実情です」

——この船に当時、どのくらいの魚を積んでいたんですか？

「約1千トンの魚……時価にして2億

円ぶんくらいでしようか」

ほほう、大変な金額である。

「瑞洋丸では、漁獲した魚を船内工場ですり身したり、加工したり、そのまま冷凍したりという作業をしていますので、万一、ばい菌がついていて、日本に持ち帰ってから食中毒が起きるなどという事態になつては大変なので、衛生管理は特に厳重にしているんです」

なるほど、それでは怪物の死がい保管しておくなどということとは、とうてい考えられなかったにちがいない。

船を出しておくだけで1日400万円もの経費がかかるというのに、もう半年以上も現地で操業しているのだから、その水揚げの価値も大変なもので、それを損うおそれのあることを黙認するのは、船長として絶対にできない相談である。

川崎甲板長、宮崎機関長はか当時、後甲板で作業をしていて直接怪物を目



▲怪物目撃を証言する瑞洋丸の乗組員たちは、口々にサメ説を否定した。

矢野さんが一足先に日本へ帰って現像したのもなので、今なお乗組んで航海中の彼らにとって、実物を見るのは初めてなのだ。

■乗組員の意見は「見たこともない怪物」で一致

彼らは私のインタビューに答えて、口々に当時の状況を語りはじめた。率直なその意見と感想は、現場で実物を「自分の眼」で直視した者のみのもつ説得力に満ちていた。

——このヒレの分析結果から、サメらしいと言われているんですが……

「いや、サメなんかじゃないよ。むしろ、サメの死がいも何度かあげとるけど、サメはこんなに首が長くないし、

第一、匂いが全然ちがう」

「わたしらは、魚と毎日暮らしている

5 近かに見た十数名の一等航海士や甲板員の方々に、持って行った矢野さん撮影のカラー写真とスケッチを見せた。「ホーク。これが矢野さんの撮った写真か……よく撮れてるのウ」

当時、この船に乗り組んでいた矢野道彦製造課長代理が撮った写真だが、

から、魚の腐った匂いには慣れとりませんが、あの死がいの匂いだけは、どうにも我慢ができなかったですもんね。ありゃあ魚の匂いじゃなく、むしろアシカやトドなんかの動物性の匂いだったからね」

と、異口同音に腐敗臭が魚類のものではないことを強調した。

確かに、長い歳月を、海そして魚類と密着した暮らしを重ねてきた人たちの意見は、実際の経験というシタタカな裏打ちにもとずいているだけに、こう言っているんだが、そんじょそこらの書斎派学者の意見なんかよりも、はるかに重みを感じさせるものがある。

——肉はどうでしたか？ ハッキリと見えましたが？

「肉は赤い色をしとったね。全体が真っ白な脂肪におおわれとって、引き揚げるときに甲板上にボタボタと豆腐のように落ちてヌルヌルするくらいだったが、そのあいだから真っ赤な肉が見えたよ」

「サメというより、ちょっとクジラの肉に似てたなあ」

「そうだな。サメの肉も赤いことは赤いが、もつと白味があった薄い赤で、肉の断面がクジラや何かの獣のものと全然ちがうからな。」

「ありゃ、魚の肉じゃなかったことは確かだね」

「だいいち、サメにはあんなにたくさん真つ白な脂肪は、ついとらんもん

ね」

——骨はどうでしたか？ 固かったですか？

「わしは、尻つぼのほうの骨が露出しているのを見たが、直径15センチくらいで、骨と骨の間のふしがごつく盛り上がってついてたね。あれを見て、骨そのものは、魚のものとはとても思えなかったよ」

「怪獣の首のつけ根にワイヤーをかけてウインチで吊り上げたんだが、かなりの高さまでしっかりと上がっていったからね。骨は相当固かったんだと思う。サメのような軟骨じゃ、とてもあはいかなかっただろうからね」

——ヒレの大きさはどうでした？ この写真にはハッキリ写ってないんで論議的になってるんですが。

「うしろのヒレは、確かについてました。私は、すぐそばで見ってたんですが、前のヒレと同じくらいでした」

「サメのヒレは、うしろのヒレのほうがずつと小さいもんな」

「それに、ついている場所も、もつとうしろのほうで、あんな所じゃないし……」

とすると、どうもやはりサメではない可能性が強そうである。

——尾ビレはどうでした？ ついてましたか？

「いいや、尾ビレは全然なかった。ついていたという痕跡も見えなかったね」

「なにしろ、前ビレと後ビレの位置が魚とはまったくちがうんだよな」

——頭はどうですか？ 眼の穴は確かにこの矢野さんのスケッチのようになってましたか？

「ああ、大きな穴がポコッと2つ、ちょうどこのスケッチのように開いてた。その下に、小さな鼻の孔のようなのが一對、ちゃんとあいているのが見えたよ」

——胸のあたりはどうですか？ 肋骨はありましたか？

「ぼくは、お腹の所を長靴で踏んでみたりしたんだけど、そのとき、胴体をかこんでる固い骨みたいなのが確かにありましたね。お腹の部分はほとんど腐って落ちちゃってるみたいだったけど、肉のあいだから、動物の内臓のようなもの……ちようど、動物の腸にそっくりな長い内臓がぐるぐる巻いてはみ出ているのが見えました」

「とにかく臭くて臭くて、とても近くには寄れないくらいだったもんなあ」

「ああ、わしも、あんなひどい匂いの死がいは初めてだったよ」

——アシカやトドの死がいは？

「いいや、そういうものとは形が全然ちがうし、大きさも問題にならないほど大きかったよ」

「クジラは、頭がい骨がもつとずつと大きいし、形もまったくちがうからね」

——それでは何だと思えますか？ 「それが分からねえ。あのあとも、み

んなでデイスカッションをしたけど、結局何だか分かんねえということだった。やっぱり怪獣じゃないかね。これは私だけの感想かもしれないけど」

「とにかく言えることは、わたしらがあれを見て、絶対にサメやクジラじゃないと思ったからこそ、矢野さんが写真を撮ったり、サイズを測ってスケッチしたりしたんであって、サメだと思つたら、なんにもわざわざそんなことはしなかった、ということですよ」

やはりあの死がいは、何ものとも知れない怪獣……ひよつとすると、7千万年前に絶滅したはずの巨大な海棲爬虫類プレオサウルスのものだったのかもしれない。いや、きっとそうにちがいない。数々の怪獣目撃事件を生んだ、ここ、首長竜の海溝、ニュージランド沖の現場で、こうして直接目撃に見た目撃者の人たちの意見を聞くにつけ、ますますその感が強くなってきた。

2時間後、強風のなかを迎えにきたヘリコプターで帰途につくあいだ、私の眼はニュージランド沖の広い大海上に釘づけになり、ヘリコプターの回転翼のたてる規則正しいパタパタという音のなかから、繰り返し聞こえてくる声に耳を傾けていた。

「このどこかに怪獣がいる。この海のどこかに、まだ見ぬ首長竜が、生きています。生きて泳ぎ回っている——！」

本格的UFO研究団体
日本宇宙現象研究会

JSPS三大機関誌

研究誌 未確認飛行物体

日本UFO研究の粋ここに在り!! 調査・探究・分析……充実した内容でUFO現象の本質にせまる本格的な研究誌。UFO研究者必読の重要論文多数掲載。
●B5版、通常50ページ前後、高級オフセット印刷、図版、写真多数掲載。年1~2回刊、現在7号まで刊行。1500部限定、非売品(会員配布)

情報誌 JSPS's UFO Information

もうマスコミにたよってはられない!! 早く詳しく正確に、をモットーに現地調査を本旨とするナマの情報を探めてついに創刊。正しいUFO研究は誤りのない情報から。

●B5版、通常8ページ、高級オフセット印刷、図版、写真多数掲載。現在8号まで刊行中。1500部限定、非売品(会員配布)

英文誌 Japan UFO Information

ここ数年の間休刊していた英文誌が、装いも新たにいよいよ復刊。現地調査に基づく確実な情報のみをよりすぐって世界に報道する待望の新会誌。(近日創刊)

●本誌のみ会員外の方にもおわけします。入手法の詳細は後日発表。

当会はUFOに興味関心をお持ちの方なら、男女年齢等の別なくどなたでも入会でき、会員には会誌送呈(但し英文会誌のみは別売)のほか研究会、講演会等のご招待など多数の特典があります。(会誌への投稿も可能)

- 入会金 500円(マーク入り会員証交付)
 - 会費 1期2000円(誌代差引制、約1年分)
- 入会ご希望の方は、住所氏名を明記の上、入会金および会費を添えて、振替、書留等でお申し込み下さい。

〒150 東京都渋谷区神山町5-2

日本宇宙現象研究会

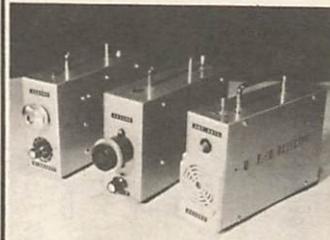
振替:東京6-128740(当会是非営利団体です)

UFO探知機

超高感度

国産唯一の本格的磁気探知機!

現在230台が全国で活躍中!!
既にUFO探知成功18件!!



- T-5型……¥9,000
- T-3a型……¥18,000
- T-3b型……¥19,000

■その他、連続観測用のACアダプター及び、補助電池ボックス(新製品)があります。

左からT-5・T-3a・T-3b型

申込先:〒213 神奈川県川崎市高津区長尾1606

折田 至

Tel. 044-866-8347

●カタログ請求は100円切手をお送り下さい。

精神と秩序とエネルギー 《7つの質問》

●詳細を説明した小冊子「人生を支配する(日本語版)」を無料でお送りします。下記にハガキでお申込み下さい。勿論付帯義務や責任は一切ございません。なお、教材はすべて日本語になっております。

▼古代の奇蹟とカ神祕として伝承されていることの裏面には、古代人が探究した自然の法則、人間の精神の働きの意外さ、人生の諸問題の対処のしかたなど、ユニークな視点、英知の数々が内包されています。

▼バラ十字会は、長い歴史をもち、宗教・政治団体とはまったく無関係の立場で、哲学的探究を目的としている同人組織です。本会は、幾世紀も保存し続けてきた未公開の英知を、希望者に対して通信教育方式により一般公開する活動を現在、世界63カ国で行なっております。



- 宇宙とあなたを支配しているものは?
- すべての存在の背後にあるものは?
- 万物は超自然によって創られたか?
- 精神と秩序とエネルギー、これは「意識」の一言で説明できるのではないか?—そして、その背後には……
- 宇宙の普遍的意識」というものがあるのでは?
- 意識は死後も生存し続けるのだろうか?
- 人間には未使用の未知の自我の力があるのだろうか?

■申込先=〒165 東京都中野区若宮2-49-16 バラ十字会 日本本部AMORC事務局U-1係

The ROSICRUCIANS 米国カリフォルニア州サンノゼ市 バラ十字会AMORC 世界総本部

ミステリー豆知識

人間の超能力

Reproduced by 'The Encyclopedia of the Unexplained' published in the U.K. by Routledge Kegan & Paul.
© The Rainbird Publishing Group Ltd. Orion Planning Dept.

●苦痛を知らない人

だれでも痛みを感じるものだが、苦痛を感じなかったり、傷や毒に平気だという人が、様々な状況で観察されている。1720年代、フランスの熱狂的ヤンセン派教徒の中には、ハンマーで殴られたり、数人がかりで金釘を押しつけられてもケガひとつしない女性たちがいたという。時代を下れば、不死身だと主張したオランダ人、ヘンステス・アーノルド(1974年没)がいる。彼はチューリップの医師の監督の下に、自分の胴体を長いナイフで刺し貫ぬいたまま歩いてX線検査室までいったが、一滴の血も流さなかった。1934年には、ノーベル賞受賞者C・V・ラーマン卿はかカルカタ大学の著名な科学者たちが見守る中で、あ

るヨガ行者が硫酸と硝酸、石炭酸、それにガラスの破片を飲み込んだ。それから彼はトランス状態になって劇薬の効果を中和し、意識をとり戻した時にはケロッとしていた。

●火中歩行する人

また、火の中を歩行する者がいる。赤熱した石炭や白熱した石の上を、何事もなにかのように歩行するのである。

トランス状態になったブードゥー教の行者は、沸騰する湯に素手をつっこんで熱い鉄球をもてあそぶ。有名な超能力者D・D・ホーム(正しい発音はヒューム)は、ある時期、燃えさかる炎に顔をさし伸べ、まるで水で顔を洗うように、炎の中で顔を動かすということを行った。それでも眉毛すら焦げなかったという。

●寒さに耐えられる人

これと反対に、寒さを感じないという能力がある。オーストラリアの砂漠に住む原住民アボリジンの耐寒性を研究した科学者たちは、温度が氷点下になっても彼らが寒さを感じないことを発見した。チベットのヨガ行者のうち

レスバというクラスの人々は、木綿の単衣をまとっただけで、冬の間にゆる洞窟で暮らす。このクラスに入るテストは、真冬の湖岸に裸で座り、氷のよりに冷たい水にひたした数枚のシーツを身体にまきつけ、一晩のうちに乾かすというものである。

●全然眠らない人

普通、だれでも睡眠をとらねばならないと考える。しかし、全然眠らないように見える人々もいる。真実と確かめられた例のうち1つを挙げてみよう。スペインの農場労働者バレンチン・メディナ(1951年没)は50年間一睡もなかったのだ、かかりつけの医師は、マドリッドの専門家に見せたほうが良いと考えた。メディナは首都まで224kmの距離を、時たま足を休めただけで、4日4晩かけて歩き通した。そして、信じられない顔をしている医者たちに話をしたのである。厳格なテストの結果、彼の話は完全に裏付けられた。どうしても彼を眠らせられないと知った医者たちは、お互いに当惑を打ち明けた後、彼に帰りの汽車賃を払ってやっている。

●食事をしない人

睡眠と同様に、生きていくためには何か食べる必要があると思うのが普通

である。しかし、かなりの期間、何も食わずに生きていた人たちがいる。ロジャー・ペーコン(1214~194)が名付けた「ノーウィッチの女性」は20年間何ひとつ食わず、健康をそこなうこともなかった。テレサ・ニューマン(1926年没)は、固形物も液体も摂らずに数カ月をすごしている。

●ハリー・フリーデーニ

世界最高の抜けわざ師ハリー・フリーデーニ(1874~1926)は、奇跡としか思えない芸当を行っている。彼の手練があまりにも水際立っていたので、その芸当のいくつかは、たとえ助手を使っても真似できなかったという。フリーデーニを箱にとし込めたり、ロープで縛った者たちは、皆その道の専門家ばかりで、観客から選ばれた素人ではない。彼は独房に閉じ込められたり、手錠をかけられたり、ロープで縛った頑丈な箱に入れられて川の中に投げ込まれたりしたが、1~2時間もしないうちに脱出している。パーミンガムのある職人は、3年間かけて、非常に複雑な錠のついた手錠を工夫したが、その手錠をフリーデーニは90分を外している。

彼の芸当の多くは「不可能」とみなされ、友人のアーサー・コナン・ドイル卿のように逆説的な説明をする者ま



▲アーサー・コナン・ドイル



▲ハリ・フーディーニ

●空中を浮揚する人

空中浮揚については、世界中の宗教

で現れた。フーディーニは本物の超能力者だというもので、彼の抜けわざは「非物質化」してから別の場所へ「物質化」したとしか解釈できないとした。こうした超常的現象を信じたのはドイルにとどまらない。フーディーニ自身も神秘主義に深い関心を持って真面目に取り組み、インチキ霊媒をあばくのを楽しみにしていた。

文献に数多くの記録が残っている。これらの奇跡はすべて聖者だからできたとしており、重力が一時的に減ったためだと主張する者はいなかったようだ。文献に残る記録のうち、最も真びょう性の高いのはコベルティの聖ヨセフ（1663年没）の場合である。ある日、彼がお祈りをしていると、身



▲笑顔を浮かべて熱した石炭の上を歩くヒンズー教の行者

体が地面から浮かび上がった。この時から、彼はしばしば空中浮揚を体験している。恍惚状態になって、高さ4・5mの説教壇まで浮かび上がったこともある。他の者たちが引き止めようとする、彼らも一緒に浮揚したという。戸外では梢の高さまで浮揚し、てっぺんの細い枝にとまっても、体重で枝が

しなうことはなかった。彼の空中浮揚は、哲学者のライブニッツをはじめとして、多数の名士が目撃している。

●人間、このSF的存在

19世紀ドイツの物理学者ヘルマン・フォン・ヘルムホルツは、「単に自分の目で見ただけでは、どんな異常な現象も受け入れる気はない」と語っている。しかし少し前から、五感による証言はカメラやテープレコーダー、X線装置、その他の科学装置によって補強された。そして、ある種の「奇跡」が現実起きるといふことは、ほとんど疑いの余地がなくなっている。問題はそれをどう説明するかで、今日では観察よりも解釈が問題の核心である。

アメリカ人の怪奇現象研究家、チャールズ・ホイ・フォート（1874～1932）は、科学というのは、生い茂る密林の中に建造された近代的なハイウェイをつつ走る自動車のようなものだとしている。両側に繰り広げられる魅惑的な眺めに、ドライバーはほとんど注意を払っていないのだ。しかしその後、科学も関心を高めるようになってきて、物理学と形而上学、事実と虚構とは、いくつかの点で接触を持つようになっている。人間、このSF的ともいえる存在の能力については、まだまだ学ぶべきことが無数にある。

超常世界への挑戦

シリーズ
全12巻

A New Library of the Supernatural

監修 コリン・ウィルソン

クリストファー・エバンズ

学習研究社・刊 (各980円)

現代科学では説明しえない、したがつてわれわれにとつては、いまのところ謎であり、どう考えても不可解・不思議としかいいようのない現象は、確実にこの世に存在する。その不思議な世界に12の光をあてて現代の謎の全貌に肉迫しようとするシリーズ「超常世界への挑戦」全12巻の日本語版が、このたび完結をみた。ざっと各巻のタイトルを一瞥しただけでも、このシリーズが現代の謎をあますところなく伝えていくことがわかるが、同時に、われわれがいかに多くの謎に包まれて毎日を暮らしているか、改めて驚かないわけにはいかない。この謎のうちのいくつかが解明されて、未知から既知の現象へと変わる日がいずれやってくるのだから、読者であるわれわれが生きているあいだにその現場に立ち合えるのかどうか、あるいはこの多くの謎のうちのいずれが人間には解き得ない永遠の謎として残るのか、読みすすんでいくうちにあらたな興味が湧いてくる。今世紀最高の予言者エドガー・エイシーの幻視をもとにした「西暦2000年、地球大破壊」のすばらしいカラーイラストに接したりしているうちに、読者はいつのまにか不思議な世界のただなかにいる自分を発見し、今までなんとなく見過ごしていた現代世界が、まったく新しい視野と様相をともなつて展開しはじめるのを、認めないわけにはいかなくなる。読者の心を、より開かれたものに拡大せずにはおか

ない契機と迫力に満ちたシリーズといえよう。オールカラーの鮮明な写真やイラストがふんだんに入れられ、一流の、比較的若い作家、ジャーナリストなどの執筆陣による各巻のテーマの掘り下げも深く、加えられた新事実・新資料も豊富である。興味本位を避けて、きわめてまじめに編集された全12巻は、訳文も親切で読みやすく、これから「超常世界」に挑戦してみようという初心者のみならず、すでに探求の道なかにいる人にとつても、見逃せない刊行であることは間違いない。各巻の構成とテーマを次に紹介しておく。

① 驚異の超能力者たち (コリン・ウィルソン著/木村一郎訳) ロシア皇帝に多大の影響を及ぼした怪僧ラスプーチン、世界文学の傑作を生んだフアウストをはじめクロウゼット、フルコス、ユリー・ゲラーなどの持つ超能力にまんべんなく検討を加え、自然界を自分の意のままに支配し、見えぬものを見たり、周囲の人を催眠状態へと導く能力の源泉を探っている。

② 戦慄の怪奇人間 (ダニエル・フアソン著/三好章六・三上泰永共訳) 吸血鬼に関する根強い信仰をささえるものは何か、ハイチに出没する死霊ゾンビの信仰を生んだものは何か——人間の潜在意識のいかなる暗い面からこれらの恐ろしいイメージが描きだされたのか、その疑問をたどることによってフイクションの裏側に秘められた真実をあばこうとする。

③ ネットンと雪男 (アンガス・ホール著/桐谷四郎訳) 今日、世界の動物の秘密がすべて解明されたと言いつける学者は少ない。このことは、少数でも有史以前の動物がどこか人跡未踏の地に生き残り、今なお生存していることを示唆する。われわれにとつて先般のニューネットン騒動はまだ記憶に

新しい。ホールはこの魅力的な問題に対して驚くべき結論を呈示する。

④ 幽霊とポルターガイスト (フランク・スミス著/安田洋平訳) 幽霊になりうる無生物や動物、さらに幻の軍隊、一族の幽霊、泣き叫ぶペンシー、巨大な黒猫などを紹介し、幽霊に関する各種の理論と背景を注意深く吟味する。そして科学者たちを悩ませ続けているポルターガイストにも一章を割いている。なかでも図版入りの幽霊狩りのテクニクは興味深い。

⑤ 心霊の世界 (ロイ・ステマン著/楠田順訳) 人間は死後どうなるのか、霊もいつしよに滅びるのだろうか、それとも霊は生き続けて実際に生者と交信するのか? “かなた”との交信を証拠づける実話やエピソードを軸に考察をすすめてゆく。

⑥ 大予言と謎 (アンガス・ホール著/船戸英夫訳) 予知的な夢、易、占星術、手相見、親相学、水晶占い、タロットなどの紹介は勿論、ノストラダムス、エドガー・ケイシーなど予言者や、的中した予言の実例も数多く取り上げてある。圧巻は、今とときめく予言者ジョン・ディクソンの予言だ。

⑦ 魔術と占いの神秘 (スチュアート・ホルロイド著/小野協一訳) 自分の欲しいものを手に入れる力、したいことをする力、あるいは他人を支配する力さえ人間は持ちたがる。人々はそのような力を魔術の儀式や呪文に求めた。いったい、自然の法則以外に何か特別のすばらしい力を獲得するのに利用できるすばらしいのだからか。

⑧ 宇宙よりの来訪者 (ロイ・ステマン著/久保田八郎訳) 第二次大戦終了直後、急にふたえた空飛ぶ円盤の目撃報告の紹介をはじめ軍や政府の調査結果、さらにデニケンの説、地球外生物とのコンタクト物語にいたるまであら

ゆるUFO問題の歴史を、公平な見地から検討している。豊富な写真やイラストのなかに今後のUFO研究に欠くことのできない貴重なものが多い。

⑨ 神秘と怪奇 (コリン・ウィルソン著/安田洋平訳) 世界のしくみを見事に解明した現代の科学によつても、未解決の問題は数多くある。例えば時間や空間についてわれわれはすべてを知っているだろうか、五次元や、さらにその上の次元があるのではないか? オカルトに関する高名な作家である著者が、不可解な謎の事件を広く各方面から集めて検討を加えている。

⑩ テレパシーと念力 (スチュアート・ホルロイド著/桐谷四郎訳) 人間の心は五感を超えて働くという考え方は、科学的に探求することはこれまでになかった。本書は、奇妙な迂曲折をたどりながらそれを探求していった人々の物語である。

⑪ 魔女の恐怖 (ジェレミー・キング著/船戸英夫訳) 妖術の起源にさかのぼり黒魔術と白魔術の違いを明らかにし、魔女と魔女弾劾者の両者の心理にメスを入れ、15世紀から17世紀に至る残忍な魔女迫害の歴史の跡をたどる。その後で著者は、現在なぜ妖術が人々の関心と呼び、盛んなぜたかについて興味深い結論を引きだす。

⑫ 謎の大陸 (ロイ・ステマン著/小野協一訳) アトランチスは「よりよい、より幸福な世界に対するわれわれのノスタルジア」に訴える心のなかだけの理想の大陸にすぎないのか? 考古学者やさまざまな分野の学者、オカルティストたちが、アトランチスのありかを捜し続けてきたが、こうした人たちの長い探索の物語を主題に今日のなスリリングな説にメスを入れる。(各巻144ページ、オールカラー)

海外・国内・海外・国内・海外・国内・海外・国内・海外

エニグマ情報

国内・海外・国内・海外・国内・海外・国内・海外・国内・海外



ポーテン湖上にUFO出現
青年を襲う?

「ドイツ」襲われたと主張している青年は、ドイツ国鉄職員ローター(26)。目下、家宅侵入の罪で警察の取り調べを受けている。

ランゲンアルゲンに住む、ローター青年と、知り合いの飲食店主ルディさん(52)の2人は3月上旬真夜中に帰宅途中、ポーテン湖(ドイツとスイスの国境にある湖)上空に、2個の輝く光体を目撃した。

「それは、放射器のようなものを4つ備えていました。よく通る笛の音といったらいいのか、ハチの羽音といたらいいか、ブーンという音を発っていました。しばらくして、2つの発光体は消えてしまいました」

飲食店主ルディさんは、あわてて家へ帰るなり、ドアの鍵を閉めてしまった。

ローター青年も急いで帰ろうと

したが

「またUFOが現れたんです。形はわかりませんが、発光があまりにも強烈だったからです。それらはポーテン湖上50mにいました」

彼はさらに話を続けて、「その2個の光体が私に襲いかかってきたんです。攻撃される、と思います。もうびっくりして——」と語る。

ローター青年はルディさんの家へ逃げたが、あいにくドアには鍵がかかっていたので、ともしない。動転している彼は、無我夢中で隣家のガラス窓をたたき割り、中に侵入して廊下に身を隠した。

「すると突然、『ざらつく太陽』が消えてしまったんです」

飲食店主ルディさんも、この信じられぬような話を保証して、「私も寝室から一部始終を見ていました」と証言している。

ルディさんの妻や付近の住人はUFOの攻撃には全く気がつかなかったという。夫人は警察に、UFOは目撃していないと前置きした上で、「家の前で男が騒ぎまして、隣のガラス窓を打ち破って中に入るのを見ました」といっている。

出動した警官たちは、このUFOがらみの家宅侵入事件に、いつ

もと勝手が違つてとまどいがち。

ローター青年とルディさんは、ランゲンアルゲンやその周辺にはUFOを目撃した人が他にもはらず、と主張している。いまのところ、目撃者はまだ、警察に出頭していない。

ワインの飲みすぎ、という巷の声に、二人は渋い顔。

「UFOについては専門家にだけ詳細に語るつもりです」とローター青年は語っている。UFOはもう一度現れるだろうか……?

UFOの謎の半分を扱った新著「自覚の前兆」

「イギリス」ロンドンの南西、サリー郡のアドルストーンでカイロプラクティック(脊椎矯正)の診療所を開いているデービッド・タンズリー氏は、「自覚の前兆」というUFOに関する書物を出版した。

この本はUFOを心霊的な側面から分析したのだが、といて彼がUFOを見たこともないというわけではない。夜間に2度、曳光弾のような移動する光を目撃しているし、リーダーで捕らえたこともあるという。

彼の著書ではリーダー目撃だけが述べられているが、これは1957年のことである。当時彼は英国空軍の防空隊員としてドイツに配属されていた。

「リーダー・スクリーンにブリッブ(光点)が現れ、イギリス海峡を越えて北海へ向かったのです。時速は推定3200km。警報ボタンが押され、この未知の航空機を

迎撃するためジェット戦闘機が緊急発進しました。

もちろん、ジェット機は追いつくことができません。基地に帰投した時は光点は消えていました。パニックがおさまってから、リーダーの故障であるという公式発表がありました。でも翌日の新聞報道によると、イギリス東海岸全域のリーダー基地で不思議な故障が発生していたのです。UFOの可能性を認めようとするものはだれもいませんでした」

タンズリー氏は、彼の著書がUFOの謎の半分(心霊現象)しか扱っていないので、この次には地球外生命体の存在と、それが宇宙船で地球を訪問しているということについて取り扱いたいと考えている。

「現在、人々は絶えずUFOを目撃しているので、彼らがUFOについて理解を深めるのに私の新著が何らかの役に立てばと願っています」

彼はNASAが撮影した14万枚にのぼる月の写真の多くに奇妙な形状が写っており、NASA自身がそれを未確認物体と呼んでいるという事実を指摘している。

IAA広く情報交換を求む

「ドイツ」現在、西ベルリンには宇宙空間の探究のための青年の組織、インナー・アウサー・アルパイングループ(内外労働組織)、略してIAAがある。15歳の若者2人が設立。この組織は今後、愛好家同士の情報交換、相互交流に大いに役立ちそう。

彼らの呼びかけは次のとおり。

「私たちは、一般の人々の宇宙旅行、地球外生物存在の可能性、超心理学の諸問題及び、過去と現在における知的生物存在の可能性などを追求しています。パミューダ三角形とアトランティス問題にも大いに関心があります。世界の愛好家の方々と広く情報交換を望んでいます」

関心のある方は左記住所へ。
Hartmut Kluge IAA
Weserstra Bebl
1000 Berlin 44

ぐるぐる回る

白くて丸い物体を見ました

「イギリス」7月6日の朝、ロンドンのパーキング・アベール・スタイルの女生徒2名が、空中に不思議な物体を1時間以上にわたって目撃した。

「見たのは私たちだけじゃないんです」とデブラ・オブライエンちゃん(13歳)は言う。

「ガラスの他の者と先生も見たんですが、気にとめなかったんです。私は別にこわくありませんでした。その物体は、飛行機が来ると雲のうしろに隠れるようでした」

彼女と一緒に校庭でデニスをしていたキャサリン・オークレーちゃん(12歳)は、そのUFOを形容して

「白い色をした丸い物体で、上が突き出ていました。ぐるぐる回って、一度などは逆さまになりました。だから頂部に銀色っぽく見えるのがわかったんです。飛行機よりずっと小さいんですが、気球やタコではありません」

最初は幻だと思いましたが

〔イギリス〕 7月の下旬、ウォットン・パセット・スクールの生徒数名が、奇妙な物体を空中に目撃した。

彼らは最初、だれにも話さないつもりだったが、スター先生にちょっと打ち明けたところ、先生が非常に興味を示したため新聞に報道されることになった。

目撃者は、14歳のジュリアンとニールのホランド兄弟（双子である）、それに友人のテリー・エドワーズ君。彼らは7月10日の午後9時30分頃、ショー・ロードでのUFOを目撃した。

「最初は、まぼろしだと思いましたが、でも、他の2人にも見えるのです。僕たちは数分間にわたってじっくりと観察しました」

物体は長い尾をひいた「輝く光点」のようだった。はじめ真つすぐ上昇し、それから水平飛行に移ったが、その時に尾は消えてしまった。

「物体は一度消えてしまったんです。それから再び戻ってきましたが、今度はもっと大きくて明るく輝き、尾はありませんでした。すこし静止した後、猛スピードで去っていきました」

これより以前、7月7日の夜にやはり同校の生徒アンドリュー・マクドナルド君（14歳）がUFOを目撃している。彼は同日の午後7時半、双眼鏡で飛行機を観察していたのである。

「僕は、2つの楕円形をした物体がスーッと空中をよぎって消える

のを見ました。その間、30秒たらずです。何だか見当もつきませんでした」と彼は語っている。

ドライブ中に息子と2人

で葉巻型物体を目撃

〔イギリス〕 7月12日の真昼間、テイスデールに未確認飛行物体が出現。目撃者のビジネスマンは気がいが扱いされることを恐れて名前を伏せている。

この人はミドルトン・イン・テイスデールの住人だが、その村から10kmほどウェアデール寄りの地点でUFOを目撃した。「最初に見つけたのは10歳になる息子です。私たちはその日の午前10時頃、ニューキャッスルへ向けてドライブ中でした。

葉巻を入れる容器のような形をしていて、金属色でしたが、飛行機よりも小型でした。

私の推定では800mほど離れていて、とても低い高度をかなりゆっくり移動していました」

飛行船だろうか。明らかにちがう。飛行船はそれほど低く飛ばない。それに、彼の見た物体にはエンジンやマーカーなどが何も見あたらなかった。今でも飛行船は時々見られるが、それには広告がついているものである。

「ともかく、数日前に飛行船を見ているのですが、それは全く異なっていました」

だが、なんといいっても不思議なのは、そのUFOが突然消えてしまったことである。

「私はUFOと道路の両方に注意しなければなりません。でも息子はじっと物体を注視してい

たのです。彼は、一瞬のうちに消えてしまったと言っています」

彼は自分の体験を、UFO研究団体「トライイス」のブライアン・ストリート氏に報告した。このことから、目撃者の氏名を伏せてこのUFO目撃事件が公表されたものである。

保安官補が見た謎の光体

〔アメリカ〕 7月21日の早朝、テキサス州ヒューストン近郊、ポーターの上空を、きわめて明るい強烈な光がよぎって消えた。

「形や大きさはわかりませんでした。たった4つの、強烈な光だけです。暗くなったり、ものすごく明るくなったりしました」

モントゴメリー郡の保安官補ジョン・ブルナー（43歳）はこう語る。彼は空軍で4年間ヘリコプターの整備点検に携わっていたので航空機についてはまんざら素人ではない。

「きわめて異常なものでした。気球やヘリコプターとはどうい考えられませんか」

この不思議な光体の目撃者は他にもおり、コンローの保安官事務所、エリントン空軍基地、それにハリス郡の保安官事務所にも報告が寄せられている。

しかし、エリントン基地、ウィリアム・P・ホビー空港、ヒューストン国際空港などでは、レーダーにはなんらの飛行物体も捕らえられなかったと発表している。

ブルナーと同僚のジョン・クラー保安官補がこの謎めいた体験をしたのは、21日の午前5時頃

である。モントゴメリー郡の南西部にあたるフォード・ロードの近くでこの光体を目撃した。

2人が光体を目撃したのは、パトローカーの照射灯をそちらの方角へ向ける数分前だった。

「物体はほぼ10度東を私の方向に移動しました。仰角45度あたりのところにしばらくとどまっていたところから西へ10度動き、小北斗星と一線にならびました」

物体は雲間に消え去るまで、40分間静止していたという。

ハリス郡ではヘリコプターを急行させ、またヒュース・カメラマンも同地域へ飛んだが、彼らが着いた時にはUFOは消えてしまっていた。

ソールズベリ平原はUFOの名所なのか

〔イギリス〕 ソールズベリ平原は、いまだにUFOの名所らしい。7月の末にも2件の目撃報告が届けられている。

UFOがどの場合も同一のものかどうかは不明だが、6人の子供と57歳の老婦人が7月24日にシェルトンで目撃したものときわめてよく似ているようだ。

シェルトンのファービュー・ロードで遊んでいた子供らが「輝く黄金色の円盤状物体」を目撃した次の日、スコットランド人のジョン・コーワン氏はウイントン・ガナーの自宅の窓から外を眺めていた。

北西の方角に目をやっていたコーワン氏は、地平線のあたりに突然現れた物体を見つけて、半ば冗談で妻のバトリシアさんに呼びか

けた。「来てごらん。空飛ぶ円盤が見えるよ」

午後9時頃の出来事である。「その物体は短い光の帯のようでした。幅は夕陽の半分ぐらいでした。地平線から45度ほど傾き、左側が下がって右側が上がっていました。そして左から右へと非常にゆっくりと動いていました。

妻はその物体がやや上昇していたようだと言っています。数秒間薄い雲の背後に姿を隠し、再び出現しました。それから、もっと厚い雲の背後に消えてしまいました。そうですけれど、できることから消えてしまおうジェット機の飛行機雲という形容が一番ぴったりするでしょう」

コーワン氏は、その物体が飛行機やヘリコプターではないとあからさまには言わないが、とても奇妙だということは認めている。「一番奇妙なのは、とてもゆっくり動いていたことです。もしあれほど明るい光を出していなかったら、気球だと納得するのですが」

その翌日（7月26日）、ダリントンのストーンヘンジ旅館付近でドライブ中の5人は、3kmかなたのストーンヘンジ上空に浮かんでいるUFOを目撃してびっくり仰天した。

同乗していたのはジョセフ・ミッチェル夫妻と2人の子供、それに友人のロイド・コリンソン氏である。

物体は高度1500mのところから音もなく浮かんでいて、時々上下に揺れ動いた。

ミッチェル氏とコリンソン氏は

車の窓を下ろして首をつき出し、物体をしげしげと観察した。

ミッチェル夫人は次のように語っている。

「本当に驚きました。なにしろこれまで見たこともないものでしたから。明るい黄金色の物体でしたが、あれだけ輝くには、太陽の光を反射させるように表面を磨きあげてあったはずで。」

私たちがその物体を見ていた時間はずいぶんです。突然消えてしまつたのです。

キチガイよばわりされるのがいやで、だれにも言わないつもりだったのですが、新聞で他の人たちが目撃したという記事を読んだので、それなら私たちの話も真面目に扱ってくれるのではないかと考えなおしたのです」

5人の目撃者は、その物体が飛行機やヘリコプター、あるいは気球ではなかつたと口をそろえる。

息子のイアン（14歳）は飛行機を見るのが大好きな少年だが、その物体についてキッパリと語る。

「最初、僕たちは飛行機だと思いましたが、3 kmほど離れていましたから。もっと近づいてみると火球のように見え、そしてついに太陽光線を反射させている金属物体だとわかつたのです」

なお、ソールズベリー地区でのUFOラッシュとして一番最近のもの、1977年の夏に発生している。また、1969年6月と1967年7月にも多数の目撃報告が届けられている。

海軍基地付近に出現したオレンジ色の葉巻型物体

〔イギリス〕7月31日の夜、ポーツマスのミルトン地区に葉巻型UFOが出現した。目撃者はポーチエスターの生徒、アラン・アットフィールド君（15歳）と彼の母親である。

「オレンジ色の葉巻型物体で、最初は空中に静止していたんです。僕が家族を呼びにいらっていると、その物体は一時姿を消しましたが再び出現しました。」

僕はあの物体が、港と海軍基地の写真撮影しているのだからと言つたんです」

母親のアグネスさん（54歳）も「空を明るく照らしていました。赤みがかったオレンジ色で火球のようでしたが、葉巻型をしていたのです。」

とても不思議で信じられないものでした。これまで見たことがないと、はっきり言い切れます」

彼らがその物体を見ていた時間は15分間である。物体は一時、銀色に変わったという。

とうてい星とは思えない奇妙な2つの光体

〔イギリス〕もしUFOを見たら君ならどうするか。こういう書き出しで、ビル・コーク氏が自分のUFO体験を8月2日付けの「イブニング・ガゼット」紙に発表している。

7月31日の午前3時前、コーク氏は自宅のそばのサウスショア、スクワイヤゲート・レーンに駐車していた。

車から降りた時、プロムナードから550 m内陸側に入ったところ、2つの明るく輝く巨大な球形

の光体があるのに気づいた。2つの光体は上下に一直線に並び、上の光体のはうがやや小さいようだった。直径は少なくとも18 m。コーク氏は目撃した場所と角度からは、2つが約60 mほど離れているように見えた。

コーク氏が車でその光体を追いかけても、また逆に逃げ出しても光体は距離を一定に保つよう移動する。彼が止まると光体も止まるといった調子。

コーク氏は、たまたま通りかかったタクシー運転手のデービッド・パトリック氏をつかまえて、その奇怪な光体を指し示した。

運転手もその光体を数度目していたが、明るい星だとはかり思つていたという。

「私がこれまで見たうち、最も奇妙なものです。たしかに、星にしては高度も低すぎず、大きすぎます」

また、休日の行楽客トム・クロウリー氏も2人に呼び止められてこの光体を目撃、同様にびっくりしている。

彼らが2つの光体を見守っていると、さらに不思議なことが起きた。

下側の光体の周囲を、きわめてかすかな緑色の後光がとりまくのがはつきりわかつた。そのすぐ後に、流れ星のようなものが猛烈なスピードで落下してきて、2つの光体の間を水平に横切り、ノースショアの方向へ飛び去った。同時に緑色の後光は消えてしまった。

ブラックプール空港に問い合わせたが返答が得られなかつたのでコーク氏はサウスショア警察に連絡した。

「たしかに異常だし、とても明るくことは認める。だが、あれは星だと思ふ」というのが現場に到着した警官の意見だった。

結局、ブラックプール上空の2つの光体は、4人が目撃したことになる。コーク氏ら3人は、それが星、気球、航空機の着陸灯のいずれでもないことを確信している。警官は星だという説である。

ブラックプール警察では、同日に異常な飛行物体を目撃した報告は他にないと言表している。

はたして星だったのか、それともUFOなのだろうか。

たてつけに2機のUFOが出現

〔イギリス〕8月の初め、マンチエスターの北東にあたるブラッドフォードの上空でUFOが目撃された。

その晩、ウエスト・ボウリングに住むある男性がテレビを見ていたところ、夜空に明るく輝く光を窓越しに発見した。急に外に出てみると、銀色の物体がすぐそばに飛んで南西の方向に飛んでいった。10秒たらずで見えなくなつたという。

その2分後、彼の妻と娘も別のUFOを目撃している。赤と金色の尾をひいていて、急角度で向きを変えたかと思つたと消えてしまつた。

これらの目撃時間は午後9時頃。空は暗れわたつていた。目撃者は飛行機ではありえないと断言している。

この地域では、8月1日にもUFOが目撃されているし、その前の週にも2件報告が寄せられている。ワイタに住むジョン・ネルソン夫人が目撃したのは6個の奇妙な光体で、3時間にわたつて見えつづけた。ネルソン夫人も、その物体が航空機ではなかつたと確信している。

寝室に緑色の腕が出現！

〔イギリス〕8月1日の夜明け前に、ブラッドフォードに住むアン・ドリュー・クロマック君（19歳）は、自宅の寝室でわけのわからぬ不思議な物体を目撃した。それ以来、彼はその寝室で眠ることができなくなつたという。

「まるで空飛ぶ円盤のようなブーンという音が聞こえてきたかと思うと、その音がだんだん大きくなってきたのです。部屋がとても暑くなつてきて、片隅に緑色で青く放電している腕が目に入ったので僕はびっくりして立ちすくんでしまいました。」

その腕から出ている熱は、頭からすっぽり布団をかぶつていても感じられました。とても恐ろしくて声もでませんでした。こうした状態が一晩中続いたのです」

翌朝、彼は母親のポーリン・クロマック夫人との話を聞いた。母親がベッドを見ると、ビッシヨリと濡れていた。

「母は僕の話を見真面目にとらなかつたのですが、2日の新聞にワイタでUFOが目撃されたという記事が載つてから態度が変わつたようです」

灰色に光るナゾの物体
四国上空を飛ぶ

〔徳島〕 3月19日未明、阿南市伊島上空を灰色に光るナゾの物体が飛んだのを島民が目撃「UFOでは」と島の話題になつてゐる。

物体を最初に見つけたのは伊島町瀬戸、漁業神野幸重さん(38)。午前3時過ぎ、用足しに戸外へ出た際、いまにも雨が降り出しそうなくも空を灰色にボーンと光る物が南から西へ飛んでいったのに気づいた。不思議に思つて空を見ていたら、再び現れたので妻の磨理子さん(34)と近所の親類の人も起こして3人を見た。神野さんらは「飛行物体はスーッと飛んで近所の屋根の陰に消えたかと思ふと、まったく違う方向からまた現れる、というように約半時間も飛び交ひ、一時は2個現れた。南から北に飛ぶこともあれば東から西に飛ぶなど飛行コースは一定しなかったが、飛び方は直線的で、かなりのスピードがあつた。遠くでは線のように見えたが、近づいてくると2〜3mの大きさになり、翼のあるように見えた」といつてゐる。

神野さんは鳥や飛行機とは思えない、といつており、カメラを持ち出したもののフィルムが切れていて撮影できなかったのを悔しがつてゐる。

(1977年3月20日付、徳島新聞)

高速で回転する
ソロバン型UFO

〔茨城〕 「UFOを見た!」

まだ夜が明けやらぬ5月21日午前4時ごろ、茨城県石岡市大谷津の石岡警察署官舎で深い眠りについていた同署交通課長 黒羽弘さんは時ならぬ声に叩き起こされた。声の主は部下の交通課員の永峯栄一さんだつた。

「UFOだと…何を寝ぼけてやがる」。黒羽さんはねむい目をこすりながら、庭に降りていった。すると、まだ薄暗い東の空にわずかだが、白い光を放ちながらゆっくりと移動する物体が目にとまつた。この騒ぎで、家族らも目をさまし、黒羽さんら5人はちょうど小川町上空あたりに位置する物体を見ていた。

「そうだ望遠鏡があつた」。黒羽さんは家の中から望遠鏡を取り出し、その物体に照準を合わせた。ソロバン玉のような形状をした物体だつた。60度ぐらい斜めに傾いて、高速で回転しているのが見えた。さらにそのあとに寄りそうようについたピンクの円盤の姿も見えた。

この「飛行」は30分ぐらいいつて、やがて見えなくなつた。「UFOなんて信じてなかつた。見えたにしても目の錯覚ぐらいに考えてた」と黒羽さんはいふ。

一方、この話を学園都市の筑波宇宙センターに問い合わせると、「おかしな物体ですね、ただUFOというのはい…」という。宇宙センターの話と総合すると「明け方とか夕方というのは太陽光線の屈折の変化が大きく、よくUFOと間違えられる物体が出てくる。考えられるのは①飛行機(移動の速度が速うのは東方向に飛行中と

考えられる)②トタン板などの浮遊物(風が強いと起こりやすい)③ラジコンなど」だといふ。

福島市の小学校に
「UFOクラブ」誕生

〔福島〕 夜空に目をこらして、空飛ぶ円盤を探し求める……。小学校に世相のブームに乗つたクラブ活動が登場した。それは福島市の清水小の「UFOクラブ」。このクラブでは、子供たちの方が先生よりも知識が豊富で、かえつて先生が教えられることもたびたびだ。「自分の興味を持ったものに打ち込むのは教育上、大いに役立つ」と先生たちは評価、教育効果をあげてゐる。

清水小の「UFOクラブ」はこの4月誕生した。ことしの1月、同小で5、6年生を対象に「どんなクラブがあれがいいか」を調査したところ、490人のうち51人が「UFOクラブ」と答えたため、阿部護郎先生と菊地あつ子先生が顧問となつてスタートした。

現在部員は5年生18人、6年生9人の27人。このうち半数以上の15人が、謎の物体UFOを見たという。ほとんどの部員がUFOに関する雑誌や写真集を買い、それぞれ、研究中だ。入部の動機はテレビのUFO特集を見て「面白かつたので」といふ。興味半分組」と、部長に選ばれた6年・鈴木由美さんのように「UFOの存在を自分の目で確かめたい」といふ、真理追求組」と

に分かれる。しかし全員がUFOの存在を信じており、毎晩外に出て円盤は飛んでいないかと空を仰いだり、ラジオを聴いていて変な雑音が入ると外へ飛び出し空を見上げ、あこがれの「空飛ぶ円盤」を見ようと思ふ。

この「UFOクラブ」が出来て子供たちは張り切つてゐるが、顧問の阿部、菊地両先生はちよびびり頭が痛い。それまでUFOなんかあまり興味がなかつた両先生は、にわか勉強したものの子供たちにはかなわないといふ。副部長の5年・堀江昭磨君が「UFOとは、飛行機や気球、流れ星などとは違い、W形やせん状の飛行をする合金製の物体で、夜になると速さによつて円盤の色が変わります。UFOのエンジンは重力場エンジンだと思われ、アダムスキー型や葉巻型の円盤があります」と逆に講義もしたりする。

阿部先生は「顧問に決まつてからUFOに関する本を4〜5冊買ひ込み勉強し、ようやく生徒たちに追いついたところです。これからは子供たちと一緒に観察や情報交換をしながら資料を集め、最後には、UFOを作ろうと思つていきます」と話している。

(1977年6月13日付、福島民報)

京都レザリアムセンターで
「UFO展」開かれる

〔京都〕 現実と空想の境界線を飛行するUFO(未確認飛行物体)。夏はUFOをキャッチする絶好の機会!と、7月7日から(8月21日まで)、京都市中京区のKBS

レザリアムセンターでUFOの模型やパネルを集めて、「UFO展」が開催された。

今年には、UFOが発見されてから30年にあたるか。日本をはじめ、世界各地で数多くの目撃例があり、同展はこれらの証言からUFOを分析しようといふもの。有名なアダムスキー型UFOをはじめ、皿型、球型、ラグビーボール型と、いろいろなUFO、アダムスキーの証言録、UFO目撃史、古代遺跡とUFOとの関係などが約120点の模型とパネルで紹介されている。

よく知られてゐるアダムスキー型UFOの模型は直径60cm。アダムスキーの証言から月面を飛行中の状態で展示してあり、ファンを喜ばせていた。また、京大UFO研の協力で、京都でのUFO目撃例も紹介されていた。

オレンジ色に輝く物体が
西から東へ移動

〔千葉〕 千葉県船橋市の住宅地に時ならぬUFO(未確認飛行物体)騒ぎが持ちあがり、夏の夜の話題になつてゐる。

UFOを目撃したのは同市馬込沢727、自営業 藤井克育さん(29)。1ヵ月前(7月)と1週間前(7月29日)、さらに8月3日の3回に渡つてオレンジ色に輝く物体が西から東の空へ移動するのを目撃した。

藤井さんの妻、両親、子どもたちも目撃していたが「他人に話しても笑われるだけ」としばらくの

間。部外秘」にしていた。

最近になって知人にふと見られたところ「それなら私も見た」「私も……」と名乗り出る人が続出。

UFOはただ飛び回るだけでなく、空中で停止するなどさまざまな動きをするという。「他の星からの円盤だ」「気球か流星を見たのだから」という憶測から「馬込霊園から飛んできた火の玉ではないか」などという「意見」まで出て、ふだんは静かな住宅街はちょっとした騒ぎになっている。

(1977年8月5日付、千葉日報)

百貨店屋上で「UFO観劇会」

〔東京〕UFO(未確認飛行物体)は実在するのかもしれないか。

「多数の人が同時に見たら、真 가능성이高まる」と8月5日夜、東京・渋谷の東急百貨店本店屋上で「UFO」観劇会が開かれた。

参加したのは「UFOは電磁波を出すので、近づくラジオに雑音が入るはず」と、トランジスタラジオを離さない中学生から「一昨年、京都でUFOを見てからとりつかれ、毎晩2〜3時間、2人で空を見ている」若夫婦まで約60人。「ロマンがあるしね」といいながら、主催者側の用意した天体望遠鏡をかわるがわるのぞき込んだ。

テレビシーでUFOを呼んだことがあるという。超能力者が念じたが、UFOは現れず、真夏の夜の夢に終わった。

(1977年8月6日付、毎日新聞)

月面上空に浮かぶUFO!?



▲写真④ 17時45分撮影。

1977年2月10日(水曜日)、当時、船橋市立高根台中学校3年で天文に興味をもっていた私は、その日の夕方に月食が起るのを知り、観測するために学校が終るとすぐ自宅にもどった。

千葉県船橋市・梅田勝己

急いで天体望遠鏡を組み立ててカメラを用意するが、月は東の空に出るので、西と南の方角しか見えない自宅からは観測できない。そこで望遠鏡とカメラを持ち、東の空がよく見えるところを探しに外へ出ることにした。

しばらく歩いているうちに、よい場所が見つかった。近くの団地の5階の階段おどり場で、ここからは月がよく見える。さっそく望遠鏡を置き、カメラをセットした。時間はすでに17時40分をすぎている。

●誠文堂新光社刊「天文ガイド」『天文年鑑』によると2月10日の「月食の時刻」は次のとおり。

半影月食開始	13時39分
月食開始	14時52・7分
皆き月食開始	16時03・8分
月食最大	16時45・3分
皆き月食終了	17時26・8分
月食終了	18時37・9分
半影月食終了	19時52分



▲写真③ 1971年2月10日17時50分撮影。1秒露光。肉眼では上下逆に見える。

▲写真② 17時50分撮影。

●撮影データ●場所/船橋市高根台団地179号棟4階と5階との間のおどり場●天体望遠鏡/五藤光学製、6・5cm屈折赤道鏡、f=1100mm、F#15●4、直接焦点法で撮影●カメラ/アサヒペンタックスSPフィルム/フジネオパンス

ただし「この日の日本における月出は……(中略)……東京では17時14分……(中略)……したがって日本では、だいたい皆き月食が終わる前後に月が上がつてくることになる」という。

17時42分に初めてシャッターを切った。露出が全くわからないので、1秒、1/2秒と2種類のシャッタースピードで撮影する。次にシャッターを押したのが17時45分。やはり1秒と1/2秒(写真④)で撮影するが、問題の写真(③)は、そのあと17時50分ちょうどに1秒露光で写した(ただし時間は、腕時計を見ながら計ったので誤差5〜10秒あり)。

写真③は、④を撮影したあとフィルムを巻き、シャッターダイヤルを1/2に動かし、ファインダーをのぞいて確認して写したものである。観劇後、フィルムを写真屋に出すが、もどってきたプリントを見て驚いた。月を撮影した37カットのうち1枚に、得体の知れないものが写っているのだ。よく見るとそれは月の上空に浮かび、月の表面に影を落としている。その瞬間「UFOだ!」と思った。

後日、違う場所でも観測をしていた友人にそのことを言うが、彼は「そのようなものは見なかったという」。



死者からの声か？ 電子音声現象の謎を探る

〔イギリス〕 科学者たちが死者からの信号ではないかと考えている謎の無線信号が、イタリアで開催予定の国際会議のテーマとして取り上げられるという。

このメッセージはEVP（電子音声現象）として知られ、数年前から多くの科学者や関心を持つ人々によって録音されている。基本的な録音方法は、めったに使われていない無線周波数を探し出して、高感度の無線機で聴くというものである。

こうした音声は、しばしば数カ国の言葉を話し、1つの文章の中に3から4カ国の言語がごたごたになっっている。最初はしばしば混乱した言葉に思えるが、ある1カ国語に翻訳すると普通は明りょうなメッセージが得られる。

音調は様々で、耳ざわりな声、男性的な声、ある専門家がコンピュータの音ではないかと言った軟口蓋音から、耳ざわりの良い女

性の声にまで及んでいる。そのうちのいくつかは、死んだ人の声だとはっきり確認されたという。

ブドリントン・グロンのイーストコートに住むレイモンド・キャス氏は数年前からこのテーマに積極的に取り組んでいる。テープにおさまられた彼のコレクションはほぼ2500人分の音声に到している。このほとんどは普通のラジオから標準型カセットに収録したものである。

イギリスではこのテーマについてはほとんど研究が行われていない。国際的に活躍している専門家はアメリカ人とドイツ人で、彼らの国では多数の科学者が研究に携わっている。キャス氏はイギリスにおけるEVP研究の第一人者である。「この問題は、死者からの声といったセンセーショナルな取り扱いをすべきではありません。それほど単純ではないからです」とキャス氏は語る。

「基本的には、5つの説明が考えられています。第一は、宇宙人が探査器を我々の太陽系に、駐めて我々の無線信号を傍受している、彼らがその信号を送り返しているというものです。メッセージの多くを聞いてみると、我々の様々な言語をうまく選び出したと思っっているのがその実、意味を適確につかんでいないだけが進んでいっているように思えるのです。」

他の人々は、それが別次元から来ると信じています。例えば、電波のエネルギーを利用して、死者の次元から送られてくるといったようにです。別の意見としては、単に混乱させることを意図したソ

連の心理戦争だというのがあります。いくらかの科学者は、実験者自身の下意識が信号に影響を及ぼしているのではないかと示唆しています。そしてもちろんですが、わるふざけ以外の何物でもない主張する人たちがいます。」

キャス氏はこの最後の説明をはねつける。彼はテープを世界中の研究グループに送っている。

「これらの音声はわるふざけではありません。その背後になんらかの知性が存在していることは明らかです。偶然に起きたというものではありません。」

この種のわるふざけを国際的規模で長期間に渡って続けられる可能性はきわめてわずかです。私はBBCの専門家に確認をとりましたが、こうした通信にはばく大な費用がかかるとのことでした。」

EVPの研究ではよりトップクラスの人のビクター・ベンダー博士がいます。ケンブリッジの学寮長から出版社の社長になった人である。彼は1970年以来EVPの録音と研究に熱中しており、彼自身は学究的な心理学者である。

「私は現実主義者ですから、この問題でいまいちなごまかしにおちいれることはありません。2年前までは、無線信号は死んだ人からのものと信じていました。これらの声が死者のものとはっきり確認されたからです。」

その後いくつかの事件が起きたため、彼は自説を考え直した。しかし「霊声」説にも可能性があると、いまだに考えている。「こうした声はどこから来るにしても、人間の心が触媒の働きをし

ていると確信しています。それが現在私が信じているように下意識から来るのか、それとも別のところから来るのかわかりませんが、私は絶えず批判的態度をとり、具体的な証拠を求めています。電子音声現象については、その声によびかけることはできませんが、その音声を識別できるような状況証拠は得られません。音声はどこから来るにしろ、現象は現象として存在しています。私たちの現在の科学知識を越えたものだというところから、その現象は超常的だといえます。」

幽霊ではなくポルター ガイストだった

〔アメリカ〕 自分たちの借りている家に幽霊が出る。こう思うようになったメンフィス州立大学の女子大生2人は、エバレット・サッター博士に助言を求めている。

サッター博士は同大学の心理学教授だが、以前から超常現象に深い関心を寄せ、大学の生涯教育コースで超心理学を教えているというのでしばしばこの種の相談を持ちかけられている。

数名の人と一緒に現場を訪れた博士は、その家に出没するのは幽霊ではなくポルターガイストだろうという。博士によると、幽霊は特定の場所に現れるが、ポルターガイストは場所ではなく人に関係しているのだそうである。

レの水洗タンクから水が突如として溢れ出る。食器戸棚の引き出しごとび出して床に音をたてて落ちこちる。ドアのカーテンが無茶苦茶にひるがえる。夜中に広間を歩き回るかすかな足音がする。とりわけ奇妙だったのは、カーペットを洗っていた時のことである。

「本を全部ベッドの上に積み上げてカーペットを洗い、乾くまで外出していたのです。戻ってみると本はベッドから落ちて床中にちらばっていました。」

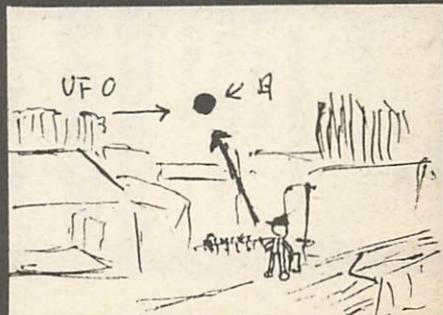
サッター博士と同行した人たちの中には工学部の学生もいた。彼は工具と懐中電灯を持ち込み、床下を検査してみたが、この家がコンクリート・スラブの上にて建てられていると知って驚いている。これでは、板がゆるんで音をたてるといったことが考えられないからである。

「私と一緒にいった人たちで、この家に何かあると感じた者はだれもいません。といっても誤解しないでください。私としては、女子大生たちが言ったとおりのことが起きたと信じています。女子大生のうちの1人の精神的エネルギーが蓄えられていて、知らず知らずこうした現象をひき起こしたのだらうと考えられます。ポルターガイストはこういう風に働きます。」

サッター博士の説明で家に幽霊がついているのではないとわかり、彼女たちはホッとしました。だが彼女たちの1人は、賃借契約が切れ次第、家から出ていきたいと言っている。

UFOか 人工衛星のかけらか!?

1977年10月26日夕方、北海道南部から東北、北関東、関西にかけて日本列島上空を明るいオレンジ色の物体が飛び、各地で目撃者が続出した。この写真は、同夜5時40分ごろ、茨城県勝田市・勝田第2中学校2年の佐藤浩一くん(14)が学校の体育館わきから撮影、翌27日朝7時のNHKニュースで紹介されたもの(大きく光っているのは月で、上が謎の物体)。佐藤くんによると、物体は突然校舎上空に現れ、北から東に飛びながら無数に分裂したあと、月の近くを横切って消えたという。目撃時間は約10秒。同時目撃者は同級生の西岡くん、矢代くんら数名。なお佐藤くんはこの日、友達がいるプラスバンドを撮影するために父親の喜蔵(きぞう)さんのカメラを学校に持って来ている。カメラ=ペトリフトII / レンズ=ペトリ55mm F1.8、/ ネオパンSSS



▲佐藤くんが描いた現場の様子。

UFO 目撃 レポート

●中央が強く光り、周辺が赤色の奇妙な球体が2機、南から北へ一直線に
 ・大学2年 新居 敏彦

★目撃日時 1974年8月19日、午後7時20分頃。

★目撃地点 自宅付近の野原。

★天候 晴れ。

★同時目撃者 なし。

★観測機器・方法 肉眼、ならびにカメラ。カメラはオリンパスOM-1。

★飛行状態その他 その日、何となく窓から外を見ると、妙な物体が2機、飛んでいるのを発見した。それは真ん中が強く光っており、周辺が赤色の、少し歪んだ球体である。あわててカメラを持ち出して、自宅のすぐ前の野原ま



▲2機の物体は、右(南)から左(北)へ直線的に移動した。

で駆けだしたとき、物体はすでに初めに目撃した地点から、かなり北に移動していた。夢中でシャッターを切ったが、絞りが16になっているのに気づ

き、28にしてもう1度、シャッターを切った。ここに掲載したのがそのときの写真である。シャッター速度は覚えていない。撮影には三脚を使用した。写真では、物体はかなり楕円形に写っているが、実際はもっと丸い形だった。たぶんシャッターを開いているあいだに物体が移動したからだろう。

次の写真を写そうとしたとき、物体はカメラのファインダー内から外れ、三脚をセットしなおしているうちに、2機ともすぐ裏の山にかくれて見えなくなった。

私はつい最近になって本誌の存在を知ったのだが、何年前か、妙な物体を目撃し写真に撮っていた事実を、遅ればせながらここに報告した。

(〒572 大阪府寝屋川市大字 高宮765 電通酒井寮)

UFO 目撃 レポート

●ニアミスすれすれに飛行機に接近した発光体は、呼びかけに応じて、再び出現した
 ・短大1年(18歳) 侯野 直美

★目撃日時 1977年8月15日 ①午後9時28分頃 ②午後9時32分頃。

★目撃地点 自宅の前。

★天候 上空は晴れていたが、東の空

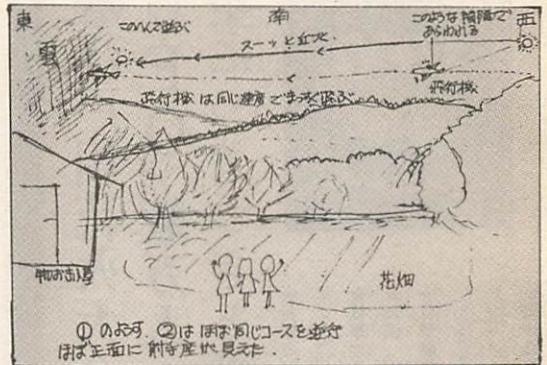
から雲が広がりつつあった。

★同時目撃者 ①姉28歳、従兄26歳。

②姉、従兄、母。

★観測方法 肉眼。視力は良い(大熊座が分視できる)。

★飛行状態その他 火花をして遊んだあと、星がとても美しかったので、南の空を見あげていたら、西の空から東へ



向かって飛行機が飛んできた。

①：飛行機の後方、斜め上から最大光輝時の木星とちょうど同じようなオレンジ色に発光する物体が、飛行機を追うように飛んでくるのを発見。前方を飛ぶ飛行機よりかなり速く移動し、見る間にスーッと飛行機の上方向近づいていった。上下に並んだときに、雲の中に入ったので見えなくなつた。UFOはまっすぐに飛んだのではなく、しだいに下方に向かった。飛行機は赤ランプを一定間隔で点滅させていたが、UFOは点滅せずボーッと光っていた。あとで気がついたことだが、このとき、飛行機の音がしなかった。昼・夕方・夜に何度も飛行機を見ているが、このルートを通るのに爆音がしないことはありえないと思う。

②：飛行機とUFOが雲間に消えてから、3人で議論し確認していると、姉が「心の中で叫んでみよう、帰ってくるかもしれないから……」と提案した。それで空を見あげていたが、3分ほどして、先ほど消えたあたりの雲間からUFOが引き返してきた。

色・形などは①と同じ。先刻とはほとんど同じコースを、スーッと逆もどりをした。少し上下に揺れているらしい。

30秒ほどで空を横切り、山のむこうの空へ消えた。(母は①のときには家に居なかったが、②は見た)。

①②の様子から、私はあの物体は飛行機ではないと思う。腕をいっぱい伸ばしたときの、人さし指の先から第二関節くらいの間隔、だいたいそれくらいの間隔で飛行機の上方向接近したが(夜間だから正確な上下左右の間隔はわからないが)両者とも飛行機だとすると、あれではニアミスになる。姉や従兄も「飛行機だったら危険すぎる間隔だ」と、私と同意見である。

過去の天体観測の例でも、夜間飛行の旅客機は必ず赤いランプを点滅させているのを、私は何度も見ている。あの、ボーッと光っているだけの物体はだから飛行機がいの何かだ。

●星空のなか突然輝き始めた物体を双眼鏡で追跡すると

・主婦(30歳)
脇本ひろ子

★目撃日時 1977年2月3日、午後8時45分。

★目撃地点 自宅。

★天候 晴れ。

★目撃継続時間 約25分。

★同時目撃者 子供2名(小学校1年生と幼稚園児)。

★観測機器・方法 肉眼と双眼鏡。

★物体について 星空が美しかったので子供といっしょに、窓越しに眺めてい

テレビシーを送った姉(その日、里帰りしていた)は、中学生のときにUFOを目撃している。学校の帰り、オレンジ色にキラキラと輝く大きな飛行物体がすごいスピードで山のむこうへ飛び去るのを、友だちとふたりで見たのである。同じときに祖父(故人)もそれを見た。私が今回のUFOを目撃した翌日に、奇しくも姉のそのときの友人が訪ねてきて、昔のそんな目撃体験をふたりで語ってくれた。

姉の呼びかけが伝わったかどうかはわからないが、UFOが引き返してきたときは驚喜した。あわてて望遠鏡を持ってきたが、セットする間もなくUFOは飛び去った。残念だった。

(〒621 京都府亀岡市千代川町 北ノ庄明谷10)

た。つい先日、一等星ぐらいの明るさの、星のようなものが飛んでいるのを2度ほど目撃しているので、また飛んでいないかと思つたのである。それにならなく小学校の方向に眼をやる、オレンジ色より赤味があった、飛行機ぐらいの大きさの物体がゆっくり飛んでいるのを見つけた。

窓をあけてよく見ると、爆音は聞こえないが飛行機のような感じである。

UFO 目撃 レポート

●江戸川花火大会に現れた UFO。数万人の群衆の上 空につぎつぎと飛来

主婦(38歳)
大野美智子

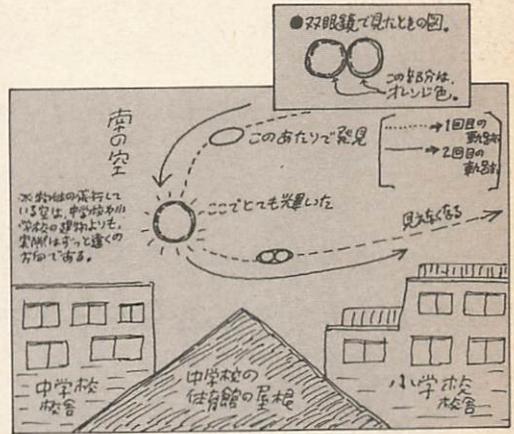
★目撃日時 1977年7月23日、午
後8時30分～9時20分。

★目撃地点 金町駅付近の江戸川堤。

★天候 晴れ。

★目撃継続時間 写真および図で示し
た③は5分、⑧は3分、ほかは30秒～
1分ぐらい。

★同時目撃者 大野竹夫(8歳)と春



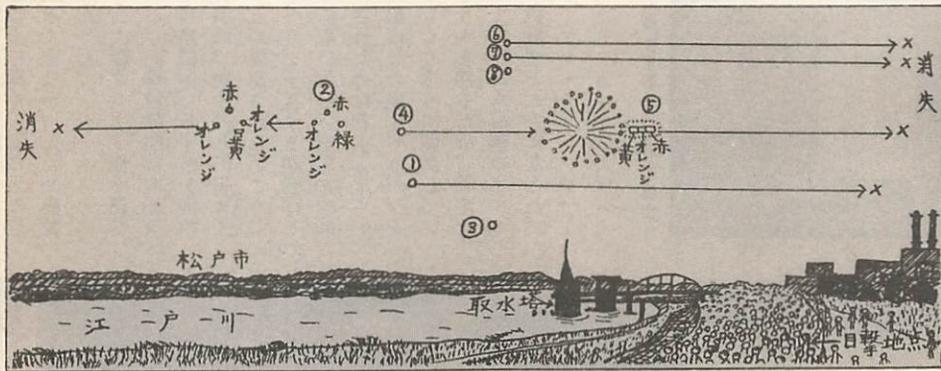
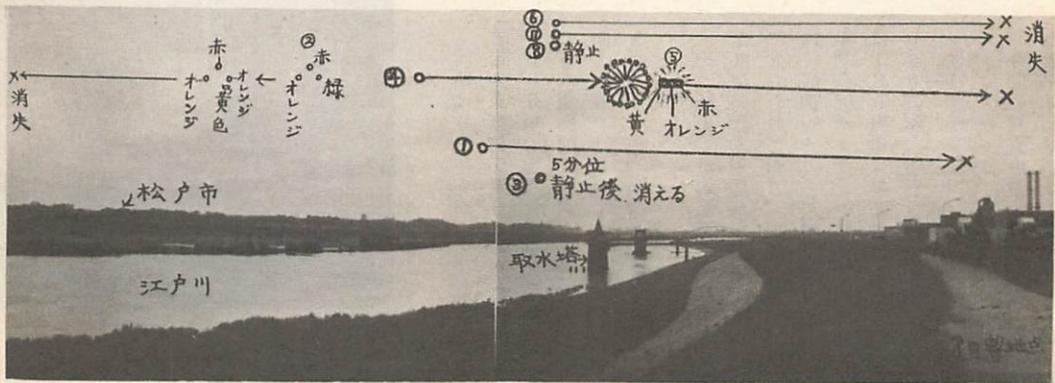
ところが、こち
らのほうに最も
接近したあたり
まで来たとき、
突然、輝きだし
た。大犬座が出
ていたが、ちょ
うどシリウスほ
どの明るさで、
形はもつと大き
い。それからす
ぐにもとの色に
戻って方向を変
え、ゆっくりと
飛び去った。

いま見たのが飛行機ではないのなら
ばまたやってくることもありうる、と
考えて、窓をあけたままでしばらく注
意していると、ほんとうに同じ方向か
ら飛んできた。
子供たちに「また光るわよ」などと
言いながら見ているうちに、やはりそ
れは光った。
ほんのちよつとの時間だが、とても
明るい輝きである。驚いてとなりの部
屋へ双眼鏡をとりに行つて帰ってくる
と、もう、もとの色になつて方向を変
えていた。
双眼鏡で観測すると、星みたいなも
のが2つ、くっついてるように見え

た。2つともオレンジ色だった。
あの物体はいったい何だったのだら
うか？ 流れ星にしては速度が遅すぎ
るし、再度現れる気球などはありえな
い。また、飛行機にしては点滅ランプ
が見えなかった。
私はUFOに関係のあることには何
にでも興味があるが、この眼で実際に
見て確認しないことには信じられない
現在である。今回目撃した物体も、も
つと近い上空であればハッキリした型
や色などがわかつたかもしれない、と
それがとても心残りだ。
(〒362 埼玉県上尾市
西上尾第二団地1-32-205)

夫(5歳)。このとき江戸川堤には数
万人の花火見物客がいたから、目撃者
はほかにも大勢いたはずである。
★物体とその飛行状態 ①～⑧は現れた
順序を示す。飛行したものは②を除い
てすべて東から西へゆっくりと直線的
に飛行。1つが消えたら次のものが
現れた。①③④⑥⑦⑧はまったく同一
のように見えた。オレンジ色で1等星
ぐらいの球状。

②：赤、緑、オレンジ色の3つの光
が突然現れ、10秒ぐらい飛んだあと、
緑の光がオレンジ色に変わり、その斜
め左下に窓のような長方形の黄色い光
が見えた。江戸川に並行して、南から
北へ1分ぐらいゆっくりと飛んでか
ら、急に消えた。
③：5分ぐらい静止して、消えた。
⑤：④が花火にさざぎられて見えな
くなつてから5秒ほどして、花火のう
しろから現れた。葉巻型で、向かつて
右から赤、オレンジ、黄色と、1秒間
隔ぐらいで順々に、チカチカとまぶし
く光りながら飛ぶ。
⑥⑦⑧：花火が終了して7、8分後
いずれも同位置に出現。子供が、屋台
の店で何か買うというので、終了後も
うろろろしていたとき、長男が⑥を発



見。⑥の消失直後⑦が現れ、⑥とまったく同じことをくりかえした。⑦の消失直後⑧が現れ、3分ぐらい静止して

いるうちにだんだんと光が薄くなつていつて消えた。

音を発していたかどうかは、いずれもあたりの騒音にかき消されてわからないが、顕著な音はなかった。①②③のすべてがUFOだとは断言できないが、また、すべてが飛行機や人工衛星だということもないとおもう。

花火終了後、帰宅を急ぐ大群衆の背景の空に、⑥⑦⑧のUFOが出現した光景はとても印象的だった。UFOに気づく人はいるだろうか、群衆とUFOを同時に視野に入れていたが、ふりかえって見あげる人はいなかった。といって、こちらも大声で知らせる勇氣はない。

なぜ、宇宙人はUFOを大勢の人々に見せないのだろうか？ 大勢の人々に見せれば、だれもがUFOを信じないわけにはいかないのだが……という私のかねてからの疑問に、その日、1つの解答が与えられた。

多くの人々は無頓着のために、または空を見あげないために、UFOが飛んでいても気づかないか、あるいは気がついたとしても、関心を示す人(何だろうと考える好奇心の強い人)は、ごく少数にすぎないのだと思ったことである。

(〒125 東京都葛飾区東金町2-10

水元小台住宅8-8)

科学ニュース



海底6kmの日本海溝に

地すべりの跡

日本海溝の謎を解明しようとアメリカの学術深海探査船「グロマー・チャレンジャー」号が世界で初めて6000mを超す海底の掘削を行った。

日本海溝は太平洋の海底をつくるプレートが日本列島を乗せているアジア大陸プレートにぶつかってもぐり込んだ深い溝である。日本列島の末端を地底に引きずり込む圧力が関東大地震などの巨大地震を起こしたといわれる。今度の調査ではプレートのもぐり込みまでは確認できなかったが、海溝の底で大きな地すべりが起きていることがわ

かった。

同船は9月中旬から岩手県宮古市の東方約183km、深さ約6000mの地点など日本海溝の日本側斜面2地点、反対側斜面1地点の計3点でボーリングを行った。掘った深さは250〜640m。

その結果、日本海溝の底はかなり深い日本列島からの火山灰におおわれており、海底の年齢は一番深いところが6000万年。今回ボーリングした3地点は180万年(鮮新世)から2000万年(中新世)で、陸上の地質からみるとかなり新しい。

今回の調査の最大の目的だった太平洋プレートと大陸プレ

ートの接点が地底にもぐり込んであるかどうかは、海底の火山灰が予想以上に深く、その下の岩石を採取できなかったため確認できなかった。

だが、大陸プレート側を調べたところ、海溝最深部に向かって日本列島側からわずかに7度のゆるい斜面で地すべりが起きていることが確認された。こうした地すべりを予言する学者はこれまでにもいたが、データの裏づけされたのは初めてという。同船はこの地すべりがプレートのもぐり込みに関係しているかどうかを探るため、予定を変更して再び日本海溝のボーリングに挑戦することになった。

グロマー・チャレンジャー号は米カリフォルニア大学スク

結果を発表するラングセス博士



スイスのあひる、飛行機

離陸するには全力疾走

2本の足だけで離陸しようというグライダーがスイスのH・U・ファーナーさんによって発明された。



「あひる2FL号」と名づけられたこのグライダーは、ファーナーさんがおよそ30m全力疾走することによって、フワリと機体が空中へ舞い上がる。うまく気流に乗りさえすれば、最高時速100kmで空中を飛行することができる。

最近、ハングライダーや人力飛行機は盛んだが、2本の足だけに頼るグライダーは「世界で初めてだろう」とファーナーさんは得意そうに語った。

(写真/UPIサン)

パミューダ海域に

「超自然力」は存在しない

つい最近、海中に巨大なピラミッドが見つかり、騒ぎとなったパミューダ三角海域にまたまた新説がソ連の探検隊から発表された。今年初めからはじまった米、ソ連、英国、カナダ、フランス5カ国による同海域探査の

通信衛星「12月に打ち上げ

わが国3番目の静止衛星が12月9日、米國ケネディ宇宙センターから打ち上げられる。

この衛星は実験用の通信衛星で、離れ小島への通信や大災害時の新しい通信システムを開発するに役立つ。プロジェクトの進行には郵政省、電波研究所、宇宙開発事業団、電電公社などが共同である。

打ち上げには米國のデルタ・ロケットを借りる。これはわが國最大の「N」ロケットでは推力不足のためで、予定どおり12月9日に打ち上げられると、およそ1週間後には、ニューギニア島北西部の上空36000kmの静止軌道に乗った静止衛星に



なる。これでニューギニア島上空の静止衛星としては7月に打ち上げられた「ひまわり」に続いてわが国3番目のものとなる。衛星本体は直径1・28m、高さ2・2mの円筒形で、通信容量は電話で4000回線、テレビだと8チャンネルである。実験は衛星を通信の宇宙中継基地として、茨城県鹿島の電波研鹿島支所から電波を送り、衛星が反射した電波を横須賀市の電電公社通信研究所でキャッチする。またパラボラを自動車に積んだ移動局や離れ小島の地上局などと電波研鹿島支所との通信実験も計画されている。

(写真/共同)

リプス海洋研究所のチャーター船で、昭和43年から世界の海底地質の調査をはじめ、すでに400地点以上も掘っている。50年度からはアメリカだけでなく日本、ソ連、西ドイツ、イギリス、フランスも共同研究に加わり、国際深海掘削計画（IPOD）となった。(写真/共同)

アマゾン上流謎の大遺跡
人工衛星アーツが写す



米航空宇宙局（NASA）の人工衛星アーツが、900kmの超高空から南米アマゾン最上流に存在する謎の巨大遺跡の影らしきものを写していた。南米に興味をもつ世界中の考古学者や探検隊は「アンデスの未知の遺跡ではないか」と関心を寄せたが、現地にくわしい関野吉晴さん（28）は、この騒ぎを知って9月中旬、飛行機を飛ばして写真をとり、「絶対に天然の山で

一環として参加したソ連探検隊は、次のように結論を下し、船や飛行機の事故が多発し「魔の海域」として有名な大西洋上「バミューダ三角海域」には事故を招くような「超自然力」は存在しない——と調査結果を発表。

ソ連探検隊は調査船ビクトル・ブガエフ号に乗り込み、9カ月以上にわたりバミューダ三角海域を調査、このほど黒海沿岸のオデッサに帰った。今回の発表は探検隊長、バラノフ氏が共産青年同盟機関紙にその調査結果の一部を明らかにしたもので、バラノフ氏は「ソ連船が三角海域を調査中、説明できないような現象はなにも起きなかった」と語った。

UFOが大火球？

ソ連の天文学者が目撃



ソ連のレニングラード州とカレリア自治共和国の上空を南から北へ飛ぶ大火球を観測したとレニングラードに近いブルコポ天文台の関係者が発表した。問題は9月20日の早朝、20分間におたつて観測されたもので、科学者らは種々のデ

ータから、それが大いん石であると考えている。しかし、一部ではUFOでは——といった説も出ているとか。

はなく、遺跡である」ことを確かめた。

発見の糸口になった人工衛星アーツは、環境汚染などをさぐる平和目的の衛星で、写した写真は米国から分けてもらえる。

ペルーの考古学者、ロドルフォ・ブラガニーニ氏は去年、ペルー・アマゾン地域の写真を取り寄せ調べた。するとアマゾンからアンデスの山地にかかるきわのパンチャコヤ地区に不可解な黒点が八つ整然と並んでいることに気づいた。

この地域は米国陸軍地理研究所の地図でも空白の地域。縮尺率から換算して黒点の一つはふもとの直径が1500~2000mの山だとわかったものの、アマゾンにあってもっとも秘境なところ。川すじから離れてジャングルの中を何日も歩かなければならない。もちろんガイドなどはいない。

関野さんは昭和47年から問題のパンチャコヤ地区に入って原住民と何度か生活している。今年の9月、ペルーの首都リマで友人から例のNASAの写真を見せられて、見覚えがあることに気づき、早速、飛行機をチャーターしてクスコから現地に向かった。あいにく雲が厚く、視

火星にも霜がある！



火星表面の霜を写した初めての写真が米航空宇宙局(NASA)から発表された。写真は昨年9月から火星に着陸して、情報を送り続けている火星探査機バイキング2号が撮影したもので、いくつかの石の下に白く見えるのが霜である。

界がわるかったが、それらしい地域に小山がいくつか並んでいることを確認した。

この謎の大遺跡のある地域からわずか8kmほど離れた密林では、大がかりな岩絵も見つかっている。また、近くのアンデス山地には有名なインカ帝国やブレ・インカの遺跡が数多くあり、新しい遺跡の発見される可能性は高いといわれる。

バイキング2号はこれまで大量の写真を撮っているが、今回のように霜をとらえたのは初めてである。現在、火星は春に向かいつつあり、もっと寒い冬の間には撮れなかった霜が写っていたことに科学者たちは驚いているとか。(写真/AP)

ついにアポロ計画の月面観測装置とまる

米テキサス州ヒューストンのジョンソン宇宙センターに月面情報を送り続けてきたアポロ月面観測装置が9月30日、活動を打ち切られ、8年にわたる送信をやめた。

打ち切った理由について米航空宇宙局(NASA)は、月面

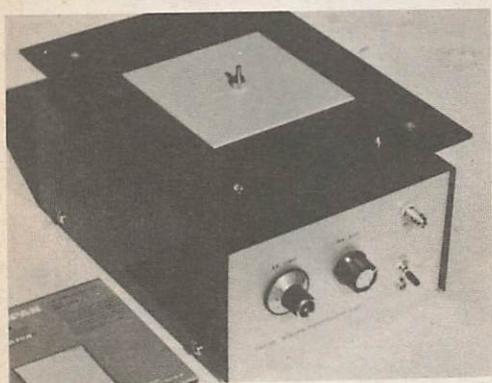
レーザー光線銃を装備した

ソ連の人工衛星

ブラウン米国防長官が明らかにしたところでは、「ソ連はある種の人工衛星に他の衛星を破壊できるレーザー光線銃を装備して、実戦能力をもつまでになった」と語った。

ソ連が敵の軍事・スパイ衛星を破壊しようとする兵器の研究、開発を進めていることは国防総省もすでに明らかにしていたが、このような衛星が「実戦能力」をもつほどに達していることが確認されたのは、初めてである。同長官は、新兵器の性能などについては一切明らかにしなかったが、比較的低い軌道を回る衛星に効果的なものと考えられ、米国の偵察衛星のいくつかが攻撃目標になることは十分ありうるとしている。

キルリアン写真 & バイオフィードバック



キルリアン写真セットTKP-101(写真)
素晴らしいキルリアン写真の世界をその目で確かめて下さい。カメラは必要ありません。
¥28,650(送料共)付属品、説明書付。

キルリアン写真キットTKP-102K
キルリアンセットTKP-101の高圧コントロール部及び付属品のキットです。あなたのセットを組み立てて下さい。
¥12,200(送料共)説明書付。

ESPテスター TES-03
エレクトロニクスを応用したESPテスターです。あなたの予知能力を測定できます。
¥3,500(送料共)説明書付。



バイオフィードバック・モニターBW-300(写真)
アルファ波を感知し、トレモロ音で知らせます。ストレスを取り除き、集中力を養えます。
¥21,600(送料共)説明書付。(輸入品)

カタログの御請求は下記まで

(株) テクノニクス

〒326 足利市鹿島町1156 ☎0284(62)8073



基地の電力微弱と財政上の制限によるものといっている。

ソユーズ25号失敗 宇宙滞在記録のばせず

ソ連は10月9日、有人宇宙船・ソユーズ25号を中央アジアのバイコヌール宇宙基地から打ち上げた。

打ち上げの目的は先きに打ち上げられた科学軌道ステーション・サリュート6号と共同実験を行うためで、ドッキングして長時間にわたる宇宙滞在の実験を行うものと思われた。だが、ソユーズ25号とサリュート6号は120mの距離まで自動的に接近、ドッキング態勢に入った

ものの、計画されたコースからズレたため途中で中止された。今回の打ち上げは、スプートニク1号打ち上げ20周年、ソ連新憲法発布、十月革命60周年という、ソ連にとって大きな意義をもつ出来事を記念する時期に打ち上げられ、米国がスカイラブ第3次計画で74年につくった、84日間の宇宙滞在記録の更新を目指すのではないかと見られていた。しかしソユーズ25号が宇宙滞在わずか40時間足らずで、帰還を命令されたのは、船内装置に重大な故障が発生したのではないかとみられている。



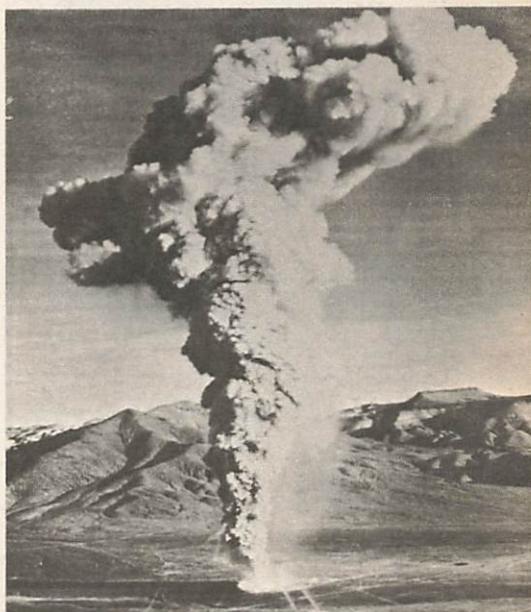
▶ミグ25迎撃用戦闘機

飛行高度37650m ソ連人パイロットが記録を更新

ソ連人パイロットのアレクサンダー・フェドトフ氏は、このほど自己のもつ飛行高度記録を更新した。

記録は3万7650mで、富士山のおよそ10倍、世界の最高峰エヴェレスト山の4倍以上の高度である。

フェドトフ氏が操縦したジェット機は「E-266M」だったと



放射能もれの極秘写真を公開

極秘にされていた地下核実験の写真が公開された。

この写真は1970年12月18日、ネバダ州の核実験場で行った地下核実験で、放射能じんが地上約3000m上空まで噴き上げられた事故の様相である。

実験は爆発力10キロトンのものを地下約280mの深さに設置したもの、実験場には300人ほどが放射能を浴びてしまった。さいわい安全基準を超える被ばく者は出なかったと発表している。

今回このような極秘写真を公開した理由については明らかにしていない。

(写真/UPIサン)

る。

タス通信によると、ソユーズ25号は同11日、カザフ共和国に軟着陸し、同船に乗り組んでいたコワリョーノフ船長とリュエミン航空技師も無事に地球に帰還した。今回のソユーズ25号の失敗は昨年のソユーズ23号に続いてのもので、ソ連の宇宙船技術の不安定性をかえって印象づけるような結果になった。

火山の溶岩流を

水でせき止める

ハワイのキラウエア火山で、熱い溶岩流をコントロールする珍しい実験が始められる。

実験のねらいは、溶岩流から農地などを守ろうというものだが、米メリーランド州の陸軍基地からやってきた破壊工作の専門家たちは、大量の水をつめた数個の容器を溶岩の流れに接する斜面に置く。数千度という高温の溶岩がこれに触れると、水蒸気を生じ爆発、帯状の溶岩流を飛散させ、流れをせき止めるというもの。

さいわいというべきか、実験班がハワイに到着するなり、キラウエア火山が急に活動を始めたとか。はたしてこの実験、成功するかどうか。期待してみたところである。

長生きの秘けつは野菜、

果物を食べることに

長生きの秘けつは、米や肉を少なめ、野菜、果物は多めにとることである、と発表された。

日本女子大学の荒井基教授は過去3年間、国内の75歳以上が人口の5%を超える「長寿村」12地区、約9000人の食生活を対象に調べた結果、厚生省の栄養基準を上回るビタミンCを他のものより多く摂取していることがわかった。荒井教授は「要はバランスよく、そしてビタミンの多い野菜、果物を多くとることです」と説明した。

トピックス

だけタス通信は伝えているが、ソ連迎撃用戦闘機ミグ25の変型機だと考えられる。超音速ジェット戦闘機は1秒間に50mの上昇率で上昇し、数分間で成層圏まで達してしまいが、空気の薄い高度へ来るとエンジンの馬力が低下し、余裕がなくなり、上昇率も0になってしまう。これまでの記録では、ジェット機で約30000m、プロペラ機は約17000mの高さまでしかいっていない。

女性パイロットだけで

飛行距離と速度の世界記録を更新

ソ連の大型ジェット旅客機が、このほど飛行距離と速度に世界新記録を打ち立てた。



使われたジェット機はソ連国営航空のIL-62Mで、モスクワ—東京のシベリア路線を就航している136人乗りのものと同型である。記録は飛行距離5000km、時速970km以上であった。

驚いたことに乗員は、機長のイライダ・ベルチブラホーバさんをはじめ全員女性とのこと。タス通信の調べでは、これまでの世界記録は米国のグリスワルドさんの時速961kmと、ソ連のビッチさんのもつ飛行距離2497kmで、今回の彼女らの挑戦はこの世界記録を二つとも更新したことになる。

(写真/タス)

お望みの機種が
お求めになれます
メーカーから
ユーザーへ!

サテライト 天体望遠鏡

★ヤマモトの天体望遠鏡は
海外(アメリカ、フランス、
イタリア、ベルギーetc.)
で絶賛を博しております。

★この他多機種とりそろえてい
ます。詳しくは 250 円切手同
封の上カタログをU係へご請
求ください。

株式会社 **山本製作所**

〒174 東京都板橋区大原町5-3
☎(03)966-2408

AE-108

- 有効径：108mm
- 焦点距離：1600mm



衝撃の第二弾、双眼鏡の星

MOP 20×50を君の手に

UFOをとらえるのは
君だ！

熱い期待に応えて
定価

¥18,000を

¥9,800で提供!!

送料 ¥800

全機種特価

6×30	8,700円
7×35	9,500円
7×50	10,700円
10×50	11,200円
12×50	11,500円
16×50	11,700円

(送料800円)



性能

倍率：20倍

対物レンズ径：50mm

射出瞳径：2.5mm

明るさ：6.3

実視界：3°

1,000 m 先の視野：52 m

高さ：17.0cm

重量：1,050g



ハードケース付

ご注文方法 広告価格はすべて現金価格です。ご注文の場合は品名・住所・電話番号・氏名を明記し、現金書留でお申し込みください。

あて先

(株)インターナショナル・サイエンティフィック (旧社名株インテル)

〒193 東京都八王子市小比企町2957-9 ☎0426(25) 7941

【お知らせ】

当社製品の販売代理店を募集します。当社まで資料をご請求下さい。またこの広告についてのお問い合わせは当社調査室(TEL0426-25-7941)までお願い致します。

カタログ無料進呈

当社全製品満載のカタログを無料で差し上げます。切手100円を同封し下の請求券をはってお申し込み下さい。

カタログ請求券
UFO28

連載科学記事

続

宇宙・引力・空飛ぶ円盤

11

レナード・クランプ

【船体の傾きと自動車への影響】

前号に引き続き、UFOが地上を走行中の自転車に及ぼす効果を、斥力場理論に基づいて検討する。

【斥力場による空中効果】

マンテル大尉事件、あるいは空中で停止させられた航空機など、UFOによる空中効果を取り上げて詳しく考察を行う。

翻訳出版権獲得

船体の傾きと自動車への影響

前号で、ワイルドマン氏の目録例を重力(G)場と斥力(R)場の両理論に基づいて検討したところ、G場理論による説明では破綻を生じることが明らかになった。さて、前号の終わりで示唆しておいたR場理論による説明だが、EM効果による障害はなかったものと仮定して、分析を続けてみよう。参考のため、前号の図8・bを再度掲載しておく。

ワイルドマン氏の車にR場が及ぼす力を計算した際に、私たちはR場のポイント・ソース(PS)が宇宙船に非常に近い位置にあると仮定した。そのことによって地表効果は最小限にとどめられ、しかも、乗員と船体とのg差は最大になるからである。このPSの位置をもとに、R₂を約71フィートと推定して、車に4・5ポンドの力が働くという結論を得たのだった。しかし、焦点距離が短ければ、船体構造各部分や船内のあらゆるもの間に大きなg差が生じてしまう。このことは、急速に離陸するときなど、高推力を用いる際に特に問題となる。さらに言うな

らば、この円盤には乗員が乗っていないか、この円盤には乗員が乗っていないか、距離の長い場を用いていたかもしれない。また、円盤に乗員が乗っていたとしても、彼らはせいぜい非常に体が軽くなったと感じる程度で、無重力状態にはならなかったにちがいないし、円盤が空中に浮かんでいる場合には、この状態はさほど不便なものではないかもしれない。だが、後で触れるように、この変則的状态を防ぐ方法も考えられているのである。

また、別の可能性もある。UFOの乗員が、車の速度を落とさせてその動作状況をよく近くから観察したいと考えていたとしたらどうであろうか。たとえば、25フィート程度の長い焦点距離(R₁)を持ったR場を円盤が使用していたとしたら、どういう結果が予想されるであろうか。まず、長いR₁に対応してR₂は短くなり、この場合は63フィートになる。従って、車に働くR場成分は次のようになる。

$$G_0 = \frac{25 \times 25 \times 1}{63 \times 63} = 0.16g$$

これは、約400ポンドの引き戻す力、つまり減速力に相当し、実際、車を減速させるのに十分な値であるが、その前に、車の運動量はすでにある程度失われているはずである。従って車は、実際そうであったように、次第に強くなる場の影響を受けながら60フィート地点に近づいてくる。こういう状態がほんの数秒間つづいて第1段階に至る。ワイルドマン氏の車は時速20マイルまでスピードを落とされ、UFOから約20フィートの地点に達した。UFOは、近づいてくる車と同じ速度で車と同じ方向に移動していた。従って、このとき、両者はたがいに相手にたいして静止していたことになる。

「その物体は200ヤードほどの間、約20フィートの距離を保ちながら車の前方を進み、それから下降しはじめました」。ここで、第2段階が始まる。この段階での両者の相対位置は図8・bの中に点線で示してある。

ワイルドマン氏の推定によると円盤の高度は20ないし30フィートだったことを思い出していただきたい。この値

には確たる証拠があるわけではないが一応このまま受け入れることにし、図中では平均をとって25フィートとした。だがこの第2段階では円盤が下降しはじめることに注意する必要がある。従って、もしR場理論が正しいとすれば、次のふたつのが起きるはずである。まず、PSから円盤に働く垂直加速度は、すでに1gをわずかに下まわっていたが、円盤が下降している今ではさらにその値が小さくなっていくはずである。下降速度がわからないので、この値はごく大まかに推定するほかはなく、ここでは約0・95gとしておく。また、円盤が下降するにつれて、危険な地表効果を防ぐために場の焦点距離は短くなるはずである。

PSを地表から適当な高さには保ち、かつ、付近の立木の上を飛ぶための最低の高度を約20フィートとすると、場の焦点距離(R₁)は当然16フィート程度と推定され、また、焦点から車の質量中心までの距離は(ワイルドマン氏の言う20フィートという値に基づいて)34フィートになる。従って、車に

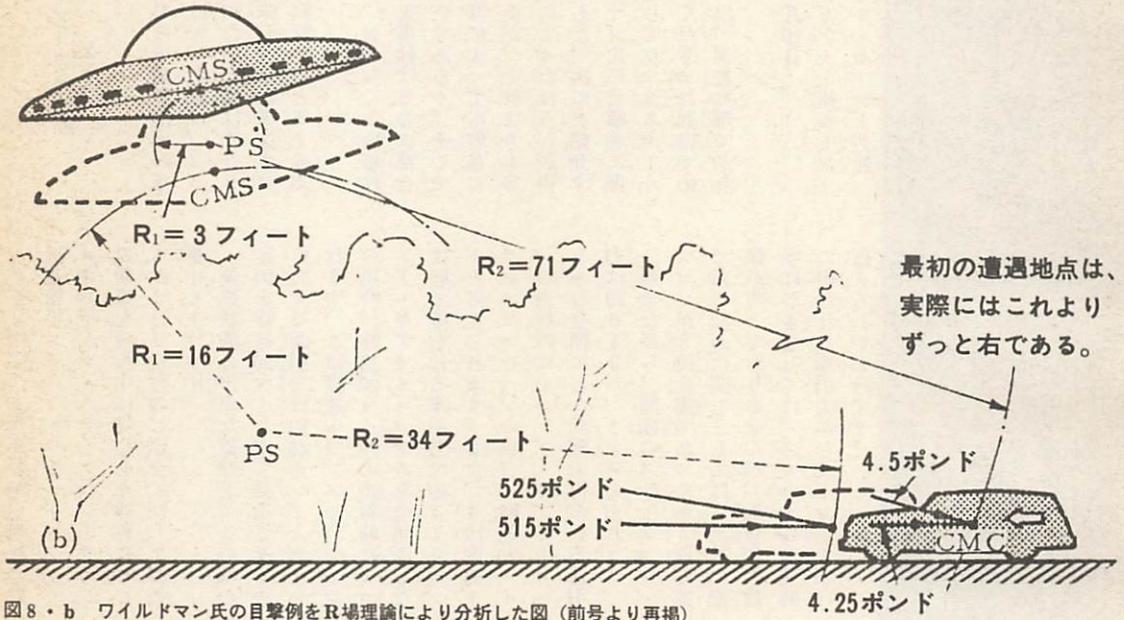


図 8・b ワイルドマン氏の目撃例をR場理論により分析した図 (前号より再掲)

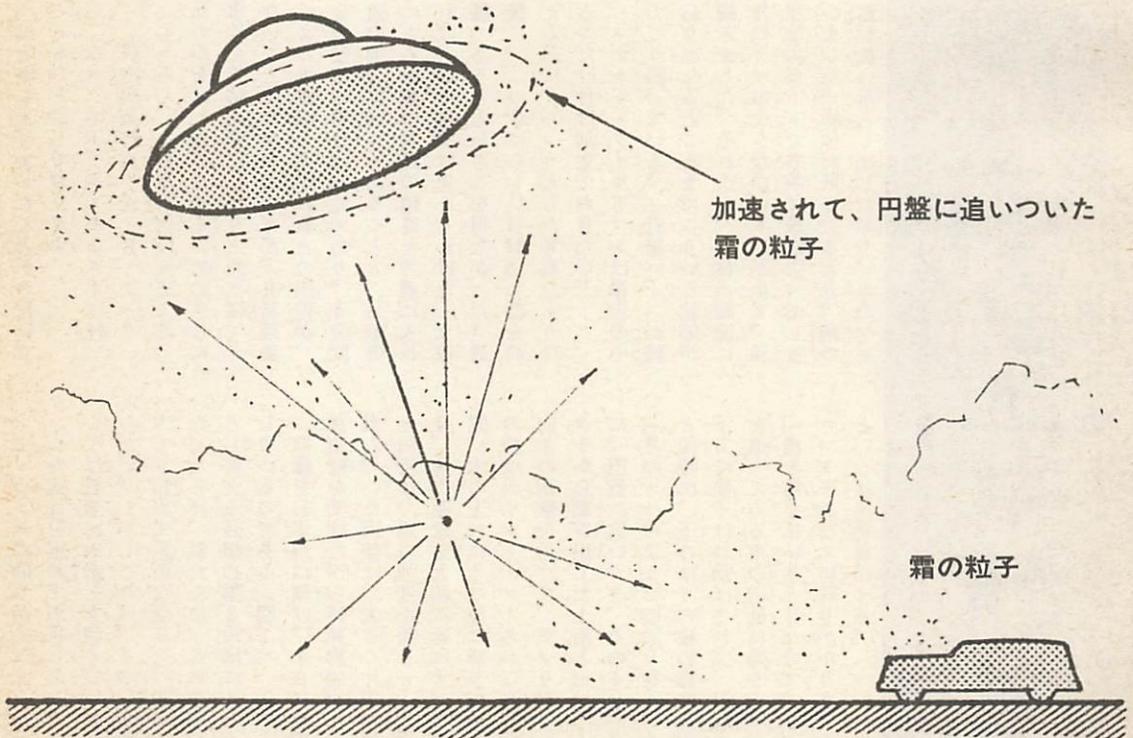


図 1 斥力場ポイント・ソースによる霜の粒子の動き

加わる斥力は

$$G_c = \frac{R_1^2 G_s}{R_2^2} = \frac{16 \times 16 \times 0.95}{34 \times 34} \\ = 0.21g$$

となる。つまり、車の重量の21%が斥力として加わるわけで、これは、250ポンドの重量にたいしては約52.5ポンドの力を意味し、車を減速させる水平方向の力に換算すると51.5ポンドになる。

こうして見ると、おそらくこの事件ほど私たちの理論を裏付けるのに都合の良い目撃例はないであろう。そこで次に示す数字は計算によっても容易に得られるものであるが、それよりも専門家の公平な意見によったほうが説得力が増すと私は考えた。次にご紹介するのは、ワイルドマン氏の目撃例に関する私の照会に対してヴォクスホール・モーターズ社がくださった返書である。これについては、同社に深くお礼を申し上げたい。

1965年3月19日
ベッドフォードシャー州ルトン
ヴォクスホール・モーターズ社

クランブ様。1962年、当社の配達運転手ロナルド・ワイルドマンがヴォクスホール・ステーション・ワゴンの新車を運転中に発生した事件についての3月7日付のご照会に関してご返事申し上げます。

無風状態の平坦な道路上でこの種の車両を時速20マイルにて推進させるのに要する牽引力は約40ポンドと考えられます。3段変速トランスミッションの場合、時速20マイルの走行時にセロンド・ギアでスロットルを全開にした状態で得られる牽引力は約470ポンドと考えられます。また、4段変速トランスミッションの場合、時速20マイルの走行時にセロンド・ギアでスロットルを全開にした状態で得られる牽引力は約612ポンドと考えられます。残念ながら、問題のステーション・ワゴンが3段変速であったか4段変速であったかに関しては、当社に記録が残っておりませんが、お尋ねの数字につきましては、スロットル全開時に得られる牽引力から40ポンドを引けばよろしいわけです。

以上申し上げますことがお役に立てるものと信じております。

ヴォクスホール・モーターズ社
研究開発部長 A・E・クック

もちろん、この車が何段変速であったのかをはっきりさせるためにさらに事件の追跡調査をしようと思えばできないことはなかったのだが、R場理論による推定値と実際の値との誤差が、3段変速の場合は20%であり、4段変速の場合は10%であることと、目撃者

による距離の判断の精度を考慮に入れば、この結果は思いもかけない大収穫であると思わざるを得なかった。最後に、このすばらしい目撃例の話を終える前に、ちょっとした考察をもうひとつだけ付け加えておきたい。

ロナルド・ワイルドマンは報告の中でこう語っている。「直線コースが終わりになるところまでこういう状態が続きました。それから、物体の周囲に月のカサのような白いモヤが生じ、猛烈なスピードで右手に飛び去ってしまいました。物体が飛び去るとき、霜の霜を払い落としましたので、車のフロ

ント・ガラスに降りかかりました」この証言を重ねて引用したことについては読者にお赦しを請わなければならない。しかしこれは、この分析にとってきわめて重要な証言なのである。なぜならば、私たちは、この叙事詩的とも言える目撃の第3段階に入ろうとしているのである(図1)。

前縁をわずかに傾け、1gの反重力加速度を受けながら時速約20マイルで飛んでいた円盤は、大きく片方に傾くと同時に、場の強度を著しく増大させ、焦点距離を大幅に延ばす。この瞬間、木の上のほうの枝に降りていた霜の粉はポイント・ソースから強烈な上向きの衝撃を受けて、ちょうどクレイターから飛び出した土層と同じように、円盤に追いつき、そのまわりを「月のカサのよう」に取り巻く。それと同時に、下のほうの枝の霜は後方と下方に強くはね飛ばされて、円盤の後を追ってくる車の道筋に降りそそぎ、「霜の霜を払い落としましたので、車のフロント・ガラスに降りかかりました」という状況を現出する。

斥力場による空中効果

アレックス・バーチの目撃

宇宙船から放出された物体の動き

1962年の2月のある日、アレックス・バーチ(14歳)は、モスポロー(シエフィールドの近く)のムーア・クレセントにある自宅の裏庭で愛犬のスナップ写真を撮影していた。その時

である。突然、いくつかの奇妙な物体が彼の眼前に出現した。「空中に5つの物体が浮かんでいることに気づいてハッとしました。高度は150mくらいです。じっと動かず、音も立てていません。その時は、あれが空飛ぶ円盤かもしれないなんて、全く思いつきませんでした」

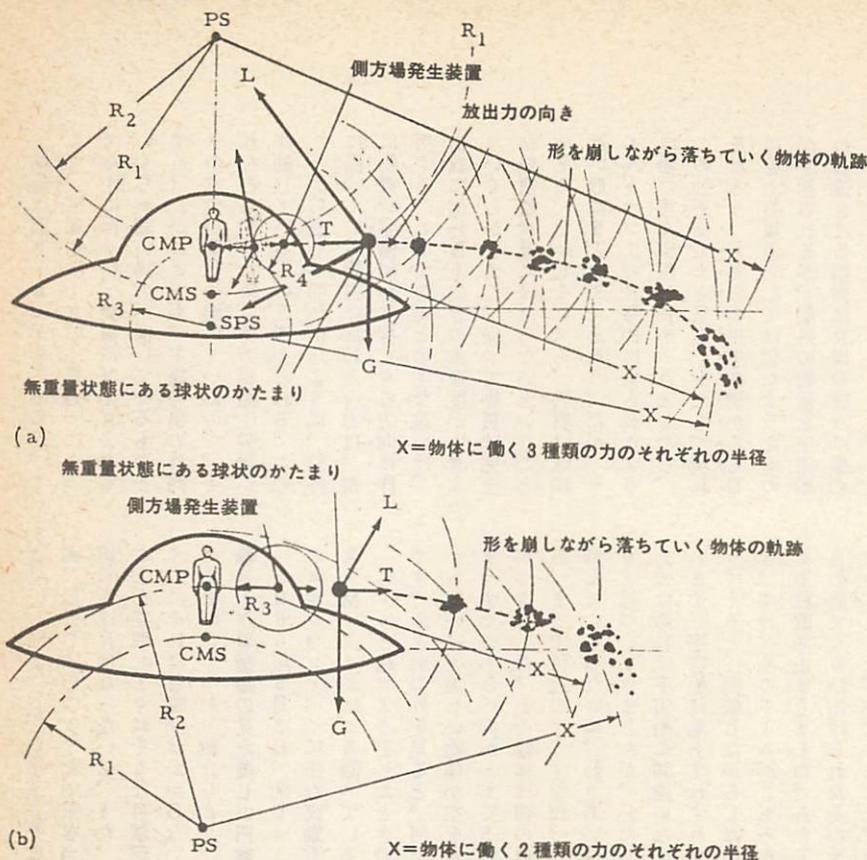


図2 空中停止しているG場宇宙船(a)およびR場宇宙船(b)から放出された気体や液体の動き

目撃者はアレックスだけではない。友達の子ビッド・ブラウンロウ(12歳)とスチュアート・ディクソン(16歳)も、その場に居合わせた。

「4秒くらいたった時、突然、物体の周囲に光の球みたいで輝く球体が見えました。その球体は物体からだんだん離れていくように見えました。そして形状を変えながら落下していったのです。するとまた別の球体が見え、同じことを繰り返しました。僕はカメラを持っていてることを思い出し、光体があるで写真を撮れと催促しているようなので、急いで撮影しました。撮影したと思ったとたん、光体は薄暗くなり、消えてしまいました。そして物体は急に動き出し、だんだんスピードを増すと、ものすごい勢いでシエフィールドの北東部へと飛び去りました。この間、音は全然聞こえませんでした」

以前、「重力場の浮揚効果」の章で考察したことを覚えていられるだろうか(本誌19号83~84ページを参照)。それによると、宇宙船が空中に浮かんでいる場合、宇宙船の重力場によって近くのものにはみな無重量状態になるため、船内から放出された気体や液体はすぐ球状に丸まってしまふということであった。また、宇宙船から遠ざかるにつれ、しだいに弱くなる場の作用を反映して、いったん球状に丸まった塊が形を変えながら落ちていくようすも示された。

ここでこの現象のみを取りあげてその詳細な分析にページを割いている余裕はないが、とりあえず、G場理論とR場理論の双方の立場からごく基礎的な見なおしをしてみたいと思う。

まず、G場理論から始めよう。図2・aに示すように、宇宙船は空中に浮かんでいて、主重力場と乗員用の補助場とが働いているものとする。この図から容易にわかるように、乗員はこれらふたつの場の水平成分によって内向きの力を受けるので、それを打ち消すために側方発生装置が働いているものと思われる。こうして、宇宙船から排出された液体には何種類かの力が同時に働くことになり、従って液体を宇宙船から突き放すためには、なにがしかの放出力が必要なのは明らかである。この放出力が水平に働くものとする。排出された液体はまず球状に丸まり、次いで宇宙船のまわりの上昇気流に乗って少し持ち上げられる。続いて、液体が宇宙船から遠ざかるにつれて空気の力学的効果も場の合力による作用もともに弱まり、液体はややカーブした径路に沿って進むことになる。これ以外の点に関しては、「重力場の浮揚効果」の章でG場理論の立場から説明した際の一般的な仮定に従って事態が進行するものと思われる。

R場宇宙船について同様な分析を行うと、やはり違った結果が得られることがわかる。

結論は図2・bに示してあるが、ここで、宇宙船は1gの「揚力」によって空中に浮かび、乗員には1gよりもいくらか弱い揚力が働いているものとする。だがここでも、主揚力場の外向きの成分が乗員に働いているので、それを打ち消すために側方発生装置が作動しているものと考えられる。このことから直ちに明らかのように、船外に漂っている物質に加わる合力は、常に物質を宇宙船から押しやる方向に作用する。ここでG場との主な違いは、物質に加わる上向き加速度が1gよりいくらか小さく、従って物質は完全な無重量状態にはならないということである。しかしそれでも、物質は球に近い形にまとまるであろう。だが、ワイルドマン氏の目撃例に見られたように場の焦点距離が長かったとしたら、この効果はもっと著しいかたちで現れるだろう。どちらの揚力機構からも目に見える現象としては似たようなものが予想されるが、船外の物体を宇宙船から遠ざける傾向はR場のほうに強く見られる。

円盤がひき起こす雲の渦巻き

ところで、R場による空中効果について、読者はこう思われるかもしれない。「地中で形成されたポイント・ソースがクレーターを作るならば、雲の中でも同じような効果が現れて当然で

はないか」。たしかにそうである。事実、私たちはそのような効果を当然予想しなければならぬし、また、このことを証明してくれそうな目撃例を探すのにそれほど時間はかからない。ここにそのいくつかを紹介しよう。

●ドーク看護婦の見た美しい円盤

1966年5月3日、北ウェールズのコルウィン・ベイに住む夜勤看護婦E・M・ドークはこう語っている。

「ちょうど起きようとしたときのことです。ふと窓の外を見ると、何だかわからないけど美しい物体が空を飛んでまっすぐこちらへ向かってくるのに気がつきました。その物体は西のほうから、まるで付近のようすを調べながら飛んでいるみたいに、わりあいゆっくりと近づいてきました。わたしの考えではこれは宇宙船に間違いはないと思います。宇宙船は地上すれすれまで降りてくると、回転しながらしだいに傾き、てっぺんのドームがこちらから見える位置で止まりました。わたしは、目の前でくりひろげられたその光景を我を忘れてながめていました。直径は40メートルぐらいでしょうか。まわりには光り輝く金色の円盤をいくつもつなげたような縁どりがしてあります。中央船室というのでしょうか、コントロール・ルームというのでしょうか、とにかくそんなようなものと、それに、なにかの出っ張りかプロペラのような形の、熟しかかったプラムみたい

に緑っぽい紫色をしたものが3つ見え、また。内側の船室とも操縦室とも見える部分は、まわりを半透明なものでおおわれていたようです。

こうしてかれこれ30分ぐらいながめていましたが、そのうちに空があかるくなり始め、美しい朝がやってきました。宇宙船はしばらくのあいだ、地上わずか数メートルのところに浮かんでいました。リモコンかどうかはわかりませんが、とにかく、何者かによってたくみに操縦されていたことは確かです。わたしの見たものが何であつたにしても、それが人類の未だ知らない次元で動いていたと思わないわけにはいきません。とにかく、その物体はしばらくの間じっとしていましたが——それから、あつという間に水平に向きを変えて、それから……一見むちゃとも思われるようなスピードで急角度のVの字を描いたかと思うと、南東の空めがけて舞い上がり、遠ざかるにつれて赤みを増していきました。音はなにも聞こえませんでした。

そのときなんだか奇妙に感じたのは、物体が上がつていくにつれて付近の雲がものすごい勢いで渦を巻いたことです。風はありませんでした。すべてはほんのちよつとの間にもとどおりの落ち着きをとりました」

●ある海軍中佐の目撃した現象

次の話は、アメリカ海軍の退役少将デルマー・S・ファールニーによるもの

好評発売中!
アルファトーン
バイオフィールド
バック装置

これを使って精神統一をすると速やかに効果が上がり超能力が発現します。
超科学七、八号(各三〇〇円・送料共)参照
二九、五〇〇円
千五〇〇円



ESPカード…………… 五〇〇円
千一四〇〇円
キリリアン写真機用テストラコイル
美顔器…………… 一三、〇〇〇円
千五〇〇円
超科学四号
特集 超科学実験装置 参照
五〇〇円 千一二〇円
橋本電子研究所
鎌倉市小町一(一五)一七
☎0467(25)3035
あなたの中に眠る超能力を引き出す
すばらしい人生を送るための会

日本超科学会
会員は右記の品一割引、会報進呈、切手六〇円送れ。

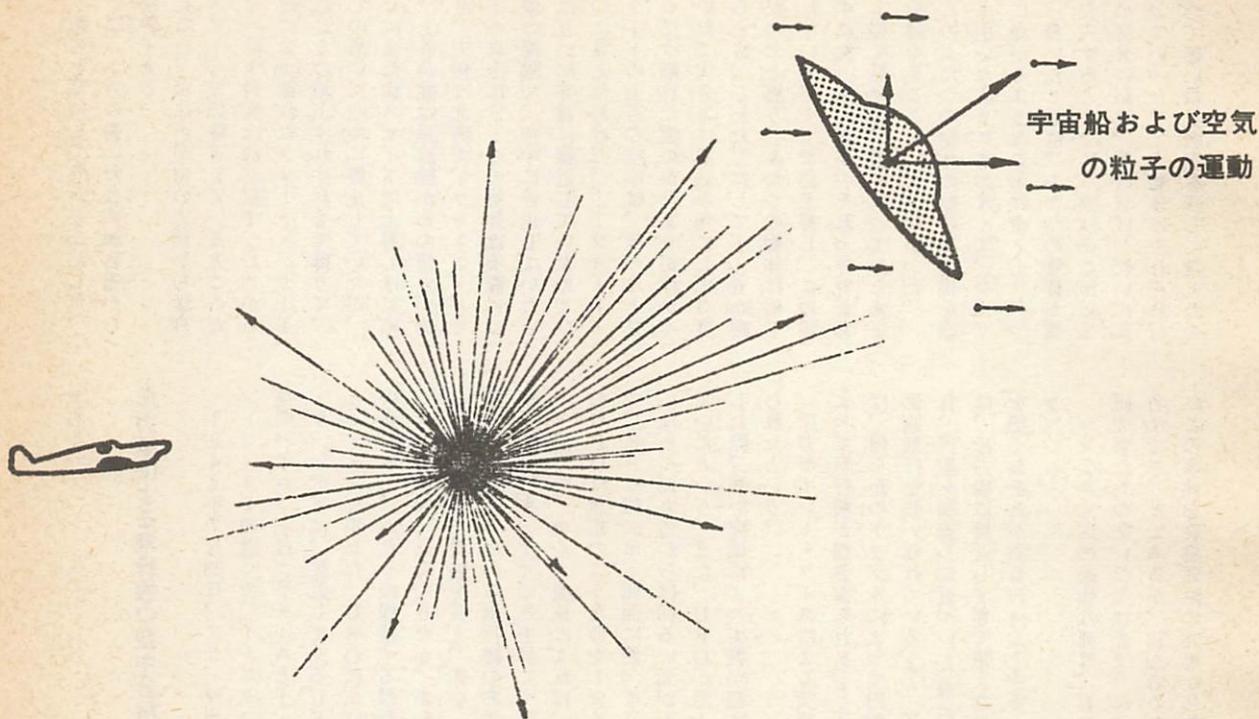


図3 斥力ポイント・ソースに突っ込んだ航空機は空中分解の危険がある

のである。1955年、ヴァージニア州の上空で、海軍アナコースティア航空基地所属のひとりの中佐が次のような現象を目撃したという。中佐は、飛行中にふとうしろを振りかえると、巨大な円盤形の飛行物体がびったりあとについているのに気がついた。距離はわずか23メートルである。中佐の報告によれば、この物体は「コーヒー・カップの受け皿を2枚向かい合わせにくつつけたような」形をしていて、直径は約30メートル、金属製のものであった。また、中央部が厚く、その上にドームがついていて、そこからコハク色の光が放たれていた。たまたまミサイルの専門家でもあった中佐は、もっと近づいて観察しようと思い、機を速度を落としかけたが、「円盤は傾くと、はじめられたように飛び去り、あとには雲の渦巻きが残った」という。

●ルース技師が観察した2機の円盤
これよりさらに前の1951年8月、ニューメキシコ州で、アメリカ鋳業局を中心とする政府機関の鋳業プロジェクトの主任技師であり、またアメリカ鋳業金属技術者協会の会員でもあったアルフォード・ルースは、2機のレンズ形円盤の飛行のようすについて、細部にわたって興味深い観察を行っている。

ルースはそのとき、シルバースティから東へ10マイルの地点にある現場事務所にいたが、「ジュッ、ジュッ」と

会員募集

日本
GAP

UFOと宇宙哲学
研究グループ

わが国UFO研究界の先駆者久保田八郎はジョージ・アダムスキー研究者としても著名であるが、1961年よりアダムスキー主宰の世界GAP（知らせる運動）組織の日本代表となり日本GAPを設立。以来あらゆる困難と障害を乗り越えてアダムスキーの特異な体験と宇宙的哲学の促進活動を展開してきた。機関紙「GAPニュースレター」はすでに62号まで発行。毎月東京文化会館の月例会で宇宙哲学を指導し、宇宙の法則と人間の真の生き方を探求。大阪・高知・熊本・新潟・岐阜・福知山・仙台・山形・札幌各支部設立。個人的奉仕活動として啓蒙運動を続行中である。真摯な探求者の参加を歓迎している。

不定期機関誌

「GAPニュースレター」

第62号発行中

●本格的活版印刷・B5版・極上アート紙40頁●UFOに関連し、他惑星における偉大な人類存在の認識と宇宙法則の探求専門誌
主要記事連載スペース・プラザースはなぜ来るのかG・アダムスキー／「太陽と神々の国」を訪ねて 久保田八郎／その他有益な記事写真満載

入会希望者は50円切手宛名明記返信用封筒を同封の上「UFOと宇宙」12月号で見たと書きそえてまず案内書をお申し込み下さい。入会は高校生以上に限りません。非会員に機関誌の1冊売りはしません。

〒133東京都江戸川区本一色町365-818 日本GAP(主宰) 久保田八郎

いう物音を耳にして外へとびだした。以下はルースの書いた公式報告書からの抜粋である。

「見ると、なにかが南の方角から猛烈なスピードで急降下しているところだった。降下角度は約45度で、ここから北西に3km離れたフォート・バヤードのむこうの地上すれすれまで降りて、少しのあいだ空中に停止していたが、すぐにまた猛スピードで上昇しはじめた。上昇角度は垂直線からの傾きが約70度、方角は北西で、フォート・バヤードの真上に……この物体は実際には2機の編隊で、空中に停止していたときは互いに非常に接近していたのでひとつに見えたわけだ。……フォート・バヤードの上方の空には、ぼつんとひとつだけ離れた雲のかたまりが浮かんでいた。大きさは見込み角にして3度ぐらいいさ、しわたしにして1・6km程度だったと思う。ふたつの物体は信じられないスピードで急上昇し、この雲の中に突っ込んだが、それっきりどころも姿を見せず、雲に入ってからあと

の航跡を見ることはできなかった。このふたつの物体の航跡は定規を当てて引いたようにまっすぐで、ジグザグに曲がるようなことは全くなかった。驚いたことに、ふたつの物体が雲に突入するとすぐに、雲はそこから3つの部分に裂け、裂け目はしだいに広がっていった。……物体はそれぞれ、極めて細い飛行機雲を残して消えたの

である」

斥力場による飛行機の空中分解

1948年7月23日、アラバマ州モントゴメリーの近くで、イースタン航空のバイロットG・S・チルズとJ・B・ウィットドは、接近してくるUFOとニアミスをした。UFOはまばゆい光を放ち、ふたりの操縦する飛行機のコースに突っ込んできたが、あわやというところで針路を変え、赤い「排気ガス」を吐きながら飛行機の右手をすり抜け、まっすぐに急上昇して雲の中へ消えた。チルズ機長によれば、このUFOは魚雷のような形をしたもので、長さは約30m、側面に沿って二列にならんだ丸窓からは明るい光がもれていたという。また、UFOが急上昇した際、強い突風によって機が揺さぶられたという。

斥力ポイント・ソースによる突風によって飛行機が揺さぶられるとすれば、何らかのトラブルによって円盤が低速飛行を強いられているような場合、円盤を調査しに近づいた飛行機は、斥力場に接近しすぎて重大な結果を招くおそれがあるわけである(図3)。

マンテル大尉の悲惨な死は、UFO研究者たちのあいだではあまりにも有名なできごとであるが、初心者のためにこの事件をR場理論の立場から検討

してみたいと思う。

●マンテル大尉の悲劇的事件

1948年1月7日、時刻はやがて午後3時になろうとしていた。明るく輝く巨大な物体が非常な高速度で空を飛んでいるのが観測された。そのとき物体はグッドマン基地という大きな空軍基地に向かって飛行していたのである。すでに午後2時30分には州警察が警報を発していた。何百人もの人々がその物体を目撃し、空軍は戦闘待機状態に入っていた。司令官ヒックス大佐はすでに3機の戦闘機に発進を命じており、この3機は「侵入機」めがけて上昇中であつた。

コントロール・タワーでは、雲の切れ目に姿を現した物体を監視員が双眼鏡で観察していた。いくつかの報告でこの物体は非常に大きかったと書かれているが、それは誇張でもなんでもない。実際、驚くばかりの大きさだったのである。控え目に見積った場合でも少くとも直径150mはあつたに違いない。戦闘機の編隊を率いるマンテル大尉は、コントロール・タワーと交信を続けていた。大尉はその物体がとほうもない大きさで、確かに金属製のようだという確認の報告を入れている。このときには、物体は追跡機のスピードの約半分の速度で上昇中であつた。3機の戦闘機がいよいよ迫ってくる

を続けた。コントロール・タワーが再び戦闘機隊からの声を聞いたとき、マンテルの僚機はすでに物体を見失っており、マンテル機が物体を追って雲の切れ目に突っ込んでいくのを見たあとだった。3時15分、マンテルから最後の連絡が入った。依然、物体を視界に捕えて追跡中、さらに良く見える距離まで追い上げるため、高度6千mまではこのまま上昇する、という内容であつた。

マンテル大尉の機は非常に広い地域にバラバラになって散つた。この空中分解の正確な原因は知られていない。マンテルが一時的に意識を失い、そのために機が操縦不能になったのではないかという説は、同僚によって否定された。マンテルの乗っていたP51機は「手放し」でもちゃんと飛ぶというのである。マンテル大尉が命を失うにいたつた原因と経過についてはあらゆる種類の憶測がなされたが、そのなかでもいちばんバカバカしいものは、大尉が追跡していた物体は実はその時刻に見えていたはずの金星だったという説である。マンテル大尉が経験豊かなバイロットであつたことは、同僚が口をそろえて証言している。こういう優秀なバイロットが、たとえ前もって地上から警告を受けていなかったとしても、こんなとんでもないミスをするとはとうてい考えられない。こんな説をひとに信じさせようとした連中は、い

天文図書の

地人書館 〒112 東京都文京区後楽1-1-10
☎03(815)4422 振替東京6-1532

新刊

●サマルカンド開都2500年記念復刻版

ヘベリウス星座図絵

—付 ウルグベグ星表—

藪内清訳・解説 A 3判 150頁 箱入 定価4500円 千690円

●Nature誌がアマチュア必読の書と激賞

宇宙の発見 望遠鏡による

天文学入門

アシモフ著 斉田博訳 A 5判 330頁 定価2500円 千200円

●「天文の基礎教室」姉妹篇

天文の計算教室

斉田 博著 A 5判 228頁 定価1500円 千200円

●1年間の総ての天文現象がひと目でバッチリ

'78 天文観測年表

天文観測年表編集委員会編 B5判 200頁 定価1000円 千160円

●星座早見盤のついた「天文ポケット年鑑」

'78 天文手帳

「天文と気象」編集部編 A 6判 192頁 定価480円 千120円

好評発売中

●天文学習に役立つ天文ファン待望の書

天文観測辞典

古畑正秋監修 A 5判 380頁 定価2900円 千200円

●SFよりおもしろい

未知の宇宙 ●そのナゾにいとむ

リービット著 斉田博訳 B 5変形 210頁 定価2000円 千200円

●ヘール天文台校閲による天体写真の決定版

パロマ天体写真集 (永久保存版)

大澤清輝解説 B 4判 定価1700円 千240円

●この1冊で天体写真がバッチリ!

天体写真入門 初心者のための

徹底ガイド

天文と気象別冊 B 5判 144頁 定価800円 千160円

●教師のための天文書

天文の基礎教室

土田嘉直著 A 5判 194頁 定価1200円 千200円

SFとして片づけられるのではなく

さてここで、斥力場理論の仮説をさらに少しばかり展開してみようと思う

つたい正気の間人なのだろうか。ほとんどの研究者は、マンテル大尉が追跡していた物体はまぎれもなくU.F.O.だったと確信している。また、何人かは、大尉の死になにか不吉なもの影を認める傾向にあるようである。だが私はここで、少なくともひとつの可能性、こういう説明もあり得るといったものを示そうとしたにすぎない。ここでも、ほかの場合と同様に、私の推論が誤っているかもしれないのだ。

のだが、私はこの理論が我々を導いてくれるすばらしい世界に思いをはせないわけにはいかない。私自身はずっと以前からこの理論の考え方になじんでいるので、これから理論がどんな展開をみせるにせよある程度の心構えはできているつもりだ。しかし、読者の皆さんにはそれほど受け入れやすいことではないかもしれない。そこで、R場理論を裏づける作業をさらに一歩進めるにあたって、ひとつのエピソードをお話ししようと思う。

それは、私がある科学者たちの集まりで、U.F.O.の講演をしたときのことである。私が、これからお話しすることはむしろ空想科学小説かかなかのよ

うに聞こえるかもしれないが、とうとうとたん、暗い会場のどこからかこんなささやきもれてきた。「……空想科学小説そのものであります」これにはいささかどきまぎさせられたが、私はつとめて平静を装い、話をそのまま続けて暖かい理解の拍手を得ることができた。その日の夕方になってわかったことだが、あれを言ったのはたいして重要な地位にいる技術者ではなく、逆に、その男よりも責任の重い立場にある人たちは私の話に非常な興味を覚えてくれていたのである。

なぜこんな話をご紹介したのかというと、私たちが結論として到達しようとしているいわゆる空想科学小説の世

界について私は十分承知しているつもりだし、また、私たちはあくまでも与えられた手がかりを検討する作業に専念すべきであって、暗闇から聞こえてくる声に心を惑わされてはならないかということをごここで強調しておきたいからである。さらに言わせていただくならば、きょう空想科学小説であったものが明日には真正銘の科学になっていることだってよくあるということをお願い出していたいただきたいのである。さて、次に示す例がR場理論の立場からどう解釈できるのか、ひとつ読者に考えていただきたい。だが、少くとも私自身としては、とうの昔に満足すべき結論に達しているつもりである。

空中で停止させられた飛行機

1947年7月23日、ニュージャーシー州モリスタウンに住む航空専門誌編集者ジャン・ジャンサンは、自分の飛行機を操縦して高度1800mを飛行中、奇妙なできごとに出会った。ジャンサンは次のように述べている。

「地平線のあたりをながめながら飛んでいると、カメラのフラッシュのような光がひらめくのに気がつきました。その光は上のほうから、それも非常に高いところから差し込んできたようです。つまり機首の上方、パイロットたちが11時方向と呼んでいる方向からです。私は初めのうち、上のほうを飛んでいる飛行機が太陽光線を反射したのだと思っていました。それ以上上へつに気にもしていなかったのですが、こんどは機のエンジンの調子がおかしくなり始めたのです。なにかの発作でも起こしたように咳込んでいます。私はキャブレターの温度を上げ、スロットルを全開にしました。このような高度ではキャブレターに水がたまることがあるので、それを吹き飛ばすためです。だが、エンジンはゼーゼーいう音を出しただけで、それっきり静かになってしまいました。当然、機は機首を下げて滑空を始めると思っただけです。ところが……機首は依然として地平線を向いたままで、機は正常の水平

飛行姿勢をとっています。私はハッとしました。なんと、機は重力の法則に挑戦しているわけです。私はこの異様な状況におびえてしまい、もう少しで自分を失うところでした。スピード・メーターを見ると、針はゼロを指しているではありませんか。からだ中を、刺すような、電気のような感覚が走りまわりました。第六感というのでしょうか、何者かにじつと見られて、姿かたち、服装、機体などを仔細に……しかも執拗な視線で……観察されているような無気味な感じがしました。私は、眼にたまった冷たい汗のしずくを払いました。そのとき、私は見たのです！ 左翼の先端越しに、やや上のほうでしたが、幽霊のような奇妙な飛行物体が見えたのです。空飛ぶ円盤のようでした。フランジのように突き出た円形の縁の両側には、汽船の舷窓のようなものが点々と並んでいます。鈍い金属光沢をしたその機体はいかにも強靱そうに見え、この惑星のものではない超知性的なものを感ぜさせます。円盤は空中に止まっています。さらに、私の飛行機からおそらく400mほど離れたところ……いまお話しした円盤のむこう側、そしてそれよりいくらか高いところに、もう1機の円盤が見えました。この円盤も空中に停止していたようです。この2番目の円盤は、私に近いほうの円盤が観察を終えるのを待っているように思われました。やがて、

私はなんとも説明しがたい衝動にかられて点火スイッチに手を伸ばし、スイッチを入れられました。エンジンが停止したときに切ったのでした。これで、両方の点火装置はオンになり、プロペラがゆっくりと回りだし……エンジンは再び安定したリズムカルなうなりをたてはじめました。機は、はじめのうち機首を下げて失速状態で滑空し、やがて対空速度を得て、操縦可能な安定飛行に移りました」

この種の目撃例に対する評価のしかたによって、最も熱心なニューフォロジストといえどもUFOを頭から鵜呑みにしていかどうかテストされるのである。しかし、ここで一言つけ加えさせていたいただきたいのだが、私はこのUFO目撃例について技術的証拠の検討を試みた際、すべての目撃例を考慮に入れたときにはじめて自分の研究の意味が理解できることを発見した。次を読んでいただけは、こういった事情がよくわかりただけだと思う。

私は、すでに何年も前、ジャンサン事件が初めて公表された折にその記事を読んでいた。そしてこの章の執筆準備をしているとき、事件とR場理論との間になにか関連性がないか調べてみることにした。そのとき私は、ジャンサン氏が円盤を1機だけ見たと思っていた。分析を進めていくにつれて、この事件をR場やG場の理論と関連づけて考えるのは無理であることが

じきに明らかになった。なかばサジを投げたかたちで、私は次のような結論に達した。すなわち、この目撃例をR場理論によって説明するためには、第2の円盤が存在して、それが私の計算によると第1の円盤よりも速くに、しかも上にいなければならない、そうすれば、R場理論による説明が可能である。「たぶんジャンサン氏には見えなかったんだ」私はこう考えたが、これではかんじんの論点から逃げてしまいう点から見てもほとんど意味をなさない。私は失望し、この事件の研究を中止したのである。

その後、ジャンサン事件が再び明るみに出たが、記事を読む直前まで私は円盤が1機だと信じていた。そんなわけだから、実際に目撃された円盤が2機だったことを知って私が喜んだのはもちろんである。理論は2機の宇宙船を要求し、ジャンサン氏はその2機を、実際に見ていた！ 図4は一定の縮尺で描かれたもので、この中で飛行機から第1の円盤までの距離は紙面の都合上1000フィートに縮められているが、これによって本来の位置関係が本質的に変わることはない。読者はここでも、ポイント・ソースの焦点距離が可変であることの利点を認めてくださるだろう。ここに示した距離や高度差の値は、もちろんすべて仮定のものである。だが、これらの値の妥当性を計

算で確かめるまでもなく、次の仮定によって、図に示した位置関係が論理的に導き出せる。まず、この場合2機のUFOは、ジャンサン氏の飛行機を空中で孤立させ、次に、遠くから同機を

観察しようとしたと仮定するのである。なぜならそんなふるまいをしなければならなかったかについては、多くの理由が考えられる。また、ちょっと考えればわかるように、ポイント・ソースを上方に持つG場宇宙船がやはり同じように遠くから飛行機を観察する

には、当然2機の円盤は逆の位置にしなければならぬ。つまり、第1の円盤は飛行機よりも下方に、また第2の円盤は第1の円盤よりもさらに下方に位置しているはずである。

さて、いよいよ実際に数値をあてはめてこの目撃例をR場理論の立場から検討するわけだが、この分析の結果、R場理論はさらに次の段階へと展開していくのである。

(以下次号)
遠山峻征訳

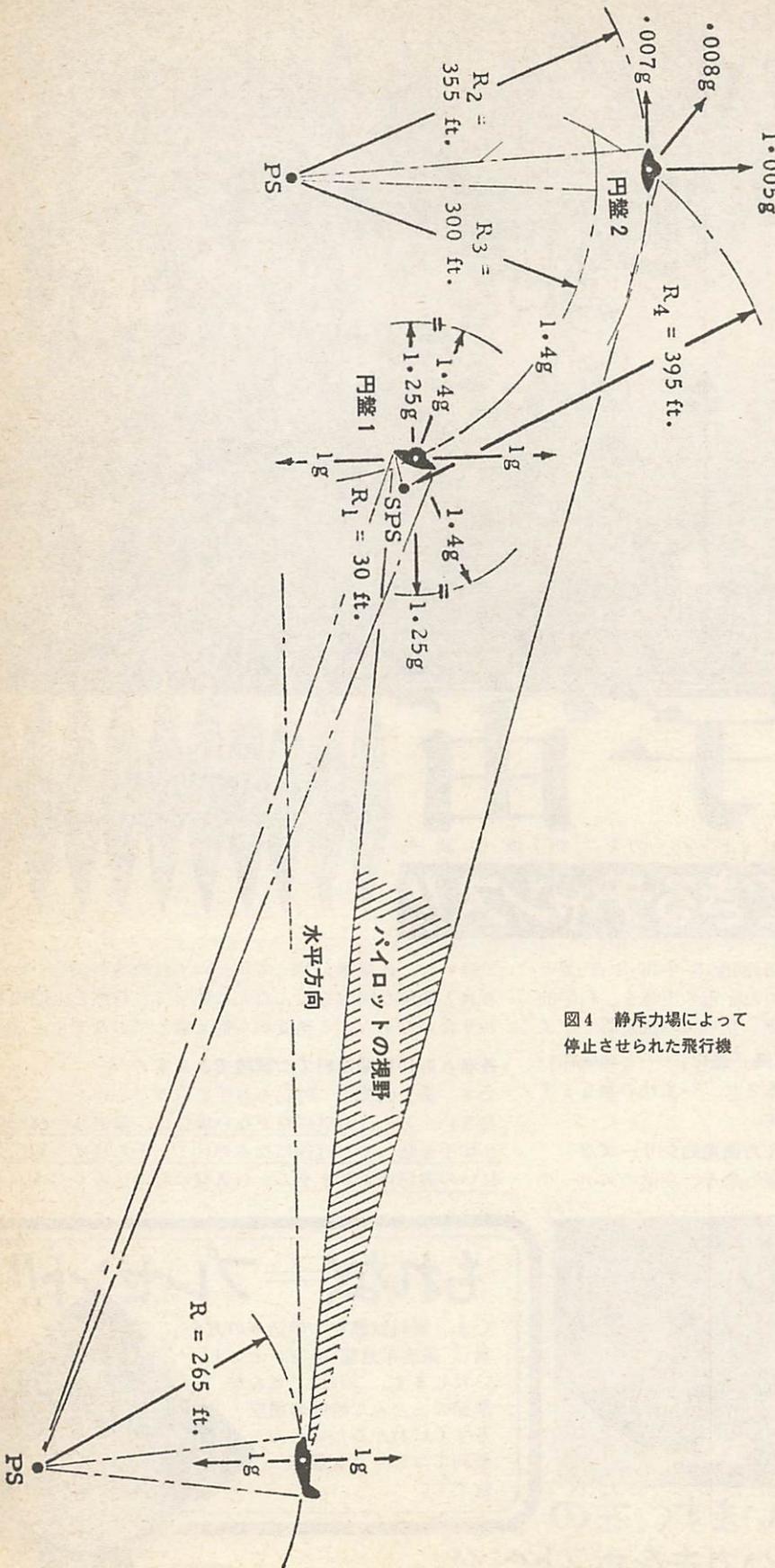


図4 静斥力場によって停止させられた飛行機

驚くべきこの事実!!

第1回配本

宇宙

解説：デービッド・バーガミニ 訳：畑中 武夫

ご試読できるチャンス!!

ライフネージュアライブラリー第1回配本「宇宙」こそ、夢とロマン、そして無限の“謎”を秘めた宇宙の実体を、科学的に、しかも興味深く解説した自然シリーズの決定版です!

第1回配本「宇宙」に続き、「地球」「海」「進化」……と興味深い各巻が約2ヵ月に1冊の割合で配本され、いずれの巻もまず10日間無料でご試読いただけます。

自然と人間のかかわり合いを捉えた画期的シリーズ!!

複雑で変化に富んだ大自然の森羅万象を、空前のスケール

で描いたこの豪華シリーズは、いずれの巻も美しいカラー写真と明解な図版をふんだんに使って、自然と人間のかかわり合いをあらゆる角度から捉え直しております。

各巻とも10日間無料でご試読できます!

まず、第1回配本「宇宙」をお手に取り、心ゆくまでご覧ください。万一、お気に召さない場合は、最寄りの郵便局より切手を貼ってご返送になるだけで、その後は一切代金支払いの義務はありません。お気軽にお申込みください!

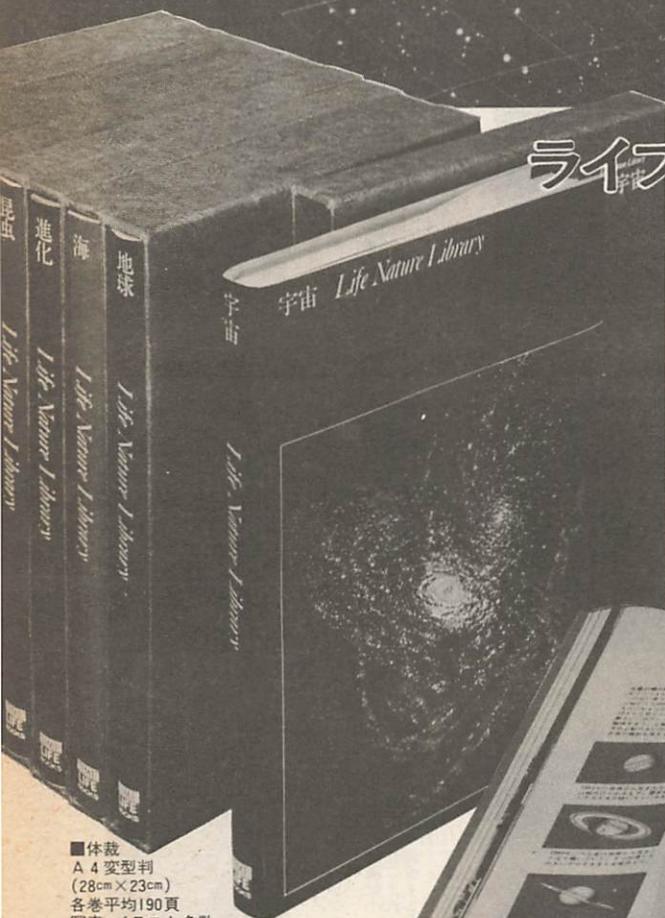
もれなく=プレゼント!!

いま、無料試読をお申込みの方全員に“星座早見盤”をプレゼントいたします。これは、どんな季節の、どんな時間の星座もすぐにわかるたいへん便利でユニークな星座盤です。



いますぐ、左の
ハガキをポストへ!!

DISCOVER—宇宙!



ライフ ネーチャ ライブラリー *Life Nature Library*

10日間、無料で

——— いますぐ右のハガキでお申込みを! ———

あなたは信じられますか?—地球は毎日、1億個の流れ星とぶつかっているのです!

☆いったい宇宙には果てがあるのでしょうか?

☆太陽がその生命を燃え尽した時、地球の運命はどうなるのでしょうか?

☆天体の運行—その基本的ルールとは?

■体裁
A4変型判
(28cm×23cm)
各巻平均190頁
写真・イラスト多数
豪華ケース入り
各巻定価3,100円
(1,550円×2回払い)

**TIME
LIFE
BOOKS**

タイム/ライフブックス

東京・千代田・大手町タイムライフビル
業務部：東京都文京区小石川5-6-9 ドミ小石川ビル
(千112) 電話(03)947-4151



バックナンバー紹介

「UFOと宇宙」(旧題号「コスモ」)は創刊以来、通巻29号を重ねてきました。さらに装いも新たに今年9月号より月刊誌化されました。そこで本誌の歩みをここに紹介しましょう。

お申し込みは現金書留
振替・小為替・低額切手
などで当社宛直接ご注文
ください。
なお、創刊号から7号
までは売り切れです。
送料 50円(1冊につき)

No. 4

UFOと宇宙
コスモ

(1974, 1-2月号)

〔絵写真〕メルボルン郊外の円盤
／琵琶湖上空の円盤

バブア島の円盤騒動(1)：ノーマン神父
日本白雲の天星人出現説考(1)：斎藤守弘
空飛ぶ円盤は存在する……：橋本健
神々の戦争(4)：E・V・デニケン
国内UFO目撃報告／読者の声

No. 5

UFOと宇宙
コスモ

(1974, 3-4月号)

〔絵写真〕埼玉県秩父市のUFO
／北海道のUFO

円盤の中に連れこまれた男(2)：南山宏
日本白雲の天星人出現説考(2)：斎藤守弘
太陽エネルギーと水で無限の燃料を！
神々の戦争(5)：E・V・デニケン
国内UFO目撃報告／読者の声

No. 9 ¥400

UFOと宇宙
コスモ

(1974, 11-12月号)

〔絵写真〕横浜市上空のUFO？
／シヨーン・アダムスキーはまだ影を投
げかけている……：G・クレイトン
地震の震をにぎるマンテル対流！
宇宙引力・空飛ぶ円盤(4)
国内UFO目撃報告／読者の声

No. 10 ¥360

UFOと宇宙
コスモ

(1975, 1-2月号)

〔絵写真〕ワシントン市上空の
UFO大編隊／三宅島の怪光体

銀色の服を着た宇宙人……：高梨純一
科学を曲げる男、ユリ・ゲラー
月世界の謎を探る……：宮本正太郎
宇宙引力・空飛ぶ円盤(5)
UFO情報／科学ニュース／読者の声

No. 6

UFOと宇宙
コスモ

(1974, 5-6月号)

〔絵写真〕広島県呉市のUFO
／横浜市のライティング・ライツ

円盤の中に連れこまれた男(3)：南山宏
日本白雲の天星人出現説考(3)：斎藤守弘
地球の自転速度が急変……：飯島重考
宇宙引力・空飛ぶ円盤(1)
国内UFO目撃報告／読者の声

No. 11 ¥360

UFOと宇宙
コスモ

(1975, 3-4月号)

〔絵写真〕阿蘇のUFO群！
／アダムスキー型円盤尾道市に出現

月面は円盤の中継基地か……：垂沢潤一郎
原子・銀河系・理解(1)……：D・フライ
一九八〇年代の宇宙連絡船：河島信樹
宇宙引力・空飛ぶ円盤(6)
UFO情報／科学ニュース／読者の声

創刊号

UFOと宇宙
コスモ

(1973, 7-8月号)

〔絵写真〕米ニューメキシコ州ホ
ロマン空軍基地のUFO

世紀のUFO―空飛ぶ円盤
UFO対談 横尾忠則、小松左京
浅間山頂に円盤が出現
多発光線を放つ円盤：G・クレイトン
神々の戦争(1)……：E・V・デニケン

No. 7

UFOと宇宙
コスモ

(1974, 7-8月号)

〔絵写真〕メナム上空の円盤
／静岡県伊東市に降下した円盤

ガルリダの発見……：黒沼健
アルゼンチンのUFO着陸事件
空飛ぶ円盤はGエンジンか？：橋本健
宇宙引力・空飛ぶ円盤(2)
国内UFO目撃報告／読者の声

No. 12 ¥360

UFOと宇宙
コスモ

(1975, 5-6月号)

〔絵写真〕東京上空のUFO
／円盤―帯広市に出現！

甲府市にUFO着陸！―本誌取材！
古代の天星人……：E・V・デニケン
シベリアの謎の大爆発……：イオン・ホバナ
原子・銀河系・理解(2)……：D・フライ
UFO情報／科学ニュース／読者の声

No. 2

UFOと宇宙
コスモ

(1973, 9-10月号)

〔絵写真〕テキサス州シャーマン
の円盤／高松市上空の円盤

私は円盤に乗った！……：D・フライ
ネス湖の怪物とUFO
輝く球体が室内に侵入
神々の戦争(2)……：E・V・デニケン
国内UFO目撃報告／読者の声

No. 8 ¥330

UFOと宇宙
コスモ

(1974, 9-10月号)

〔絵写真〕大気圏外のUFO／関
門橋上空に出現したUFO！

マンテル大尉の悲劇……：荒井欣一
イタリアの不思議な小人出現事件
天体オーラと宇宙電界の謎：内田秀男
宇宙引力・空飛ぶ円盤(3)
国内UFO目撃報告／読者の声

No. 13 ¥360

UFOと宇宙
コスモ

(1975, 7-8月号)

〔絵写真〕円盤、都内に出現？
／千葉市にソングレロ型円盤出現！

千葉市にアダムスキー型円盤出現！
宇宙交信のためのテレパシー通信
ルーマニアのUFO出現事件
原子・銀河系・理解(3)……：D・フライ
UFO情報／科学ニュース／読者の声

No. 3

UFOと宇宙
コスモ

(1973, 11-12月号)

〔絵写真〕スイス・アルプスのU
FO／千葉県の小型円盤群

バブア島の円盤騒動(1)……：ノーマン神父
円盤の中に連れこまれた男(1)……：南山宏
東京大地震は発生するか……：諏訪彰
神々の戦争(3)……：E・V・デニケン
国内UFO目撃報告／読者の声

No.14 ¥390



(1975, 9-10月号)

〔口絵写真〕 UFO謎倉市に出現！
／または東京上空に金色のUFO

円盤をよく見る人——本誌特別取材
私は金星文字を解読した！
ユーゴスラビアのUFO出現騒動
原子・銀河系・理解(4)……D・フライ
UFO情報／科学ニュース／読者の声

No.19 ¥390



(1976, 7-8月号)

〔口絵写真〕 玄海灘にサラ状物体飛
来！飛行機の窓からUFOキャッチ
来！

私はUFOを何度も見た(横尾忠則)
チャイルズ・ムーディ軍曹砂漠で円盤
に勝つされる……中津要二
(続)宇宙・引力・空飛ぶ円盤(2)
UFO情報／科学ニュース／読者の声

No.24 ¥430



(1977, 5-6月号)

〔口絵写真〕 スイスを訪れた円盤！
／京都市上空でUFOの機動演習？

ウインチェスターに出現したUFOと
不思議な人間……レスリー・ハリス
特集・戦後UFO30年史
(続)宇宙・引力・空飛ぶ円盤(6)
UFO情報／科学ニュース／読者の声

No.15 ¥390



(1975, 11-12月号)

〔口絵写真〕 松戸市に出現した怪光体
／アダムスキー型円盤豊田市に出現

ステラ・ランシング夫人の不思議な写真
聖書の予言とスペース・プログラム(1)
(続)ルーマニアのUFO出現事件
原子・銀河系・理解(4)……D・フライ
UFO情報／科学ニュース／読者の声

No.20 ¥430



(1976, 9-10月号)

〔口絵写真〕 誌上初公開NHKカメ
ラの快撃！トラビス・ウオールド事
件現地カラー報告

現地完全報告・トラビス・ウオールドン
事件の真相……高川正弘
(続)宇宙・引力・空飛ぶ円盤(3)
UFO情報／科学ニュース／読者の声

No.25 ¥430



(1977, 7-8月号)

〔口絵写真〕 静岡県に円盤が出現！
／ベルレ、ヨンガイ上空のUFO

私は円盤に乗った宇宙人に救われた！
宇宙人・謎の黒い影
特集・謎の黒い影
(続)宇宙・引力・空飛ぶ円盤(7)
UFO情報／科学ニュース／読者の声

No.16 ¥390



(1976, 1-2月号)

〔口絵写真〕 富士中腹の怪物体／運
動会を観戦するUFO？

三原市の驚異コンタクト事件
テレポーテーションとテレブラシー
聖書の予言とスペース・プログラム(2)
X博士の怪UFO事件
UFO情報／科学ニュース／読者の声

No.21 ¥430



(1976, 11-12月号)

〔口絵写真〕 ビレネーの怪／驚異の
近接撮影！第5回航空宇宙シンポジ
ウム

特集・UFO研究の現状と展望……高
梨純一、並木伸一郎、久保田八郎
UFO科学……橋本健、清家新一
(続)宇宙・引力・空飛ぶ円盤(4)
UFO情報／科学ニュース／読者の声

9月号 ¥430



(1977, 9月 No.26)

〔口絵写真〕 セントルイス上空のU
FO/UFO、愛知県を飛ぶ

宇宙人と、地球の新人類！超能力少年
奇蹟！ルールの聖泉(1)久保田八郎
恐怖の地下洞穴に潜入……矢追純一
(続)宇宙・引力・空飛ぶ円盤(8)
UFO目撃レポート／エニグマ情報

No.17 ¥390



(1976, 3-4月号)

〔口絵写真〕 月面の謎(アポロ飛行
士が撮ったUFO写真初公開)

巨大円盤横須賀に出現！——本誌取材
UFOは地球の救済に来るのか(1)
奇蹟を起こす法：テッド・オーウェン
ビター・フルコスの驚異的大発見
UFO情報／科学ニュース／読者の声

No.22 ¥430



(1977, 1-2月号)

〔口絵写真〕 石にキズをつけたのは
誰？／読者のUFO写真

UFOは石を食べていた？——本誌取材
チベット山中の金星人基地：高坂烈魅
着陸した円盤に宇宙人の死体が……
(続)宇宙・引力・空飛ぶ円盤(5)
UFO情報／科学ニュース／読者の声

10月号 ¥430



(1977, 10月 No.27)

〔口絵写真〕 ブラジルのUFO／日
野市の怪光体

沖繩にUFO着陸？……永井淳裕
謎の第10番惑星……斎藤守弘
奇蹟！ルールの聖泉(2)久保田八郎
(続)宇宙・引力・空飛ぶ円盤(9)
UFO目撃レポート／エニグマ情報

No.18 ¥390

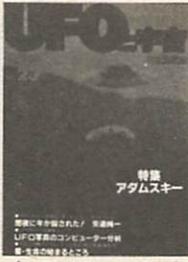


(1976, 5-6月号)

〔口絵写真〕 金剛山にUFO色物体
／つく／金剛寺上空にオレンジ色物体

トラビス・ウオールドンのUFO同乗事
件……高梨純一、アポロ飛行士とNASA
謎の文信……藤沢潤一郎(続)宇宙・引
力・空飛ぶ円盤(1)……ナードクラン
UFO情報／科学ニュース／読者の声

No.23 ¥430

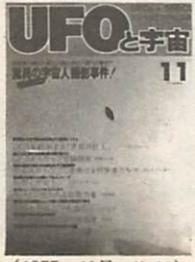


(1977, 3-4月号)

〔口絵写真〕 私たちはUFOにさら
われた！／セムジャヤの宇宙船

闇夜に牛が殺された！……矢追純一
UFO写真のコンピューター分析
女性宇宙人セムジャヤとの会話
星・生命の始まる……アダムスキー
特集・ジョージ・アダムスキー

11月号 ¥430



(1977, 11月 No.28)

〔口絵写真〕 愛媛県川之江市の宇宙
人？／インクランドのUFO

驚異の宇宙人撮影事件——本誌取材
スパイに使われる超能力者……中岡俊哉
海溝に消えた太古の首長竜……矢追純一
(続)宇宙・引力・空飛ぶ円盤(10)
UFO目撃レポート／エニグマ情報

になろう!!



楽しさバツグンのハム

『JA1ZEさん、こちらJR6△△△。あなたの電波は59(ファイブ・ナイン)で沖縄県是那覇シティに入感しております……お初にお耳にかけますが、QSO(交信)よろしくおねがいいたします。どうぞ……』

ハムになるのはカンタン

『電話級ハム免許』は〇×式のやさしい試験、小中学生の合格者も多数います。ラジオ、模型、BCL等の好きな方なら短期間の準備でOK。

▶ハム初心者のための『普及会』通信講座では日本短波(全国)放送にて『必勝!! 国試対策教室』を放送中。国試最新情報をつかんだ重点速習指導で会員を一発合格へブッシュします。

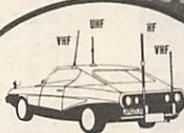


ハムガイド集 無料贈呈中!!

——こんなふうに《電波の声》で仲間を呼び出して自由にラグチュー(おしゃべり)を楽しめるハム(アマチュア無線)が、いまヤングの間ですごい人気。マイクにむかって呼びかけるキミの声が大空をかけ一瞬のうちに世界各地の仲間(100万人以上!!)

にとどいて、楽しい交信が始まります。

↑クルマとハムを結びつけた《カー無線》は人気最高! 運転免許を取ったらキミもぜひやろう。



楽しみつきないハムの世界

●海外交信で外国の友達もたくさんできるし●ローカル(近辺)の仲間とのラグチューもゴキゲン●また学校その他のクラブ局や野外交信でも活躍できる●カラフルなQSL(交信)カードあつめの楽しさはBCLファンなら見逃せないところ●ハムコンテストやフォックスハンティング等各種の催しも盛ん●手がたて予算少々のハンディー局も急増中!



●ハム受験から開局までの総合指導システム

「ハムガイド」送れ
氏名・住所
千番・年令

〒158 東京玉川局
私書箱19号
CQアマチュア無線
普及会C7係

CQアマチュア無線普及会

QTH. 東京都世田谷区尾山台3-9-5

[CQハムサービス 03・704・4986]

OPINIONS 声

なぜ「サメ」と決めつけるのか？ ニューネッシーの正体を——

川瀬功生
〒511-005 三重県員弁郡藤原町上之山田734

「サメか怪獣か」と話題をさらった「ニューネッシー」もついに先頃結論が出されて、あれはサメにはほかならないということだった。

しかし、トロール船を操業していた大洋漁業乗組員も「あれはサメでもクジラでもない。見たこともないものだった」と言っているし、赤味がかった筋肉や背中の脂肪などの証言を無視して、きっぱりサメと言いつけるものだろうか。ヒゲの成分がサメのものと同じだからといってなぜサメと決めつけてしまうのだ。

この地球上には、まだ未知なる世界が一杯ある。だったら結論にしても「首長竜かも知れない」「未知の動物としか見えない」と言っても立

ち消えになることはないだろう。残念で仕方がなかった。

キリストが伝えた未来科学は古代人によって哲学化されてしまった

上村典久(18)
〒801-01 鹿児島県掛箱郡頼娃町別府北大川6546-12

私はいつも思うのですが、やはり聖書は単なる宗教的書物ではないです。たしかにそのほとんどの部分は宗教的色彩が濃いのですが、ごく一部分は、全くそのような意図でなく、理解に苦しむようなところがあります。たとえばエゼキエル書の第1章などです。どう考えても単なる哲学的文章ではなく、何か物体を目撃した描写のように思えます。我々現代人が読むとき、これは間違いなく宇宙船着陸の様子を描いたものだとわかるのです。ではなぜ聖書に宇宙船たる近代的機械が出てくるのですか。



●版上清久 茨城県土浦市

そうです。エゼキエルからもわかるとおり、聖書こそ古代に宇宙人が地球にきたことを物語る唯一の書物なのです。予言者エゼキエルが見たのは、間違いなく宇宙船であり、この驚くべき光景について彼は、許す限りの描写を行ったのです。しかし無知な古代の人々のこと、宇宙船のような複雑な機械装置など描写できるはずがありません。こうして苦勞のすえ、出来上がったのがエゼキエル書の第1章というわけです。

だから聖書の文を従来のようにそのまま解釈すべきではないと思うのです。視点を変えて考えれば、もっと違った深い意味が隠されているのです。

また、G・アダムスキーが会見したという金星人が、彼に語った言葉の中にキリストが語ったものと全くよく似た言葉があります。たとえば円盤の動力をたずねられた金星人は「あなたたちの身の周りや、自分自身のことをもっとよく考えれば、すぐにわかることですよ」と答えた。こ

れはキリストが語った「汝を知れ」という意味と同じではないでしょうか。おそらく古代の人々は、これらの言葉を哲学的に理解してしまったのでしょ。いえ、このようにしか理解できなかったのでしょうか。現にキリストが宇宙船らしきものに乗っている絵も発見されているそうですし、当然キリストは宇宙船についてよく知っていたかもしれません。

南米ロス・タジヨス
洞穴で発見された金
属板の絵文字を解説
菊池弘子
〒176 愛媛県八幡浜市五反田1-79-8

本誌10月号、矢追純一氏の書いた「巨大トンネル網を造った謎の生命」の中に出てくる金属板の絵文字を私なりに解説してみました。

大昔、ムー大陸の地に宇宙船が訪れ、光の中から小型宇宙船に同乗した宇宙人が降り立ち、高度な文明を伝えた——というものです。

つまり、金属板に描かれた太陽、鹿、蛇、花がムー大陸のシンボルマーク、聖なる鳥は宇宙船、中央2本の蛇行線は光を表わしているでしょう。三角形の中の○の記号は創造主を表わしているのです。

ならだれでも考え出す説ではないでしょうか。私の説が正しいかどうかは時間がたてば、わかるでしょうが、きつと違っていると思います。以上、私の意見でした。

太平洋戦争の終戦前日に愛知県でUFOを目撃した5人の陸軍将校が愛知県でUFOを目撃した西康夫(14)
〒519-51 三重県南牟婁郡御浜町大字神木592-3

ほとんどの通う中学校の先生は、太平洋戦争の終戦前日にUFOを目撃したそうです。それは昭和20年8月14日午後11時頃、場所は愛知県の遠州灘に面した渥美半島、現在の渥美町付近だったそうです。

当時、先生は陸軍の将校だったそうで5人の同僚とこれを目撃したと話しています。ある夜、屋外に出ていると、暗い空に黄色く輝く、およそ月の3倍はあろうかという円形の物体を見た。物体は直線、ジグザグ飛行を続けながら名古屋方面から遠州灘の沖の方へと飛んではいったそうです。その後、将校たちは互いに物体の正体について話し合い、日本の新兵器だと思込んで、日本はアメリカに勝つてしまったそうです。ところが翌日、日本はアメリカに負け終戦をむかえました。そこで将校は「あれはアメリカかソ連の新兵器だったのか?」と考え直したそうです。UFOの存在すら知らなかった当時としては、当然の考え方だったと先生は話してくれました。そして現在、先生は大のUFOファンになっています。今日は、先生から聞いた

32年前のUFO目撃報告を読者のみなさんに紹介しました。ついでにぼくもUFOを目撃しました。いっただったか忘れましたが、でも、この事はいずれ機会があったらご紹介しようかと思っています。

自己中心主義から、地球や宇宙を中心と考える概念の拡大が必要だ

中川明子（19）

〒036 青森県弘前市高田前田20

本誌の11月号、「声」欄に「宇宙人の力に頼ることはいけない」という意見がありました。私も賛成しますが、果たして人間だけの力で地球いや人間を守れるでしょうか。今の状態では不可能です。なぜなら、人間はいつも自分の利益しか考えず、そのくせそのことが自分を含めた人間たちの足を引っぱっていることに気づかないからです。そういう私も、実は毎日公書を出しているし、みなさんもそうかもしれません。生活するのは仕方のないことで、たとえそのことが人間を滅亡させることになるとしても、生活を放棄することはできません。しかもこれは地球人類が全員で行わなければならないことです。本誌読者だけの一部の人が行ったところでよい問題です。

要は人間自身は地球の付属物であるが、地球は人間の付属物にはならないという事です。つまり、その昔コペルニクスが太陽を太陽系の中心としたように、そしてカプティンが太陽を銀河系の中心からずらし

たように、私たちもまた「心」という内宇宙において自己中心主義から、地球や宇宙を中心とする概念の拡大が必要ではないでしょうか。

でも何か違っているような気がする。ご意見を聞かせてください

中原秋実（18）

〒852 長崎県長崎市大橋町

私は3年ほど前に左腕のヒジの上部に小さなしこりができました。やがて少しずつ大きくなり異物感もあったので、学校の健康診断の際、訴えたのです。しかし心配することはないといわれました。

今年になって友人が霊能力者を紹介するので、無料だということもあって、ものは試しだということで行ってみることにしました。そして実際にしこりを半分（？）にしてくれました。能力者が念をこめると、私の体がズンとしびれてくるのがわかりました。ですから彼が不思議な力をもっているのはたしかです。

だが、私は彼が話したことにとどうしても納得できず悩んでいるのです。まず彼は私に、すべての病氣、事故は霊的現象であり、私の腕にも霊がとりついているから、取り去ってゆくのだからと言いました。そして、すべてに無条件に感謝をし、己の無知を恥じてすべての防御をやめよ、君のようにすぐ物事の裏を探っているが将来リニューマチになると言いました。でも、そうでしょうか？ 人間は恥しい部分を自分でも気づかぬうち

あなたの郷土の謎めいた伝説②



謎の天狗原

小沢 実

（〒399-06 長野県上伊那郡辰野町小野下町797）

小生の住む小野の里は別名「憑の里」ともいわれ、四季折々の美しい変化に富む。空気の良いのは格別である。そして本州のはげ中心、太平洋と日本海に流れ出る天竜川と信濃川を分ける分水嶺となつているところ。そこから10km離れると怪奇に満ちた地帯「謎の天狗原」と呼ばれるところがある。

枝が地面すれすれまでたれ下がった枝垂栗という奇妙な森がある。昔々、子供たちが栗を食べながら「栗に栗の実がとれるようにならないかなあ」と口々に話しているところへ、お坊さんが現れてお経となえた。す

春になると、付近の山では、赤橙に光る物体があたりを飛び交い、奇妙な音がする。そこで「謎の天狗原」を解釈するのには私は、大昔、宇宙人が来ていて、天狗原はUFO基地になっていたのでは？ と思っ

面白い幽霊

小原秀夫（55）

（〒960-06 福島県伊達郡保原町弥生町25-3）

「ばあさんよ、毎晩おそく館を買いにくる、赤ん坊を抱いたあの青白い女の人、どう見てもこの世の人でないね」と奇妙に思つた淀屋（館屋）の主人が、近所の画家にその姿を描かされた。これが幽霊の絵として現在、私が住む保原町柱田の東光寺に秘蔵されている。



4百年前の永祿年間、藤原清治の娘、朝日前は20歳の年、婿に与左衛門清則を迎えた。だが、体の弱い朝日前は結婚してわずか四十九日で死んだ。ところが夜な夜な清則を訪ねる人は毎夜逢瀬を楽しんでいた。やがて朝日前はみごもり、男の子を産み落とす。怪しく思った下男は父の清治夫婦にこれを伝えると、わが娘に会いたい一心で、

たま出版の最新刊

衝撃の告白!!

ミカエル 大天使の真相

天国の扉

千乃裕子著

神とは、霊魂とは何か。霊界に住む釈迦、キリスト、モーゼ等の姿をカラー絵で紹介。既成宗教の概念を越え、人間が神であるということを科学的角度より徹底的に解明。

定価1,200円 送料160円

話題のUFOシリーズ

宇宙哲学

ジョージ・アダムスキー著 久保田入郎訳
空飛ぶ円盤の惑星文明とは何か、宇宙人達の
普通の真理体系 定価750円 送料160円

宇宙の友人たち

古山晴久著 地球に來ている宇宙人とのコ
ンタクト体験記と生命の真理。アダムスキ
ーを継ぐ啓蒙活動 定価850円 送料160円

宇宙文明の夜明け

高橋田一著 他惑星とのテレパシー対話に
よる救世の警告 定価950円 送料160円

UFOは第2の黒船だ

坂本ツトム著 宇宙的交流と逆産業革命に
よる人類滅亡の回避 定価680円 送料160円

株式会社 たま出版

162 東京都新宿区納戸町33

電話03-260-4367 振替東京3-94804

に社会的習慣、道徳にこじつけて平
気であることが多いものです。人の
善意を信じることは美しいことでし
ょうが、事実を無視した盲信であつ
た場合はどうでしょう。何がホント
ウカウソか己の力で確かめる前に、何
もかも無抵抗に受け入れることは、
泉の水もドブの水も一緒に飲むこと
です。もっている判断力で物事を理
解することは発展につながることで
はないのでしょうか。たとえ私が、
将来リニューマチになろうと、人生の
表面だけしか知ろうとしなかつた人
間より、人生において健全だと思ひ
ます。

が、その後、彼はこう言ったので
す。イエスが語った「汝の天なる父
につかえろ」とは、先祖につかえろ
ということであり、その霊にすべて
をゆだね朝夕に感謝の祈りをしなさい。
そうすれば必ず霊の導きによつ
てしあわせが訪れる。
以上どう思いますか？ 私は、彼
が教えてくれた「……家先祖善霊の
神様ありがとうございます」という
文句を唱えながら何か悲しくなつて
きました。
彼は私のしごりを半分だけ治し、
残りは祈りの実践によつて奇跡を体
験しなければ、またもにもどるとも
言いました。私は続けています。で
も何か違っている気がするのです。
どうか意見を聞かせてください。

清則の寝所に忍び込み待った。
すると朝日前は姿を現し、清治
夫婦は娘の手をとろうとした
が、それからフツリ姿を現さ
なくなつた。7日たった夜、姿
を見せた朝日前は清則に「短い
命で申し分けありません。せめて
あなたの子を産みたい」と訪ね
て来たのですが、親に知られて
は2度と来られません。あなた
の子は明朝、墓の前に置いてお
きますから、どうか立派に育て
てください」といって姿を消し
た。

の子は清信と呼ばれ、すくすく
育つて11歳で論語を読みこな
し、人々を驚かした。
この不思議な話は時の伊達福
宗公の耳に達し、「四十九院肥
前守」の姓と土地を賜つたとい
う。四十九院とは朝日前が死
んで、四十九日目に遺体が発見
されたことから名付けられた。

地元では、つるしいん。と言つ
ている。この子孫は茨城県土浦
市と宮城県丸森町に現存してい
る。
生きているわが子可愛いさに
墓の中から幽霊となり、餓を買
つて子供を育てた母親の一念さ
に人々は感激して供養塔を建て
たという。

〈次のテーマ〉

●あなたの郷土の謎めいた伝説

全国から多数のお手紙ありがとうございました。
次号も右記のテーマにお手紙をお寄せください。
発表は12月20日発売「UFOと宇宙」1月号です。
800字以内 11月末日まで。
ユニバーサル出版社編集部「声」係

文通しよび

(〒963 福島県郡山市台新1-20-1) 高塚達也

ださい。

(〒024 岩手県北上市上野町1-3) 大島都夫

「パラタ」に関する資料をおもちの方、お知らせください。

(〒368 埼玉県秩父市熊木町23-7) 藤本ひとみ

(〒675-13 兵庫県小野市丸山町50-1) 今、未知の世界を研究中！ 12~15歳の女性の方、文通しましょう。特にこれらに関する資料を提供する方なら大歓迎です。 武田利恵子(13)

ぼ くはいま「ブラックホールの秘密」を夢中で読んでいます。UFOの飛来方法に関連があるものと確信していますが、興味のある方、お便り下さい。

(〒959-12 新潟県燕市南4-4-2) 木村孝雄(17)

(〒910 福井県福井市学園2-50) 中島正之(19・学生)

(〒355 埼玉県東松山市市の川83-1) 前田寮(1)

(〒160 愛知県名古屋市中区金山2-10-17) 超 常現象のことなら何でも関心のある、東京に住む現在大学1年生か高校生で、髪が長く、心のやさしい女性の方、お手紙ください。 前川和幸(19)

(〒470-01 愛知県愛知郡日進町岩崎大塚88) 丹羽豊

(〒986 宮城県石巻市字水押41-1) 水押アバート内2-34) 高橋和江(14)

(〒488-01 佐賀県伊万里市黒川町清水60) 九州地方には女性のUFOファンが少なくありません。近県で話し合える方、文通しましょう。私は中学生の頃、UFOを目撃しました。本誌は創刊号からの愛読者です。 前田繁雄(25)

(〒079-01 北海道美唄市光珠内東山 山崎庄)

(〒737-01 広島県呉市広町994-0-47) 中 国地方にお住まいで、UFO、古代文明に興味のある方、友だちになってください。 また私たちのUFO研究クラブに資料を送ってください。 三輪晴夫(22)

愛 知県内でUFOを目撃やUFOに関する不思議な体験をされた方、文通しませんか。また宇宙人と会ったとか、珍しい情報がありましたらお手紙下さい。

(〒470-01 愛知県愛知郡日進町岩崎大塚88) 丹羽豊

(〒470-01 愛知県愛知郡日進町岩崎大塚88) 丹羽豊

(〒470-01 愛知県愛知郡日進町岩崎大塚88) 丹羽豊

(〒470-01 愛知県愛知郡日進町岩崎大塚88) 丹羽豊

S F小説などによく出てくる「ワープ航法」について、どなたか説明して下さいませんか。一瞬のうちには何万年も飛べるなんて、なんとすてきなことでしょう。そうして、やっぱり私たちに似た人たちと出会うことができたら、なおすてきです。 また、同じような考えの方、お手紙下さい。

(〒280 千葉市萩台町632-38) 浜谷千波(15)

(〒132 東京都江戸川区小松川1-49 電話03-681-8842) 青藤任功

(〒132 東京都江戸川区小松川1-49 電話03-681-8842) 青藤任功

(〒132 東京都葛飾区東新小岩4-19-13 コーポ和美)

U FOに限らず、ESP、古代遺跡、心霊現象など、この世の謎に関心のある方、お手紙ください。

(〒132 東京都江戸川区小松川1-49 電話03-681-8842) 青藤任功

(〒132 東京都江戸川区小松川1-49 電話03-681-8842) 青藤任功

(〒132 東京都葛飾区東新小岩4-19-13 コーポ和美)

(〒132 東京都葛飾区東新小岩4-19-13 コーポ和美)

ピ ラミッドパワーの謎に挑戦中です。超自然的なことなら何でもやってやろう精神の方、人生観なども話し合えましょう。お便りお待ちしております。

(〒272 千葉県市川市八幡1-23-3 山花第2マンション202号) 長沢美千代(20)

(〒272 千葉県市川市八幡1-23-3 山花第2マンション202号) 長沢美千代(20)

(〒630-02 奈良県生駒市萩原町1-4 広田方)

(〒892 鹿児島県鹿児島市上竜尾町16-37) 鹿児島県鹿児島市上竜尾町

1 975年4月25日に、日本中のどこかでUFOを目撃された方、とくに19時15分~20分の間に目撃された方。また、東北地方、福島県で目撃された方、詳しいデータを送って下さい。

(〒630-02 奈良県生駒市萩原町1-4 広田方)

(〒630-02 奈良県生駒市萩原町1-4 広田方)

(〒630-02 奈良県生駒市萩原町1-4 広田方)

(〒630-02 奈良県生駒市萩原町1-4 広田方)

G ・アダムスキー、クリシユナムルティエ、ラジネーションなどの哲学に興味をもっていらっしゃる方、お手紙く

(〒630-02 奈良県生駒市萩原町1-4 広田方)

(〒630-02 奈良県生駒市萩原町1-4 広田方)

(〒630-02 奈良県生駒市萩原町1-4 広田方)

(〒630-02 奈良県生駒市萩原町1-4 広田方)



「超能力」の謎に挑戦中！

藤島康洋

(〒630-02 奈良県生駒市萩原町1-4 広田方)

(〒630-02 奈良県生駒市萩原町1-4 広田方)

(〒630-02 奈良県生駒市萩原町1-4 広田方)

(〒630-02 奈良県生駒市萩原町1-4 広田方)

角川書店

東京都千代田区富士見2/03(265)7111

海外ベストセラー・シリーズ

宇宙人來訪の奇怪な事実！
その全貌を写真でたどる注目の書

デニケン旋風は、ついに人類史の定説を覆した！

太古の宇宙人

太古に地球を訪れた宇宙人

エーリツヒ・フォン・デニケン 松谷健二訳

絶賛発売中
¥1500



●あらゆる創造神話には、神々が天から降臨して人間を創ったと…。●知的人類を創造した神々は、ほかならぬ異星の知性体だ。●神々が不死にみえるのは、宇宙時間のずれにすぎない。●旧石器時代の岩絵には、宇宙飛行士が描かれている。

角川文庫 ■ 超自然の謎シリーズ

★ = 日本語版翻訳権独占

未来の記憶

E.V. デニケン / ★ ¥2660

星への帰還 地球人はいかにして生じたか

E.V. デニケン / ★ ¥2660

宇宙人の謎 人類を創った神々

E.V. デニケン / ★ ¥2660

奇蹟 世界を震撼させる奇現象

E.V. デニケン / ★ ¥3400

太古史の謎

A. トマス / ★ ¥3000

UFO 目撃者の証言

O & J. ロレンセン / ★ ¥3000

円盤製造法

J.F. フルムリヒ / ★ ¥2660

地球内部からの円盤

B. ルボア・トレンチ / ★ ¥2660

異星人の殿堂

B. ルボア・トレンチ / ¥2660

超自然の謎

フランク・エドワーズ / ★ ¥2660

四次元の謎

フランク・エドワーズ / ★ ¥2660

世にも不思議な物語

フランク・エドワーズ / ★ ¥2660

超能力者の世界

フランク・エドワーズ / ★ ¥2660

超能力の秘密

G.R. シュタインホイザー / ¥2660

パプア島の円盤騒動

宇宙人の劇的出現事件

ノーマン・クラットウエル神父著 / 増野二郎訳



ニューギニア島パプアで一九五九年に一大UFO出現ブームが発生した。島内の各所に円盤が低空で降下し、堂々と姿を現したが、特にポイアナイにおける出現は劇的であった。地上数十メートルの位置に停止した円盤の上部から、数名の「人間」が、歓声をあげて手を振る島民たちに手を振ってこたえる。この驚異的事実を現地在住のクラットウエル神父が徹底的に調査報告し、大事件の全貌を克明に伝えたすばらしいドキュメント！更にフランスで発生した「火の玉UFO事件」と「多条光線を放つ円盤」他四篇を掲載した！

付・フランスの怪奇火の玉UFO事件 / 多条光線を放つ円盤

B6判
268頁
¥750
¥160

ユニバースUFOシリーズ

レンズ片方無料でおなじみの

東京 新宿西口メガネが
レイバン・
サングラスを
5割引!!!

通信販売

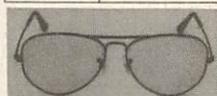
を開始!
店頭にても
販売

	スモーク	グリーン
金	¥16,000→8,000	¥16,000→8,000
ブラック	¥17,000→8,500	¥17,000→8,500



CARAVAN<キャラバン>

	スモーク	グリーン	濃スモーク
金	¥18,000→9,000		
ブラック	¥19,000→9,500		



METALII<メタルII>

	スモーク	グリーン	濃スモーク	フォトサン
金	¥16,000→8,000			¥20,000→10,000
ブラック	¥17,000→8,500			



METAL<メタル>

	スモーク	グリーン	イエロー	フォトサン	ミラー
金	¥18,000→9,000	¥20,000→10,000	¥22,000→11,000	¥21,000→10,500	¥21,000
ブラック			¥23,000→11,500		



OUTDOORSMAN<アウトドアズマン>

	スモーク	グリーン	イエロー	フォトサン
金	¥20,000→10,000		¥22,000→11,000	¥24,000→12,000
ブラック				¥25,000→12,500



SHOOTER<シューター>

	スモーク	グリーン	イエロー
金	¥21,000→10,500		¥23,000→11,500



DECOT<デコット>

- 申込方法
ご希望のモデル名・レンズの色と住所・氏名を明記し現金書留又は代金引換にて申込み下さい。送料はサービスいたします。
- 申込先
〒160 東京都新宿区西新宿1-11-6 協立ビル
新宿西口メガネ レイバンU.F.O.係

店頭特別企画
好評実施中!

メガネレンズ
片方無料!
コンタクトレンズ
クリニック併設!

学生割引も致しております

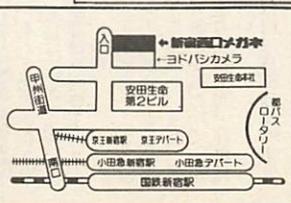
各種メガネフレーム
ローテンストック・
マルヴィッツ・
メッツラー他
各種メガネレンズ
HOYA・ニコン・ツァイス他

私もTVCMで
放映中ですよ。

週刊ポスト連載中

忘れ苦兵衛

おことわり
品切れの節は、入荷予定日をお知らせ致します。
又、御返金も致します。



新宿西口メガネ

東京・新宿西口・安田生命第2ビル裏・ヨドバシカメラ並び
営業時間 AM10:00~PM8:00 年中無休

でんわ東京 03-348-3360



売ります
買います



讀ります

▼本誌No.7、8、12、15、18、20を送料共3500円、「UFO衝撃レポート」私は円盤に乗った」送料共10000円、「南極の水」送料共4200円、トンブソン・サマシガン(モデル・ガン) 82000円で譲る。往復はがきで連絡。
門久雄(〒043 北海道札幌市西区山ノ手五条3丁目)
▼本誌創刊号のコピー20000円、送料3000円で譲る。1部だけ。往復はがきで連絡してください。
齋藤正博(〒581 大阪府八尾市恩智1146)
▼本誌No.2、3、5、7、8を譲る。往復はがきで連絡を。
時修(〒700 岡山県岡山市学南町2-1-39)
▼「天文ガイド」「天文と気象」各2000円、「五衛門日本日記」2000円、「新・猿の惑星」2000円、「宇宙大戦争地球大陸命令」2500円、「地球に大戦争」1500円、「怪人二十面相」3000円、「英会話入門」(テープ)8本、(旺文社) 1万円、その他中学生の参考書などもある。本誌No.

1、4、6やUFO書物との交換も可能。またUFO写真、カラ12000円、白黒1000円で譲る。送料はがきで連絡を。
森淳二(〒719-44 徳島県美馬郡半田町高瀬24-15)
▼「未確認飛行物体No.4」「宇宙文明(UFO写真集)」、UFO写真(K判、白黒3枚)、その他資料を10000円、「オフィシャルUFO」と「コレクターズ・エディション」10000円、「UFO教室」No.1、2を5000円、UFO写真(額縁付、全8枚35000円)を15000円で譲る。なお、全品送料別。往復はがきで連絡を。
館谷 妥(〒039-31 青森県上北郡野辺地町字笹館22)
▼私の蔵書を譲ります。150000円相当しますが、1万円です。「超能力者ユリ・ゲラー」「狐狗狸さんの秘密」「タロット占いの秘密」「私は宇宙人を見た」「続・私は宇宙人を見た」「この目で見た超能力」「超常現象は実在する」「私は円盤に乗った」「悪魔の本」「謎の日本列島」「謎の四次元」
▼「宇宙と星99の謎」「謎のバミューダ海域」「ESP入門」「世界の怪奇ミステリー」「続・世界の怪奇ミステリー」「ノストラダムスの大予言」「テレパシー入門」「超能力者の世界」「地球内部からの円盤」「四次元の謎」「超自然の謎」「世にも不思議な物語」「世界の謎を解く」「ねじれた町」「真昼の侵入者」「SFショートショート傑作集」「SFカセット50」「悪夢のかたち」「空飛ぶ円盤」「時に忘れられた人々」「未来世界から来た男」「就職儀式」「世界の怪奇」などで。手渡し可能な方希望。往復はがきで連絡を。
武藤 聡(東京都東大和市清水1212 東京街道団地北706-1)
▼私の本を譲ります。「バミューダ海域はブラックホールか」「続・私は宇宙人を見た」「新・恐怖の心霊写真集」「タロット占いの秘密」、それに本誌No.5をそれぞれ適価で。往復はがきで連絡を。
岸澤靖典(〒334 埼玉県入間郡大井町鶴ヶ岡171-14)
▼私の本を譲ります。「聖書の真義」「ヨガの真義」各30000円、「心身の神秘」1

3000円、「宇宙学講話」4000円。すべて送料別。往復はがきで連絡を。
桑原 治(〒615 京都府京都市西京区御陵谷町17-29)
▼本誌No.9、22を30000円で。「ノストラダムス原典・諸世紀」(たま出版)10000円、「空飛ぶ円盤200集(正・続)」各5000円で譲る。付録もつける。手渡し希望。封書で連絡してください。
福島淳裕(〒290 千葉県市原市八幡1270)
▼本誌No.15、16を適価で譲る。希望価格を記入し、はがきで連絡を。
大柿知子(〒322 栃木県鹿沼市栃窪1-1-5)
▼「アトランチス大陸」「聖書とUFO」「古代大陸物語」を8000円で譲る。往復はがきで連絡してください。
秋山和弘(〒330 埼玉県大宮市楠引町1-128)
▼本誌No.10、19を各3000円、「パピルス世」①③④⑤をまとめて5000円で譲る。送料は負担します。往復はがきで連絡を。
佐藤妙子(〒690 鳥取県松江市寺町126)
▼本誌No.17、18を各3400円、No.19を3000円で譲る。送料別。往復はがきで連絡を。
戸川祐一(〒879-24 大分県津久見市志手町2-18)
▼ポケット・ブック、ジョン・G・フラー著「Incident at Exeter」The Interrupted Journey」レイモンド・ドレイク著「宇宙の遺産」「宇宙人の子孫」の洋書を譲る。また、他のUFO関係の洋書との交換、買入も可。
今井順三(〒602 京都府京都市上京区今小路通七本松西入末ノ口町44-1)
▼漫画本「ドカベン」⑨⑩を9000円、「エロエロアザラシ」①、「ヘルサイユのばら」①②を合わせて7000円で譲る。ただし手渡し希望で漫画の大好きな女の子に限りです。はがきで連絡してください。
長田貴子(〒332 埼玉県川口市ア-134)
▼本を売ります。これも一眼レフカメラを購入するため、ぜひ協力を。「73日本SFベスト集成」「動物の超能力」「日本列島99の謎」「ミステリーゾーンを発見した」「宇

宙と星99の謎」「UFO大襲来」「アンドロメダ星雲への旅」「太古宇宙戦争の謎」「銀河系防衛軍」「四次元世界の秘密」各5000円、「空飛ぶ円盤実在の証拠」「UFO入門」各8000円、「四次元図鑑」を20000円、その他SF本を20000円で譲る。連絡ください。TEL 6770 P.M.
山上 治(〒385 大阪府河内長野市千代田南町22-10 電話072151-310069)
▼「エニグマ」No.1、2を全3巻各3500円、「はじめて人間ギャートルズ」全9巻各3500円、「ブラックジャック」1、2、3巻各2000円、「ワルワルワールド」1、2巻各2000円で譲る。手渡し希望。往復はがきで連絡を。
木村 隆(〒176 東京都練馬区豊玉南2-27-18 池上マンション310号)
▼「日本古来の天空人出現説考」(本誌No.4、6に連載)のコピー(21枚)を数部譲ります。送料共1部15000円。また、上条恒彦SPレコード「誰かが風の中で」か「木枯らし紋次郎」との交換も可。往復はがきで連絡してください。
上田 隆(〒618 大阪府三島郡島本町東大寺3-13-1)
▼私の本を適価で譲ります。ジョイ・アダムソン著「エルザシリーズ」全4冊、「いとしのピッパ」上、下、「さよならピッパ」の「ブワナ・エルザ」上、下、藤原英司著「エルザとアダムソンの世界」、本誌No.18、20、「天文ガイド」No.145、151、「短波」No.9、16、19、「超自然の謎シリーズ」、E.V.デニケン「全4冊(角川文庫)」、UFO同乗記「地球内部からの円盤」。また、次の本を譲ってください。本誌No.1、6、日本GAPの「GAPニューズレター」No.1、57、「スタンブクラブ」No.3、4、「郵便」No.1、32を適価で。その他宇宙、エレクトロニクスに関する本もお願いします。往復はがきで連絡を。
北村 聡(〒370 群馬県高崎市下小島町669)
▼本誌No.14、15各3000円、No.26を4000円、「心霊恐怖現象30話」(中岡俊哉著) 5000円、B.C.R.のレコード「青春のアイドル」、市販テープ「エジンバラの騎士」各10000円で譲る。往復はがきで連絡し

▼希望者に次の①または②を譲ります。
 ①UFO大型ボスター……1名(送料切手350円分) ②UFO写真……1名(送料無料)はがきに記号を書いて連絡ください。
 植村治益(〒517 三重県鳥羽市鳥羽3-29-15)
 ▼8ミリフィルム「ドラゴンへの道」(定価15800円)を適価で。連絡ください。
 白川敬人(〒039-33 青森県東津軽郡平内町大字外童子字滝ノ水12-13)
 ▼ESP能力が増すバイオフィールドバックGSR-1、定価3万円を1万円で購入。
 往復はがきで連絡してください。
 村井昇(〒010 秋田県秋田市橋山愛宕下



▼ラジオ研究の通信教育「ラジオ工学講座」No.1~6を3000円、「太極拳技法」5000円、「中学理科表」と「高校入試国語要点暗記」を合わせて2000円で譲る。往復はがきで連絡してください。
 熊谷裕行(〒152 山口県下関市長府町印内1533-21)
 ▼UFOに関する本や資料を譲ります。在庫が少ないために早く！ 返信用切手同封の上連絡してください。
 加藤ヒロシ(〒285-02 千葉県印旛郡富里村7栄251-14)
 ▼本誌No.20~22各3900円、「エニグマ」No.2を3000円で譲る。
 蜂須賀公彦(〒272 千葉県市川市柏井町1-179-2)
 ▼本誌No.7、8、12~20を適価で譲る。往復はがきで連絡してください。
 金沢基子(〒411 静岡県三島市秋22 電話0

▼4 久米川公団29-2)
 ▼12弦ギター(ヤマハ定価3万円)にハーブケース、その他をつけて27000円で。まずは一眼レフカメラとの交換も可。
 正木 英(〒370 群馬県高崎市江木町445)
 ▼ぼくのレコード譲ります。なきらけいちゃんのLP「葛飾にバッタを見た」15000円 井上陽水の「御免」「キラークイーン」「マイ・ベストフレンド」NACの「表参道」各3000円。
 金谷忠幸(〒399-01 栃木県下都賀郡野木町友沼4640-59)
 ▼天体望遠鏡(スリービッチ製MTZ40)4500円、モデルガンのマシンガン(M16)1万円、南部14年式とワルサーP38を各3000円、英文タイプのアリベッティ・レットライタ35を25000円で譲ります。タイプライターは近くの方に、往復はがきで連絡してください。
 柄崎博文(〒819-13 福岡県糸島郡志摩町小金丸3045)
 ▼SPレコードを譲ります。「みかん色の

559-8613519 4~9PM)
 ▼SF小説の本、多数あり、リストを送ります。50円切手同封の上、連絡を。
 阿部芳江(〒960 福島県福島市森合字山ノ下1-23)
 ▼私の本を譲ります。本誌No.9~11、17~25、「写真で見える空飛ぶ円盤2000集」「写真で見える空飛ぶ円盤、宇宙人2000集」「地下王国物語」「宇宙哲学」「世界の気象」「地球内部の旅」「キリスト宇宙人説」「地底文明説」「地球空洞説」「私は霊界を見て来た」「宇宙の奇蹟科学」「謎のパミュ1ダ海域」「恐怖の心霊写真集(正・続)」「UFO写真集①」「地球内部からの円盤」「人体の驚異」以上24000円相当を送料共13000円で譲る。
 堀 和夫(〒800-02 福岡県北九州市小倉南区朽網 日豊県管住宅442)
 ▼本誌No.5~10を40000円で譲ります。詳しくは往復はがきで連絡してください。

恋「追跡夜霧」「こぼれ花」「愛のしらべ」「ビューティフル・サンデー」「鉄道員」「美しい愛のかけら」「夕立ちのあとで」「帰ってくるよ」「愛と死のパスポート」「面影」各400円。送別、ご希望の方ははがきで連絡してください。
 小松 徹(〒787-06 高知県中村市荒川190-45)
 ▼ビートルズのLPレコード(ミート・ザ・ビートルズ、ヘイ・ジュード、ビートルズ、ヘルプ)、付録に本誌No.18をつけて送料共50000円で譲る。
 大橋啓司(〒503 岐阜県大垣市外瀬町393)
 ▼LPレコード「ザ・ビートルズ」70を40000円、テレビ漫画「宇宙戦艦ヤマト」から録音したカセット、第1~26話まで1本3000円、2本以上は2割引で。それに本誌No.22を無料で譲ります。
 また、次の本にLPレコード「太陽にほえる」77をつけて17000円で譲る。「UFO大襲来」「謎のパミュ1ダ海域」「ネット1の謎」「恐怖の心霊写真(正・続)」「クイズ・グランプリ第2集」「日本怪奇名所案

内」など。
 岡野正衛(〒584 大阪府富田林市常盤町16-4)
 ▼外国の切手33枚(宇宙をテーマにしたもの。使用済み)を送料共10000円で譲る。または、本誌創刊号との交換も可。
 井上静江(〒230 神奈川県横浜市鶴見区下末吉6-6-37 美鶴荘E号室)
 ▼一眼レフカメラ・キヤノンF1、標準F1.4、新品。定価13万5千円のもの85000円(送料別)で譲る。封書で連絡を。
 榎山和浩(〒350 埼玉県川越市1984-17)
 ▼カセットテープを5本20000円で譲る(注)録音可能時間不明。雑誌「ロードン」1冊集・不滅のブルース……)も3900円で譲ります。往復はがきで連絡を。
 森田君夫(〒397-03 長野県木曾郡開田村末川)
 ▼カセットテープレコーダーSX-2000を60000円で譲る(注)メーカー不明。往復はがきかTELEで連絡を。
 瀬戸雅一(〒440 愛知県刈谷市東境町住吉75-2 電話0566-36-0194)

片桐 元(〒591 大阪府堺市金岡町1147-38)
 ▼「空飛ぶ円盤を追え」「うしろの百太郎」1~8巻「ブラックジャック」1、2、79~11巻を14000円、「男ドラハウス子園」1~3、19~28巻「天文ガイド75年11、12月」を15000円、「もしもの世界」七つの世界の不思議を6000円、「地球最後の日」「日本列島・不思議探検」を6000円の各送料共の値段で譲る。連絡ははがきでお願いします。
 深見貴志(〒833 福岡県甘木市木字提168-2)
 ▼本誌No.1~24(3、16、17、19除く)をまとめて送料共90000円で譲ります。まずは往復はがきで連絡してください。
 荒川 匠(〒310 茨城県水戸市東原町3-6-9)

559-8613519 4~9PM)
 ▼SF小説の本、多数あり、リストを送ります。50円切手同封の上、連絡を。
 阿部芳江(〒960 福島県福島市森合字山ノ下1-23)
 ▼私の本を譲ります。本誌No.9~11、17~25、「写真で見える空飛ぶ円盤2000集」「写真で見える空飛ぶ円盤、宇宙人2000集」「地下王国物語」「宇宙哲学」「世界の気象」「地球内部の旅」「キリスト宇宙人説」「地底文明説」「地球空洞説」「私は霊界を見て来た」「宇宙の奇蹟科学」「謎のパミュ1ダ海域」「恐怖の心霊写真集(正・続)」「UFO写真集①」「地球内部からの円盤」「人体の驚異」以上24000円相当を送料共13000円で譲る。
 堀 和夫(〒800-02 福岡県北九州市小倉南区朽網 日豊県管住宅442)
 ▼本誌No.5~10を40000円で譲ります。詳しくは往復はがきで連絡してください。

片桐 元(〒591 大阪府堺市金岡町1147-38)
 ▼「空飛ぶ円盤を追え」「うしろの百太郎」1~8巻「ブラックジャック」1、2、79~11巻を14000円、「男ドラハウス子園」1~3、19~28巻「天文ガイド75年11、12月」を15000円、「もしもの世界」七つの世界の不思議を6000円、「地球最後の日」「日本列島・不思議探検」を6000円の各送料共の値段で譲る。連絡ははがきでお願いします。
 深見貴志(〒833 福岡県甘木市木字提168-2)
 ▼本誌No.1~24(3、16、17、19除く)をまとめて送料共90000円で譲ります。まずは往復はがきで連絡してください。
 荒川 匠(〒310 茨城県水戸市東原町3-6-9)

内」など。
 岡野正衛(〒584 大阪府富田林市常盤町16-4)
 ▼外国の切手33枚(宇宙をテーマにしたもの。使用済み)を送料共10000円で譲る。または、本誌創刊号との交換も可。
 井上静江(〒230 神奈川県横浜市鶴見区下末吉6-6-37 美鶴荘E号室)
 ▼一眼レフカメラ・キヤノンF1、標準F1.4、新品。定価13万5千円のもの85000円(送料別)で譲る。封書で連絡を。
 榎山和浩(〒350 埼玉県川越市1984-17)
 ▼カセットテープを5本20000円で譲る(注)録音可能時間不明。雑誌「ロードン」1冊集・不滅のブルース……)も3900円で譲ります。往復はがきで連絡を。
 森田君夫(〒397-03 長野県木曾郡開田村末川)
 ▼カセットテープレコーダーSX-2000を60000円で譲る(注)メーカー不明。往復はがきかTELEで連絡を。
 瀬戸雅一(〒440 愛知県刈谷市東境町住吉75-2 電話0566-36-0194)

片桐 元(〒591 大阪府堺市金岡町1147-38)
 ▼「空飛ぶ円盤を追え」「うしろの百太郎」1~8巻「ブラックジャック」1、2、79~11巻を14000円、「男ドラハウス子園」1~3、19~28巻「天文ガイド75年11、12月」を15000円、「もしもの世界」七つの世界の不思議を6000円、「地球最後の日」「日本列島・不思議探検」を6000円の各送料共の値段で譲る。連絡ははがきでお願いします。
 深見貴志(〒833 福岡県甘木市木字提168-2)
 ▼本誌No.1~24(3、16、17、19除く)をまとめて送料共90000円で譲ります。まずは往復はがきで連絡してください。
 荒川 匠(〒310 茨城県水戸市東原町3-6-9)

読んで下さい



「ファントーション」No.1~6を送料共各1000円で譲って。はがきで連絡を。
 小石照美(〒873 大分県杵築市出原)
 ▼「GAPニューレター」(日本GAP) No.57を貸してください。お返しします。
 内田淳次(〒558 大阪府大阪市住吉区杉本町15-13)
 ▼「マンガ少年」今年の5月号、「OUT」の特集・宇宙戦艦ヤマトを適価で譲って。価格をはがきで連絡してください。
 橋本浩子(〒689-12 鳥取県八頭郡用瀬町別所)

▼「マンガ少年」創刊号~1月号(今年、「COM」No.1)最終号を適価で譲って。往復はがきで連絡を。
 福田友子(〒931 青森県八戸市上組町38)
 ▼本誌No.1~20を格安で譲って。往復はがきで連絡をください。
 山口卓也(〒857-01 長崎県佐世保市原分町259-2 竹田方)
 ▼「STAR TREK(宇宙大作戦)」関係の本(洋書も可)、資料を適価で。また「文芸春秋デラックス・古代遺跡、UFOの謎」も適価で譲って。はがきで連絡を。
 平古場明美(〒855 長崎県島原市豊南1-16-1)
 ▼本誌No.1~4 UFO、地球空洞説に関する本などを譲って。
 諏訪公則(〒323 栃木県小山市南小林4-9-8)

▼「宇宙からの訪問者」「テレビシー」「空飛ぶ円盤実見記」(アダムスキー著)の3冊送料共2000円で譲って。
 嶋崎勇二(〒177 東京都練馬区大泉学園町219-2 藤コーポ16)
 ▼「月刊」になっている雑誌「幻想と怪奇」「血と善悪」を定価で譲って。送料当方負担。
 星野敏久(〒947-01 新潟県小千谷市片貝町寺町)
 ▼「COM」創刊号/終刊号、「マンガ少年」創刊号/7年12月号)を適価で譲って。
 松岡由美(〒731-01 広島県広島市紙園町北下安45)
 ▼本誌No.1~4、6、「心の新世界」(日本教文社)、「未知の世界」(筑摩書房)を適価で譲ってください。
 笠原敏雄(〒047 北海道小樽市幸2-9-7)

▼「マンガ少年」創刊号/今年の1月号、「ファントーション」No.1~4、その他「ヤマト大辞典」、宇宙戦艦ヤマトのファンクラブやその会誌なども紹介してください。
 安藤 健(〒433 愛知県名古屋市中村区中村本町3-81)
 ▼「世界のジェット戦闘機・第1集」「航空ジャーナルA・Jカスタムシリーズ次期戦闘機FX」を適価で譲って。
 彦坂和則(〒411-12 愛知県宝飯郡一宮町大字一宮字上新切5-2-9)を安価で譲ってください。送料は当方負担。はがきで連絡し

▼「マンガ少年」創刊号/今年の1月号、「ファントーション」No.1~4、その他「ヤマト大辞典」、宇宙戦艦ヤマトのファンクラブやその会誌なども紹介してください。
 安藤 健(〒433 愛知県名古屋市中村区中村本町3-81)
 ▼「世界のジェット戦闘機・第1集」「航空ジャーナルA・Jカスタムシリーズ次期戦闘機FX」を適価で譲って。
 彦坂和則(〒411-12 愛知県宝飯郡一宮町大字一宮字上新切5-2-9)を安価で譲ってください。送料は当方負担。はがきで連絡し

▼「マンガ少年」創刊号/今年の1月号、「ファントーション」No.1~5各500円以下で譲って。価格を往復はがきで書いて連絡してください。なるべく手渡してくれの方、お待ちしています。
 斎藤絵美子(〒247 神奈川県横浜市戸塚区上郷町1914-16)
 ▼日本GAPの機関誌「GAPニューズレター」No.57以前のもを譲って。コピーでもかまいません。
 矢津田義則(〒826 福岡県田川市川宮一原1-14-1)

▼「宇宙からの訪問者」「テレビシー」「空飛ぶ円盤実見記」(アダムスキー著)の3冊送料共2000円で譲って。
 嶋崎勇二(〒177 東京都練馬区大泉学園町219-2 藤コーポ16)
 ▼「月刊」になっている雑誌「幻想と怪奇」「血と善悪」を定価で譲って。送料当方負担。
 星野敏久(〒947-01 新潟県小千谷市片貝町寺町)
 ▼「COM」創刊号/終刊号、「マンガ少年」創刊号/7年12月号)を適価で譲って。
 松岡由美(〒731-01 広島県広島市紙園町北下安45)
 ▼本誌No.1~4、6、「心の新世界」(日本教文社)、「未知の世界」(筑摩書房)を適価で譲ってください。
 笠原敏雄(〒047 北海道小樽市幸2-9-7)

▼「マンガ少年」創刊号/今年の1月号、「ファントーション」No.1~5各500円以下で譲って。価格を往復はがきで書いて連絡してください。なるべく手渡してくれの方、お待ちしています。
 斎藤絵美子(〒247 神奈川県横浜市戸塚区上郷町1914-16)
 ▼日本GAPの機関誌「GAPニューズレター」No.57以前のもを譲って。コピーでもかまいません。
 矢津田義則(〒826 福岡県田川市川宮一原1-14-1)

読んで下さい



▼宇宙戦艦ヤマトのセル原画をお持ちの方、そのコピーを2枚8000円で譲って。また、ヤマトのLPレコードも譲ってください。どなたか宇宙戦艦ヤマトのファンクラブを教えてください。
 津下貴式(〒801-41 熊本県熊本市上ノ郷町46-1)
 ▼レコードを適価で譲って。「少年忍者風のフジ丸」「サイボーグ009」「宇宙エース」「戦え! オスパー」「エイトマン」な

ど。価格を連絡してください。
 細谷勇治(〒212-01 千葉県東葛飾郡浦安町堀江658-2-15)
 ▼「キカイダー01」の3曲入りレコードを10000円で譲ってください。
 三井 隆(〒658 兵庫県神戸市東灘区北青木4-18-19)
 ▼本誌No.27広告の「バイオファイブバック」「ピラミッド・モジュールシステム」を各1万円と7千円で譲ってください。

▼「マンガ少年」創刊号/今年の1月号、「ファントーション」No.1~5各500円以下で譲って。価格を往復はがきで書いて連絡してください。なるべく手渡してくれの方、お待ちしています。
 斎藤絵美子(〒247 神奈川県横浜市戸塚区上郷町1914-16)
 ▼日本GAPの機関誌「GAPニューズレター」No.57以前のもを譲って。コピーでもかまいません。
 矢津田義則(〒826 福岡県田川市川宮一原1-14-1)

尾田敏明(〒108 東京都京都市南区八條源町16 春日荘内)
 ▼漫画「新造人間・キャシャーン」「紅三四郎」「科学忍者隊ガッチャマン」「海のトリトン」などのセル原画を1万円以下で。またはレコード1枚10000円、アフレコ用脚本、原画コンテのコピーを適価で譲ってください。
 福沢富美代(〒811-34 福岡県宗像郡宗像町日里6-22-15)

news

君の部屋に UFO 遂に出現!!



UFOコードペンダント

ボールランプ(25W×3但し40W使用可)
大きさ φ390mm×H200mm

定価13,800円の品 **¥9,900**(送料共)

アダムスキー型円盤が君の部屋に

UFOペンダントが毎夜、君を見守る。そして語りかけ、UFOの世界へと引きこむ。窓からも灯がともる本格的UFOコードペンです。特にUFOと宇宙の読者の為に、特別価格にて販売いたします。さあ今日から君の部屋をUFOの世界へ!!

購入方法

葉書にて、商品名・住所・氏名・年齢・職業明記の上申し込んで下さい。代引郵便物として折り返し郵送致します。代引郵便物とは、貴方が住んでいる近くの郵便局に品物が着きますと、局より通知が行きます。その通知と9,900円を持参の上、品物をお受取り下さい。尚、クラブ単位で数がまとまる場合はご相談下さい。

木曜会

〒135 東京都江東区住吉1-17-13
カワイ照明株式会社デザイン室内
03-633-1261(代表)

交換して下さい



▼「生命の科学」か「私は円盤に乗った!」をお待ちの方、「大宇宙の異星人」「謎の大消滅」「UFO大接近」「実説大予言」「宇宙人謎の遺産」「恐怖の黙示」のうち3冊と交換して下さい。はがきで連絡を。
小松みどり(〒213 神奈川県川崎市高津区

宮前平2-1-31 東急アパート304号)
▼屈折天体望遠鏡をお持ちの方、私のズーム式望遠鏡(15×40倍)と組立て式望遠鏡(マイキャップ200)、それに新品の三脚(スリービッチ製)と交換して。
岡田勇人(〒923 石川県小松市佐々木町11-4)
▼本誌No.1、3、6をお持ちの方、私の本「恐怖の惑星脱出」「ブンとワン」と交換して下さい。
小林英也(〒355 埼玉県東松山市上野本1-066-3)
▼本誌No.1、22をお持ちの方、「子供の科学」(昨年4月号から9冊)と「ラジオの製作」(「UFO」を追え)と交換して。また、「エニグマ」No.1、5をお持ちの方も連絡

ルマン41を2000円で譲ってください。はがきで連絡してください。
堀切正和(〒290 千葉県市原市五井393-1)
▼LPレコード「インフィニット」、すでに廃盤になってしまった波辺香津美さんのものです。高価で買います。
佐藤喜吉(〒144 東京都大田区本羽田1-15-24 電話03-742-4526)

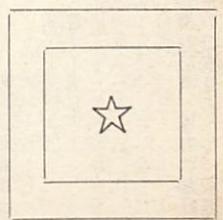
と。本誌No.1、4、6をお持ちの方、そのいづれかと通常切手200枚(使用済み)と交換してください。はがきで連絡を。また、本誌No.1、6を適価で譲って。
下山浩之(〒379-23 群馬県新田郡笠懸村大字阿左美1082)
▼小説「巨人の星」(梶原一騎作・講談社刊)をお持ちの方、私の本誌No.5、7、19、「UFO写真集①」「オカルト時代10月、11月号(今年)」「地球ロマンNo.1、4」「火の鳥」宇宙戦艦ヤマトの録音テープなど交換してください。また「巨人の星」に関するものなら何でも結構です。連絡してください。
鈴木宏子(〒344-01 埼玉県北葛飾郡庄和町西金野井650-1)

▼UFOや天体の写真を安価で譲ってください。また天文研究会などの機関誌も。後藤康則(〒81-42 宮城県加美郡宮崎町君ヶ袋字白山75)
▼ノストラダムスの予言に関する資料、その他、映画や動画のポスター、パンフレットを適価で。はがきかTELで連絡を。
小林美貴(〒061-01 北海道札幌市白石区青葉町3-2-7-306 電話011-8

91-8870)
▼東映動画作品「太陽の王子ホルスの大冒険」のパンフレット、ポスターなどを譲ってください。お札に「宇宙戦艦ヤマト」の映画音楽を録音してあげます。また本誌No.1を適価で譲ってください。
増岡秀啓(〒730 広島県広島市富士見町6-14 電話0822-4813009)
▼モデルガン・MGCハイウェイバトロ

して下さいます。なるべく近県の方。
竹下正人(〒076 北海道上川郡富良野市布部市街)
▼日本空飛ぶ円盤研究会の機関誌「宇宙機」をお持ちの方、「大推理・古代史のなぞ」「かくし芸入門」と交換してください。はがきで連絡を。
杉山淳二郎(〒830 福岡県久留米市高良内町2823-1)
▼天皇在位50周年記念100円硬貨をお持ちの方、私の切手(記念・通常など)100枚と。天皇100円硬貨10枚か札幌オリオンピック冬季大会記念100円硬貨7枚をお持ちの方、安政か天保一方銀と。天皇100円硬貨4枚をお持ちの方、切手№2次国立公園シリーズ・阿寒2種各1シート

と。本誌No.1、4、6をお持ちの方、そのいづれかと通常切手200枚(使用済み)と交換してください。はがきで連絡を。また、本誌No.1、6を適価で譲って。
下山浩之(〒379-23 群馬県新田郡笠懸村大字阿左美1082)
▼小説「巨人の星」(梶原一騎作・講談社刊)をお持ちの方、私の本誌No.5、7、19、「UFO写真集①」「オカルト時代10月、11月号(今年)」「地球ロマンNo.1、4」「火の鳥」宇宙戦艦ヤマトの録音テープなど交換してください。また「巨人の星」に関するものなら何でも結構です。連絡してください。
鈴木宏子(〒344-01 埼玉県北葛飾郡庄和町西金野井650-1)



エコーバックナンバー

送料 1冊¥160 2~3冊¥200 4~6冊¥240

創刊号



¥ 430
(1976, 11-12月)

創刊第2号



¥ 390
(1977, 1-2月)

創刊第3号



¥ 390
(1977, 3-4月)

第4号



¥ 390
(1977, 5-6月)

第5号



¥ 430
(1977, 7-8月)

〈特集〉 巨大地震予知最前線 諏訪彰/内田秀男/よみがえれ 冷凍人間 田辺純/ヒマラヤの雪男・イエティを訪ねて 谷口正彦/恐怖の動物と怪物 黒沼健/金を生みだす「生きた原子炉」 斎藤守弘/火星人はどこへ行った 垂沢潤一郎/矢追純一 不思議考①「ナスカの巨大地上絵」/日本にもピラミッドがあった!? 高坂勉/生体エネルギーとは何か 中岡俊哉/1999年、第2のノアの洪水が地球を襲う ハル・ジャックス/クンダリニーヨガによるチャクラ開発 本山博その他

〈集中研究 異常気象〉 キミは氷河期を生かされるか 池田誠也・中村政雄・須田龍雄・金子史朗・大後美保・飯田陸治郎/細菌兵器 小橋良夫/60万円で原爆はできる/小隅野/多重人格者 斎藤守弘/航空機事故は23日周期で起こる/井上超夫/大作曲家がとり憑いた女性 ローズマリー・ブラウン 和田利彦/ヒマラヤに生きた 続けるイエティ 谷口正彦/矢追純一 不思議考②地上絵を見下ろしていたのは誰?/モーゼは日本で死んだ?/クロワゼットとフルコス 中岡俊哉

〈特集〉 人の進化・過去と未来 湯浅明・小野満春・馬場悠男・小隅野・斎藤守弘/現代の拷問 佐々木雅子/日本列島宝探し 桑田忠親/大空へ蒸発した2人の男 サンテグジュペリとギヌメル 小橋良夫/地名と民族の起源 井上超夫/ノストラダムスのいたずら 和田利彦/サボテンがしゃべった! 橋本健/メキシコに日本人の祖先を訪ねる 谷口正彦/ポルターガイストの家中 中岡俊哉/矢追純一 不思議考③巨岩は念力でとばされた!?/空中で絵が描ける 不思議少年 その他

〈特集〉 現代の亮春 猪野健治・松永伍一・松崎博和・佐藤悦子・日夏明/コンピューター犯罪 松木修平/TV視聴率という名の怪物 志賀信夫/現代忍術大研究 序説 名和弓雄/日本の最高秘密結社 赤間剛/江戸時代2万人の過去 横須田圭三/オリバー・クーンの謎に挑む 斎藤守弘/日本列島宝探し 桑田忠親/タイの予知能力者 スーチャン僧 中岡俊哉/矢追純一 不思議考④パミュダ海域に潜入する/縄文時代の宇宙船 模型 高坂勉/ソ連・超能力研究の秘密 その他

〈特集〉 超能力・現代一流超能力者による予言/フィリピン 超能力手術 瓜谷伸広/マニラチャクラによる超能力開発法 本山博/誰でもできる念力開発法/恐るべき超能力カスバイ 中岡俊哉/失われた大陸 アトランティスの謎/日本も原爆をつくっていた 小橋良夫/恐怖の幽霊屋敷 庄司茂水/ヒトラーと秘密結社 赤間剛/日本列島宝探し 桑田忠親/矢追純一 不思議考⑤パミュダ海中に人工建造物を発見!/キリストは日本で死んだ! 高坂勉 その他



★「アポロ写真集」は
大好評にて品切れ絶
版となりましたので
ご了承ください。

特製バインダー

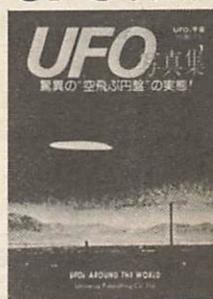


「UFOと宇宙」
を破損・紛失し
ないためにバイン
ダーをご利用
ください。6冊
をとおじ込むこと
ができます。

¥400

荷造送料
1~2個 ¥350
3~4個 ¥700

UFO写真集



●全国 UFOファン
の熱望にこたえて全
世界で記録された貴
重な写真を集大成。

¥1,300

300
カラー21点、白
黒33点 A4判
極上アート紙使
用・美麗カバー
付き豪華本。

■当社出版が書店にない場合は、振替・現金書留・小為替・低額切手などで当社宛直接ご注文ください。

ユニバース出版社

UFOと宇宙

本誌掲載記事・写真の無断転載を禁じます。
海外の記事はすべて翻訳転載権取得済。

編集人 久保田八郎
発行所 株式会社 ユニバース出版社
〒110 東京都台東区上野五丁目一
六(ヤマトビル)
電話 〇三(八三三)一三四一~四四
振替 東京一〇一四七七八
印刷所 三晃印刷株式会社
年々購読料五・一六〇円(送料サービス)
書店で入手できない場合は、本社へ直接注
文ください。

投稿歓迎

本誌はUFOや一般ミステリー事件に関する原稿、目撃レポート、写真などを広く募集しています。原稿はなるべく原稿用紙(タテ書き)をご使用ください。なお、投稿された原稿等は一切お返ししません。写真のネガはご希望により返送しますが、この場合は返送用封筒が切手をはり同封してください。

掲載料を差し上げます。

掲載規定の掲

あて先
〒110 東京都台東区上野五丁目一六(ヤマトビル)
ユニバース出版社
UFOと宇宙編集部

UFO目撃レポート参考事項
(1)目撃者の住所・氏名・年齢・学年・その他
(2)目撃地点の略図・時刻・天候状態等
(3)飛行物体の形状・飛行状態等
その他なるべく詳細

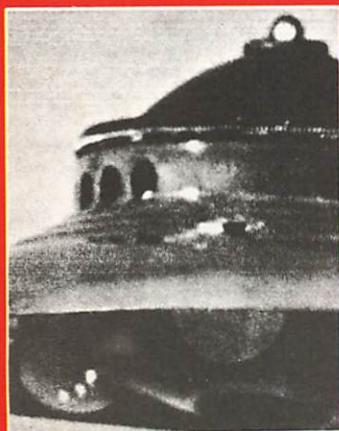


絶賛発売中!

定価 **1300**円
(千160)

|| 偉大な惑星人との会見記 ||

●空飛ぶ円盤は実在する! 遠い惑星から、偉大な進化をとげた人類が、大宇宙船を駆つて地球の救援に飛来……壮大な宇宙空間の大スベクワフルと驚異的事実をつたえた本書は、まさに20世紀最大のドキュメントだ!



宇宙からの訪問者

■米ジョージ・アダムスキー財団より翻訳合本出版権獲得!

ジョージ・アダムスキー / 著

久保田 八郎 / 訳

●「空飛ぶ円盤実見記」「空飛ぶ円盤同乗記」として名高い二点の記録書をアダムスキー研究者として著名な久保田八郎が流麗平易な訳文により全面的に改訳、「実見記」のうちアダムスキーの手記と「同乗記」全文を合本として事件の理解を容易ならしめ、また未発表写真を含め50点以上の写真・図解を一挙掲載した決定版である!

ユニバース出版社

〒110 東京都台東区上野5-1-6 ヤマトビル
☎832-1341~44 振替・東京1-119478

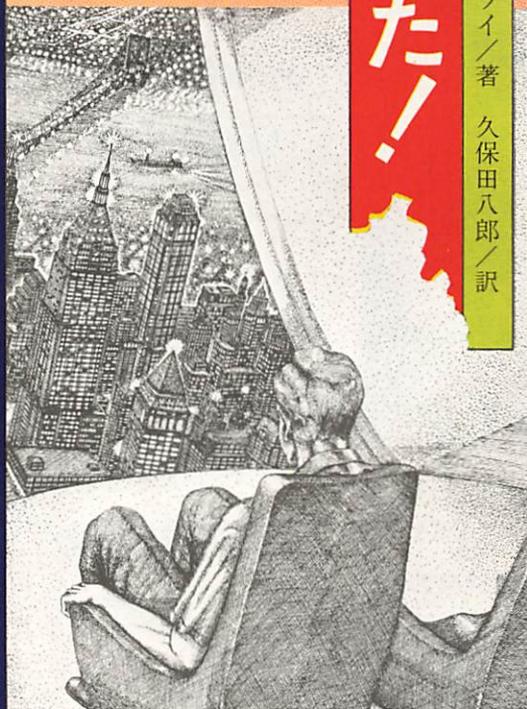
●書店にない場合は直接当社営業部までご注文ください。

B 6判 272頁
定価750円
送料160円

私は円盤に乗った!

●驚異のホワイトサンズ事件 タニエル・フライ / 著 久保田八郎 / 訳

1950年7月4日夜、米ニューメキシコ州ホワイトサンズのロケット実験場に突如一機の円盤が着陸し、内部から響く不思議な声に誘われて乗り込んだ科学者フライは、ニューヨーク上空までを30分間で往復する! その間、円盤の推進法や宇宙人の故郷と超絶した科学、哀れな地球の現状等を知らされるというこの驚異の物語は「UFOと宇宙」第2号に掲載され当時の読者を熱狂せしめたが、いま新装なった単行本として同著者によるすばらしい関連記事三篇をあわせ収録しあらためて読者に贈る! UFO研究者必読の書。



付■宇宙人アランのメッセージ / 進歩の曲がり道 / 原子・銀河系・理解

ユニバース出版社

〒110 東京都台東区上野5-1-6 ヤマトビル
電話(832) 1341~1344 振替・東京1-119478

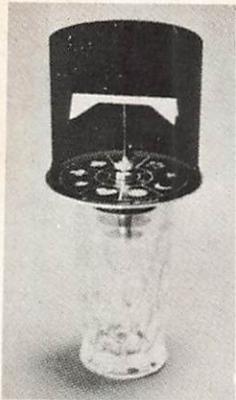
●書店にない場合は直接当社営業部までご注文ください。

あなたにも“念力”がある!!

念力開発器

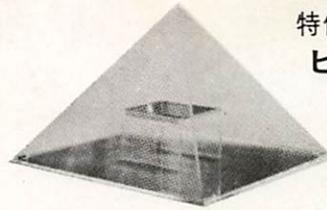
(ロジックルック・ダイヤモンド)
人はだれでも潜在的に念力を持っています。ただそれに気がつかないことが殆んどです。このダイヤモンドであなたは自分に念力があることが自分自身で確認できますし、訓練によってそれが強化されてゆくの分ります。バラ十字団の団員は現にダイヤモンドを使って自己の念力を強化して実生活で幸福をつかむ手段としていました。

¥7,000 (送料共)



ピラミッドーA

アクリル製底辺約24cm
(ピラミッドパワー実験用)
特価 ¥6,000(送料共)



ピラミッドーB

実験だけ楽しみたい方には普及型ピラミッドーB
(¥1,000送料共)もあります。

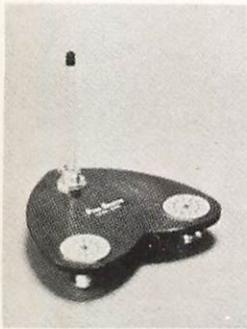
不思議なピラミッド・パワーの実験ができます。中の台に色々な物を置いてみましょう。カミソリの刃は再び切れるようになります。生花は外のものより長持ちします。ミルクや果物も腐敗が遅くなります。魚や虫など小動物がミイラ化します。その他色々な面白い実験ができます。

プランセット

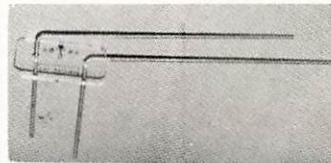
(西洋式こっくりさん)

プランセットとはそれを行う人の意志とは関係なく自然に動き文章や図形が記されるもので、プランセットの実験は精神統一にも有益で家族や友人と一諸に楽しめます。

¥5,000 (送料共)



宝探しロッド (ダウジング・ロッド)



¥3,000 (送料共)
セパレーター付

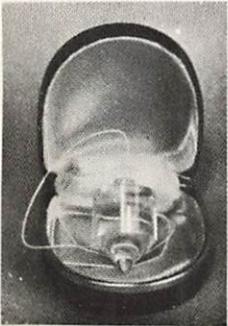
このロッドであなたは不思議な力が発揮できるようになります。比較的短期間の練習で多くの人が、紛失物やかくされた物を発見できるようになります。この道具は実際に地下のガス管や水道管を探すのに実用されています。さあ、あなたも自分の潜在能力を試してみましょう。

魔法の振子

(シュブロール振子)

魔法の振子は、潜在能力開発のもっとも基本となる道具の一つです。魔法の振子で自分のかくれた能力を発見して下さい。占いにも使えます。

¥2,000 (送料共)
携帯用ケース付



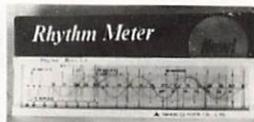
カシオ・バイオレーター



あなたのバイオリズムがワンタッチで出ます。健康管理、セールス、受験勉強、事故防止、スポーツ等に活用できますし、相性判断もできます。

特価 ¥6,000(定価は ¥7,500です)

リズム・メーター



バイオレーター同様、簡単にあなたのバイオリズムが求められます。又、グラフに表されますので大変便利です。

¥1,500(送料共)

ジョーズの口

本物です。室内の装飾に最適!



A約20cm ¥5,000
B約25cm ¥7,000
C約30cm ¥10,000
D約35cm ¥15,000
価格はいずれも送料共です。ジョーズのAとゆうように御注文下さい。

シャーク←写真のものより平たく歯がやゝ短い。約30cm ¥3,000

消えるボールペン



西独製の消えるボールペンです。紙でも布でも手でも書いた後反対側のインク消してサッと消せます。あまりいたずらしないように。

¥300(送料共・切手も可)

※上記商品には、詳しい説明書、練習方法の解説がついています。

●カタログ請求・お問合せは

〒103 東京都中央区日本橋小舟町2-7

発売元 **ポラックス株式会社U係**

TEL (03) 666-0511代

技術指導 **潜在能力開発研究所**

ご注文は

紙に商品名、住所、電話番号、氏名を書き捺印の上代金を現金書留封筒又は郵便振替(東京・4-8703)でポラックス株式会社U係にお送り下さい。

新発売

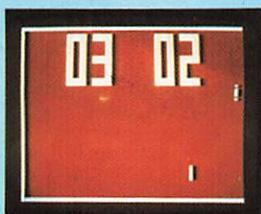
衝撃のカラービデオゲーム

信頼の MOP 8 × 30 を従えて

熱い期待の中を遂に登場



テニス
2人ゲーム
4人ゲーム



スカッシュ
1人
2人



サッカー
2人
4人



ライフル I、II
1名



コメット8000

ライフル銃 ACアダプター
切換スイッチ含む

新発売

特別価格 ¥19,800

送料 ¥1,200

MOP 8 × 30



定価 11,500円

カスタムマイクロコンピュータ搭載(MOS7600)
ビデオゲームマシン / MODEL COMET 8000

今コメット8,000をお求めになれば

MOP8×30がもらえます。

ご注文方法 広告価格はすべて現金価格です。ご注文の場合は品名・住所
電話番号・氏名を明記し、現金書留でお申し込みください。

お求めは……



(株)インターナショナル・サイエンティフィック (旧社名緯インテル)

〒193 東京都八王子市小比企町2957-9 ☎0426(25)7941



ピラミッド製品発売中!!

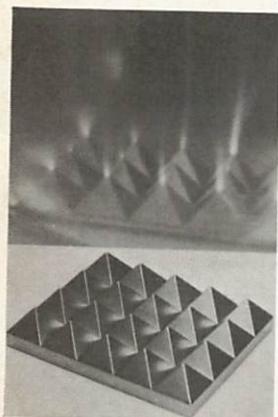


——— ピラミッド・エネルギーをあなたのものに! ———

ピラミッド・エネルギーの発見以来、この力を実用化しようと数々の研究が行なわれてきたが、ついにアメリカのパット・フラナガン博士を中心とするピラミッド・プロダクツ社の研究員達によって“ピラミッド・エネルギー発生器”の開発に成功した。そして次々に新製品が開発された。以下は当社が自信をもって皆様におすすめするピラミッド製品(アメリカ製)の数々である。

エネルギー発生器

(ピラミッド・エネルギー・ジェネレーター)



ジェネレーターとエネルギーの発生している瞬間。(キルリアン写真による)

多方向磁場内蔵の結果南北の磁軸に合わせる必要がありません。ピラミッド模型より数倍のエネルギーが発生します。この上に置くだけで、コーヒー、タバコは味がマイルドに、食物は新鮮さを長く保つようになります。

- ポケットサイズ (3×5インチ) ¥3,200(送料共)
- ミディアムサイズ (4×5インチ) ¥4,150(送料共)

エネルギー放射板

(ピラミッド・エネルギー・プレート)

ピラミッド・エネルギー(18ヵ月分)が注入してある特殊なアルミ板で、ジェネレーターと同じ働きをします。一週間に一度12時間、ジェネレーターの上に置くだけで100%エネルギーを放射します。枕の下に置けばこちよい睡眠ができます。

- ポケットサイズ (3×5インチ) ¥1,650(送料共)
- ミディアムサイズ (4×5インチ) ¥1,950(送料共)
- キングサイズ (8×10インチ) ¥3,500(送料共)

アクセサリ

(ピラミッド・メダル)



エネルギーをよく吸収し、放射しやすい特殊合金でできています。一晩ジェネレーターの上に置いて体に付けると、あなたに宇宙生体エネルギーを補給することができます。

- ピラミッド・メダル (男性用) ¥3,950(送料共)
- ピラミッド・ペンダント (女性用) ¥3,150(送料共)

ピラミッド・テント

(モジュール・ピラミッドテント一式)

(組立式)

¥22,600(送料共)



ギゼーの大ピラミッドを正確に縮小し、ピラミッド・エネルギーで処理した特殊アルミ管製。ワンタッチで開くと四角錐の表面にエネルギー・スクリーンができ、方位を合わせると中にエネルギー場が出現する。植物の発育や、深い瞑想、安眠に役立ち、あなたの宇宙生体エネルギーを強化させます。

ピラミッド振子

(ペンデュラム)

ピラミッド・エネルギー振子を使うと潜在意識が呼びさまされ、振子が四通りの動きをすることによって様々な問題の解答が得られます。

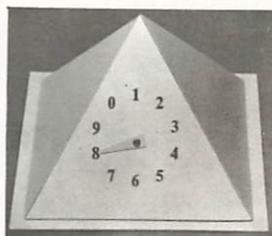
¥2,650(送料共)



パワーダイヤル

あなたの潜在能力を強化し肯定的な希望を実現に導く働きをします。1~10までのある一つの数があなたの自己数になります。その数をセットして目的実現のため、ピラミッドに向かって潜在意識に呼びかけるのです。

¥1,850(送料共)



ピラミッド・レプリカ

¥2,450(送料共)

底辺13インチ、高さ8インチのアルミ貼り厚紙製ピラミッド。

ピラミッド・エネルギー研究セット

¥1,700(送料共)

パット・フラナガン著「ピラミッドと宇宙生体エネルギーとの関連」とコンパス、高さ4インチ、底辺6インチの厚紙丸窓付ピラミッド模型3個がセットになっています。実験に最適です。

(上記の商品は全てアメリカのピラミッド・プロダクツ社の製品で、それぞれ詳しい日本語の説明書が付いています。)

(総輸入元)

マンカインド株式会社

(〒150) 東京都渋谷区宇田川町12-3 ニュー渋谷コーポラス1104

TEL. 03-464-8075

●ご注文は現金書留か郵便振替(東京4-21690)に商品名を明記して当社までお申し込み下さい。カタログ請求の場合は50円切手を同封して下さい。

35mm一眼レフ用

135mm ¥13,000
200mm ¥14,000
35mm ¥12,000



2倍テレコンバーター ¥7,000~¥8,800

交換レンズのカタログ希望の方はカメラ名を書いてハガキで申し込み下さい

●リライアンス交換レンズ仕様 (プリセット絞り・絞込測光・マウント交換式)

品番	LP135	LP200	LP300	LP400	LP500	WP35
焦点距離	135mm	200mm	300mm	400mm	500mm	35mm
明るさ	F:2.8	F:4.5	F:5.6	F:6.3	8	F:2.8
レンズ構成(群/枚)	4/4	3/4	3/4	3/4	3/4	5/6
全長・重量	80・340	140・420	230・550	315・700	410・790	52・150
価格	¥13,000	¥14,000	¥18,000	¥21,000	¥24,000	¥12,000
付属品	フード、マウント、ケース					

●価格は付属品を含んだ価格です。35mm一眼レフ専用

マルチコートの2倍テレコンバーター

標準レンズ50%に付ければ100%、200%なら400%の2倍の望遠レンズに成ります。アサヒペンタックスSシリーズ用¥7,000(フジカ・マミヤ・リコーヤシカにも使用可能)・キャノン用¥8,500・ミノルタ用¥8,000・オリンパスOM用¥8,500・ニコン・ニコマート用¥8,500・コニカ(新)用¥8,800・アサヒペンタックスM・Kシリーズ用¥8,500。(アサヒペンタックス用のみ自動絞、絞込測光)他は自動絞、開放測光、AE運動は絞優先カメラのみ可能。

★ご注文は必ずカメラ名をお知らせ下さい。精密光学製品に付ご購入後の返品はご容赦下さい

スリコールリライアンス交換レンズは1台3役

驚異的低価格

- 1 カメラ用望遠レンズが (300%・400%・500%)
- 2 ズーム式望遠鏡に (別売部品) アイピースアダプター ¥1,500 ズーム式地上アイピース ¥4,500 300%の倍率: 17倍・50倍 400%の倍率: 22倍・67倍 500%の倍率: 28倍・83倍
- 3 天体望遠鏡に (別売部品) アイピースアダプター ¥1,500 天体用アイピース各倍率 ¥1,500 300%の倍率: 24倍・50倍・60倍・75倍 400%の倍率: 32倍・50倍・80倍・100倍 500%の倍率: 40倍・62倍・100倍・125倍

カメラの有カ専門誌 日本カメラ51年6月号 特集 常用交換レンズ総点検より (原文のまま) スリコールLP135・135mm F2.8 中心部はコンドラストもは良好でシャープさも申し分なく有る。周辺部はわずかに画質が低下するが目立つほどではない。全般的に見て各取差がバランスよく補正され画質のよいレンズである。しかも13,000円という普及価格が魅力がある。

使用出来る35mm一眼レフカメラ

アサヒペンタックス(S・K・Mシリーズ)・ニコン・ニコマート・キャノン・ミノルタ・オリンパスOM・コニカ(新)・ベトリ・ミランダ・トプコンエキザクタ・(フジカ・マミヤ・リコー・ヤシカはネジ込み式)

★ご注文は必ずカメラ名をお知らせ下さい。精密光学製品に付ご購入後の返品はご容赦下さい



★リライアンスはマウント交換式ですので、2台以上のメーカーの異なるカメラをお使いの場合でもマウントのみ別購入すれば、ご使用に成れます。リライアンスPマウント 別売価格¥1,500

ものすごいやつが現れた!! この性能 この機能 この低価格

月々分割でお求めになれます
現金価格 ¥14,800
分割払価格 ¥15,800
初回金 ¥6,800
¥4,500
×2回



シャッターボタン
フィルム巻上げノブ
ファインダー

望遠切換スイッチ
フラッシュ・スイッチ
フラッシュ確認ライト
フラッシュ

標準レンズ内蔵ワンタッチ望遠レンズ蔵切替式
ストロボフラッシュ内蔵のポケットカメラ ¥14,800

- (仕様)★使用フィルム・ポケットカメラ用フィルム13×17mm
★レンズ固定焦点 標準25mm F9.5 望遠40mm F11
★シャッター 1/125秒メカニカルシャッター
★ストロボ ガイドナンバー16
★大きさ 59mm×30mm×166mm

- もっと大きく写したい時... ワンタッチで望遠レンズに切替えわずか0.5秒、同時にファインダーも切替ります。ぐんと引つける望遠レンズの迫力!
- 暗い室内や夜間でもかんたんです... めんどうなフラッシュ球の必要ないストロボ内蔵です。(単3乾電池2本使用)
- ピント調節の必要ありません... レンズの焦点深度が深い為1mから無限大までピントが合います。
- カラー写真も白黒写真も鮮明に写ります... 軽く作動し、シャッタープレの無いメカニカル定速シャッターです。
- 軽量コンパクト・わずか205g... ポケットに入れて、抜き打ち連写OK、チャンスを逃がしません。
- フィルム装填はかんたん... フィルムカートリッジを入れてノブを押すだけ、フィルムは市販のポケットカメラ用フィルム使用

今ご注文の方に
特急プレゼント
コダックカラーフィルム
ストロボ用乾電池連呈!
ソフトケース・ストラップ付



標準レンズで撮影

望遠レンズで撮影

室内でストロボ撮影

カラー・白黒



35mmフィルム現像と7×10cm判への引伸しがかんたんにできるカラーフォトセット

- ★わずか¥8,800で楽しめるカラー現像セットです
- ★フィルム現像、引伸し現像の両方ができるので秘密の写真もOK!
- ★むずかしいフィルム現像も明るい所でかんたんに出来ます
- ★カラー写真も白黒写真もお好み次第で、7×10cmに引伸し出来ます
- ★現像液・印画紙等は後日追加購入が可能です

カラーフォトセット ¥8,800 (白黒用7点セットは¥5,500)

だれにでもかんたんに出来る (ごらんに成ってご不満の場合は5日以内に返品下さい)

- (カラーフォトセット内容)
- ①フォトフロント 引伸しレンズ2枚構成
 - ②カラーフィルム現像液
 - ③カラーフィルム定着液
 - ④現像液パット
 - ⑤カラー印画紙12枚 7×10cm判
 - ⑥カラー引伸用フィルター7枚
 - ⑦白黒フィルム用現像剤セット
 - ⑧白黒引伸用現像剤セット
 - ⑨ネガバサミ(ガラス板)
 - ⑩フィルム現像ビンールタンク
 - ⑪計量カップ
 - ⑫赤色シート
 - ⑬説明書付

■ご注文は電話又はハガキで! 東京都03(850)6110・(859)1331 (全品送料無料) 営業時間 午前10時~12時 午後1時~5時・日曜、祭日は休業

みづの印の無い物は無効

ハガキのうら
18才未満は保護者
署名各印

品名
住所
氏名・電話番号
宛先
郵便番号
お申込みハガキ

〒121 東京都足立区
平野3の7の17
スリービーチ
UFO係

ご注文は品名をハッキリ書き下さい。運くとも7日以内に代金引換郵便で送ります。お近くの郵便局から着信の案内がございましたらお名前と印を押して代金と共に持参しお受け取り下さい

〒121 東京都足立区平野3-7-17
(株)スリービーチ UFO係
東京都03(850)6110・(859)1331

背筋が寒くなる

世にも不思議な現象

衝撃のシリーズ

全12巻完結

超常世界への挑戦シリーズ 全12巻

A New Library of the Supernatural

オールカラー版 翻訳権独占 定価各980円

① 驚異の超能力者たち

コリン・ウィルソン著 木村一郎訳

② 戦慄の怪奇人間

ダニエル・ファーソン著 三好麻六・三上泰永共訳

③ ネッシーと雪男

アンガス・ホール著 横谷四郎訳

④ 幽霊とポルターガイスト

フランク・スミス著 安田洋平訳

⑤ 心霊の世界

ロイ・ステマン著 横田 順訳

⑥ 大予言と謎

アンガス・ホール著 船戸英夫訳

⑦ 魔術と占いの神秘

スチュアート・ホルロイド著 小野塚一訳

⑧ 宇宙よりの来訪者

ロイ・ステマン著 久保田八郎訳

⑨ 神秘と怪奇

コリン・ウィルソン著 安田洋平訳

⑩ テレパシーと念力

スチュアート・ホルロイド著 横谷四郎訳

⑪ 魔女の恐怖

ジェレミー・キングストン著 船戸英夫訳

⑫ 謎の大陸

ロイ・ステマン著 小野塚一訳



人間はどこまで到達しうるか——
写真と文で驚異の世界を全展開。

SFファンタジア

監修:小松左京 編集:石川喬司 原案:福島正実
B5判 定価各980円

1 地上編

超科学の世界(南山宏)/来たるべき世界(大宮信光)/地球の滅び(小松左京)/ロボットとミュータント(石原藤夫・渡辺晋)/マンガ(竹宮恵子)/短編小説(田中光二)ほか

2 時空編

宇宙探検と植民(瀬川昌男・小隅黎)/SF宇宙人類学(光瀬龍)/幻想の宇宙誌(野田昌宏)/時間旅行と異次元世界(石川喬司)/マンガ(松本零士)ほか